東京大学大学院工学系研究科日本語教室

2022 年度　報告書

Japanese Language Class Annual Report

2022.4-2023.3

Japanese Language Class
School of Engineering
The University of Tokyo

はじめに

世界に広がった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって、日本学生支援機構によると、19 年度に 31 万人ほどだった外国人留学生（以下、留学生）は 21 年度に 24 万人程度に減り、22 年度には 231,146 人（対前年度比－4.7%）と減少が続いている。こうした状況下で、政府は 22 年 3 月に留学生を 40 万人の受け入れと日本人留学生を 50 万人送り出すことを掲げ、23 年 4 月に策定する新たな留学生計画に盛り込むことを発表した。

東京大学の留学生は、19 年度に 4,267 人だったが、21 年度に 4,283 人となり若干増え、22 年度には 4,624 人で、過去最高の人数となった。これは入国制限の緩和とともに、海外協定校の交換留学生の渡日が可能になったことが大きな要因であろう。同時に、22 年度の工学系研究科日本語教育コースの受講者実数は 806 人と過去最高となった。工学系研究科において、国際的な競争力の向上や研究・学術の国際化のためには、異なる文化や多様な知識を持った留学生を受け入れ、学術的な交流を促進することが不可欠である。

工学系研究科日本語教室は、工学系研究科の要請を受け、留学生が日常生活やアカデミックな環境で円滑にコミュニケーションを取ることを目的とした日本語教育を実施している。留学生の存在は、日本人学生や教員にとっても豊かな学びの機会を提供している。さらに、留学生は異なる国や地域から集まっており、彼らとの交流を通じて国際的なネットワークの構築にも役立っている。このように、留学生を受け入れるための日本語教育は、国際的な競争力の向上や研究・学術の国際化において非常に重要である。

日本語教育コースの講義形態は、2022 年度 S1S2 までオンライン授業を余儀なくされた。A1A2 から対面授業へと大きく舵を切った結果、対面授業の教育効果が再認識できた。まず、教員と学生との対面コミュニケーションでは、即時的な質問応答が可能になり、学生は教員からフィードバックをその場で受けることができ、学習の促進につながった。また、50 か国以上から集まった学生同士のコミュニケーションや交流は、国際ネットワークの構築につながった。さらに、文化体験活動や日本人学生交流活動も対面で実施することによって、日本語学習のモチベーションが向上した。一方で、柏キャンパス、駒場キャンパスなどに在籍する学生は、遠距離のため受講が困難になった。

本報告書は 2022 年度の工学系研究科日本語教室の授業・諸活動を振り返り、今後の課題を明確にすることにより、さらに充実した日本語教育の実施を目指して作成した。日本語教育の状況は常に変化を伴うため、今後も日本語教育の動向を注視し、改善と発展に向けて努力し、社会に貢献する活動を展開していきたい。本報告書が工学系研究科の教職員や関係者、また日本語教育に関心のある方々にとって、役立つことを願うと同時に、平素より工学系研究科日本語教室へのご理解、ご支援を頂いている皆様にここに感謝の意を表す。

2023 年 3 月

工学系研究科　国際工学教育推進機構　国際教育部門　古市由美子

目　　次

はじめに
第1章　日本語教室の概要 …… 1
1.1　運営と目的 …… 1
1.2　受講対象者および教職員 …… 2
1.3　学内日本語教育関連組織との連携 …… 3
1.4　年間スケジュール …… 5
第2章　日本語教育の実践と運営 …… 6
2.1　概要 …… 6
2.2　コースデザインの特徴 …… 7
2.3　コースの履修プロセス …… 9
2.4　日本語教育コースのシラバスおよび報告 …… 9
2.5　受講者と修了者 …… 108
2.6　日本語教室のコース評価 …… 119
2.7　言語使用実態調査 …… 128
第3章　日本文化事情・文化体験 …… 136
3.1　S1S2 日本文化体験 …… 136
3.2　A1A2 日本文化体験 …… 136
第4章　国際交流支援 …… 138
4.1　学生授業ボランティア …… 138
4.2　多言語交流会　International Lounge …… 142
4.3　日本語ラーニングアドバイスセッション …… 147
第5章　海外協定校とのネットワークの構築と連携 …… 148
5.1　戦略的サバティカルにおける海外協定校訪問 …… 148
5.2　スウェーデン体験活動プログラム …… 150
5.3　米国世界展開強化事業 …… 153
5.4　工学系サマープログラム 日本語日本文化講義支援 …… 160
第6章　研究活動・教材作成 …… 161
6.1　日本語教室関連の研究活動と成果 …… 161
6.2　日本語教育関連の教材作成 …… 161
第7章　今後の課題 …… 163
7.1　日本語教育および日本文化事情教育 …… 163
7.2　留学生と日本人学生の国際交流支援、日本人学生の国際化教育の促進 …… 164
7.3　実践研究および教材開発 …… 164
巻末資料
2022 年度 S1S2/A1A2 工学系研究科日本語教室概要・時間割 …… 165
受講者・修了者データ …… 173
Can Do Statements …… 181
言語背景調査シート・コース評価シート …… 182
ポスター（学生授業ボランティア、International Lounge、着物ワークショップ、書道ワークショップ） …… 186

第 1 章　日本語教室の概要

1.1　運営と目的

工学系研究科日本語教室は 1981 年に設置され、2011 年度からは工学系研究科国際工学教育推進機構国際事業推進センター下に配置された。2020 年 4 月、国際工学教育推進機構の組織変更があり、日本語教室は国際教育部門に配置された。現在、中野義昭教授の下で日本語と日本文化の教育実践を行っている。日本語科目は、2015 年度に工学部・工学系研究科の教育問題検討会で審議、承認されて以来、単位付与の科目として実施されている。

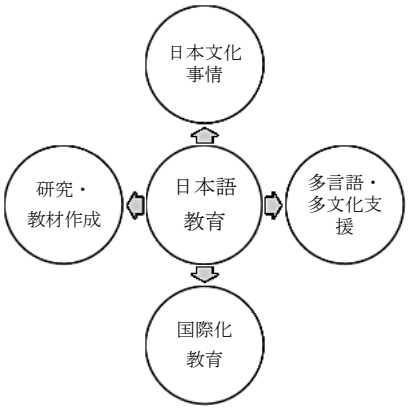


図 1　日本語教室の目的

日本語教室は、留学生・研究員を取り巻く環境づくりの一環として、円滑な研究生活および日常生活の実現のための日本語教育・日本文化事情教育を提供することを目標としている。

また、近年、日本語教育の分野は、国際化教育の観点から留学生と日本人学生の双方を対象とした多文化理解教育、すなわち、国際感覚を鍛え、世界の多様な人々と共に生きるための力を育成する教育へと領域を拡大しつつある。当日本語教室でも、留学生が様々な背景を持つ他者と国籍、専攻を超えて関係を構築し、多文化理解を深めることを目標とするのに加え、本教室で日本語を学ぶ場が留学生の居場所になるだけでなく、留学生が持つ文化を日本人学生などに発信する場になることも目指している。

2022年度S1S2学期は新型コロナウイルスの影響により、対面ではなく、オンラインを通じての言語教育や交流の場を提供することとなったが、2022年度A1A2学期から対面授業を再開し、キャンパスでの講義や活動を行っている。

以下の5つは、本日本語教室が目指す具体的な目標である。

1　留学生・研究員などに対する研究・生活支援としての日本語教育
2　留学生・研究員などに対する日本文化事情教育
3　留学生・日本人の交流および多言語・多文化支援
4　国際化推進の一環としての日本人学生の国際化教育
5　工学系に特化した専門日本語教育の実践研究と教材開発

1. To provide Japanese language education to support academic life and life in Japan of international students and researchers.
2. To provide Japanese cultural education to international students and researchers.
3. To promote and develop friendship and understanding amongst multi-lingual and

multi-cultural group of people.

4. To broaden Japanese students' knowledge and understanding of other cultures as a part of internationalization.
5. To conduct research on Japanese language education especially for science and engineering area, and to develop new learning materials.

1.2　受講対象者および教職員

当日本語教室の対象者は、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の修士、博士、交換留学生（学部、大学院）、研究生、研究員、インターンシップ生とその配偶者である。2014 年度から全学交換留学生（USTEP）の受け入れを開始、また、他研究科の修士、博士、交換留学生、研究生も受け入れている。

日本語教室の教職員は、現在教授1名、特任准教授1名、特任助教2名、非常勤講師12名、職員2名である。（各職位の氏名は下記の通り）。

教授：古市由美子

特任准教授：牛山和子

特任助教：猪狩美保、金瑜眞

非常勤講師：内田あゆみ・大西由美・片岡さゆり・米谷章子・佐藤瑞恵・鈴木恵理・中村亜美・ハワード文江・東平福美・藤井明子・宮瀬真理・山口真紀・佐野理恵

職員：早坂美和子・山畑めぐみ

1.3　学内日本語教育関連組織との連携

1.3.1　東京大学内の日本語教育プログラム

東京大学では 3 つのキャンパスで多様な日本語教育プログラムが開講されている（図 2 参照）。

本郷キャンパスでは、日本語教育センター、工学系研究科・工学部、人文社会系研究科・文学部、薬学系研究科・薬学部で日本語教育プログラムが開講されている。日本語教育センターは、所属を問わず、全留学生、研究者、配偶者の日本語教育を担当している。工学系研究科・工学部、人文社会学系研究科・文学部日本語教室は、所属留学生、研究者、配偶者を主な対象者とし、全留学生を定員の範囲内で受け入れている。薬学研究科・薬学部は所属の留学生、研究者、配偶者の日本語教育を担当している。

工学系研究科内には、当教室のほかに、4 つの専攻日本語教室がある。当日本語教室は工学系研究科、情報工学系研究科、および新領域創成科学研究科の留学生、研究生、研究員、USTEP(全学交換留学生)、配偶者などを対象にしているのに対し、専攻日本語教室は専攻の留学生が主な対象である。専攻日本語教室は、設立年度順に社会基盤学日本語教室（1982 年）、都市工学日本語教室（1987 年）、システム創成系日本語教室（1989 年）、IME 大学院特別コース（2001 年）の 4 つで、各々が独立し、日本語教育を行っている。

駒場 I キャンパスでは、①PEAK（専門を主に英語で学ぶ正規課程プログラム）、②KOMSTEP （総合文化研究科・教養学部交換留学）と USTEP（全学交換留学）、③前期課程日本語（専門を主に日本語で学ぶ正規課程生の基礎（外国語科目）、④補講（単位取得のできないコース）の日本語科目が提供されており、駒場Ⅱキャンパスでは、「駒場リサーチキャンパス日本語教室」で日本語コースを開講している。

柏キャンパスでは、新領域創成科学研究科国際交流室日本語教室で日本語プログラムが提供されている。

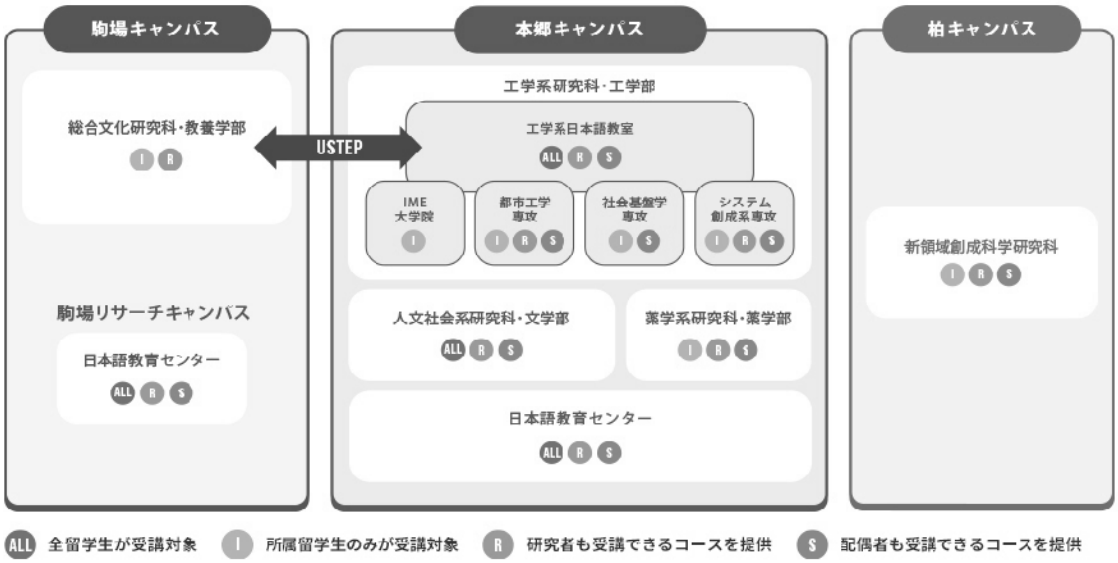


図 2 東京大学の日本語教育の概要（https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/jle/ja/index.html）

1.3.2　東京大学内および工学系研究科内日本語教室との連携

2022 年度第 22 回工学系研究科日本語教室年次報告会は、2023 年 3 月 10 日にオンラインで行われた。当日は、各日本語教室顧問及び担当教員が出席し、当教室及び 4 つの専攻日本語教室からカリキュラム、活動内容、課題などについて報告が行われた。今年度は 2022A1A2 セメスターから対面授業を再開した当教室[1]、ハイブリッド授業を実施したシステム創成系日本語教室、オンライン授業を継続した社会基盤学日本語教室、都市工学日本語教室、IME 大学院特別コースの授業報告をもとに、対面、ハイブリッド、オンラインそれぞれのメリット、検討事項などについて活発な意見交換が行われ、5 つの日本語教室がより積極的に情報をシェアしつつ、よりよい教室運営を目指していくことが確認された。なお、当教室は、2017 年度から都市工学日本語教室、システム創成系日本語教室と STAR（Student Tools for Access and Review）を共有しており、3 教室間の学習レベルが統一され、定員内であれば他専攻の学生も受け入れることができるようになっている。また、システム創成系日本語教室、社会基盤学日本語教室が当教室と初級テキストを同一にしていることで、教室間の学生移動もスムーズに行われている。今後も教室間の交流と連携を強化していきたい。

---

[1] 留学生の日本における就職支援を行う「日本組織事情」コースでは、2 セクションの内 1 セクションをオンラインで開講した。

1.4　年間スケジュール

2022 年度の日本語教室のスケジュールは、以下の通りである。

[2022 年]

4 月　S1S2 学期授業開始≪オンライン≫（4 月 5 日-7 月 26 日）
　授業ボランティア受け入れ

6 月　第 1 回工学系研究科日本語教室連絡会 ≪オンライン≫
　S2 入門コース開始≪オンライン≫（6 月 7 日- 7 月 26 日）

7 月　S1S2 学期授業終了

8 月　工学系研究科日本語教室教師会≪オンライン≫
　就職支援短期集中講座（留学生就職促進プログラム）

9 月　2022 年度 A1A2 学期時間割・概要を HP に掲載、登録開始
　「スウェーデン王立工科大学（KTH）での国際交流体験活動-日本語授業サポート」
　体験活動の実施

10 月　A1A2 学期授業開始≪対面≫（10 月 3 日- 1 月 30 日）
　新入生オリエンテーション（工学系・情報理工学系研究科）
　体験活動授業ボランティア受け入れ

11 月　A2 入門コース開始（11 月 29 日- 1 月 30 日）
　着物ワークショップ開催

12 月　書道ワークショップ開催
　冬休み（12 月 28 日-1 月 3 日）

[2023 年]

1 月　A1A2 学期授業終了

2 月　工学系研究科日本語教室教師会≪ハイブリッド≫
　カリフォルニア工科大学 COIL 型教育の実施 (2 月 14 日-3 月 26 日）
　就職支援短期集中講座（留学生就職促進プログラム）(2 月 27 日、28 日）

3 月　第 21 回工学系研究科日本語教育年次報告会
　2023 年度 S1S2 時間割・概要を HP に掲載、登録開始

第２章　日本語教育の実践と運営

2.1　概要

日本語科目は、留学生を対象としており、2015年度に単位化されて以来、原則1コマ2単位が付与されている。レベルは、入門から上級2まで7レベルに分かれており、総合、会話、聴解、読解、文章とその他のコース（専門語彙・漢字、多文化理解プロジェクト、日本組織事情）がある。開講日程は、工学系研究科と同様で、4月からS1S2（14週間）、10月からA1A2（14週間）としている。各学期の時間割、概要、シラバスは、当日本語教室のホームページに掲載されている（http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/）。授業は1コマ105分で、1限目8時30分～10時15分、2限目10時25分～12時10分、3限目13時～14時45分、4限目14時55分～16時40分である。日本語教室のオフィスは工学部8号館1階128B号室、非常勤講師室は2階88S号室である。当教室は、8号館第一講義室（123号室）に加え、2階88M号室、88L号室で授業を行っている。また、324号室（B,C）、701号室、722号室を借用している。さらに、第一会議室（132号室）、第二会議室（130号室）も、必要に応じて教室として使用しているが、学期を通して使用できないという制限がある。

2022年度のS1S2学期は、新型コロナウィルスの影響により、昨年度に続き、全ての授業をリアルタイムのオンラインコース（Zoomを使用）で実施したほか、オフィスZoomを運用し、オンライン上で学生対応やコンサルテーション等を行った。2022年度A1A2学期は、新型コロナウイルスの影響が薄れ、工学系研究科における対面授業開始の指示を受け、2年半ぶりに対面授業を再開した。

表１　工学系日本語教室　レベル別コース

＊入門はS2/A2に開講　（　）内はコマ数

ｽｷﾙ／ﾚﾍﾞﾙ	総合			聴解	会話	読解	文章	その他
	レギュラー	インテンシブ						
初級Ⅰ	初級１（3）	ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ 初級Ⅰ（5）	＊入門（3）					
	初級２（2）							
初級Ⅱ	初級３（2）	ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ 初級Ⅱ（4）						
	初級４（2）							
中級１	総合(2)			聴解(1)	会話(1)	専門読解(1)	文章(1)	
中級２	総合(1)			聴解(1)	会話(1)	読解(1)	文章(1)	専門語彙・漢字(1)
中級３	総合(1)			聴解(1)	会話(1)	専門読解(1)	文章(1)	多文化理解ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ(1)
上級	総合(1)			聴解(1)	会話(1)	読解(1)	文章(1)	日本組織事情(1)
上級２	総合（1）				会話(1)		文章(1)	

2.2　コースデザインの特徴

当日本語教室では、レギュラーコースのほか、インテンシブコースや入門コースなど、多様な初級コースを提供している。また、工学系および情報理工学系の大学院生が主な対象者であることを踏まえ、中上級レベルでは、工学系に特化した日本語教育を実施している。さらに、専門分野の授業や実験と平行して出席できるよう、コース選択にバリエーションを持たせて時間割を設定している。以下に、日本語科目の特長をまとめた。

（1）バリエーション豊かな初級日本語コース

工学系研究科では、研究活動に用いる言語は主に英語であるが、日本社会での生活には、やはり基礎的な日本語の運用力が必要となる。そこで、さまざまな留学生のニーズに合わせた多様な初級日本語コースを提供している。

・レギュラーコース　　：週 2 回　全 2 コマ（初級 1 は全 3 コマ）
・インテンシブ初級Ⅰコース：週 3 回　全 5 コマの集中コース
・インテンシブ初級Ⅱコース：週 2 回　全 4 コマの集中コース
・入門コース　　：S2/A2 から開始する週 2 回　全 3 コマ

レギュラーコースは、初級 1、2、3、4 に分かれており、修士・博士の学生が専門科目との両立を目指しながら日本語を習得するコースである。インテンシブコースは、集中的かつ効率的に基礎的な日本語を習得するコースで、インテンシブ初級Ⅰはレギュラーコースの初級 1 と 2 の内容、インテンシブ初級Ⅱは、レギュラーコースの初級 3 と 4 の内容を S1S2 または、A1A2 で修了する。入門コースは S2 および A2 に開講され、基礎的な日本語の口頭表現に焦点を絞って習得するコースである。このように、学習時間数、開講日にバリエーションを設け、多様なニーズを持つ留学生が学習目的や学習状況によって日本語を学べるよう工夫している。

（2）スキル別の中級・上級日本語コース

中級 1～3 および上級レベルは、総合コースの他、聴解、会話、読解、文章のコースを 1 コマずつ設け、スキル別に日本語が学べるコースデザインにしている。スキル別にすることにより、多忙な留学生が実験や専門授業の合間に伸ばしたいスキルのコースを選択的に受講することができるようになっている。上級レベルについては、以前より課題として指摘されていた中級 3 を修了した学生と新規に上級レベルと判断された学生とのレベル差に対応するために、2020 年度 S1S2 に上級 2 を新設[1]し、2019 年度までの上級は上級 1 に変更した。

[1] 2020 年度より、上級 2 の総合、会話、文章コースを開講した。その準備として、2019A1A2 では、これらの 3 コースの 2 セクションにレベル差をつけて実施した。

（3）工学系に特化した専門日本語教育

当日本語教室は、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の学生などを対象としていることから、生活で使われる日本語だけでなく、研究室でよく用いられる専門的な語彙や表現の指導も行っている。そのコースの一つである「中級 1 専門読解」では、東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事に基づいた東京大学オリジナルのオンライン読解教材を大学総合教育研究センターと共同で開発した。この教材は東京大学の研究内容に関する文章の読解、語彙、文型、表現の習得を目指している。「中級 2 専門語彙・漢字」では、コーパス研究チームで調査・研究した結果をもとに、専門語彙、漢字教育を行っている。「中級 3 専門読解」では、中級 1 専門読解と同様に、『Ttime!』の記事をもとに作成した工学系の研究内容に関する文章を読み、専門分野に関する語彙力、読解力の育成を目指している。このように、当日本語教室で工学系に特化したオリジナル教材を作成し、日本語教育を実施している。

（4）多文化理解教育

中級 3 レベル以上を対象とする「多文化理解プロジェクト」は、多様な背景を持つ留学生がそれぞれの文化を新たな視点で見つめ直し、学び合うコースである。また、それぞれの文化などを発信する「多文化理解ワークショップ」をシラバスに組み込み、都内の小学校・中学校での交流活動を実施することで、地域社会での文化理解に貢献することも目標としている[1]。なお、この多文化理解プロジェクトは、学部・大学院の共通科目として開講され、留学生のみならず、日本人学生も単位が取得できる。

（5）就職支援

「上級日本組織事情」は、日本で就職を希望する留学生を対象とし、ビジネスマナーや就職活動のための知識や実践力を養うコースである[2]。このコースでの学びを生かし、優秀な外国人人材が日本の産業界などで活躍できる道が広がることが期待できる。また、日本企業のグローバル化や経済の活性化など社会的な波及効果も見込まれる。

---

[1] 多文化理解プロジェクトコースは、新型コロナウイルスの影響により不開講が続いていたが、当教室で対面授業が再開された A1A2 セメスターにおいて 2 年半ぶりに開講され、都内の中学校での「多文化理解ワークショップ」も行い、訪問先の中学生から多くの質問も寄せられた。

[2] 2022A1A2 セメスターにおいては、当教室のすべてのコースにおいて対面授業が再開されたが、当該コースは、就職支援という観点から、本郷キャンパスに通うことが難しい留学生のために 2 セクションの内１セクションはオンライン開講とした。また、OBOG 会も対面で開催し、新旧学生間の縦の連携も生かした就職支援を行った。

2.3　コースの履修プロセス

コースの履修登録のプロセスは、次の通りである（図1参照）。開講1か月前に日本語教室のHPに時間割・概要・シラバスを掲載し、各専攻事務室に周知した後、STAR（Student Tools for Access and Review）システムを通したオンラインコース登録を開始する。

日本語教室で運営するコース履修を希望する学生は、レベル判定のためのプレイスメントテストを受ける。まず、「Can Do Statements（巻末資料参照）」に基づいて作成した日本語レベルを自己評価し、そのレベルに基づき、スキル別（文法、読解、聴解、作文）のテストを受ける。その判定結果に応じて表示される履修可能なコースから希望科目を選び、登録する。

このように、オンライン上で登録が可能なため、渡日前に日本語コースを決定することができる。

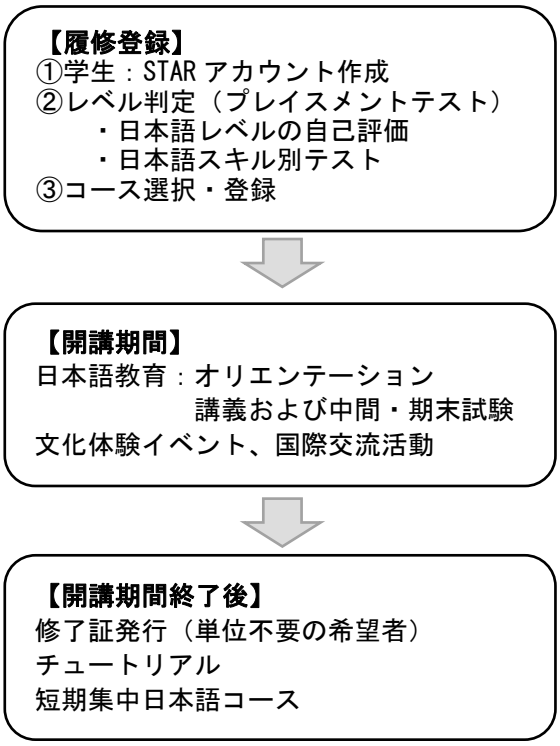


図１　コース履修のプロセス

各コースの第1週目はオリエンテーション・ウィークである。教師はオリエンテーション・ガイドに沿ってコースのレベルや内容、スケジュールの説明を行う。その一方で、履修登録をした留学生がそのコースのレベルに合っているかどうかを確認し、レベル変更を希望する留学生に対応する。

開講期間中には、日本語の講義の実施以外に、文化体験として、生け花や茶道体験、着付け体験などの文化的なイベントの企画と開催、シニアボランティアとの自由会話を行うビジターセッションやInternational Lounge （IL）、日本人学生の授業ボランティアとしてのクラス参加など、日本人と留学生の交流支援を行う。

開講期間終了後、規定の要件を満たした学生には、希望に応じて修了証を発行する。

2.4　日本語教育コースのシラバスおよび報告

本節では、2022 年度に実施した各コースのシラバスと授業実践報告およびチュートリアルについて報告する。

なお、シラバスならびに授業実践報告は、「多文化理解プロジェクト」（A1A2 開講）、「冬季日本語特別集中科目 1」を除き、オンライン授業を実施した 2022S1S2 における報告である。2022A1A2 からは「上級日本組織事情」の 2 セクション中 1 セクションを除き、対面で授業を行った。

入門

2022年度S1S2

レベル	:	入門
スキル	:	総合
開講期間	:	2022/ 06/ 07 - 2022/ 07/ 26
時間	:	13:00 - 14:45 火曜日 14:55 - 16:40 火曜日 13:00 - 14:45 木曜日
場所	:	Zoom
学習目標	:	初級前半の文型を習得し、日常生活での基本的なコミュニケーションができる。 カタカナ、ひらがなの認識ができる。
対象	:	はじめて日本語を勉強する人。短期滞在者対象。
テキスト	:	『Basic Japanese for Students はかせ1』（スリーエーネットワーク） まるごと　プラス　Learning Japanese https://a1.marugotoweb.jp/en/index.php
評価	:	教室活動5%、課題15%、かなクイズ10%、語彙クイズ10%、中間試験20%、 学期末試験25%、学期末口頭発表15% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1. 単位3認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-901-1, 学部FEN-JL4m01L1. 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom address 8.【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」を受けてください。
担当	:	金 瑜眞（キム ユジン） KIM Youjin, 山口 真紀 YAMAGUCHI Maki nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	6/ 7	火	オリエンテーション,語彙クイズL1, L1, カタカナ（ア～サ行）
2	6/ 7	火	L1
3	6/ 9	木	L2, 語彙クイズL2締め切り, カタカナ（タ～ハ行）
4	6/ 14	火	L3, 語彙クイズL3 締め切り カタカナ（マ～ワ行）
5	6/ 14	火	L4(p.45まで）
6	6/ 16	木	L4(p.46から）, 語彙クイズ L4 締め切り, カタカナ（特殊音), 課題1配布
7	6/ 21	火	L5, 語彙クイズL5　締め切り, カタカナ復習, 課題1締切、課題2配布
8	6/ 21	火	L1-L5 復習
9	6/ 23	木	中間試験, カタカナクイズ, 課題2締切
10	6/ 28	火	L6, 語彙クイズ L6&L7　締め切り, ひらがな（あ～さ行),課題3配布
11	6/ 28	火	L7
12	6/ 30	木	L8, 語彙クイズ L8 締め切り, ひらがな（た～は行), 課題3締切
13	7/ 5	火	L9, 語彙クイズ L9&L11締め切り, ひらがな（ま～わ行）, 課題4配布
14	7/ 5	火	L11(p.113まで）

15	7/ 7	木	L12, 語彙クイズL12 締め切り, ひらがな（特殊音）, 課題4締め切り,課題5配布
16	7/ 12	火	L13, 語彙クイズL13 締め切り, ひらがな（復習）, 課題5締切
17	7/ 12	火	学期末口頭発表準備(Intro, Title)
18	7/ 14	木	L14, 語彙クイズ L14 締め切り, ひらがなクイズ, 学期末口頭発表 first draft 締め切り
19	7/ 19	火	【休講】補講日
20	7/ 19	火	【休講】補講日
21	7/ 21	木	期末試験,学期末口頭発表 first draft Feedback 返却
22	7/ 26	火	Final Presentation Final draft締め切り,学期末口頭発表発表準備(Final draft re-write, PPT, Rehearsal)
23	7/ 26	火	学期末口頭発表

入門

報告者：金 瑜眞・山口 真紀

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

入門コースは、日本語学習において、ゼロ初級の学習者を対象とする。特に、新学期開始以降に来日した学習者や、スケジュールや日本語レベル、進度の関係などで初級 1 コースの履修が難しい学習者を対象に、日常生活において必要な表現・語彙を習得することを目的としている。今年度は、6 月 7 日に開講し、週 3 コマ、7 週間の授業を行った。教科書は『はかせ 1』（スリーエーネットワーク）を用い、授業は主に 1) 新出語彙の導入、2) 文型の導入、3) 会話練習などによる応用練習の流れで行った。

【授業の内容】

7 週間という短い授業期間のため、『はかせ 1』の L1～9 及び L11～14 を扱った。教科書のトピックに沿って授業を進め、挨拶、数字、時刻、動詞、形容詞などを学び、その定着を図った。教科書はローマ字が併記されているものであったが、文字学習の時間を設け、カタカナとひらがなの導入を行い、基本的な文字習得ができるように指導した。導入が終わった時点で、カタカナとひらがなのクイズをそれぞれ実施し、文字の定着を図った。

2. その他

本コースでは、上記のカタカナ・ひらがなクイズに加え、中間試験、期末試験、語彙クイズ、課題、期末口頭発表も評価に入れた。語彙クイズは予習型にし、各課の導入前に学生が語彙を勉強し、オンライン上のリンクにアクセスしてクイズを受けることにした。課題は学期を通して 5 回に渡り、宿題として配布し、学習者が文字に親しみを持てるよう、レストランのメニューなどからカタカナのことばをさがす「カタカナハンティング」や習った表現を使用し作文を書く「日記」などの練習を行った。

3. まとめ・今後の課題

今年度は、2020 年、2021 年に続き新型コロナウイルスの感染拡大の影響はあったが、以前に比べ日本への入国が可能になり、昨年度より多い 5 名の学生が修了した。学期開始当初は、学生の来日が難しかったことから、今学期は Zoom を使用したリアルタイムの授業を行ったが、学期の途中で来日できた学生もいた。受講生は毎回の授業内の活動だけでなく、授業外の課題にも意欲的に取り組み、初級初期における基礎的な日本語能力を十分に身につけることができた。今後は、対面授業への移行を計画していることから、オンライン授業で得られた学習ツールの効率的な使用などを活かし、続けて授業の質の改善に取り組みたい。

インテンシブ初級Ⅰ

2022年度S1S2

レベル : **初級1 レベル**

スキル : **総合**

開講期間 : 2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26

時間 : 08:30 - 10:15 **月曜日**
10:25 - 12:10 **月曜日**
08:30 - 10:15 **水曜日**
10:25 - 12:10 **水曜日**
10:25 - 12:10 **金曜日**

場所 : Zoom

学習目標 : **入門レベルから初級前半**(L1-22)**の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。ひらがな・カタカナが書けるようになる。日本語能力試験**N5**相当の漢字を**110**字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。**

対象 : **はじめて日本語を勉強する人**

テキスト : **『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク）電子書籍あり***,
『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*,
『にほんごチャレンジ　かんじN4-5**』（アスク）**
***勉強のしやすさ、学習効率の観点から、紙媒体の教科書の購入を推奨します。**

評価 : **教室活動**5%**、中間試験**20%**、学期末試験**20%**、学期末口頭発表**10%**、語彙クイズ**5%**、漢字クイズ**5%**、かなクイズ**3%**、文法クイズ**10%**、作文課題・中間発表**14%**、聴解課題**5%**、録音課題**3%

・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) **出席率**70%**以上**　2) **学期末試験もしくは課題を受験**
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1**週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の**80%**が成績に反映される。クイズの追試は行わない。**

その他 : 1. **単位**10**認定**　(**ただし、単位が不要な学生も履修可**) UTAS **コード：大学院** 3799-910-1**、学部** FEN-JL4m12L1。 2. **修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。** 3. **コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。** 4. 30**分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。**3**回の遅刻または早退は**1**回の欠席とみなす。** 5. **第**1**週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。** 6. **授業内容と教室は変わる可能性がある。**

7.Zoom address

8.**【重要】登録したそれぞれのコースの第**1**回目の授業に出席して「オリエンテーション」を受けてください。**

担当 : **鈴木　恵理** SUZUKI Eri, **金 瑜眞（キム ユジン）** KIM Youjin, **中村　亜美** NAKAMURA Ami
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	水	オリエンテーション, はじめましょう
2	4/ 6	水	L1, 語彙クイズL1
3	4/ 8	金	応用練習（L1), Japanese Writing System、ひらがな1（あ・か・さ・が・ざ).
4	4/ 11	月	L2, 語彙クイズL2, ひらがな2（た・な・は・だ・ぱ・ば）
5	4/ 11	月	L2
6	4/ 13	水	L3, 語彙クイズL3, ひらがな3（ま・や・ら・わ・ん）
7	4/ 13	水	L3
8	4/ 15	金	応用練習（L2&L3),ひらがな4（拗音、長音、撥音、促音）
9	4/ 18	月	L4, 語彙クイズL4, ひらがなクイズ, 聴解課題①

10	4/ 18	月	L4
11	4/ 20	水	L5, 語彙クイズL5, カタカナ1（ア・カ・サ・ガ・ザ）
12	4/ 20	水	L5
13	4/ 22	金	応用練習(L4&L5), カタカナ2（タ・ダ・ナ・ハ・パ・バ行）
14	4/ 25	月	L6, 語彙クイズL6, カタカナ3（マ・ヤ・ラ・ワ・ン）, 聴解課題②
15	4/ 25	月	L6
16	4/ 27	水	L7, 語彙クイズL7, カタカナ4（拗音・長音・撥音・促音）
17	4/ 27	水	L7
18	4/ 29	金	祝日
19	5/ 2	月	L8, L8語彙クイズ,　カタカナクイズ, 作文課題①配布, Kanji(1-10)
20	5/ 2	月	L8
21	5/ 4	水	祝日
22	5/ 4	水	祝日
23	5/ 6	金	応用練習（L6&L7&L8）,まとめ 1,作文課題①締切,漢字クイズ(1-10)
24	5/ 9	月	L9, L9語彙クイズ, 漢字（11-15), 作文課題②配布、聴解課題③
25	5/ 9	月	L9
26	5/ 11	水	L10, L10語彙クイズ, 漢字（16-20),作文課題②締切, 録音課題① 配付
27	5/ 11	水	L10
28	5/ 13	金	応用練習（L9&L10）, 漢字クイズ（11ー20）
29	5/ 16	月	L11, L11語彙クイズ, 漢字（21ー25）
30	5/ 16	月	L11
31	5/ 18	水	L12, 語彙クイズL12, 漢字（26ー30）, 作文課題③配布Distribution, 録音課題① 締切
32	5/ 18	水	L12
33	5/ 20	金	応用練習(L11&L12)、漢字クイズ（21ー30）
34	5/ 23	月	まとめ2,漢字（31ー35）
35	5/ 23	月	復習（L1-L12)
36	5/ 25	水	中間試験(L1-L12)
37	5/ 25	水	中間発表導入,漢字(36-40),作文課題③締切
38	5/ 27	金	中間発表準備, 漢字クイズ（31ー40）
39	5/ 30	月	【休講】補講日
40	5/ 30	月	【休講】補講日
41	6/ 1	水	【休講】補講日
42	6/ 1	水	【休講】補講日
43	6/ 3	金	中間発表
44	6/ 6	月	L13, L13語彙クイズ, 漢字（41-45）,聴解課題④
45	6/ 6	月	L13
46	6/ 8	水	L14, L14語彙クイズ, 漢字（46-50）,作文課題④配布
47	6/ 8	水	L14
48	6/ 10	金	応用練習(L13&L14),漢字クイズ（41-50)
49	6/ 13	月	L15, L15語彙クイズ, 辞書形クイズ, 漢字（51-55）,作文課題④締切
50	6/ 13	月	L15
51	6/ 15	水	L16, L16語彙クイズ, て形クイズ, 作文課題⑤配布,漢字(56-60)
52	6/ 15	水	L16
53	6/ 17	金	応用練習(L15&L16), 漢字クイズ(51-60),作文課題⑤締切
54	6/ 20	月	L17, L17語彙クイズ,漢字（61-65）,聴解課題⑤
55	6/ 20	月	L17

56	6/ 22	水	L18, L18語彙クイズ, ない形クイズ, 漢字（66-70）, 録音課題② 配付
57	6/ 22	水	L18
58	6/ 24	金	応用練習(L17&L18), 漢字クイズ(61-70)
59	6/ 27	月	た形クイズ, 復習(L13-L18), 漢字(71-75)
60	6/ 27	月	まとめ3
61	6/ 29	水	L19，L19語彙クイズ,漢字(76-80) ,録音課題② 締切, 作文課題⑥配布、期末口頭発表準備1(導入)
62	6/ 29	水	L19
63	7/ 1	金	応用練習(L19)，漢字クイズ(71-80), 作文課題⑥締切, 期末口頭発表準備2(タイトルの確認・宿題1st draft)
64	7/ 4	月	L20, L20語彙クイズ, 普通形クイズ, 漢字(81-85)
65	7/ 4	月	L20
66	7/ 6	水	L21，L21語彙クイズ, 漢字(86-90), 聴解課題⑥
67	7/ 6	水	L21
68	7/ 8	金	応用練習(L20&L21)，漢字クイズ(81-90),期末口頭発表準備3 1st draft 締め切り
69	7/ 11	月	L22，L22語彙クイズ, 漢字(91-95)
70	7/ 11	月	L22
71	7/ 13	水	応用練習（L22）, 漢字（96ー100）
72	7/ 13	水	期末発表準備 4:1st draft Feedback & リライト
73	7/ 15	金	【休講】補講日，漢字クイズ（91ー100）
74	7/ 18	月	祝日
75	7/ 18	月	祝日
76	7/ 20	水	まとめ４, 復習(L13-L22)
77	7/ 20	水	漢字（101ー110）
78	7/ 22	金	学期末試験(L1-L22)
79	7/ 25	月	期末口頭発表準備5(リハーサル・PPT確認・発音練習)
80	7/ 25	月	学期末口頭発表, Final draft提出, 漢字クイズ(101-110)

インテンシブ初級 I

報告者：鈴木 恵理・金 瑜眞・中村 亜美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、はじめて日本語を学ぶ学習者を対象とした初級のインテンシブコースである。授業は週 3 回行われ、週 5 コマである。主教材として、スリーエーネットワーク社の『日本語初級 1 大地』を使用した。学習目標として、初級前半（L1-22）の文型および語彙を学習することで、総合的な日本語の運用力を身につけることを挙げた。文字については、ひらがな・カタカナを含め、日本語能力試験 N5 相当の漢字を 110 字習得することを目標として、アスク出版の『にほんごチャレンジかんじ N4-5』を使用して指導を行った。

【授業の内容】

本コースにおける内容および進度は、概ね次の通りである。月曜日と水曜日の授業において、各一つの課を終わらせるように進め、金曜日はその週に学習した課の応用練習を行った。学生が各自語彙リストを参照し語彙を学習した後、オンラインの語彙クイズのリンクにアクセスし、クイズを受けてもらった。授業では、文型の導入、パタンプラクティス、教科書の問題や会話練習などを行った。なお、各課の終了後は、文法クイズと聴解練習等を行い、学習した内容について確認を行った。その他、授業外で作文課題・聴解課題・録音課題を与え、文法・語彙・表現などの添削指導、日本語の会話を聞き正しく理解するための練習、日本語の自然な発音と抑揚を身につけるための練習などを行った。

2. その他

学期の中間と学期末において、口頭発表を実施した。口頭発表の目的は、これまで学習した文型を使い口頭表現の練習を行うことと、インプットが多い授業の中でアウトプットの練習を行うことで、学習者が自分の能力をモニターする機会を提供することである。口頭発表では、2～3 分のプレゼンテーションの後、1 分間の質疑応答を行った。学習者には、発表の前にスクリプトを作成・提出させ、担当教員が文法や構成等についてチェックするとともに、発表の際のパフォーマンスや発音等についてフィードバックを行った。

3. まとめ・今後の課題

今学期は、8 名の登録者中 7 名が修了することができた。学生は、総じて、授業内での活動だけでなく、クイズや課題にもまじめに取り組んでいた。学生の属性を見ると、東京大学の学生が 4 名、配偶者が 3 名であった。教科書内の練習が日本の大学に在学する留学生にフォーカスされていることから、配偶者の学生の練習時には、生活者としての質問に変えるなどして配慮した。今後は、対面授業を予定していることから、オンラインコース実施中に改善したクイズや課題を活かし、来学期以降の授業に反映する予定である。

初級1

2022年度S1S2

レベル : **初級1 レベル**

スキル : **総合**

開講期間 : 2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26

時間 : 08:30 - 10:15 **月曜日**
10:25 - 12:10 **水曜日**
08:30 - 10:15 **金曜日**

場所 : Zoom

学習目標 : **入門レベルから初級前半**(L1-12)**の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。ひらがな・カタカナが書けるようになる。日本語能力試験**N5**相当の漢字を**50**字習得する。基本的なコミュニケーションができる。**

対象 : **はじめて日本語を勉強する人**

テキスト : **『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク）電子書籍あり***, **『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり***,***勉強のしやすさ、学習効率の観点から、紙媒体の教科書の購入を推奨します。**

評価 : **教室活動**5%**、中間試験**20%**、学期末試験**25%**、中間口頭発表**10%**、学期末口頭発表**10%**、語彙クイズ**5%**、漢字クイズ**5%**、かなクイズ**5%**、文法クイズ**5%**、課題（聴解・録音）**10%
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) **出席率**70%**以上**　2) **学期末試験もしくは課題を受験**
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1**週間以内であれば受けることができる。(その場合は評価の**80%**が成績に反映される）・クイズの追試は行わない**

その他 : 1. **単位**6**認定**　**(ただし、単位が不要な学生も履修可)** UTAS **コード：大学院**3799-904-1 **学部**FEN-JL4m20L1, 2. **修了証は成績が**C**以上の**noncredit**の学生で希望者にのみ発行される。** 3. **コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。** 4. 30**分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。**3**回の遅刻または早退は**1**回の欠席とみなす。** 5. **第**1**週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。**

6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
7. Zoom ID

8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1**回目の授業に出席して「オリエンテーション」を受けてください。**

担当 : **金 瑜眞（キム ユジン）** KIM Youjin, **大西　由美** ONISHI　Yumi, **宮瀬 真理** MIYASE　Mari , **猪狩　美保** IGARI Miho, **鈴木　恵理** SUZUKI Eri
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	水	オリエンテーション, L0(はじめましょう), 教室内で使う日本語, オンラインサイトの紹介
2	4/ 8	金	L1(1,2,3), ひらがな(1) あ, か, が-行
3	4/ 11	月	L1 (4,5), ひらがな(2) さ, ざ, た, だ-行
4	4/ 13	水	L1 ふくしゅう, L2-1, ごいクイズL1, ひらがな(3) な, は, ば, ぱ-行
5	4/ 15	金	L2(2,3,4), ごいクイズL2（due）, ひらがな(4) ま, や, ら, わ-行
6	4/ 18	月	L2(5,6,7)
7	4/ 20	水	L3(1,2), ごいクイズL3（due）, ひらがな(5) 特殊音
8	4/ 22	金	L3(3,4), ひらがな復習

9	4/ 25	月	L4(1,2), ごいクイズL4（due）, ひらがな復習
10	4/ 27	水	L4(3,4), ひらがなクイズ, 聴解課題①配布
11	4/ 29	金	祝日
12	5/ 2	月	L2&L3&L4(応用練習),L5 1-1,1-2,カタカナ(1) ア, カ, ガ, 長音, 聴解課題①締切
13	5/ 4	水	祝日
14	5/ 6	金	L5(1-3,2,3), ごいクイズL5（due）, カタカナ(2)サ, タ, ザ, ダ-行
15	5/ 9	月	L5(4,5), カタカナ(3) ナ, ハ, バ, パ-行,録音課題①配布
16	5/ 11	水	L6(1,2,3), ごいクイズL6（due）, カタカナ(4) マ, ヤ, ラ, ワ-行
17	5/ 13	金	L6(4,5), カタカナ(5) カタカナ特殊音, 聴解課題②配布
18	5/ 16	月	ぶんぽうクイズ(動詞の活用),L5&L6（応用練習), カタカナふくしゅう, まとめ1(L1-L6),聴解課題②締切,録音課題①締切
19	5/ 18	水	ふくしゅう, かんじ L1#1-5, カタカナクイズ
20	5/ 20	金	中間テスト (L1-L6)
21	5/ 23	月	L7(1,2-1,2-2), ごいクイズL7（due）, かんじL1#6-10
22	5/ 25	水	L7(2-3,3), かんじクイズL1（#1-10）
23	5/ 27	金	L7(4), かんじ L2#11-15, , 中間テスト FB, 中間口頭発表導入
24	5/ 30	月	【休講】補講日
25	6/ 1	水	【休講】補講日
26	6/ 3	金	L8(1,2), ごいクイズL8（due）, かんじL2#16-20
27	6/ 6	月	L8(3,4), かんじクイズL2（#11-20）
28	6/ 8	水	L8(5), 中間口頭発表
29	6/ 10	金	L7,L8(応用練習), かんじL3#21-25,中間口頭発表振り返りシート提出
30	6/ 13	月	L9(1,2), ごいクイズL9（due）, かんじL3#26-30
31	6/ 15	水	L9(3,4), かんじクイズL3(#21-30）,聴解課題③配布
32	6/ 17	金	L10(1,2), ごいクイズL10（due）, かんじL4#31-35,聴解課題③締切
33	6/ 20	月	L10(3,4), かんじL4#36-40
34	6/ 22	水	L9&L10(応用練習), かんじクイズL4(#31-40),録音課題②配布
35	6/ 24	金	L11(1,2,3), ごいクイズL11（due）, かんじL5#41-45
36	6/ 27	月	L11(4,5), かんじL5#46-50, 期末口頭発表導入、聴解課題④配布
37	6/ 29	水	L12(1,2), ごいクイズL12（due）, かんじクイズL5(#41-50),録音課題②締切,聴解課題④締切
38	7/ 1	金	L12(3), かんじ復習, 期末口頭発表タイトル提出
39	7/ 4	月	L12 使いましょう、期末口頭発表準備(初稿提出)
40	7/ 6	水	L11, L12（応用練習), まとめ2(L7-L12), かんじまとめクイズ1-5(#1-50)
41	7/ 8	金	期末口頭発表準備（原稿修正）
42	7/ 11	月	ぶんぽうクイズ(形容詞の活用),期末口頭発表準備（第2稿提出）,ふくしゅう１
43	7/ 13	水	ふくしゅう２
44	7/ 15	金	【休講】補講日
45	7/ 18	月	祝日
46	7/ 20	水	FP3 (PPT提出)
47	7/ 22	金	期末テスト(L1-12)
48	7/ 25	月	期末口頭発表

初級１

Ａクラス：金 瑜眞・鈴木 恵理・宮瀬 真理
Ｂクラス：猪狩 美保・大西 由美・金 瑜眞

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『大地１』（スリーエーネットワーク）の前半（L1～L12）を扱い、初級前半の文法項目の定着ならびに「読む、書く、聞く、話す」の４技能をバランスよく伸ばすことを目指した。授業は、月・水・金の週３回（1 回 105 分）で同期型オンライン授業の形態で行った。文字については、ひらがなとカタカナを導入した後、『にほんごチャレンジ N4-5 かんじ』（アスク）の L5 までの 50 字を、漢字シートを配布して指導した。

【授業の内容】

まず、新しい課に入る授業の前に、語彙クイズを繰り返し受けるように学生に指示し、語彙の定着を図った。授業では、文型の導入、基本練習、応用練習を実施し、Zoom のブレイクアウト機能を用いた口頭練習を心掛けた。授業後には、「扉の会話」を元に作成した聴解課題の他、録音課題や漢字クイズを課し、聴解能力および発音・文字認知能力の向上を目指した。定期試験の前には、復習プリント（コーディネーター作成）を使用した復習や副教材のリスニング問題集を使った練習、文法に関する Q&A などを実施した。学期半ばには、課題の一環として、クラスや研究室など身近な友人へのインタビューを課し、タスクシートにまとめた結果をクラスで発表させた。学期末には総復習として期末口頭発表を実施した。

2. その他

COVID-19 の影響により、今年度も引き続きオンラインで授業を実施した。

3. まとめ・今後の課題

Ａクラス：学期開始時には 11 名が登録し、最終的に４名が修了した。期末試験を受けたが、出席率が基準に満たず、修了できなかった学生もいたことから、出席率の管理について引き続き注意していきたい。修了した学生は、授業中はもちろん、クイズや発表、定期試験を真面目にこなし、初級１の修了レベルに到達できたと考えられる。

Ｂクラス：学期開始時には 10 名が登録し、最終的に７名が修了した。漢字圏の学習者が多かったことから比較的初級前半の学習は問題なく進められた学生が多かったが、来日できていない学生もおり、発話能力の定着には苦労している学生もいた。

Ａ、Ｂクラスを総じて、今後は対面授業への移行を計画していることから、オンライン授業の実施において得られた改善の成果を対面授業で活かしていきたい。

初級2

2022年度S1S2

レベル	:	初級 II
スキル	:	総合
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	10:25 - 12:10 月曜日 08:30 - 10:15 水曜日
場所	:	Zoom
学習目標	:	初級前半(L13-22)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N5相当の漢字を60字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
対象	:	初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人、またはCEFR A1.1相当
テキスト	:	『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク）電子書籍あり*, 『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 電子書籍あり*, *勉強のしやすさ、学習効率の観点から、紙媒体の教科書の購入を推奨します。
評価	:	教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、文法クイズ15%、作文課題・中間発表15%、聴解課題5% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1. 単位4認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-905-1、学部FEN-JL4m30L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7.Zoom address: 8.【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当 : 金 瑜眞（キム ユジン） KIM Youjin, 藤井　明子 FUJII　Akiko, 中村 亜美 NAKAMURA Ami, 東平　福美 HIGASHIHIRA Fukumi, 牛山　和子 USHIYAMA Kazuko, 猪狩　美保 IGARI Miho

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	水	オリエンテーション, レベルチェッククイズ
2	4/ 11	月	L13(1-2)
3	4/ 13	水	語彙クイズ(L13)、L13(3-4)、Listening&Dialogue、Reading&Writing、聴解課題1【配布】
4	4/ 18	月	語彙クイズ(L14)、L14(1-2)、漢字#51-55,聴解課題1【締切】
5	4/ 20	水	L14(3-4)、漢字#56-60
6	4/ 25	月	漢字クイズ（51-60）, L14(5)、L&D、R&W、作文課題1【配付】

7	4/ 27	水	文法クイズ（辞書形）、語彙クイズ(L15)、L15(1-3)
8	5/ 2	月	L15(4-5)、L&D、R&W、漢字#61-65、作文課題1【締切】
9	5/ 4	水	祝日
10	5/ 9	月	文法クイズ（て形）、語彙クイズ(L16)、L16(1-2)、漢字#66-70
11	5/ 11	水	漢字クイズ(#61-70)、L16(3-4)、L&D、R&W、作文課題2【配付】
12	5/ 16	月	語彙クイズ(L17)、L17(1-3)、漢字#71-75
13	5/ 18	水	ない形クイズ、L17（4）、L&D、 R&W、 漢字76-80, 聴解課題2【配布】、作文課題2【締切】
14	5/ 23	月	漢字クイズ（#71-80）、復習(L13-17)、中間発表（作文課題）の説明,聴解課題2【締切】
15	5/ 25	水	中間試験(L13-17)
16	5/ 30	月	【休講】補講日
17	6/ 1	水	【休講】補講日
18	6/ 6	月	語彙クイズ(L18)、L18(1-3)、作文課題3【配付】
19	6/ 8	水	文法クイズ（た形）、L18（4）、L&D、漢字#81-85、中間発表（作文課題）
20	6/ 13	月	語彙クイズ(L19)、L19（1、2-1、2-2）、漢字#86-90、まとめ3
21	6/ 15	水	漢字クイズ（#81-90）、L19（2-3, 2-4, 3）、L&D、R&W、作文課題3【締切】
22	6/ 20	月	語彙クイズ(L20)、L20(1,2-1,2-2,2-3)、作文課題4【配付】
23	6/ 22	水	文法クイズ（普通形）、L20(2-4,2-5)、L&D、R&W、漢字#91-95
24	6/ 27	月	語彙クイズ(L21)、L21(1,2)、漢字#96-100、作文課題4 【締切】
25	6/ 29	水	漢字クイズ(#91-100)、L21(3)、L&D、R&W、学期末口頭発表準備1（導入）， 聴解課題3【配布】
26	7/ 4	月	語彙クイズ(L22)、L22(1-2)、漢字#101-105、学期末口頭発表準備2（タイトル 【締切】）,聴解課題3【締切】
27	7/ 6	水	L22(3-4)、漢字＃106-110,学期末口頭発表準備3（1st draft 【締切】）
28	7/ 11	月	漢字クイズ（#101-110)、L22 L&D、R&W、まとめ４、学期末口頭発表準備4(First Draft返却&リライト）, 聴解課題 4 【配布】
29	7/ 13	水	漢字まとめクイズ(#61-110)、復習、学期末口頭発表準備5(Final draft締切),聴解課題 4【締切】
30	7/ 18	月	祝日
31	7/ 20	水	学期末試験(L13-22)
32	7/ 25	月	学期末口頭発表

初級 2

報告者：A クラス　金　瑜眞・藤井 明子
B クラス　中村 亜美・東平　福美
C クラス　牛山　和子・猪狩　美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは週 2 回（1 コマ 105 分）の授業において『大地 1 』（スリーエーネットワーク）の後半（L13～L22）を 1 課 2 コマのペースで扱い、既習文法を確認しつつ、新しい文法項目の定着ならびに運用力の向上を目指した。並行して、漢字学習として N5 レベルの漢字（後半）60 字を導入した。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、2022 年度は 2020 年、2021 年度に続き、Zoom を用いたオンラインのリアルタイム型授業を実施した。

【授業の内容】

各課の初めに語彙クイズをオンラインで実施し、2 コマを使ってその課の文型の導入、基本・応用練習、確認を行った。また、動詞の活用等については、オンラインの文法クイズを実施し、定着を図った。授業内ではコミュニケーション力の向上に力を入れ、読解、作文については課題を出し、学習を促した。並行して、漢字の導入、練習を授業内で行い、クイズを宿題として受けさせた。学期半ばには、作文の課題を基に口頭発表会を行った。学期末には、当該コースで学んだ文型を盛り込み、それぞれのテーマで準備したスクリプトを基に、PPT を使用した期末口頭発表をオンラインで実施した。

2. その他

初級 2 レベルは学生数が多かったため、A、B、C の 3 クラス編成で授業を行った。なお、3 クラスの学習内容、レベルは同一である。

3. まとめ・今後の課題

A クラス：授業中に積極的に発話し、グループワークにも熱心に取り組む学生が多かったが、日本語での発話のアウトプットをする上で誤用が多く、習得に時間がかかっていた学生もいた。来学期以降は対面授業への移行に伴い、発話練習を増やすことを意識して進めたい。

B クラス：授業中は皆積極的に参加しており、教師側も四技能を使って教えるよう努めた。しかし、全体的に出席率が決して良いとは言えず、出席率と成績が比例した結果となった。基礎となる文法や語彙は継続した学習が大事なので、なるべく細かく復習を入れながら授業を進めたい。

C クラス：中間試験以降、研究が忙しくなりコースを修了できなかった学生がいたことは残念であったが、どの学生も非常に熱心に学習に取り組んでくれた。今後は、多くの学生が難しいと言っていた語彙の習得をいかに楽しく効率的に助けるかということにも留意したい。

インテンシブ初級Ⅱ

2022年度S1S2

レベル : 初級2 レベル

スキル : 総合

開講期間 : 2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26

時間 : 08:30 - 10:15 火曜日
10:25 - 12:10 火曜日
08:30 - 10:15 木曜日
10:25 - 12:10 木曜日

場所 : Zoom ID

学習目標 : 初級後半(L23-42)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を200字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。

対象 : 初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当

テキスト : 『大地2 メインテキスト』(スリーエーネットワーク)
『大地2 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
『にほんごチャレンジ　かんじN4-5』（アスク）

評価 : 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、口頭発表15%（中間口頭発表5%、期末口頭発表10%)、語彙クイズ5%、文法クイズ10%、漢字課題5%、作文課題10%　聴解課題10%
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

その他 : 1. 単位(8)認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院 3799-911-1、学部 FEN-JL4n03L1
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
7. 授業のスピードが速いため、十分な予習と復習が必要である。
8. Zoom URL

※それぞれのクラスのパスワードは、クラス開始の前日または2日前に学生に送信される
【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当 : 猪狩　美保 IGARI Miho, 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	火	オリエンテーション　レベルチェック　復習　L23(1)
2	4/ 5	火	L23(1)　漢字L1(111-120)
3	4/ 7	木	L23(2,3)　語彙クイズL23
4	4/ 7	木	L23(2,3)　漢字L2(121-130)
5	4/ 12	火	休講
6	4/ 12	火	休講
7	4/ 14	木	L24　語彙クイズL24
8	4/ 14	木	L24　漢字L3(131-140)　作文課題①
9	4/ 19	火	L25　語彙クイズL25　可能形クイズ　作文課題①提出

10	4/ 19	火	L25　漢字L4(141-150)　聴解課題①
11	4/ 21	木	L26　語彙クイズL26　聴解課題①提出
12	4/ 21	木	L26　漢字L5(151-160)　漢字課題①(L1-L5)
13	4/ 26	火	L27　語彙クイズL27　漢字課題①(L1-L5)提出
14	4/ 26	火	L27　まとめ5　漢字復習L1-15
15	4/ 28	木	L28　語彙クイズL28
16	4/ 28	木	L28　漢字L6(161-170)
17	5/ 3	火	祝日
18	5/ 3	火	祝日
19	5/ 5	木	祝日
20	5/ 5	木	祝日
21	5/ 10	火	L29　語彙クイズL29
22	5/ 10	火	L29　漢字L7(171-180)　作文課題②　聴解課題②
23	5/ 12	木	L30　語彙クイズL30　作文課題② & 聴解課題②提出
24	5/ 12	木	L30　漢字L8(181-190)
25	5/ 17	火	L31　語彙クイズL31　意向形クイズ
26	5/ 17	火	L31　漢字L9(191-200)
27	5/ 19	木	L32　語彙クイズL32　口頭発表導入
28	5/ 19	木	まとめ6　漢字L10(201-210)　漢字課題②(L6-L10)
29	5/ 24	火	中間試験（L23-L32）
30	5/ 24	火	中間口頭発表　漢字課題②(L6-L10)提出
31	5/ 26	木	L33　語彙クイズL33
32	5/ 26	木	L33　漢字L11(211-220)
33	5/ 31	火	L34　語彙クイズL34　条件形クイズ　中間試験フィードバック
34	5/ 31	火	L34　漢字L12(221-230)
35	6/ 2	木	中休み
36	6/ 2	木	中休み
37	6/ 7	火	L35　語彙クイズL35
38	6/ 7	火	L35　漢字L13(231-240)
39	6/ 9	木	L36　語彙クイズL36
40	6/ 9	木	L36　漢字L14(241 - 250)　作文課題③
41	6/ 14	火	L37　語彙クイズL37　受身形クイズ　作文課題③提出
42	6/ 14	火	L37　漢字L15(251 - 260)　漢字課題③(L11-L15)　聴解課題③
43	6/ 16	木	まとめ７　漢字課題③(L11-L15)提出　聴解課題③提出
44	6/ 16	木	まとめ７　漢字L16(261-270)
45	6/ 21	火	L38　語彙クイズL38
46	6/ 21	火	L38　漢字L17(271-280)
47	6/ 23	木	L39　語彙クイズL39　命令形・禁止形クイズ
48	6/ 23	木	L39　漢字L18(281-290)　聴解課題④
49	6/ 28	火	L40　語彙クイズL40　聴解課題④提出
50	6/ 28	火	L40　漢字L19(291-300)　学期末口頭発表導入　作文課題④
51	6/ 30	木	L41(1-4)　語彙クイズL41　使役形クイズ　作文課題④提出
52	6/ 30	木	L41(1-4)　漢字L20(301-310)　漢字課題④(L16-20)
53	7/ 5	火	L41(5, 6)　学期末口頭発表準備　書き直し　漢字課題④(L16-20)提出
54	7/ 5	火	L41(5, 6)
55	7/ 7	木	L42　語彙クイズL42　尊敬語クイズ

56	7/ 7	木	L42
57	7/ 12	火	まとめ8　復習　謙譲語クイズ
58	7/ 12	火	学期末口頭発表準備　PPT提出
59	7/ 14	木	学期末口頭発表準備
60	7/ 14	木	学期末口頭発表リハーサル
61	7/ 19	火	休講（補講期間のため）
62	7/ 19	火	休講（補講期間のため）
63	7/ 21	木	学期末試験
64	7/ 21	木	学期末口頭発表リハーサル
65	7/ 26	火	学期末口頭発表
66	7/ 26	火	学期末試験フィードバック

インテンシブ初級 II

報告者：猪狩美保・内田あゆみ

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

授業では、『大地 II メインテキスト』、『大地 II 文型説明と翻訳』を使用し、基本的に２コマで１課を扱う形で進行した。漢字学習には『にほんごチャレンジ　かんじ』を使用し、日本語能力検定試験Ｎ４レベルの漢字を学習した。

【授業の内容】

授業では、各課のはじめに語彙クイズを行った後、文型導入、基本練習、補助教材を使用して応用練習、会話の練習などを行い、文型の定着を図った。課題として、「日本へ来てできるようになったこと、できなくなったこと」、「私の国にある有名なもの」など４つのテーマについて作文練習を行った。学期後半では、読解、聴解などの活動も適宜取り入れた。漢字は意味と読み方に重点を置き、漢字学習を行った。また、文型や「つかいましょう」から発展させ、日本の文化的・社会的な内容についての話し合いも適宜取り入れた。

2. その他

毎回、語彙クイズを行った。クイズは予習型で１課につき１回実施した。文法の復習テストは、５課に１回のペースで合計７回行った。また、聴解課題、漢字課題を定期的に課し、授業で不足しがちな聴解、漢字に関する活動を補った。また、期末口頭発表への準備として、中間口頭発表を行った。学期末には、「３歳の子供に英語を習わせること」、「高校生にアルバイトをさせること」などについて口頭発表を行った。発表で使用する表現、構成などを学んだ後、各自学習した文型・語彙を使用しスクリプトを書き、スライドを作成させた。教師は、授業内で原稿のチェックやリハーサルを行った。

3. まとめ・今後の課題

今年度もオンラインで授業を実施し、昨年度同様、「離れていても授業に参加している感覚」を持ってもらえるよう、共同作業を多く設定し、学生間のコミュニケーションを積極的に促した。基本的に 1 回 2 コマの授業で 1 課進み、週 2 回というスピードの速いコースではあるが、どの学生も非常に熱心に参加し、課題や発表などのクラス活動についても真摯に取り組んでいた。今後の対面授業においては、一つの教室に集まって学べる良さを十分に生かしつつ、オンライン授業で使用した教材や課題の実施方法等も効果的であれば最大限に活用し、より学習効果の高い授業展開を目指していきたい。

初級3

2022年度S1S2

レベル	:	初級 II
スキル	:	総合
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	08:30 - 10:15 火曜日 10:25 - 12:10 金曜日
場所	:	Online
学習目標	:	初級後半(L23-32)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を100字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
対象	:	初級2またはインテンシブ初級 I の修了者、JLPT N5相当、または CEFR A1.2相当
テキスト	:	『大地2 メインテキスト』(スリーエーネットワーク) 『大地2 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
評価	:	教室活動5%、中間試験15%、学期末試験20%、学期末口頭発表15%、語彙クイズ5%、漢字クイズ10%、文法クイズ5%、聴解クイズ5%、課題20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1. 単位4認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院(3799-908-1)、学部(FEN-JL4n10L1), 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom ID 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	片岡　さゆり KATAOKA Sayuri, ハワード　文江 HOWARD Fumie, 猪狩　美保 IGARI Miho, 東平　福美 HIGASHIHIRA Fukumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	火	オリエンテーション, Review&Challengeクイズ, L23Vocab.
2	4/ 8	金	ふくしゅう(Dictionary-form,Te-form & Nai-Form)
3	4/ 12	火	休講
4	4/ 15	金	L23.1, かんじ(#111-115), Vocab.Quiz イントロ
5	4/ 19	火	L23.2-3, Listening&Dialogue, Reading&Writing, かんじ(#116-120), かだい1(L23)イントロ
6	4/ 22	金	L24 Vocab.Quiz Due, L24.1-2, かんじ(#121-125), かだい1(L23)しめきり
7	4/ 26	火	Potential form(かのうけい) Quiz, L24.3-4, L&D, R&W, かんじ(#126-130)
8	4/ 29	金	祝日
9	5/ 3	火	祝日
10	5/ 6	金	L25 Vocab.Quiz Due, L25.1-2
11	5/ 10	火	L25.3-4, L&D, R&W, かんじ(#131-135), リスニングQuiz①

12	5/ 13	金	L26 Vocab.Quiz Due, L26.1-2, かんじ(#136-140),リスニングQuiz①しめきり
13	5/ 17	火	L26.3, L&D, R&W, かんじ(#141-145), かだい2(L25&26)イントロ
14	5/ 20	金	L27 Vocab.Quiz Due, L27.1-2, かんじ(#146-150), かだい2(L25&26)Due
15	5/ 24	火	L27.3, L&D, R&W, かんじ(#151-155), かだい3(L27)イントロ
16	5/ 27	金	まとめ5(p31-32), ふくしゅうシート, かんじ(#156-160), かんじかだい①、かだい3(L27)しめきり
17	5/ 31	火	中間試験（L23-27)
18	6/ 3	金	L28 Vocab.Quiz Due, L28.1,4, かんじ(#161-165), かんじかだい①しめきり
19	6/ 7	火	L28.2-3, L&D, R&W, かんじ(#166-170), Mid-term Exam feedback
20	6/ 10	金	L29 Vocab.Quiz Due, L29.1-2, かんじ(#171-175)
21	6/ 14	火	L29.3-4, L&D, R&W, かんじ(#176-180),リスニングQuiz②
22	6/ 17	金	L30 Vocab. Quiz Due, L30.1-2, かんじ(#181-185),リスニングQuiz②しめきり
23	6/ 21	火	Volitional form（いこうけい）Quiz, L30.3, L&D, R&W, かだい4(L30)イントロ
24	6/ 24	金	L31 Vocab.Quiz Due, L31.1-3, かんじ(#186-190), 期末口頭発表（きまつこうとうはっぴょう）イントロ, かだい4(L30)しめきり
25	6/ 28	火	L31.4-5, L&D, R&W, かんじ(#191-195),期末口頭発表（きまつこうとうはっぴょう）タイトルしめきり
26	7/ 1	金	L32 Vocab.Quiz Due, L32.1-2, かんじ(#196-200), 期末口頭発表（きまつこうとうはっぴょう）1st draft しめきり
27	7/ 5	火	L32.3, L&D, R&W, かんじ(#201-205)
28	7/ 8	金	まとめ6, かんじ(#206-210), かんじかだい②, ふくしゅうシート
29	7/ 12	火	期末口頭発表準備, PPTしめきり, かんじかだい②しめきり
30	7/ 15	金	休講（補講期間のため）
31	7/ 19	火	休講（補講期間のため）
32	7/ 22	金	期末試験（L23-32）
33	7/ 26	火	期末口頭発表（きまつこうとうはっぴょう）, 期末試験feedback

初級 3

報告者：A クラス　片岡さゆり・ハワード文江
B クラス　東平福美・猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、週 2 回（1 コマ 105 分）展開のコースで『大地 II メインテキスト』、『大地 II 文型説明と翻訳』を使用し、前半の L23～32 を扱った。漢字は、N４レベルの単漢字 100 字と漢字語彙を学習した。テキストの新出語彙は予習型とし、クイズを各課の授業開始までに提出してもらった。授業はオンライン（同期型）で行われたが、ペア・グループワークを取り入れて学生の積極的な参加を促した。また、学習の進捗状況に合わせた作文課題の提出、および文法クイズ、聴解課題、漢字まとめクイズを行って学習事項の定着を図った。

【授業の内容】

授業では、テキストの文型・表現を習得し、運用できるようになることを重視した。必要に応じて、活用など既習の文法事項を復習しながら授業を進めた。学期末には、学習のまとめとして口頭発表を行った。「私の大学」をテーマとし、原稿作成・修正、PPT 作成、発表リハーサルなど段階的に準備を進めた。どの学生も熱心に取り組んでいた。

2. その他

2022S1S2 学期は学生の渡日時期と重なり、研究の忙しさからクラスへの参加が難しくなる学生もいたが、概して熱心にクラスに参加していた。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞時間が許す範囲で適宜、復習、作文課題の発表なども加え、会話練習の機会を増やすよう留意して授業を進めた。ほとんどの学生が予習、授業活動、課題の流れを把握して積極的に取り組んだ。学習項目によっては練習の時間が不足することもあるが、担当者間で連絡を取り合い、協力することで補えることを実感している。毎学期のことであるが、特にオンラインでの授業では時間の余裕が無く、リスニングの練習時間が十分に確保できなかった。来学期は対面授業に戻るため、リスニングの練習にも工夫をしたい。

＜B クラス＞皆真面目に取り組んでいたが、比較的静かでおとなしい学生が多く、教師主導のパターンプラクティス中心の授業が多くなってしまった。また、今学期はすべてオンライン授業であったこともあり、皆で和気藹々と学ぶというよりも、それぞれが自分のペースで学んでいた印象がある。学期後半は専門の授業との兼ね合いで日本語の履修を諦めた学生もいた。そのため、今後の課題としては、学生同士が日本語の授業を通じてコミュニケーションを取って交流を深め、お互いに助け合って一緒に日本語を学ぶ工夫が必要だと考える。

初級4

2022年度S1S2

レベル	:	初級2 レベル
スキル	:	総合
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	10:25 - 12:10 火曜日 08:30 - 10:15 金曜日
場所	:	Zoom
学習目標	:	初級後半(L33-42)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を100字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
対象	:	初級3の修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A2.1相当
テキスト	:	『大地2 メインテキスト』(スリーエーネットワーク) 『大地2 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
評価	:	教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ5%、漢字クイズ5%、文法クイズ10%、作文課題10%、聴解課題10%、録音課題5% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1. 単位4認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-909-1、学部FEN-JL4n20L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7.Zoom 8.【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	金 瑜眞（キム ユジン） KIM Youjin, ハワード　文江 HOWARD Fumie, 猪狩　美保 IGARI Miho, 東平　福美 HIGASHIHIRA Fukumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	火	Orientation, Level check Quiz, L33 Vocabulary introduction
2	4/ 8	金	L33.1(1-1〜1-7)
3	4/ 12	火	【休講】入学式
4	4/ 15	金	L33.1(1-8)&2, L33 Voca quiz, Listening & Dialogue, 漢字（211-215）
5	4/ 19	火	L34.1&2, L34 Voca quiz, 文法クイズ1（条件形),漢字（216-220）
6	4/ 22	金	L34.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ（211-220), 漢字（221-225）, 録音課題① 配付
7	4/ 26	火	L35.1&2,L35 Voca quiz,漢字(226-230)
8	4/ 29	金	祝日
9	5/ 3	火	祝日
10	5/ 6	金	L35.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(221-230), 漢字(231-235), 作文課題①配布, 録音課題①(L34) 締切
11	5/ 10	火	L36.1&2, L36 Voca quiz, 漢字(236-240), 作文課題①締切

12	5/ 13	金	L36.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(231-240), 漢字(241-245), 作文課題②配布
13	5/ 17	火	L37.1&2, L37 Voca quiz, 文法クイズ2（受身形), 漢字(246-250), 作文課題② 締切、聴解課題①(L37)配布
14	5/ 20	金	L37.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(241-250), 漢字(251-255)
15	5/ 24	火	まとめ7, Review, 漢字(256-260),聴解課題①(L37)締切
16	5/ 27	金	中間試験(L33-37)
17	5/ 31	火	L38.1&2, L38 Voca quiz, 漢字クイズ（251-260）
18	6/ 3	金	L38.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字(261-265), 作文課題③配布
19	6/ 7	火	L39.1&2, L39 Voca quiz, 文法クイズ3（命令禁止形）, 漢字（266-270）， 作文課題③締切, 聴解課題②(L39)配布
20	6/ 10	金	L39.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(261-270), 漢字(271-275), 録音課題②(L38) 配付
21	6/ 14	火	L40.1&2, L40 Voca quiz, 漢字（276-280), 聴解課題②(L39)締切
22	6/ 17	金	L40.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(271-280)、漢字(281-285), Final Presentation introduction,録音課題②(L38) 締切
23	6/ 21	火	L41.1&2&3, L41 Voca quiz, 文法クイズ4（使役形), Kanji(286-290), Final Presentation Title & Outline Deadline
24	6/ 24	金	L41.4&5&6, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ（281-290）, 漢字（291-295), 作文課題④配布, Final Presentation Outline Return
25	6/ 28	火	L42.1&2, L42 Voca quiz, 文法クイズ5(尊敬動詞）, 漢字(296-300), 作文課題④締切, Final Presentation 1st Draft Deadline
26	7/ 1	金	L42.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字(301-305), 漢字クイズ(291-300)， Final Presentation 1st Draft Return & Rewrite 2nd Draft
27	7/ 5	火	まとめ8, 文法クイズ6（謙譲動詞）, 漢字（306-310）,聴解課題③(L42)配布
28	7/ 8	金	Review, 漢字クイズ（301-310）, Final Presentation 2nd Draft Deadline
29	7/ 12	火	Presentation Practice(Rehearsal), PPTcheck, 聴解課題③(L42)締切
30	7/ 15	金	【休講】補講日
31	7/ 19	火	【休講】補講日
32	7/ 22	金	期末試験(L33-42)
33	7/ 26	火	期末発表

初級４

報告者：Ａクラス　金瑜眞・ハワード文江
Ｂクラス　東平福美・猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『大地 2』（スリーエーネットワーク）を主教材として使用し、L33～42 の初級後半部分を授業範囲とした。文法項目と様々な言語表現やその背景知識を習得しながら、会話・作文練習などの教室活動を通し、総合的な日本語能力の向上を目指した。また、N4 相当の単漢字 100 字と対象漢字を含む語彙学習を行った。授業は、1)文型の導入・練習、2)応用練習・会話練習、3)漢字導入・練習を中心に実施し、必要に応じて主教材の扉会話を使った聴解練習や文型を応用した短作文の練習などを行った。

【授業の内容】

各課の初めに学生が各自語彙を勉強し、授業前の予習課題としてオンライン形式の語彙クイズに取り組んだ。授業では、文型導入、基本・応用練習を行い、動詞の活用等については、受身形、使役形、尊敬動詞、謙譲動詞等の文法クイズを実施し、定着を図った。授業内ではコミュニケーション力の向上に力を入れ、ペアワーク・グループ活動を積極的に取り入れた。また、授業外において作文課題、聴解課題、録音課題を課し、日本語の総合的な運用能力の向上を目指した。並行して漢字の導入と練習、確認クイズを実施した。

2. その他

学期末口頭発表は、学期を通しての学習内容を踏まえ、本コースで学習した文型を盛り込み、意見文のスクリプトを作成し、PPT を使用したプレゼンテーションを実施した。受講者は全員しっかりと準備をし、質疑応答時には活発な意見交換が見られた。初級 4 レベルは学生数が多かったため、A、B の 2 クラス編成で授業を行ったが、両クラスの学習内容、レベルは同一である。また、昨年度に引き続きオンライン授業を実施した。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞　学期初めの登録者 11 名中 8 名が修了し、全体的に初級 4 の到達目標に達することができた。一方で、発話や作文における産出の正確さには学生によりばらつきが大きく、期末発表の draft 作成やリハーサル時、個別のフォローが必要であった。今後も継続して学生の様子を観察し、フォローが必要な学生への対応を検討していきたい。

＜B クラス＞　登録学生 11 名のうち 7 名が修了し、どの学生も授業や課題に熱心に取り組んでいる様子が見られた。オンライン授業で発言や意見交換の機会が限られる中、ペアワークや発表にも積極的に参加していた。クラス内でのコミュニケーションがさらに活性化する授業内容を今後も考えていきたい。

中級1　総合

2022年度S1S2

レベル　：中級1 レベル
スキル　：総合
開講期間　：2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間　：08:30 - 10:15 火曜日
10:25 - 12:10 木曜日
場所　：online
学習目標　：日常生活における場面で対応可能な日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、身近な話題を取り上げ、初中級レベルの文型・語彙を用いながら、読む 、聞く、書く、話すの４技能をバランスよく習得できる活動を行う。
対象　：初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、またはJLPT N4相当、CEFR A2.2相当
テキスト　：『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』（スリーエーネットワーク）
評価　：教室活動10%、課題10%、中間試験20%、学期末試験20%、その他40%（クイズ10%、作文・発表 10%、学期末口頭発表20%）
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験

その他　：
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
1. 単位4認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-9-121、学部 FEN-JL4o01L1　2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
・Zoom
※【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当　：牛山　和子 USHIYAMA Kazuko, 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi,
中村 亜美 NAKAMURA Ami

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	火	オリエンテーション、レベルチェッククイズ
2	4/ 7	木	第2課-1
3	4/ 12	火	【休講】入学式
4	4/ 14	木	第2課-2
5	4/ 19	火	語彙クイズL2、第2課-3
6	4/ 21	木	語彙クイズL3、第3課-1
7	4/ 26	火	第3課-2
8	4/ 28	木	第3課-3、作文1(L3)
9	5/ 3	火	祝日
10	5/ 5	木	祝日
11	5/ 10	火	語彙クイズ（L4)、第4課-1、作文1(L3)提出

12	5/ 12	木	第4課-2
13	5/ 17	火	第4課-3
14	5/ 19	木	語彙クイズ（L5)、第5課-1
15	5/ 24	火	第5課-2
16	5/ 26	木	第5課-3、復習（L2,3,4)、作文発表会
17	5/ 31	火	中間試験（L2-5）
18	6/ 2	木	中休み
19	6/ 7	火	語彙クイズ（L6)、第6課-1
20	6/ 9	木	第6課-2、中間試験フィードバック
21	6/ 14	火	第6課-3、作文2(L6)
22	6/ 16	木	語彙クイズ（L7)、第7課-1 学期末口頭発表準備①
23	6/ 21	火	第7課-2
24	6/ 23	木	第7課-3 作文2(L6)提出
25	6/ 28	火	語彙クイズ（L8)、第8課-1、学期末口頭発表準備②
26	6/ 30	木	第8課-2
27	7/ 5	火	第8課-3、学期末口頭発表準備③
28	7/ 7	木	語彙クイズ（L9)、第9課-1
29	7/ 12	火	第9課-2、学期末口頭発表準備④
30	7/ 14	木	第9課-3、復習（L6,7,8)、学期末口頭発表準備⑤
31	7/ 19	火	【休講】 補講期間のため
32	7/ 21	木	学期末試験 (L6-9)
33	7/ 26	火	学期末口頭発表

中級１　総合

報告者：A クラス　牛山和子・中村亜美
B クラス　内田あゆみ・牛山和子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『中級へ行こう 日本語の文型と表現 55』（スリーエーネットワーク、第２版）を使用し、全 10 課中、2 課から 9 課までを１課 3 コマ（1 コマ 105 分）で終える形で授業を進めた。今学期もコロナ禍の影響を受け、すべての活動をオンライン同期型で行った。今学期より、A・B クラス共 Google Classroom を使用し、クイズ類は引き続き 1)予習型（「本文内容理解問題」）、2)自習型（「ことばの練習」）、3)授業内で実施するもの（「語彙クイズ」）の 3 つに分けて実施した。

【授業の内容】

各課の１コマ目は、会話練習も兼ねてその課のトピック（扉のページを使用）についてクラスで話し合う活動を行い、発話の機会を増やすよう心掛けた。次に新しい文型・表現の前半を導入し、教科書の練習問題や教師作成の問題などで運用力がつくように心がけて授業を行った。２コマ目はその課の後半の文型・表現の導入と練習を中心に進め、時間的に可能であれば、「短作文」も扱った。３コマ目は各課のまとめとして、本文読解の他、教科書にある文法チェックシート、聴解タスクシートなどを用い、その課の学習内容の総復習的な練習を行った。書く活動としては、作文課題を 2 回出し、中間試験後に作文１についての発表会を行った。また、学期末口頭発表は教員のフィードバックを受けつつ、クラスメートにアンケートをし（Google フォームを使用）、各自がそれをスライドにまとめ、クラス内で発表後、クラスメートからの質問に答えるという総合的な活動を行った。

2. その他

漢字に関しては各課の漢字練習シートを作成し、自主学習用として配信した。新出漢字を中心に読みや意味を確認し、本文をルビなしで読めるよう、自主学習を促した。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞開講当初は自発的な発言が少なかったが、グループワークでの話し合いや短作文などのクラス活動を通して発言も多くなり活発なやりとりが見られるようになった。課題やクイズにも真面目に取り組み、力をつけていった学習者が多かった。学習する語彙や文型が増える中、それぞれの運用力を伸ばす練習や活動を今後も検討していきたい。

＜B クラス＞登録 14 名中、13 名が修了した。全体的に出席率も課題の提出率もよく、真面目に取り組んでいた。雰囲気がとても良く、グループワークなどではお互いを高め合う姿勢が見られた。学期末口頭発表では、多忙の中授業時間外にきちんと準備をし、発表を行い、質疑応答も非常に活発であった。

中級1　聴解

2022年度S1S2

レベル　：中級1 レベル
スキル　：聴解
開講期間　：2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間　：08:30 - 10:15 木曜日
場所　：on line
学習目標　：初級文法を復習しながら、聴解・会話能力の向上を目指す。授業では、聴解問題、グループ活動、ディスカッションを行う。
対象　：初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、またはJLPT N4相当 、 CEFR A 2.2相当。
テキスト　：『5分でできるにほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク)、『＜テーマ別＞ 中級までに学ぶ日本語 初中級ブリッジ教材』（研究社）
評価　：教室活動10%、中間試験20%、期末試験20%、課題50%
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他　：1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-922-1、学部FEN-JL4o10L1. 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
Zoom ID:
*【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当　：ハワード　文江 HOWARD Fumie
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	木	レベルチェックテスト、オリエンテーション 「音」はじめるまえに「テーマ別」L1
2	4/ 14	木	「音」1,2,3「テーマ別」L2
3	4/ 21	木	「音」4,5「テーマ別」L3　課題①
4	4/ 28	木	「音」クイズ①「テーマ別」L4
5	5/ 5	木	祝日
6	5/ 12	木	「音」6,7「テーマ別」L5　課題②
7	5/ 19	木	「音」8,9「テーマ別」L6
8	5/ 26	木	中間試験
9	6/ 2	木	休講
10	6/ 9	木	「音」クイズ②「テーマ別」L7　課題③
11	6/ 16	木	「音」10,11,12「テーマ別」L8
12	6/ 23	木	「音」13,14「テーマ別」L9　課題④
13	6/ 30	木	「音」クイズ③「テーマ別」L10
14	7/ 7	木	「音」15,16「テーマ別」L11　課題⑤
15	7/ 14	木	「音」クイズ④「テーマ別」L12
16	7/ 21	木	期末試験

中級１　聴解

報告者：　ハワード　文江

１. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『＜テーマ別＞ 中級までに学ぶ日本語 初中級ブリッジ教材』(研究社) を主教材とし、マクロリスニング、つまり重要な部分を間違えなく聞き取ることに主眼を置き、毎回の授業で１課ずつリスニングに焦点を当てて授業を行った。授業の進め方は、語彙と文法の確認→本文 CD を聞く→質問に対する答え方の確認→追加の聴解問題、更に時間が許す限りその課のテーマでディスカッションを行った。又『5 分でできるにほんご音の聞きわけトレーニング』（スリーエーネットワーク）を副教材とし、マイクロリスニング、つまり日本語特有の細かい音の聞き分けに慣れることに主眼を置き、学生各自の聞き取りにくい音に気付いてもらうために、毎週２～３課の自習を課し、５課毎にクイズで習得状況を確認した。

【授業の内容】

主教材の本文は「ゴミ問題」「水資源」などの社会問題や「家族」「国際化」などの留学生にとって身近なテーマが主で、大学院生の知的欲求に応えられる内容である。しかしやや難易度が高いため、各課の語彙は拡充や定着を図るため、又文法も初級文法の復習であるため、どちらも事前学習とし、授業開始時に丁寧にフィードバックを行った。反転授業を取り入れ、語彙と文法が予習できている為、本文リスニングは比較的スムーズに行え、段落毎に見出しを付けたり、要約をしたりする練習を取り入れ、問題の答え方の練習も十分に行った。別に設けられている聴解問題は全て選択問題ではあったが、教科書にスクリプトは無く、こちらもやや難易度が高かった。しかし、マクロリスニングに徐々に慣れ、質問に対する正しい答えを選ぶことができるように練習を重ねてもらった。

２. その他

リスニング強化のため週 5 日 10 分ずつ、本文 CD や NHK NEWS WEB EASY などを聞き、分かり難かった表現を 1 文書きだす課題を課した。学生の負担を鑑み、課題は全て Excel シート 1 ページに収めた。音の聞き分けはクイズ毎に聞取り難い音のフォローを行った。

３. まとめ・今後の課題

昨年度からの課題であった日本語の音を聞き分けるトレーニングを焦点にした練習を今年度から加えることができ、充実した聴解授業となった。自習や課題がやや多くなり学習者の負担が心配されたが、授業アンケートでは「授業のスピードも課題の量も適切」とあり、満足してもらえた内容だったようだ。来学期からは対面授業に戻るため、ディスカッションの時間を通し、留学生同士の発話のリスニングも大切にして行きたいと思う。

中級1　会話

2022年度S1S2

レベル	:	中級1 レベル
スキル	:	会話
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	10:25 - 12:10 火曜日
場所	:	online
学習目標	:	初級文法を復習しながら、日常生活場面での会話運用能力を向上させる。授業内外で積極的に会話実践を行う。
対象	:	初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、またはJLPT N4相当、CEFR A2.2相当
テキスト	:	『会話に挑戦　中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク)
評価	:	教室活動10%、語彙事前課題10%、中間試験25%、期末試験25%、スクリプト録音課題20%、スピーチ10% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。
その他	:	1. 単位２認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-923-1、学部FEN-JL4o20L1　2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5.　第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7.Zoom address 8.【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	佐藤　瑞恵 SATO Mizue, 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	火	オリエンテーション, 自己紹介, レベルチェックテスト
2	4/ 12	火	休講　（入学式のため）
3	4/ 19	火	L3, 課題① 配布
4	4/ 26	火	L4, 課題①提出
5	5/ 3	火	祝日
6	5/ 10	火	L8
7	5/ 17	火	L11, 課題②配布
8	5/ 24	火	L12, 課題②提出
9	5/ 31	火	中間試験
10	6/ 7	火	L13, 課題③配布
11	6/ 14	火	L15, 課題③提出
12	6/ 21	火	L17
13	6/ 28	火	L20, 課題④配布
14	7/ 5	火	L21, 課題④提出
15	7/ 12	火	復習、期末試験の準備
16	7/ 19	火	【休講】 補講期間のため

17	7/ 26	火	期末試験

中級１　会話

報告者：佐藤瑞恵・内田あゆみ

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは週 1 回の会話コースで、『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』（スリーエーネットワーク）を教科書として使用した。主にロールプレイによる会話練習を中心として授業を行い、初級レベルで学習した文型・表現の口頭練習や日常生活場面における日本語を使った会話運用動力の向上を目指し、実践的な会話練習を行った。

【授業の内容】

教科書から「日にち変更の許可を求める」「医者に状況を説明する」「ゴミの出し方を注意されて謝る」などの 10 課を選択し、授業で取り上げた。各授業の前に、新出語彙の意味と読み方を学生が事前に調べる課題を課した。また、学期中 4 回、勉強した表現をもとに、オリジナルのスクリプトを作成し、その会話の様子を録画するという課題も出した。

会話表現の指導においては、発話場面や相手と話者間の上下・親疎関係等による表現の使い分け、日本社会の中で慣習的に好まれる相槌や非言語行動、発話意図に応じたイントネーションの区別等について練習を行った。また、各授業で 1～2 名の学生に「私の好きなもの、好きなこと」というテーマで 3 分程度のショートスピーチをしてもらい、発表と質疑応答を行った。

2. その他

中間・期末試験は、学生同士で会話のペアを組み、ロールプレイの形式で会話試験を実施した。授業で取り上げたロールカードの内容を一部改変したものを用意し、2 つのタスクを演じてもらった。評価時には、流暢さ、適切さ（各課で取り上げた重要表現を適切に使用できているか)、正確さ（文法や言葉のミス)、敬語と普通形の使い分け、単音の発音とイントネーション、相手の発話に対する理解や反応等について評価し、フィードバックした。

3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞　登録者 8 名中、6 名が修了することができた。学期末が近づくにつれ、研究発表や論文提出のため、欠席がちとなってしまった学生もいたが、履修した学生全員が非常に熱心に学習していた。コロナ禍の中、対面授業も行うことができたため、直接交流もでき、良い雰囲気が培われた。

＜B クラス＞　海外から参加の学生もいたが登録者 6 名全員が修了することができた。皆最後まで意欲的に参加し、授業時間外にペアで行う録画課題にも毎回真面目に取り組んでいた。人数が少なかった為、発話機会が多く、適宜フィードバックもすることができた。

中級1　専門読解

2022年度S1S2

レベル	:	中級 I
スキル	:	読解
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	08:30 - 10:15 金曜日
場所	:	online
学習目標	:	科学技術分野の日本語の読解力向上と、専門的な語彙、文型・表現の習得を目指す。授業では、「Ttime！」(東京大学工学部広報誌）のリライト記事を読み、理工系の基礎専門用語の語彙力を養う。
対象	:	初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2相当
テキスト	:	オリジナル教材
評価	:	教室活動：15%　中間試験：20%　期末試験：20%　漢字・語彙クイズ：15% 課題（クイズ）：15% 課題（短作文・要旨）：15% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1.単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院 3799-924-1、学部 FEN-JL4o30L1,　2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6.授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	古市 由美子 FURUICHI Yumiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	金	オリエンテーション、レベルチェック
2	4/ 15	金	人型ロボット
3	4/ 22	金	道路の渋滞予測　語彙・漢字クイズ
4	4/ 29	金	祝日
5	5/ 6	金	スマートグラスで道案内　語彙・漢字クイズ
6	5/ 13	金	味と食感を決める酵素　語彙・漢字クイズ
7	5/ 20	金	料理を作りながらスマートフォンの充電ができる？　語彙・漢字クイズ
8	5/ 27	金	中間試験
9	6/ 3	金	都市インフラとしての浄水処理　語彙・漢字クイズ
10	6/ 10	金	航空機の事故を減らすために　語彙・漢字クイズ
11	6/ 17	金	自動車材料の軽量化とマルチマテリアル化　語彙・漢字クイズ
12	6/ 24	金	超伝導とリニアモーターカー　語彙・漢字クイズ
13	7/ 1	金	食品の産地を確かめる方法　語彙・漢字クイズ
14	7/ 8	金	3Dメガネ　語彙・漢字クイズ
15	7/ 15	金	休講
16	7/ 22	金	期末試験

中級１　専門読解

報告者：古市由美子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本授業は、科学技術文の読解力を養成すること、その基礎的な専門語彙や表現、文型の使い方を養成することを目的としている。授業までに、「イラスト動画」と「インタビュー動画」を視聴し、内容クイズをすること、本文の語彙を確認すること、前回の授業で習った文型の短文を作成することを事前課題とした。授業では、提出された短作文のフィードバックを行い、語彙クイズ、本文のテーマに関するディスカッション、文型・表現練習、本文精読の順で行った。このように、反転授業を実施し、授業は読解内容およびテーマに関するディスカッションを中心としたアクティブラーニングを行った。

【授業の内容】

テキストは工学部広報誌（『Ttime!』）の記事に基づいた「人型ロボット：スムーズに動かすためには？」「道路の渋滞予測：目的地へより早く！」（シラバス参照）など、理工学分野のテーマの科学技術文を日本語教員がリライトしたものである。「イラスト動画」は、テキスト本文を分かりやすくイラストとして示し、音声付きで、内容スキーマを活性化する目的で作成した。一方、「インタビュー動画」は、東京大学の専門家が研究内容やテーマをわかりやすく解説したもので、テーマの理解を深めるために利用した。本授業は、受講者自身の専門的な先行知識を利用し、予測しながら読み解く方法〈トップ・ダウン〉と、その後、語彙や表現を正確に理解し、文、段落、テキスト全体へと理解を積み上げる（ボトム・アップ）方法の２つの方法を使用し、読解力を養成した。

2. その他

昨年度に引き続き S1S2 はオンライン授業になったため、オンライン上で２つの動画が視聴できることは非常によかった。本文、ビデオは、東京大学における工学系全般の研究内容が網羅された当教室オリジナルの教材で、中級１から科学技術文を読むことによって、学生の研究支援のための作成したものである。

3. まとめ・今後の課題

「読解」は、受動的なスキルではあるが、反転授業を取り入れることによって、学生が主体的に取り組むことができた。また、レベル差のある学生がいたが、授業前に各学生のペースで読み、授業では読んできた内容を他の学生と確認する時間を設けたことによって、能力のギャップを埋めることにつながった。さらに、アンケート結果によると、授業内の文法解説が中級１レベルの文法の復習になったという記述があった。また、インタビュー動画は日本語としては難しいが、工学の内容、語彙を理解するために役立ったようだ。

中級1　文章

2022年度S1S2

レベル	:	中級1 レベル
スキル	:	文章
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	13:00 - 14:45 火曜日
場所	:	online
学習目標	:	正しい日本語作文のルールを学ぶ活動を通し、中級前半レベルの語彙・表現・文法・文型を習得する。また、適切な書き言葉と文体を使用し、身近なトピックについて読み手に伝わる約400字の文章が書ける能力を養成する。
対象	:	初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、またはJLPTN4相当、CEFR A2.2相当
テキスト	:	「おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文」（凡人社）
評価	:	作文活動5%、課題作文50%、中間試験20%、期末試験20%、参加度5% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1.単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院(3799-925-2)、学部(FEN-JL4o45L1). 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。 ★Utokyoアカウントと G Suite for Education (Google)を1回目の授業のまえに取得してください。 （https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/）
担当	:	佐藤　瑞恵 SATO Mizue nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	火	レベルチェックテスト、オリエンテーション
2	4/ 12	火	【休講】入学式
3	4/ 19	火	L1①、メールの書き方、作文課題①
4	4/ 26	火	L1②
5	5/ 3	火	祝日
6	5/ 10	火	L2①、作文課題②
7	5/ 17	火	L2②、L3①、作文課題③
8	5/ 24	火	L3②
9	5/ 31	火	中間試験(L1~3)
10	6/ 7	火	中間試験フィードバック、L4①
11	6/ 14	火	L4②、L5①、作文課題④
12	6/ 21	火	L5②、L6①、作文課題⑤
13	6/ 28	火	L6②、作文課題⑥
14	7/ 5	火	L7①

15	7/ 12	火	L8(復習)
16	7/ 19	火	【休講】 補講期間のため
17	7/ 26	火	期末試験(L4〜6)

中級１　文章

報告者：佐藤瑞恵

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは同期オンライン型のクラスで、教科書『おしゃべりしながら 書くことを楽しむ中級作文』（凡人社）を使い、約 2 コマで 1 課を扱うコースである。中級レベルの文章を書く際に必要な知識、構成、表現を学習するだけでなく、作文を書き始める前のウォーミングアップとして、クラスメートとおしゃべりを楽しみ、そこから作文を書くという流れで授業を展開した。

【授業の内容】

まず、各課のテーマ(私を表す漢字、私のおすすめ、朝型か・夜型か 等)についてブレイクアウトルームを用いて、クラスメートとおしゃべりをしながら、様々に考えてもらう。その後、アウトラインやモデル作文の確認を行い、書き言葉の表現、文法、構成上のポイントを学習する。授業内でアイデアや必要な知識を深めた後、作文課題(学期前半は 250 字から 350 字程度、後半には 450 字以内)を出した。授業の始まりにはブレイクアウトルームを利用したピアリーディング活動を行った。この活動では、自身が書いた作文を声を出してクラスメートに読んで聞かせ、それに対し、質問やコメントを受ける。作文を読む際に読めない言葉がないよう、あらかじめ読み方を調べてくるという指示も出している。作文課題は学期中 7 回で、ピアリーディング活動後、教師が作文のフィードバックを行った。

2. その他

従来、作文は「黙々と一人で書き、教師に間違いを直してもらうもの」という概念があったのではないかと思われる。それに対し、本クラスは、クラスメートとともに取り組む時間を多く設け、履修者同士が話し合いを重ねながら作文を書き上げるスタイルをとっている。これらの活動を通し、他を尊重しながら様々な考えを包括できる姿勢を培いたいと考えている。作文の文量については、学期前半は 250 字から 350 字程度、後半には 450 字以内としていたが、後半になると多くの履修者が、指示に従って相当量の作文が書けるようになっており、作文力の向上が目に見える形となった。

3. まとめ・今後の課題

オンラインクラスの利点として、自身のパソコン画面を共有できることがあるが、ピアリーディング活動では、この点が特に有効に機能した。改善すべき点は、春学期に関して言えば、学生ボランティアが見つからず、また履修者も多かったことから、授業中に個人を細かく見ることが難しかったことである。今後どのような授業方法であっても十分な声かけができるよう、グループ内の人数などに留意し、工夫を重ねていきたいと考えている。

中級2　総合

2022年度S1S2

レベル : **中級2 レベル**

スキル : **総合**

開講期間 : 2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26

時間 : 08:30 - 10:15 **水曜日**
10:25 - 12:10 **金曜日**

場所 : **オンライン**

学習目標 : **大学や日常生活における様々な場面で対応可能な日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、一般的な事柄を取り上げ、中級前半レベルの文型・語彙を用いながら、読む、聞く、書く、話すの４技能をバランスよく習得できる活動を行う。**

対象 : **中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当**

テキスト : **『中級を学ぼう　日本語の文型と表現56　中級前期　第２版』**
（スリーエーネットワーク）
※テキストは緑色の表紙です。

評価 : **教室活動10%　語彙クイズ10%　漢字課題5%　リスニング課題5%　作文課題30%　中間試験20%　期末試験20%**
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) **出席率70%以上**　2) **学期末試験もしくは課題を受験**
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

その他 : 1. **単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可** UTAS **コード：大学院** 3799-937-1、**学部**FEN-JL4p02L1
2. **修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。**
3. **コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。**
4. 30**分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。**3**回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。**
5. **第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。**
6. **授業内容は変わる可能性がある。**
7. [Zoom ID]

【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当 : **牛山　和子** USHIYAMA Kazuko, **宮瀬 真理** MIYASE　Mari , **大西　由美** ONISHI Yumi, **片岡　さゆり** KATAOKA Sayuri
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	水	オリエンテーション レベルチェッククイズ
2	4/ 8	金	第1課-1
3	4/ 13	水	第1課-2 クイズ(DUE): 語彙 L1
4	4/ 15	金	第1課-3
5	4/ 20	水	第2課-1 クイズ(DUE): 語彙 L2、漢字 L1、聴解 L1
6	4/ 22	金	第2課-2
7	4/ 27	水	第1課 & 第2課 復習 ・課題—1(作文 1st Draft DUE) クイズ(DUE): 漢字 L2、聴解 L2

8	4/ 29	金	祝日
9	5/ 4	水	祝日
10	5/ 6	金	第3課-1 クイズ(DUE): 語彙 L3
11	5/ 11	水	第3課-2
12	5/ 13	金	第4課-1 クイズ(DUE): 語彙 L4、漢字 L3、聴解 L3
13	5/ 18	水	第4課-2 ・課題—1(作文 Final Draft DUE)
14	5/ 20	金	第3課 ＆ 第4課 復習 クイズ(DUE): 漢字 L4、Listening L4
15	5/ 25	水	中間試験（L1, L2, L3, L4)
16	5/ 27	金	第5課-1 クイズ(DUE): 語彙 L5
17	6/ 1	水	休講 (補講)
18	6/ 3	金	第5課-2 ・課題—2 (作文 First Draft DUE)
19	6/ 8	水	第6課-1 クイズ(DUE): 語彙 L6、漢字 L5、聴解 L5
20	6/ 10	金	第6課-2
21	6/ 15	水	第5課 ＆ 第6課 復習 クイズ(DUE): 漢字 L6、聴解 L6
22	6/ 17	金	課題2 作文発表
23	6/ 22	水	第8課-1 クイズ(DUE): 語彙 L8
24	6/ 24	金	第8課-2
25	6/ 29	水	ディスカッション クイズ(DUE): 漢字 L8、聴解 L8
26	7/ 1	金	第7課-1 クイズ(DUE): 語彙 L7
27	7/ 6	水	第7課-2 課題3 作文（意見文）DUE
28	7/ 8	金	第7課-3
29	7/ 13	水	第7課 ＆ 第8課 復習 クイズ(DUE): 漢字 L7、聴解 L7
30	7/ 15	金	休講 (補講)
31	7/ 20	水	総復習
32	7/ 22	金	期末試験（L5, L6, L7, L8)

中級２　総合

報告者：Ａクラス　牛山和子・宮瀬真理
Ｂクラス　大西由美・片岡さゆり

1.授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期（第２版)』(スリーエーネットワーク）を使用し、先学期に続き、オンライン同期型で授業を行った。授業は、1 課を 2 回(105 分×２)で終え、2 課を終えるごとに復習回を設けるという形で進めた。A・B クラス共 Google Classroom を使用し、各課に対し、語彙(予習型)、漢字、聴解(共に復習型)の３つの課題を出し、いずれも締め切り日までは何度受けてもよいという、繰り返し学習できる形にして提示した。

【授業の内容】

各課の第 1 回目の授業では、「扉のページ」などを用いて、その課で扱うテーマについて簡単な話し合いや意見交換を行った後、CD などを用いて本文の大意把握を行い、その課の新出文型・表現の前半を学ぶという流れで行った。各課の第 2 回目の授業では、学習項目の後半を扱った後、本文読解のための練習問題などをし、本文内容理解へと進めた。また、教科書にある、「読もう」「聞こう」「書こう」「チェックシート」なども適宜使用し、学習した文型や表現をよりよく理解し、運用できるよう心掛けた。作文に関しては、1)「私の研究」2)「私の町」3)「意見文」の３つを課題とした。いずれの課題にもモデル文や、作文を構成する上で大切なポイントなどを示した。作文 2 では、学生は音声を入れた Google スライドの作成に取り組み、それをクラス内でクラスメートと共有し、質疑応答を行うという活動を行った。作文 3(意見文)は、クラス内で行ったディスカッションのテーマ、あるいは意見を述べたいトピックについて、できるだけ学習項目を使って作文を書くことを課題とした。

2.その他

中級 2 総合コースは、2021A1A2 まで週 1 回のコースとして開講されていたが、2022S1S2 より週 2 展開のコースとなり、それまで時間的な制約などで、教科書（全 8 課）のうち 6 課しか扱えていなかったが、今学期はすべての課を扱うことができた。また総合的な活動のひとつである「ディスカッションの日」を設けることもでき、学生からも好評であった。

3.まとめ・今後の課題

〈A クラス〉 16 名の登録があり、11 名が修了した。オンライン授業ではあったが、皆積極的に授業に参加し、クラスメートとの交流も楽しめている様子だった。Google Classroom を使ってのクイズや課題提出も熱心に取り組めていた。

〈B クラス〉 17 名の登録があり、11 名が修了した。当初クラスの約半数が来日できておらず、この遠隔授業のみが日本語使用機会であるという学生もいた。ペアワークやグループワークで、会話の機会を多く設けるようにし、読む・書くに偏らない能力の向上を目指した。

中級2　聴解

2022年度S1S2

レベル	:	中級 II
スキル	:	聴解
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	08:30 - 10:15 木曜日
場所	:	オンライン
学習目標	:	大学や日常生活における様々な場面で対応可能な中級の日本語運用力を身につけることを目指す。授業では主に大学での講義や会議、研究発表を聞く力を養う練習を行い、聞くだけでなく、聞いたことをまとめたり要約したりする活動を行う 。
対象	:	中級I聴解コースの修了者、またはJLPTN3相当、CEFR B1相当
テキスト	:	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解［中級］』（スリーエーネットワーク）
評価	:	教室活動10%, クイズ20%, 課題30%, 中間試験20%, 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1.単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院 3799-932-2, 学部 FEN-JL4p10L1, 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。6.授業内容と教室は変わる可能性がある。 7.Zoom address: 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	大西　由美 ONISHI　Yumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ
2	4/ 14	木	L1富士山
3	4/ 21	木	L3隠れキリシタン、L1クイズ
4	4/ 28	木	L4水族館、L3クイズ、課題①L５
5	5/ 5	木	祝日
6	5/ 12	木	L6東京の温泉、L4クイズ
7	5/ 19	木	L7失敗学、L6クイズ
8	5/ 26	木	中間試験
9	6/ 2	木	中休み
10	6/ 9	木	L8 札幌のお祭り
11	6/ 16	木	L9 津軽三味線、L8クイズ
12	6/ 23	木	L11 アクセント、L9クイズ
13	6/ 30	木	L12からくり人形、L11クイズ、課題③L15
14	7/ 7	木	L13四つ葉のクローバー、L12クイズ
15	7/ 14	木	L14長寿の理由、L13クイズ

16	7/ 21	木	期末試験

中級 2　聴解

報告者：大西由美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（中級)』(スリーエーネットワーク）を使用し、授業を行った。大学で学ぶために必要な「講義や口頭発表を聞く力」を養成するためのテキストで、各課は内容の聞き取りの正誤問題と質問文、スクリプトの構成を確認、要約練習の４つで構成されている。

授業の流れは以下のとおりである。

・短いニュースの聞き取り
・テーマに関するグループディスカッション（10 分）
・聞き取り 1 回目、2 回目と正誤問題
・新出語彙と聞き取りに必要な表現の導入
・聞き取り 3 回目とスクリプトの構成の確認
・聞き取り 4 回目と要約

また、ディクテーションや要約の方法など、授業進度に合わせて扱った。

【授業の内容】

「富士山」「アクセント」などの 15 課のうち、12 課を授業で学習し、残りの 3 課は課題とした。教科書にはスライドによる発表の形式の課もあったが、スライドで文字を見ながらの学習のほうが、理解が深かった。来日していない学生も一部おり、日本文化にあまり触れたことがないこともあったため、ビデオなどを適宜紹介した。

2. その他

前学期までは授業中にディクテーションクイズを行っていたが、授業前に各自で取り組む形式に変更した。毎回のクイズに費やしていた授業冒頭の 15 分をニュースの聞き取りに活用した。

CD プレーヤーを所持していない学生が多く、出版社が提供する他の音源がないため、毎週のディクテーションクイズも同様に録音したものを聞く形式にした。

3. まとめ・今後の課題

元々の文法能力、作文能力が高い学生が多く、6 課以降の 150-200 字の要約もスムーズだった。時事ニュースの中から、特に理系分野に関する簡単なものを取り上げた聞き取りは好評だった。基礎知識がある科学技術に関する語彙は聞き取りやすかったようで、今後も積極的に扱いたい。

中級2　会話

2022年度S1S2

レベル : **中級2 レベル**

スキル : **会話**

開講期間 : 2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26

時間 : 08:30 - 10:15 **月曜日**

場所 : online

学習目標 : **大学や日常生活における様々な会話において対応可能な中級の運用能力（聞く・話す）を身につけることを目指す。授業では主にロールプレイ練習を中心に、自然な日本語を使ったコミュニケーション能力を養う活動を行う。**

対象 : **中級1会話コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当**

テキスト : **『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』(凡人社)**

評価 : **授業内評価20%, 中間試験30%, 期末試験30%, 課題15%, 参加度5%,**
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) **出席率70%以上**　2) **学期末試験もしくは課題を受験**
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

その他 : 1. **単位２認定**　(**ただし、単位が不要な学生も履修可**) UTAS **コード：大学院**(3799-933-1)、**学部**(FEN-JL4p20L1), 2. **修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。** 3. **コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。** 4. 30**分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。**3**回の遅刻または早退は**1**回の欠席とみなす。** 5. **第**1**週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。** 6. **授業内容と教室は変わる可能性がある。**

Zoom:

【重要】登録したそれぞれのコースの第1**回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。**

担当 : **佐藤　瑞恵** SATO Mizue, **東平　福美** HIGASHIHIRA Fukumi

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	月	オリエンテーション、L１、レベルチェックテスト
2	4/ 18	月	L2, 課題①（締め切り:4/25)
3	4/ 25	月	L2-3, 課題①提出日
4	5/ 2	月	L3
5	5/ 9	月	L4, 課題②（締め切り: 5/16)
6	5/ 16	月	L4, 課題②提出日
7	5/ 23	月	中間口頭試験（ロールプレイL1-4）
8	5/ 30	月	休講【補講期間のため】
9	6/ 6	月	L5, 課題③ (締め切り: 6/13)
10	6/ 13	月	L5, 課題③提出日
11	6/ 20	月	L6
12	6/ 27	月	L6,課題④（締め切り: 7/4)
13	7/ 4	月	L7, 課題④提出日
14	7/ 11	月	L7
15	7/ 18	月	祝日
16	7/ 25	月	期末口頭試験（ロールプレイL5-7）

中級２　会話

報告者：佐藤瑞恵・東平福美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、教科書『【新版】ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』（凡人社）を用い、教員は、各回履修者が実際に遭遇すると考えられる場面のロールプレイを 2～3 つ程度選び、指導した。教材は「タスク先行型」で、まず受講者がロールプレイをペアで実践(オンラインクラスのためブレイクアウトルームを使用)し、その後クラスメートに発表をした後、必要とされる表現・文型・語彙などの定着を目指す活動(聴解やモデル会話のディクテーション)を行った。

【授業の内容】

授業では、「隣人への苦情」、「遅刻の言い訳」、「映画やスポーツ」、「悩み相談」など、受講者が身近に感じられるロールプレイを取り上げた。日本語独特のあいづちやオウム返しなどの使い方を指導するとともに、誤用の多い文末のイントネーションや終助詞なども重ねて練習し、より自然な日本語の習得を目指した。また、状況に応じて丁寧な言い方とカジュアルな言い方を使い分けられるように働きかけた。

2. その他

中間・期末試験はロールプレイ会話試験を実施した。1 週間前にランダムでペアを決め、当日は教員が選んだロールプレイを 2～3 つ演じてもらい、評価した。事前に準備したものを見ながら発話するなどの不正行為防止のため、授業で実施したロールプレイの設定内容を一部変更し、教員が作ったオリジナルのロールプレイも加え、評価材料とした。定期試験以外には、1 学期中に 4 つの課題（会話作成や日本人との会話録音）を課した。

3. まとめ・今後の課題

今年度は、履修者が非常に多く、ボランティアの日本人学生も集まらなかったことから、毎回のクラスで、教員が全履修者に対し直接指導することが難しかった。そのため個別フィードバックが不十分となり、履修者の中には不満を持った者もいたのではないかと考えられる。オンラインクラスでブレイクアウトルームを使うことには様々なメリットがあるが、履修者が多い場合、教員が全ての部屋を訪れるには限界がある。クラスの質の確保のためにも、履修者数に制限をかける必要も今後は出てくるのではないか。

また、今年度は来日が遅れた学生が多く、学習した内容を研究室などで実践する前に、学期末を迎えてしまったという意見も聞かれた。クラスで得た知識を今後の日本での生活全般に生かしてもらえるよう、教員は継続した学習支援をすることが必要だろう。

中級2　読解

2022年度S1S2

レベル	:	中級2
スキル	:	読解
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	08:30 - 10:15 金曜日
場所	:	online
学習目標	:	多面的な読みの力を身につけるため、様々なジャンルの文章を読む。学習した文法の復習と、語彙の強化をはかり、読解能力の向上を目指す。
対象	:	中級1読解コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当
テキスト	:	『留学生のための読解トレーニング（読む力がアップする15のポイント）』(凡人社)
評価	:	教室活動5%,参加度5%, 語彙クイズ10%,課題20%,中間試験25%,期末試験25%,多読・口頭発表10%. ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1. 単位(2)認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-934-1,,学部 FEN-JL4p30L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom ID: 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	片岡　さゆり KATAOKA Sayuri nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	金	オリエンテーション、復習＆チャレンジクイズ
2	4/ 15	金	L1「語のまとまりをとらえましょう」 p.2
3	4/ 22	金	L2「する・される」の関係をつかみましょう」 p.8,語彙クイズ(L2), 課題 1（L2）
4	4/ 29	金	祝日
5	5/ 6	金	L3 「文の構造をとらえましょう」p.16, p.21,語彙クイズ(L3 p.16+p.21),課題 1提出,課題 2（L.3）,多読イントロ
6	5/ 13	金	L4「前件と後件の関係をつかみましょう」 p.24, 語彙クイズ(L4),課題 2(L3)提出
7	5/ 20	金	L6「省略されているものが何か考えましょう」p.44,語彙クイズ(L6 - ①)
8	5/ 27	金	中間試験
9	6/ 3	金	L7「関連のある言葉を探しましょう」p.52,語彙クイズ(L7), ビブリオバトルイントロ
10	6/ 10	金	L8「文末に注目して筆者の意見を見抜く」p.62　語彙クイズ L8,課題 4(L8)
11	6/ 17	金	L9「筆者の立場を見分けましょう」p.72 語彙クイズ(L9), 課題 4提出.
12	6/ 24	金	L12「内容を素早く理解しましょう」p.98、ニュース
13	7/ 1	金	期末課題イントロ、ビブリオバトルイントロ、復習
14	7/ 8	金	ビブリオバトル準備、日本の詩歌
15	7/ 15	金	休講

16	7/ 22	金	多読のビブリオバトル、学習のまとめ

中級 2　読解

報告者：片岡さゆり

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは『留学生のための読解トレーニ ング：読む力がアップする 15 のポイント』（凡人社）をテキストとして使用し、オンラインで行われた。複文・重文、文章の構成に留意し、読解力を養成することを目標とした。授業は 1)語彙の確認、文法表現の学習 2)読解ポイントの学習 3)読解 4)音読 5)漢字語彙・短文クイズの順序で進めた。またテーマについてペアワークで関連情報を調べる、クラスでディスカッションを行うなどコミュニケーションを重視した活動を行った。更に、読む楽しさを体験する機会として、オンライン読み物（無料）などから日本語の読み物を自由に選んで読み、クラスで紹介する発表会を行った。

【授業の内容】

各課の読解ポイントを理解し、「読むこと」への認識を深めた。授業では教師が最小限の文法用語のみを用いて要点を平易に説明し、詳しい文法説明はテキスト巻末の翻訳を活用して各自で確認することとした。「内容を素早く理解する」という項目では、生教材を使用し、ニュース見出しから内容を推測する練習などを取り入れた。

期末試験では、テキストの問題（未習）を指定し、内容理解の設問に加え、「要約」、「自分の意見を書く」などの課題を提出してもらい、総合力を評価した。

多読では、1）レベルに関わらず読みたいものを選ぶ 2）辞書はなるべく使わない 3）途中で止めて次の本を読んでもよい、というルールで自由に読書し、学期末に読んだ本の中から 1 冊を紹介する発表会を行った。秋学期は学生から漫画を紹介したいという希望が出され、これを許可した。その結果、 漫画、ライトノベルを含む多彩な本が取り上げられ、質問やコメントも活発に出されて楽しい発表会となった。

2. その他

テキストの他に、「日本の詩歌」に触れ、俳句作りに挑戦する機会を設けた。学生は興味を持って取り組んだ。

3. まとめ・今後の課題

クラスでは、適宜 トピックについての意見交換を行ったが、課題や試験で意見を書く問題を出題し、文章を評価することに関しては、「読解」科目の評価としての妥当性を再考したい。

中級2　文章

2022年度S1S2

レベル	:	中級2 レベル
スキル	:	文章
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	10:25 - 12:10 木曜日
場所	:	online
学習目標	:	表記のしかた、書きことばと話しことばの違いなどの作文の基礎知識をはじめ、文章を書くための文法、表現を学ぶ。段落内および段落間の構成を考えて、毎回400字程度の作文を書く。学期中に1200字程度の文章を書くことをコースの目標とする。
対象	:	中級１<文章>の修了者、又はJLPT　N3相当、 CEFR B1 相当。
テキスト	:	『改訂版　大学・大学院留学生の日本語②作文編』　（アルク）
評価	:	教室活動10%　中間試験20%　期末試験20%　課題50%・以下の条件を満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2)学期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1.単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-935-1、学部FEN-JL4p40L1　2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。 *【重要】 登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けて ください。 Zoom ID: *【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	ハワード　文江 HOWARD Fumie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	木	オリエンテーション, レベルチェッククイズ, L1 作文の基本
2	4/ 14	木	L2 書き言葉
3	4/ 21	木	L2 フィードバック（FB）
4	4/ 28	木	L3　段落
5	5/ 5	木	祝日
6	5/ 12	木	L3 FB
7	5/ 19	木	L4 「は」と「が」
8	5/ 26	木	中間試験　L4 FB
9	6/ 2	木	休講
10	6/ 9	木	L5 テーマを述べる
11	6/ 16	木	L5 FB
12	6/ 23	木	L6 理由・経過を述べる
13	6/ 30	木	L6 FB
14	7/ 7	木	L7 定義をする

15	7/ 14	木	L7 FB
16	7/ 21	木	Final Exam

中級２　文章

報告者：　ハワード　文江

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語②作文編』（アルク）を主教材として用い、その前半の１課から７課までを扱った。「だ・である体」を習得し、話し言葉と書き言葉の違いを理解し、作文の基礎知識を身につけ、専門的な文章を書くために必要な表現・文法を学ぶことを目標と用し、基本的に１回の授業で１課ずつ進めた。

【授業の内容】

オンライン授業の利点を活かし、テキストの作文課題を課題として出し、適切な表現になるよう授業前までに提出・フィードバックを行った。授業では重要な表現や誤りが多かった表現を中心に学生同士でディスカッションをしてもらい、更に全体へのフィードバックを行った。中間試験以降は提出された課題に対し誤った表現の指摘のみを行い、学生自身が適切な表現に訂正できる力を養えるように工夫をした。授業中に扱う練習問題は Excel シートをクラスワークファイルとして学生毎のタブを用意した。タブには学生からは執筆終了、確認終了、教員からは添削終了の各色を付けることとし、教員は執筆終了、確認終了の色に変わったタブから順に添削・コメントを行うことで学生の待ち時間にロスが無い様に工夫した。

2. その他

今学期は学生の力の差が大きく、語彙力や文法力が弱い学生には、テキストに書かれている文法説明や練習問題のみでは不十分なことが多く、初級の語彙や文法の復習にも時間が取られることも多かった。その為十分な力を持った学生にはピアエバリュエーションを行ってもらうことで、誤りの指摘を言語化する練習を加えるなど、手持無沙汰とならないような工夫を行い、更に中級 3 文章に上がるための準備として語彙や表現の言い換えの練習なども行ってもらった。

3. まとめ・今後の課題

今学期は中級１文章までに習得すべき事項が身に付いておらず、基礎力が不足している学生が数名いた為、特定の個人に指導時間が割かれることが無いよう時間外での指導も多く行った。受講人数が少数だったことが幸いし授業の進行が滞ることは無かったが、来学期は対面授業に戻り、学生数が格段に増えることが予想されることから、現行の教科書ではなく、十分な文法の説明や練習問題がある新たな教科書が必要になると思われる。中級３文章のクラスと連携し、多様な学生への対応ができ、次のレベルへ進むための十分な力が養えるクラス運営を考えていきたい。

中級2　専門語彙・漢字

2022年度S1S2

レベル	:	中級2
スキル	:	その他
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	10:25 - 12:10 水曜日
場所	:	online
学習目標	:	日本の生活で必要な語彙、研究生活全般で使用されるアカデミックな語彙に加え工学系の学生が研究するうえで必要な専門分野の語彙を勉強する。旧日本語能力試験2ー3級の漢字を中心に選んだ語彙の意味を理解するとともに語彙を用いて文を作成できるようにする。
対象	:	中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当
テキスト	:	自主教材
評価	:	教室活動20%、課題15%、発表10%、クイズ15%、中間試験20%、学期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験と課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1.単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院 3799-936-1、学部 FEN-JL4p50L1 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。 7.Zoom ID 8.【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	中村 亜美 NAKAMURA Ami nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	水	オリエンテーション　レビュー＆チャレンジクイズ
2	4/ 13	水	第1課：漢字1-5　短文作成
3	4/ 20	水	第2課：漢字6-10　短文作成　1課漢字クイズ
4	4/ 27	水	第3課：漢字11-15　短文作成　2課漢字クイズ
5	5/ 4	水	祝日
6	5/ 11	水	第4課：漢字16-20　短文作成　3課漢字クイズ
7	5/ 18	水	第5課：漢字21-25 短文作成　4課クイズ
8	5/ 25	水	中間試験（L.1-L.5） 第6課：漢字26-30　課題１
9	6/ 1	水	【休講】補講期間のため
10	6/ 8	水	第7課：漢字31-35　短文作成　6課漢字クイズ　課題２
11	6/ 15	水	第8課：漢字36-40　短文作成　7課漢字クイズ
12	6/ 22	水	課題発表
13	6/ 29	水	第9課：漢字41-45　短文作成　8課漢字クイズ
14	7/ 6	水	第10課：漢字46-50　短文作成　9課漢字クイズ
15	7/ 13	水	第11課：漢字51-55　短文作成　10課漢字クイズ

16	7/ 20	**水**	**学期末試験（**L.6-L.11)

中級２　専門語彙・漢字

報告者：中村亜美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは「理工学系話し言葉コーパス」の研究を応用実践したコースの一つである。教材は、前任者作成の自主教材で「理工学系話し言葉コーパス」の頻出語彙を中心に日本語能力試験旧 3 級レベルの漢字を 60 字程度選んだもので、日常生活で使われる語彙のほか、研究室内やゼミで話されているアカデミックな語彙や工学系分野に特有な語彙も学習する。

今学期は Zoom でのオンライン授業を実施し、漢字語彙の導入、意味や使い方の学習、短作文や会話文の作成と添削、翌週のクイズ実施などを繰り返し、語彙の定着と運用能力の向上を図った。

【授業の内容】

1 コマの授業で 5 つの単漢字および、当該漢字を含む語彙を導入し、共起することばやゼミで使う表現などを教員側が提示した。提示する際には、学生による例文の音読や意味の説明を適宜行った。その後、学習者は漢字を使った用例を作成し、Google ドキュメント上に書き込み、他の学習者と共有した。ペアで会話作成を行うこともあった。授業内で全ての学習漢字の短作文を行うことは時間の都合で難しかったため、毎回タスクシートを課題とし提出させた。また、タスクシートとは別に自宅学習用に解答付きの練習問題を配布した。

2. その他

学期の後半に 1 コマ使い、課題発表を行った。学習者は「私の専門」「私の趣味」「〇〇で知った漢字（例：病院、ポスターなど）」の中から好きなテーマを 1 つ選び、日本語の授業外で知った語彙、興味を持った部首、関連表現について発表した。今学期は、各自の専門に関する発表のほか、「戦国時代」「将棋」「家庭菜園」などの趣味、「日本の標識」などについての発表があり、質疑応答も活発に行われた。

3. まとめ・今後の課題

学期開始当初は、習った語彙を使った例文作成に時間がかかってしまうことがあったが、回を重ねるごとに例文の作成のスピードが速くなり、内容もバラエティに富むものが増えていった。Google ドキュメントに全員が同時に書き込むことでクラスメートからの刺激も受けているようだった。また課題として出したタスクシートでは、場面設定などにさらに工夫が見られたり、ストーリー性のあるものなど力作が見られた。類義語の使い分けや、自然な会話表現の習得に課題が残る。今学期は授業形態が Zoom だったこともあり「手で漢字を書く」という作業はほとんどしなかったが、今後は学習者のニーズも考慮し判断していきたい。

中級３　総合

2022年度S1S2

レベル : **中級3 レベル**

スキル : **総合**

開講期間 : 2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26

時間 : 10:25 - 12:10 **月曜日**
08:30 - 10:15 **水曜日**

場所 : Online

学習目標 : **大学や日常生活における様々な場面で適切に対応できる日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、抽象的なテーマを取り上げ、中級後半レベルの文型・語彙を用いながら、情報を正しく理解し、適切に表現する力を習得するための活動を行う。**

対象 : **中級2 Integralコースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当**

テキスト : **『中級を学ぼう　日本語の文型と表現82　中級中期』**
(スリーエーネットワーク)
※テキストは水色の表紙です。

評価 : **教室活動15%、中間試験20%、期末試験20%、文型課題20%、語彙課題15%、作文課題 10%**

・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) **出席率70%以上**　2) **学期末試験もしくは課題を受験**
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

その他 : 1. **単位4認定**　**(ただし、単位が不要な学生も履修可)**
UTAS **コード：大学院** 3799-938-1, **学部** FEN-JL4q02L1.
2. **修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。** 3. **コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。** 4. 30**分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。**3**回の遅刻または早退は**1**回の欠席とみなす。** 5. **第**1**週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。** 6. **授業内容と教室は変わる可能性がある。**

Zoom:

※【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当 : **佐藤　瑞恵** SATO Mizue, **鈴木　恵理** SUZUKI Eri

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	水	オリエンテーション　レベルチェックテスト
2	4/ 11	月	第1課-1
3	4/ 13	水	第1課-2　語彙課題 L1 DUE
4	4/ 18	月	第2課-1　語彙課題 L2 DUE
5	4/ 20	水	第2課-2 文型課題 L1 DUE
6	4/ 25	月	第2課-3　語彙課題 L3 DUE 第3課-1
7	4/ 27	水	第3課-2
8	5/ 2	月	第3課-3　文型課題L2 DUE 作文課題（1）
9	5/ 4	水	祝日

10	5/ 9	月	第4課-1　作文（1）提出 語彙課題 L4 DUE
11	5/ 11	水	第4課-2
12	5/ 16	月	第4課-3　語彙課題 L5 DUE　文型課題 L3 DUE 第5課-1
13	5/ 18	水	第5課-2
14	5/ 23	月	第5課-3 文型課題 L4 DUE
15	5/ 25	水	中間試験 文型課題 L5 DUE
16	5/ 30	月	休講　(補講日)
17	6/ 1	水	休講　(補講日)
18	6/ 6	月	第6課-1　語彙課題 L6 DUE
19	6/ 8	水	第6課-2　中間試験フィードバック
20	6/ 13	月	第6課-3　作文（2）
21	6/ 15	水	第7課-1　語彙課題 L7 DUE
22	6/ 20	月	第7課-2　作文（2）提出 文型課題 L6 DUE
23	6/ 22	水	第7課-3 第8課-1　語彙課題 L8 DUE
24	6/ 27	月	第8課-2
25	6/ 29	水	第8課-3 文型課題 L7 DUE
26	7/ 4	月	第9課-1　語彙課題 L9 DUE
27	7/ 6	水	第9課-2 文型課題 L8 DUE
28	7/ 11	月	第9課-3 第10課-1　語彙課題 L10 DUE
29	7/ 13	水	第10課-2
30	7/ 18	月	祝日
31	7/ 20	水	第10課-3 文型課題 L9 DUE
32	7/ 25	月	学期末試験 文型課題 L10 DUE

中級３　総合

報告者： 佐藤瑞恵・鈴木恵理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82　中級中期』（スリーエーネットワーク）を使用し、全 10 課中を 1 課 2.5 コマ（1 コマ 105 分）で終える形で授業を進めた。コロナ禍が続く中、昨年同様すべての活動をオンライン(同期型)で行ったが、オンライン学習を有効に活用するため、昨年度に続き、クイズは実施せず、課ごとに提示する語彙課題（予習型）と文型課題（復習型)、作文課題（2 回）を提出するという形にした。授業に関係する資料や課題の管理は、Google Classroom を用い、課題添削時には、ルーブリック評価、コメント欄なども使い、個々の学生に対し、細やかなサポートを心掛けた。

【授業の内容】

各課の 1 コマ目は、その課のトピックについてグループディスカッションなどを行い、学習項目の前半部分の理解および練習、2 コマ目は、後半部分の学習項目の理解と練習、本文読解と内容の確認という流れで行った。いずれのコマでも、学習項目は文型練習に留まらず、学生が実際にその文型を使えるように、さまざまな応用練習も提示した。また教科書内の「読もう」「「聞こう」「話そう」なども適宜取り上げ、総合的な活動を心掛けた。オンライン授業であったため、ペア、グループ活動上の制約もあったが、できる限り学生同士の意見交換の機会が増えるよう、グループ活動やペアで確認する時間も設けた。

2. その他

昨年度まで中級 3 総合クラスは、週 1 回展開のクラスであったため、時間的な制約上、教科書全 10 課中、6 課までしか勉強できないという現状が続いており、履修者からは「学習が不十分のまま終わった」というようなフィードバックを数多く得ていた。しかし、今年度より週 2 回の授業展開となったことから、教科書の全課を扱うことができ、加えて昨年度まで十分に扱うことができなかった聴解や読解の練習も充実させることが可能となった。中級 3 総合クラスは高度な日本語力を要求するため、予習や復習が欠かせないが、1 名を除き、履修者全員が高い出席率を維持し、最後まで非常に熱心に授業に参加していたことが印象的である。

3. まとめ・今後の課題

中級レベルから上級レベルへ進む前に、総まとめとしての学習機会を提供する本クラスであるが、履修者の学習の負担を抑えながらも、学習の質とレベルの維持を果たさなければならない非常に難しい立ち位置に置かれている。今後も専門の研究などで多忙な履修者に対し、効率的で無駄のない内容を提供し、自律した日本語学習ができるよう育てる必要があるだろう。また今年度は、発表などの自己を表現する機会を作れなかったため、来年度は自己表現の場として本クラスが機能することも目指していきたい。

中級３　聴解

2022年度S1S2

レベル : 中級III

スキル : 聴解

開講期間 : 2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26

時間 : 10:25 - 12:10 木曜日

場所 : online

学習目標 : 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な中上級の日本語運用力を身につけることを目指す。授業では主に大学での講義や会議、研究発表を聞く力を養う練習を行い、聞くだけでなく、聞いたことをまとめたり要約したりする活動を行う。

対象 : 中級II聴解コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当

テキスト : 留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解（中上級）スリーエーネットワーク

評価 : ・教室活動15%, クイズ30%, 課題15%, 中間試験20%, 期末試験20%

・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

その他 : 1. 単位2認定(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード：大学院(3799-942-1)、学部(FEN-JL4q10L1).
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
7. ZoomID；
8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当 : 藤井　明子 FUJII　Akiko

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	木	オリエンテーション、L1掃除、レベルチェック
2	4/ 14	木	L2本屋
3	4/ 21	木	L3新幹線のおでこ, L2クイズ
4	4/ 28	木	L4体験プレゼント, L3クイズ, 課題①締切
5	5/ 5	木	祝日
6	5/ 12	木	L6犬の肥満, L4クイズ
7	5/ 19	木	L7卵かけご飯, L6クイズ
8	5/ 26	木	中間試験
9	6/ 2	木	休講【中休み】
10	6/ 9	木	L8女性専用車両
11	6/ 16	木	L10落語, L8クイズ, 課題②締切
12	6/ 23	木	L11そばをすする音, L10クイズ
13	6/ 30	木	L12将棋, L11クイズ
14	7/ 7	木	L13南極, L12クイズ

15	7/ 14	木	L14明治神宮の森, L13クイズ, 課題③締切
16	7/ 21	木	期末試験

中級３　聴解

報告者：藤井明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解（中上級)』(スリーエーネットワーク）を使用し授業を行った。教科書 15 課のすべての課を扱い、内 12 課を授業中に行い、3 課分を宿題とした。

授業では、聞く前にトピックについて話し合いを行った後、聴解音声を聞き、内容理解問題に各自答えを書いてもらい、その後ペアで答え合わせをしてもらった。また、内容理解問題の答え合わせをした後トピックを発展させて話し合いを行った。さらに、前時に聞いた内容についてのディクテーションをクイズとして毎回行った。

聞いた内容を要約する練習は、宿題を通じて行った。

【授業の内容】

各授業中、聴解音声を聞いて問題に答えてもらったが、すべての答えをオンラインのエクセル表に書いてもらい、教員からもチェックできようにした。この方法を用いたことで、各学生がどのくらい理解できているかの把握ができた。

また、聞いて答えを考えるだけでなく、学生間で意見交換できるよう、話し合いの時間を多くとった。お互いに聞き取れた情報を交換したり、聞き取れなかった箇所を確認したりしていて、コミュニケーション活動も活発に行うことができた。

日本語を話すことを恐れない学生が複数いてくれたおかげで、ただ音声を聞くだけの聴解授業にならずに済んだのはよかった。

2. その他

語彙がやや難しい課もあったようで、初めて聞く表現もあったようだが、進んで意味を調べている学生が多かった。

ディクテーションは、短い文ならば正確に答えられるようになった学生が多かった。

3. まとめ・今後の課題

学生は熱心に学習に取り組んでおり、コースを修了した 4 名の学生はいずれも、中級 3 レベルにふさわしい聞く力を身に付けることができたと思う。ただ、聴解という性格上、授業外で学習する習慣をつけるが難しかった学生もいたようで、課題に取り組むことができない学生もいた。今後は、授業外で日本語を聞く習慣をつけてもらう方法について工夫したい。

中級３　会話

2022年度S1S2

レベル	:	中級III
スキル	:	会話
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	10:25 - 12:10 水曜日
場所	:	online
学習目標	:	日常生活のやや複雑な場面において自分の意思を伝え、相手とコミュニケーションが取れるようになる。また、そのために必要な待遇表現を学ぶ。抽象的なテーマについての発表、ディスカッションを通して、アカデミックな場面で必要な 口頭表現能力を身につける。
対象	:	中級2会話コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当
テキスト	:	授業内でプリント配付
評価	:	教室活動5%,中間試験25%,期末試験25%,ショートスピーチ10%,ディベート10%,課題1(ロールプレイ)　15%，課題2（ディベート）10%. ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-943-1,　2、学部 FEN-JL4q20L1,　2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom ID: ※※【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	片岡　さゆり KATAOKA Sayuri, 牛山　和子 USHIYAMA Kazuko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	水	レベルチェッククイズ、オリエンテーション、自己紹介
2	4/ 13	水	ショートスピーチ（グループ）・ ピアフィードバック、ショートスピーチ（クラス）イントロ
3	4/ 20	水	ショートスピーチ（クラス）開始、ロールプレイ1、敬語復習
4	4/ 27	水	ロールプレイ2
5	5/ 4	水	祝日
6	5/ 11	水	ロールプレイ3, 中間試験イントロ
7	5/ 18	水	ロールプレイ4
8	5/ 25	水	中間試験(会話試験)
9	6/ 1	水	休講
10	6/ 8	水	中間試験フィードバック、ディベートイントロ
11	6/ 15	水	ディベート1:第1回ディベート大会準備
12	6/ 22	水	ディベート2:第1回ディベート大会

13	6/ 29	水	ディベート3:第2回ディベート大会準備, 期末試験イントロ
14	7/ 6	水	ディベート4:第2回ディベート大会
15	7/ 13	水	期末試験（口頭発表）準備
16	7/ 20	水	期末試験（口頭発表）

中級３　会話

報告者：Ａクラス　片岡　さゆり
Ｂクラス　牛山　和子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

コロナ禍の影響を受け、昨年度に続き、今年度も授業はオンライン（同期型）で行った。本コースでは、オリジナル教材を使用し、ショートスピーチおよびロールプレイを通して様々な状況に適した表現を運用し、学生生活および社会活動に資する待遇表現の向上を目指した。また、ディベートおよび口頭発表では自分の意見を簡潔に話す能力を身に付けることを目標とした。

【授業の内容】

学期前半では、まず、各自ショートスピーチを行った。新型コロナ流行の影響によって変化した日常について、または各自興味を持っているテーマについて写真や実物を見せながら紹介する 2-3 分のスピーチを課題とした。この活動は、厳しい社会環境の中でクラスメートと知り合い、情報交換ができる機会となった。ロールプレイでは、「面接を受ける」、「担当教員をオンラインランチ会に誘う」、「学会誌を借りる」などの場面を設定し、「依頼」、「交渉」、「譲歩」など、やや高度な待遇表現が求められる状況に対応する会話練習を行った。「面接を受ける」では、インターンシップ面接で求められる自己紹介や志望動機などについて簡潔に説明する練習を行い、発音も重視した。ここでは積極的にピア活動を取り入れ、よりよい会話を形成するためには何が必要なのかを考える時間を取り、課題への気づきと改善を促した。

学期後半では、ディベートを 2 回実施した。1 回目はクラス内、2 回目は A・B クラス合同で行った。ディベートは、テーマを選定した後、グループワークで準備を進めた。この活動においては、グループディスカッションを重視し、情報収集、役割分担と調整、グループ戦略などを行う時間を確保し、学生が十分発言できるようにした。なお、今学期は大会の優位判定は行わず、学生が感想やコメントを自由に出し合った。

2. その他

A クラスでは日本人学生ボランティアに計 4 回参加してもらい、ディベート準備などにおいて的確なアドバイスを受け、留学生にとって大変有意義な出会いとなった。B クラスは積極的にクラスをリードする学生が中心となり、クラスの活性化に貢献してくれた。

3. まとめ・今後の課題

今年度は、学期後半から研究活動が忙しくなったため、また学期終盤に来日が重なったなどの理由で、最後までクラスに参加できない学生が複数名いたことは残念であった。今後は対面授業の再開が予定されており、より円滑なコミュニケーション活動を目指したい。

中級3　専門読解

2022年度S1S2

レベル	:	中級3 レベル
スキル	:	読解
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	10:25 - 12:10 水曜日
場所	:	online
学習目標	:	自然科学分野の語彙、表現を学ぶことにより、科学技術日本語の読解力を養成する。『T time!』(東京大学工学部広報誌)の記事を読み、東大における最新の研究内容を知り、理工系の専門用語の語彙力を向上させる。
対象	:	中級 2 読解コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当
テキスト	:	自主教材
評価	:	教室活動10% 漢字クイズ15% 内容チェッククイズ15% 課題20% 発表5% 中間試験15% 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院 3799-944-1,学部 FEN-JL4q30L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 Zoom　ID: 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	猪狩　美保 IGARI Miho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	水	オリエンテーション、レベルチェッククイズ、読解①次世代社会の基幹デバイス～リチウムイオン電池～（化学システム）
2	4/ 13	水	読解①次世代社会の基幹デバイス～リチウムイオン電池～（化学システム）
3	4/ 20	水	読解②計算機で地震に挑む（社会基盤）、語彙クイズ1、内容チェッククイズ1
4	4/ 27	水	読解③万有情報網（電子情報工学）、語彙クイズ2、内容チェッククイズ2
5	5/ 4	水	祝日
6	5/ 11	水	読解④多様性が鍵～高齢者にも優しい仮設住宅への取り組み～（建築）語彙クイズ3、内容チェッククイズ3
7	5/ 18	水	復習、語彙クイズ4
8	5/ 25	水	中間試験
9	6/ 1	水	【休講】補講期間のため
10	6/ 8	水	読解⑤ロボットに意思は持てるか（情報学境）、内容チェッククイズ4
11	6/ 15	水	読解⑥未来の航空機設計最前線！（航空宇宙）、語彙クイズ5、内容チェッククイズ5
12	6/ 22	水	読解⑦次世代インターネット実現へ（電子情報工学）、語彙クイズ6、内容チェッククイズ6
13	6/ 29	水	復習、語彙クイズ7
14	7/ 6	水	発表の説明と準備
15	7/ 13	水	発表

16	7/ 20	水	期末試験

中級３　専門読解

報告者：猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

東京大学工学部の広報誌『Ttime!』のインタビュー記事をもとに作成された読解教材を使用し、科学技術日本語の読解力を養成することを目的とした。授業では、語彙クイズ、読解内容に即したディスカッション、本文の精読、内容の確認、表現文法や語彙の練習、本文に関連したウェブサイトの参照などを行った。また、コースの最後には学生自身が『Ttime!』の中から記事を選び、内容に関する発表を行った。

【授業の内容】

東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事を元に作成された読解教材は、東京大学大学院工学系研究科日本語教室の講師、あるいは過去に本授業を受講した学生が作成したものである。工学系の様々な分野の記事を読むことで工学系分野に関する語彙力と読解力を高め、同時にその分野の知識を深めた。また、読解教材本文に加えて、各トピックに関連する最新の情報を幅広くクラスで共有し、内容を読み解くことで読む力をさらに伸ばし、様々な観点から深く考え話し合う時間を取り入れた。

2. その他

学生はクラスの参加前に事前学習として本文を読み、内容確認クイズを受けることとした。語彙クイズは予習型で実施し、専門用語の定着を図った。学期末発表では、学生自身が関心を持ったトピックについて、その記事の内容と興味深い点を紹介し、それに関して意見交換を行った。

3. まとめ・今後の課題

どの学生も積極的に授業に参加し、熱心に取り組んでいた。授業は当初オンラインで実施していたが、受講学生から対面授業への希望があったため、コースの終盤 4 回は対面授業を実施した。少人数のクラスだったため、毎回読解後のディスカッションも活発に行われ、教材で取り上げられたトピックそのものにとどまらず、関連する研究やニュース、世界の様々な時事問題等について話し合うことができ、実際に日々研究に携わっている学生と教員が互いに学び合う時間となったことが非常に有意義であったと考える。今後も最新の研究内容を取り入れつつ、より効果的な読解学習となるよう授業内容を工夫していきたい。

中級３　文章

2022年度S1S2

レベル	:	中級3 レベル
スキル	:	文章
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	08:30 - 10:15 木曜日
場所	:	Online
学習目標	:	日本語でレポート、研究計画書などを書くために必要な表現技術や文章力を習得する。必要に応じたメール文の書き方を学ぶ。
対象	:	中級2文章コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当
テキスト	:	『改訂版　大学・大学院留学生の日本語②作文編』　（アルク）
評価	:	教室活動10%　クイズ10%　課題作文40%　中間試験20%　期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院 3799-945-1、学部 FEN-JL4q40L1　2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom ID: *【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	宮瀬 真理 MIYASE　Mari nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	木	レベルチェック、オリエンテーション
2	4/ 14	木	第8課　判明していることを述べる①　課題１
3	4/ 21	木	第8課　判明していることを述べる②　復習クイズ１
4	4/ 28	木	第9課　問題点を述べる①課題２
5	5/ 5	木	祝日
6	5/ 12	木	第9課　問題点を述べる②　復習クイズ 2
7	5/ 19	木	第10課　引用する　課題３
8	5/ 26	木	中間試験
9	6/ 2	木	休講
10	6/ 9	木	第11課　解決策を述べる①　課題４
11	6/ 16	木	第11課　解決策を述べる②　フォーマルなEメール１& 2
12	6/ 23	木	第12課　手順を述べる　課題５
13	6/ 30	木	第13課　指示詞を使う　フォーマルなEメール3
14	7/ 7	木	第14課　研究計画書を書く①　課題６
15	7/ 14	木	第14課　研究計画書を書く②
16	7/ 21	木	期末試験

中級３　文章

報告者：宮瀬　真理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『大学・大学院　留学生の日本語②作文編』（アルク）を主教材として使用し授業を行った。当教室では中級２文章でこの教材の１課から７課を扱っているため、当クラスではその後半の８課から 14 課を扱い、大学で必要なレポートの書き方や研究計画書を書くための中級で必要な文章能力を総合的に仕上げることを目標とした。また、目上の人に対するメール文の書き方を合わせて扱い、お願いのメール、お詫びのメールなど、改まったメールの書き方も習得することを目標とした。

今学期はオンライン授業であったため、Zoom を使用し、同期型授業を行った。

【授業の内容】

テキストに沿って、まず文法・表現を学び、練習問題や短文作成問題などを行った。短文作成の後、自分の研究に関する内容で学んだ文法・表現を使った文章作成を行った。授業内の活動はスプレッドシートを用いた個別作業と、グループワークを適宜合わせて行った。グループワークでは、お互いが書いたものを発表し合ったり、直し合ったり、内容について意見交換をし合ったりした。

各課の最後にある作文は毎回課題とし、個別に添削・フィードバックした。また次の授業で誤用について考えるなど全体フィードバックを行った。

課題のやりとりには Google Classroom を使用した。

2. その他

当教室の中級２文章クラスを受けておらず、テキスト前半で扱われている内容を身につけていない学生も多かったため、特に書き言葉と話し言葉の違いや、連用中止形などの復習に時間を割いた。自動詞他動詞の使い方の間違いや、ねじれ文などの呼応の間違いも多く、文単位の文法の定着の必要を感じた。

3. まとめ・今後の課題

文章クラスはオンライン授業の特性を生かして個別ワークを有益に行うことができたが、一方クラスメートとの交流の機会が十分設けられなかった。クラスで交流を深めながら個々の文章能力をも高めていく方法を考えていきたい。

多文化理解プロジェクト

2022年度A1A2

レベル : 中級3-上級

スキル : その他

開講期間 : 2022/ 10/ 03 - 2023/ 01/ 30

時間 : 13:00 - 14:45 水曜日

場所 : 工学部8号館 88M教室

学習目標 : このコースは、留学生同士または留学生と日本人が、互いの文化や社会について協働学習を通して学び合うことを目標としている。授業では、「多文化」「異文化」「相互理解」を主なキーワードに、日常生活を取り巻くさまざまなトピックについて話し合い、その成果を発表やレポートの形でまとめていく。また、地域社会への貢献のひとつとして、日本の中学校への訪問(対面またはオンライン)も予定している。（訪問日程は変更になる場合がある）

対象 : ・中級2/中級3総合コースの修了者、またはJLPT N2/N1相当、CEFR B2/B2+相当
・日本人学生

テキスト : 自主教材

評価 : 教室活動・参加度20%　中間試験 25%、課題(プロジェクトワーク）25%、期末試験 30%

1. 以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上　2) 期末試験の受験および必要な課題の提出
2. コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
3. 中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。

その他 : 1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可)
UTAS コード： 大学院 3799-034-2, 学部 FEN-CO4453L1.
2. 修了証は成績がC以上の学生で、希望する者に発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。

*【重要】 第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」を受けてください。オリエンテーションに出られない人、出られなかった人は、オフィスにメールをください。

担当 : 牛山　和子 USHIYAMA Kazuko

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	10/ 5	水	オリエンテーション 多文化理解とは何か（１）
2	10/ 12	水	多文化理解とは何か（２） 日本・母国の文化を知る1
3	10/ 19	水	日本・母国の文化を知る3 ・学びの場（学校制度、その他の学びの場と学習方法）
4	10/ 26	水	日本・母国の文化を知る(4) ・衣食住（生活を支える文化
5	11/ 2	水	日本・母国の文化を知る(5) ・仕事と余暇（文化・芸能・スポーツなど）
6	11/ 9	水	中学校訪問のための準備（発表・交流活動の準備）（１）
7	11/ 16	水	クラス発表 (中間試験）
8	11/ 23	水	祝日
9	11/ 30	水	中学校訪問のための準備（発表・交流活動の準備）（２）

10	12/ 7	水	日本の中学生との交流・自国の文化についての紹介、交流活動 * 訪問日は変わる可能性もある
11	12/ 14	水	多文化共生について考える（1） ・中学生との交流から得たもの（ディスカッション、振り返り）
12	12/ 21	水	多文化共生について考える 2
13	12/ 28	水	冬休み
14	1/ 4	水	多文化理解・多文化共生のためにできること クラス発表の準備
15	1/ 11	水	クラス発表
16	1/ 18	水	休講 (補講日のため)
17	1/ 25	水	期末レポート（期末試験） 今学期の振り返り

中級３-上級２　多文化理解プロジェクト

報告者：牛山和子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、当教室のコースとしては、唯一、日本人学生も履修登録ができるコースであり、留学生と日本人学生が対話を通してお互いの文化を学び合い、国内にいながらにして異文化交流を行い、異文化理解のみならず、自国の文化についても再発見をしていくことを目指している。また、地域社会への貢献という観点から春学期は小学校、秋学期は中学校を訪問し、文化紹介や交流活動の枠でゲームやDiscussion活動などを行っている。こうした地域の小・中学生との対面での交流もあるため、本コースはコロナ禍の影響を受け、2020S1S2から2022S1S2までの2年間は不開講を余儀なくされた。しかし、すべてのコースで対面授業が行われることになった2022A1A2から再び開講されることになった。授業は毎回その週のテーマを元にしたグループDiscussion を中心に行い、学生はその活動内容をワークシートに記入して提出し、教師はフィードバックを添えて返却するという形を取った。

【授業の内容】

授業には、留学生9名（インド1名、韓国1名、台湾3名、中国4名）と日本人学生4名（工学系研究科1名、工学部3名）が参加した。初回は、オリエンテーションを行い、2回目は異文化理解の枠組みとなる概念などを紹介した。3回目以降は、「教育」、「食文化」、「中学生が興味を持つ文化」などをテーマにDiscussionを重ねて異文化理解を深め、7週目からは中学校訪問および当日の活動準備をはじめ、10回目の授業に当たる12月14日にお茶の水女子大学附属中学校2年生（4クラス、生徒数　計103名）との交流活動を行った。
当日は4つのグループが中学校2年生の4つのクラスに分かれて、自分たちが用意したPower Pointを使って、留学生は自国の、日本人学生は出身地の文化紹介を行い、異文化理解につながるゲーム、クイズなどを通して、中学生との交流を深めた。また、中学校の生徒さんからは事前に200を超える質問が寄せられ、本コースの学生はその一部にも応えながら、交流活動をおこなった。中学校訪問後は、当日の振り返りを行い、期末試験は、この経験をもとに「中学校での交流活動の振り返りと考察」というテーマで口頭発表をしてもらったが、どの発表にも多くの気づきと異文化理解の深まりが込められていた。

2. その他

本コースは先に述べたように2年間にわたり、不開講を余儀なくされたが、再開に当たり、また中学校訪問に当たり、以前から本コースにご協力をいただいていたお茶の水女子大附属中学校の木村真冬先生に大変お世話になった。ここに感謝の意を表したい。

3. まとめ・今後の課題

留学生と日本人が共に対等の立場で日本語を共通言語として活動するなかで得られる学びは大きいと感じた。今後も学生の内なる異文化発見につながる活動を続けたい。

上級1　総合

2022年度S1S2

レベル	:	上級1
スキル	:	総合
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	10:25 - 12:10 金曜日
場所	:	online
学習目標	:	大学や日常生活のあらゆる場面で適切に対応できる上級レベルの文型・語彙を用いながら上級の４技能（特に産出の話すと書く）を身につけることを目指す。自分の意見や主張を適切に発信する力を習得する活動（ディスカッションや発表など）を行う。授業では、様々な時代・ジャンル（歴史・経営・芸術・文学・マンガ／アニメ・スポーツ・政治・学者）の著名人の物語を通して、日本の文化、日本人の考え方や価値観を知り、異文化理解を深める。
対象	:	中級3総合コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当
テキスト	:	The Great Japanese 30の物語　中上級　-　人物で学ぶ日本語（くろしお出版）
評価	:	教室活動10% 事前課題20% 事後課題10% ビデオ課題20% 中間試験20% 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院(3799-926-1)、学部 (FEN-JL4r02L1), 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めないが、本コースの履修を決めている場合は、初日に出席することが強く期待される。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7.Zoom address 8.【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	金 瑜眞（キム ユジン） KIM Youjin nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	金	レベルチェックテスト、オリエンテーション
2	4/ 15	金	担当決定、課題確認、30の物語 Chapter5
3	4/ 22	金	30の物語 L1, L11
4	4/ 29	金	祝日
5	5/ 6	金	30の物語 L7, L16
6	5/ 13	金	30の物語 L18,L24
7	5/ 20	金	30の物語 L22, L28
8	5/ 27	金	中間試験
9	6/ 3	金	30の物語 L4, L8
10	6/ 10	金	30の物語 L10,L25
11	6/ 17	金	30の物語 L12, L23
12	6/ 24	金	30の物語 L13, L29
13	7/ 1	金	30の物語 L17, L26
14	7/ 8	金	30の物語 L9, L30

15	7/ 15	金	【休講】補講日
16	7/ 22	金	期末試験

上級１　総合

報告者：金　瑜眞

１. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『The Great Japanese 30 の物語―人物で学ぶ日本語』（くろしお出版）を教科書として使用した。受講者には、毎回の授業前に、各課で取り上げる人物の物語と関連する語彙・文法の予習、本文の読み上げ音声を聞くことと物語の導入問題、文型を使った短作文を課題とした。授業では本文の内容確認と短作文のフィードバック行った後、グループ（3~4 名）で各課のディスカッションを行った。また、ディスカッションを整理して文にする課題を出題し、自身の意見と他者の意見を分けて書く練習を行った。また、教科書の内容をアカデミックライティングのルールに従い要約する課題を課した。

【授業の内容】

各授業では、まず各課の人物に関する物語を聴読解した。物語のジャンルは「歴史」「経営」「芸術」「文学」「科学」など多岐に渡っており、読解の練習後はその人物の考え方や業績について、各国の事例と比較しながらディスカッションをしてもらった。授業で取り上げる人物においては、理工系の研究者も多く含め、研究に対する姿勢に関して話し合うことで、工学系の学生が研究活動においてモチベーションを得られるようにスケジュールを作成した。

文法・表現学習については、教科書巻末の説明および用法を自習後、短作文を通して理解度を確認した。口頭表現能力については、授業内で扱ったテーマに関する日本語のプレゼンテーションを準備し、そのスクリプトと録画したビデオを提出してもらった。スクリプトとビデオを提出する際は、1 回目・2 回目に分けて提出してもらい、教員からのフィードバックが 2 回目に十分に反映されているかを確認した。また、ピア評価活動を通して、学生が自他の日本語のプレゼンテーション能力をモニターすることで、日本語でのプレゼンテーション能力の向上とプレゼンテーションスキルに対する意識化を図った。

２. その他

中間・期末試験では各課で学習した文法・表現を使用した説明文を書く作文の試験と、各課でディスカッションした問題を意見文として作成する試験を行った。

３. まとめ・今後の課題

登録者の 9 名中 7 名が修了し、受講者は総じて意欲的に活動に取り組んでいた。一方で、受講者からは、課題の量が多いという声も聞かれた。今後は、授業外の課題の負担を減らしつつ、少ない課題でも学習の効果を高められる内容に改善していく。

上級1　聴解

2022年度S1S2

レベル	:	上級 1
スキル	:	聴解
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	08:30 - 10:15 水曜日
場所	:	online
学習目標	:	日本の社会や文化に関するニュースやスピーチを視聴し、背景知識や語彙を学習して聞き取れるようにする。上級レベルで求められる聴解ストラテジーを身につける。
対象	:	中級3聴解コースの修了者、JLPT N1相当、またはCEFR B2+相当
テキスト	:	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（上級）』スリーエーネットワーク
評価	:	教室活動5%、参加度10%、課題20%、語彙クイズ15%、中間試験25%、期末試験25% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-927-1、学部FEN-JL4r11L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5.　第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom ID: ＊パスワードは第1日目までに学生に知らせる。 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	片岡　さゆり KATAOKA Sayuri nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	水	オリエンテーション,　レベルチェック,自己紹介
2	4/ 13	水	L1
3	4/ 20	水	L2, ニュース,語彙クイズL1&L2, 課題 L2
4	4/ 27	水	L3, ニュース,　課題 L.3
5	5/ 4	水	祝日
6	5/ 11	水	L4, ニュース,　語彙クイズL3&L4, 課題 L4, 中間試験について
7	5/ 18	水	L6, Vocab. Quiz L6, 課題 L6
8	5/ 25	水	中間試験
9	6/ 1	水	休講（補講日）
10	6/ 8	水	L8, 課題 L8, Final Exam. F.B
11	6/ 15	水	L9, ニュース, 語彙クイズ L8&L9,　課題 L9
12	6/ 22	水	L10, 課題 L10
13	6/ 29	水	L11, 語彙クイズ L10&11, 課題L11
14	7/ 6	水	L12、期末試験について
15	7/ 13	水	L14、ニュース、 語彙クイズ　L12&L14

16	7/ 20	**水**	**期末試験**

上級１　聴解

報告者：片岡さゆり

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解［上級］』（スリーエーネットワーク）をテキストとして使用し、オンライン（同期型）で行われた。講義、発表形式の聴解に慣れることを目標とし、日本の社会・文化的背景知識を学ぶことも重視した。

また、ラジオニュースの聴解を取り入れ、タイムリーな話題に直接アプローチし、生活に必要な情報を得る練習を行った。授業では小グループワークを活用し、テーマについて情報を集めて共有するなどの活動を行い、発展的な意見交換を行った。さらにメインテキストの語彙表現については復習クイズを実施し、定着を図った。

【授業の内容】

テキスト 15 課のうち 11 課を扱った。テーマは様々な分野で構成されており、受講者が常に関心を持って取り組み、掘り下げることのできる内容であった。

まず、聴解のポイントとして、講義、発表の構成に留意してメモをとること、慣用表現に注意すること、文末を推測しながら聞くことなどを取り上げ、実践的な聴き方を意識化した。また聞き取った内容を自分の言葉で話すことや、指定された字数で要約することを重視した。特に学期の前半では、各課の要約文を課題とし、添削、クラスでのフィードバックを行って実践的に学んだ。

ラジオニュース（5-6 分）聴解では、「新型コロナ」、「地震」など、生活の安全に関するニュースを扱い、身近な話題について語彙・表現を習得し、有用な情報を得られるようにした。

2. その他

上級聴解では、社会・文化的背景知識が理解の助けになることも多い。テキストやニュースのトピックを通じて、自然環境、歴史、文化に関する幅広い知識を得る機会とすることは聴解能力の向上につながるとともに、コミュニケーションの引き出しを広げることになると考えられる。

3. まとめ・今後の課題

グループワークに慣れていない学生が何名かみられ、グループによっては円滑なコミュニケーションが行われていないことがあった。対面授業に戻った際には、全体に常に目が行き届くようになるため、よりきめ細かい対応を行っていきたい。

上級1　会話

2022年度S1S2

レベル　：上級　レベル

スキル　：会話

開講期間　：2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26

時間　：10:25 - 12:10 木曜日

場所　：online

学習目標　：様々な社会問題についてのディスカッション、インタビュー調査、発表プレゼン、日本人学生との会話等様々な活動を通して、さらなる口頭表現の技術を習得することを目指す。

対象　：中級3会話コースの修了者、JLPT N1相当、またはCEFR B2+相当

テキスト　：日本語超級話者へのかけはし　きちんと伝える技術と表現（スリーエーネットワーク）

評価　：教室活動20%、中間試験20%、期末口頭発表20%、語彙クイズ15%、課題10%、発表15%

・以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。　1) 出席率70%以上　2) 期末試験もしくは課題を受験
・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

その他　：1. 単位(2)認定　（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院 3799-928-1, 学部 FEN-JL4r21L1.
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
7.[Zoom ID]

8.【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当　：鈴木　恵理 SUZUKI Eri, 山口 真紀 YAMAGUCHI Maki

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ
2	4/ 14	木	ディスカッション
3	4/ 21	木	L1, L1語彙クイズ締切
4	4/ 28	木	L2, L2語彙クイズ締切
5	5/ 5	木	祝日
6	5/ 12	木	L3, L3語彙クイズ締切
7	5/ 19	木	L4, L4語彙クイズ締切
8	5/ 26	木	中間試験
9	6/ 2	木	中休み
10	6/ 9	木	L5, L5語彙クイズ締切
11	6/ 16	木	L6, L6語彙クイズ締切
12	6/ 23	木	L7, L7語彙クイズ締切
13	6/ 30	木	L8, L8語彙クイズ締切
14	7/ 7	木	L9, L9語彙クイズ締切

15	7/ 14	木	L10, L10語彙クイズ締切
16	7/ 21	木	期末口頭試験

上級１　会話

報告者：Ａクラス　鈴木恵理
Ｂクラス　山口真紀

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『日本語超級話者へのかけはし　きちんと伝える技術と表現』（スリーエーネットワーク）を使用して、全 12 課のうち、1～9 課までを授業で扱った。1 回（105 分）1 課のペースで、やや複雑なコミュニケーションやインフォーマル表現を用いたスピーチ、相手の立場を尊重しながらも、互いの立場の違いを理解していくやりとりを学んだ。昨年度に続き、授業は Zoom を用いたオンライン形式で実施し、オンライン学習の促進や諸連絡のツールとして、Google Classroom を活用した。語彙クイズは事前にオンラインで受験した。

【授業の内容】

テキストでは、課のテーマに関する導入ディスカッションの後、談話構成や語彙表現の確認を行い、実際にペアやグループで口頭表現の練習を行った。時間に余裕があれば、その後数名に発表してもらった。授業後は、全員が発表者（または発表練習の相手）に対するコメントをクラス内で共有されているスプレッドシートに記入することで、発表者が自分宛てのコメントを確認できるようにした。独善的なコメントが含まれることが懸念されたので、開講直後にピア評価の意義や書き方、視点、読む者への配慮について考える時間を設けた。その成果か、学期を通じて具体的・建設的なコメントが多く、互いに学び合う姿が見られた。

中間試験はテキストの既習範囲を踏まえ、ミニスピーチとロールプレイを、学期末は自分の研究分野について専門外の人に説明する口頭発表を課した。

2. その他

上下の会話クラスとのアーティキュレーションや 2 セクションの連携強化を目的に、今学期はテキストを中心に扱うことにした。1 課を 90 分で進める想定のテキストではあるが、実際は 1 コマ（105 分）では特にアウトプット（発表）に時間をとれなくて苦労した。今後は、負担が大きくならない範囲で学生に一部を予習させるか、1 課を 1 回と言わず 1.5 回程度で扱うなど工夫が求められる。

3. まとめ・今後の課題

開講当初より若干人数は減ったものの、国籍や専門が様々な学生同士が互いに刺激を受け、特定のテーマや場面での会話や発表について、熱心に取り組んでいた。今後は、テキスト由来の発表だけでなく、ディスカッションやディベートの他、より自由度の高い会話ができる場も提供し、より複合的な会話クラス運営ができるよう努力していきたい。

上級1　読解

2022年度S1S2

レベル　：上級

スキル　：読解

開講期間　：2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26

時間　：08:30 - 10:15 木曜日

場所　：online

学習目標　：新聞・エッセイ・小説など日本社会についてのさまざまな文章を通して、クリテ ィカル・リーディング力を身につける。

対象　：中級3読解コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当

テキスト　：『改訂版　大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編　アルク　発売日 : 2015/5/28（改訂版） ISBN-9784757426337

評価　：中間試験 25% 期末試験 25% クイズ10% 読解課題20%　作文課題10%　教室活動10%
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

その他　:1. 単位２認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-929-1、学部FEN-JL4r31L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当　：山口 真紀 YAMAGUCHI Maki
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	木	オリエンテーション　レベルチェッククイズ
2	4/ 14	木	読解1
3	4/ 21	木	L1　読解2　クイズ1　読解課題1締め切り
4	4/ 28	木	L2　読解3　クイズ2　読解課題2締め切り
5	5/ 5	木	祝日
6	5/ 12	木	L3　読解4　クイズ3　読解課題3締め切り
7	5/ 19	木	L4　読解5　クイズ4　読解課題4締め切り
8	5/ 26	木	中間試験
9	6/ 2	木	中休み
10	6/ 9	木	L5　読解6　クイズ5　読解課題5締め切り
11	6/ 16	木	L6　読解7　クイズ6
12	6/ 23	木	L7　読解8　クイズ7
13	6/ 30	木	L8　読解9　クイズ8　作文課題締め切り
14	7/ 7	木	L9　読解10　クイズ9
15	7/ 14	木	L10　クイズ10
16	7/ 21	木	期末試験

上級１　読解

報告者：山口真紀

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

メインテキストとして『改訂版大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』（アルク）を使用し、授業を行った。全 14 課のうち、11 課を扱った。1 回（105 分）1 課のペースで論文の読解を学んだ。授業は Zoom を用いたオンライン形式で実施した。また、課題の配布、回収、及び授業に関する連絡については Google Classroom を使用した。

【授業の内容】

前半 70 分で速読とメインテキストを扱い、後半の 30 分で読み物を扱った。速読は N3 レベルの 1～3 段落程度の軽い読み物で、学生には授業開始前の 5 分を使ってウォームアップとして取り組むよう指示し、授業開始直後に確認をした。メインテキストは予習を前提として進めた。学生には、事前にメインテキストの本文の読解、内容理解問題に取り組み、質問があれば整理しておくことを課した。授業では、教師が学生からの質問に答え、必要に応じて知識の補足、練習を行った後、新出の文法や表現、読解スキルを一緒に確認するという形で進行した。読み物（エッセイ、小説）は、学生の興味に沿ったものを教師が用意した。音読をしたいとの希望があったため、まず本文を音読し、発音、アクセント、イントネーションの指導を行った。その後、読み物とメインテキストの文章（論文）を語彙レベル、文体レベルで比較し、文体・表現・語彙の違いが与える印象の違いについて話し合い、理解を深めた。また、記述式の問題（要約、内容説明）を課題として課し、翌週添削して返却した。

中間試験、期末試験ともに、メインテキストの文章に関する読解試験を行った。また、期末課題として、800 字程度の作文（論理展開の型を示し、それに沿って書く課題）を課した。

2. その他

学生 2 名の小規模なクラスだったため、二人の質問に丁寧に答えることができた。テキストに関する質問は、中級文法の確認や、連濁の規則、副助詞の用法、類義語、文体の違いが与える印象の違いなど多岐にわたった。今までの学習で取りこぼしてきた事項を確認し、断片的であった知識を結びつけ、発展させるよい機会となったのではないかと思う。

3. まとめ・今後の課題

学生はともに漢字圏の学生であったが、話す能力に大きな差があったため、個別的な対応をする時間がしばしば生まれた。互いに学び合う姿勢がある熱心な学生であったため、これに助けられて学期を終えることができたが、今後はより包摂的な授業のあり方について考える必要がある。また、今回学生から提示された数々の質問は、このレベルの他の学生にも共通した学習事項であると考えられる。十分に整理をし、次回の授業に役立てたい。

上級1　文章

2022年度S1S2

レベル : **上級　レベル**

スキル : **文章**

開講期間 : 2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26

時間 : 08:30 - 10:15 **木曜日**

場所 : online

学習目標 : **日本語のレポートや論文の表現や構成を学び、書けるようになることを目指す。**

対象 : **中級３文章コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当**

テキスト : **アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アルク）**

評価 : **教室活動5%　参加度5%　中間試験20%　期末試験20%　課題50%**
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) **出席率70%以上**　2) **学期末試験もしくは課題を受験**
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

その他 : 1. **単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可)** UTAS **コード：大学院**3799-930-1、**学部**FEN-JL4r41L1, 2. **修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。** 3. **コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。** 4. 30**分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。**3**回の遅刻または早退は**1**回の欠席とみなす。** 5. **第**1**週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。**
6. **授業内容と教室は変わる可能性がある。**
【重要】登録したそれぞれのコースの第1**回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。**

担当 : **藤井　明子** FUJII　Akiko
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	木	オリエンテーション／レビュー＆チャレンジクイズ
2	4/ 14	木	第1課「作文の基本1」 第2課「作文の基本2」
3	4/ 21	木	第3課「課題の提示」、論文の構成、 課題１締切
4	4/ 28	木	第4課「目的の提示」 課題２締切
5	5/ 5	木	祝日
6	5/ 12	木	第5課「定義と分類」
7	5/ 19	木	第6課「図表の提示」 課題3締切
8	5/ 26	木	第8課「対比と比較」, 課題4締切
9	6/ 2	木	休講【中休み】
10	6/ 9	木	中間試験
11	6/ 16	木	第9課「原因の考察」,中間試験フィードバック
12	6/ 23	木	第11課「引用」
13	6/ 30	木	第12課「同意と反論」 課題5締切
14	7/ 7	木	第13課「帰結」
15	7/ 14	木	第14課「結論の提示」　課題６締切
16	7/ 21	木	期末試験

上級１　文章

報告者：藤井明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④ 論文作成編』（アルク）を使用し授業を行った。第１・２課の作文の基本は、書き言葉の復習を中心に行った。それ以降、実際に授業で扱ったのは、第3・4・5・6・9・11・12・13・14課であった。各授業前半で、その課で扱う構成要素について確認した後、練習問題を行い、その後、課題１の短い文章を書いてもらった。

また、5課分の課題を宿題として提出してもらい、フィードバックを行った。

【授業の内容】

基本的に、授業中に書く練習を行うという形で進めた。

全面オンライン授業だったので、その利点を生かし、学生が書いた内容にその場でフィードバックできるよう、オンラインのエクセル表を用いた。履修学生が少なかったこともあって、授業中、各学生に複数回フィードバックすることができ、大変有効だった。

日本語を書く能力について、学生間でばらつきがあったが、それぞれのペースで学習を進めることができ、最終的には最後まで授業に参加していた 3 名の学生それぞれに、進歩が見られた。この3名のうち、1名は残念ながら、1回出席が足りず、コース修了にはならなかったが、使用教科書を学ぶことができて満足したと感想を話してくれた。

2. その他

履修学生はそれぞれ自身が関心を持つ分野をしっかり持っていたので、それぞれの課題では、関心ある分野について短い文章を書くことができた。資料の使い方もうまくできており、引用も正確に行うことができた。

3. まとめ・今後の課題

学生は熱心に学習に取り組んでいた。それぞれ、今後どのように日本語を使うのか違いはあったが、いずれも意欲が高く、書く力が確実に伸びたので、大変楽しく感じた授業だった。

上級2　総合

2022年度S1S2

レベル : 上級 2

スキル : 総合

開講期間 : 2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26

時間 : 10:25 - 12:10 水曜日

場所 : online

学習目標 : 大学や日常生活のあらゆる場面で適切に対応できる上級レベルの文型・語彙を用いながら上級の４技能を身につけることを目指す。自分の意見や主張を適切に発信する力を習得する活動（ディスカッションや発表など）を行う。授業では、日本の文化、日本人の考え方や価値観を知り、異文化理解を深める。

対象 : 上級１総合コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当

テキスト : 自主教材

評価 : 教室活動10%,小テスト15%, 宿題15%, 中間試験20%, 期末プロジェクト10%, 期末試験20%, 作文10%

・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

その他 : 1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院(3799-946-1)、学部 (FEN-JL4r03L1), 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めないが、本コースの履修を決めている場合は、初日に出席することが強く期待される。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当 : 藤井　明子 FUJII　Akiko

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 6	水	オリエンテーション、新聞記事を読む１（1）、レベルチェック
2	4/ 13	水	新聞記事を読む１（2）
3	4/ 20	水	読解1、課題1（作文）締切
4	4/ 27	水	読解２、ディスカッション説明、言葉クイズ1（Reading1）
5	5/ 4	水	祝日
6	5/ 11	水	リスニング１、ディスカッション、言葉クイズ２(R2)
7	5/ 18	水	読解3、課題2（作文）締切
8	5/ 25	水	中間試験
9	6/ 1	水	【休講】補講期間のため
10	6/ 8	水	読解4、期末発表の準備、中間試験FB
11	6/ 15	水	読解5、言葉クイズ3(R4)、期末発表の準備
12	6/ 22	水	新聞記事を読む２、言葉クイズ４(R5)
13	6/ 29	水	ディスカッション、期末発表の準備
14	7/ 6	水	リスニング２、期末発表の準備

15	7/ 13	水	期末発表（期末プロジェクト）
16	7/ 20	水	期末試験

上級２　総合

報告者：藤井明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

自主教材である、読解教材５本、聴解教材１本を使用し授業を行った。読解・聴解それぞれの教材を事前に学習し、問題に答えて解答を提出、授業中は答え合わせと話し合いを行った。また、コース全体を中間試験前と後の２つに分け、それぞれテーマを設定し、このテーマについてディスカッションとその結果を踏まえて作文を書くという構成で行った。読解教材についてはそれぞれ復習のことばテストを実施した。また、期末発表を行った。

【授業の内容】

授業で扱った内容だが、教材の大きな２つのテーマは「科学のこころ」と「日常生活」で、理系の学生にも興味が持てる前半の内容と、日本で暮らしている学生が日本と出身地との比較を行う後半の内容を設定した。

授業では、事前に課題を提出してもらいフィードバック、授業中に答え合わせを行ったが、学生の様子を見ながら授業中に課題を行うこともあった。ほとんどの学生は事前に課題を提出しており、授業中にはほかのクラスメートと答え合わせをしたり意見交換したりして授業に参加していた。

聴解はオンラインビデオを使用したが、学生によって理解の度合いには差が見られた。

今回は、履修学生が多かったため、期末発表準備に時間をかけ、後半は準備に多くの時間をかけた。

2. その他

今回、これまで日本語の授業を受けたことがなく、アニメやアプリなど通じて独学で日本語を勉強してきたという学生がいた。日常会話でこなれた日本語を使うことができる一方、基本的な文法や書き言葉の文体に関する知識などが不足していたので、これらの知識が増えるよう課題へのフィードバックを行った。結果として、文法的正確さの向上が見られた。

発表準備では個別指導を繰り返し行ったが、上級レベルで口頭発表をするためにどのような準備をすればよいのか十分理解できないまま終わってしまった学生がいたのが残念だった。他方、自分の専門分野について入門的な紹介をしてくれた学生達の発表は大変興味深く、すばらしかった。

3. まとめ・今後の課題

多くの学生は熱心に学習に取り組んでいた。最終的に修了した学生は 6 名だったが、学期後半まで出席していた学生が 10 名と、今回は、履修者が多かったため、学習者間のレベル差があり、教材の理解に差が見られたので、今後はこの点に対応できるよう努めたい。

上級2　会話

2022年度S1S2

レベル	:	上級 2
スキル	:	会話
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	10:25 - 12:10 木曜日
場所	:	online
学習目標	:	様々な社会問題についてのディスカッション、インタビュー調査、発表プレゼンなどの活動を通して、さらなる口頭表現の技術を習得し、批判的な思考力を養うことを目指す。
対象	:	上級 1会話コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当
テキスト	:	テキストは使用しない
評価	:	教室活動10%参加度 10% ショートスピーチ20%　中間口頭発表 20% 期末口頭発表 20% 課題 20% ・以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。　1) 出席率70%以上　2) 期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	:	1. 単位(2)認定　（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院 3799-948-1, 学部 FEN-JL4r22L1. 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. ZoomID: 8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	宮瀬 真理 MIYASE　Mari nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	木	オリエンテーション、レベルチェック、自己紹介
2	4/ 14	木	身の回りのことを詳しく説明する1
3	4/ 21	木	身の回りのことを詳しく説明する2、課題①
4	4/ 28	木	社会文化的なことについて話す１
5	5/ 5	木	祝日
6	5/ 12	木	中間試験説明　　社会文化的なことについて話す２、課題②
7	5/ 19	木	社会文化的なことについて話す3
8	5/ 26	木	中間試験(口頭発表)
9	6/ 2	木	休講
10	6/ 9	木	ディスカッションについて
11	6/ 16	木	ディスカッション1、課題③
12	6/ 23	木	ディスカッション2
13	6/ 30	木	ディベートについて
14	7/ 7	木	ディベート１、課題④
15	7/ 14	木	学期末口頭発表準備、ディベート２
16	7/ 21	木	学期末口頭発表

上級２　会話

報告者：宮瀬真理

1.　授業の方法と内容

【授業の方法】

上級１会話コースの修了者、または JLPT N1 以上、CEFR C1 相当の人を対象に、テキストを用いず新聞やテレビ動画、ラジオなどの情報を用い授業を進めた。

トピックに沿って、少人数でのディスカッションを行い、その内容をクラスで発表することを通し、意見をまとめ、表現する力の習得を目指した。また自らの意見とは違う意見にも耳を傾け、論点を見つけ、建設的なディスカッションができるような姿勢、思考力を身につけることも目標の一つとした。

ディスカッションの他、ディベート、発表プレゼンテーションの活動も行った。

【授業の内容】

扱ったトピックは順に以下の通りである。

身近なことを詳しく正確に伝える：「印象に残る自己紹介とは」「自分の好きなもの（相手に興味を持ってもらうよう工夫して具体的に話す）」「思い出に残る食事」

ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）より：「SDGs について調べてわかりやすく伝える」「ジェンダー（『82 年キムジョン』を扱ったドキュメンタリーを元に）」「格差社会（都会と田舎の教育/インフラ）」

学生が選んだトピックでのディスカッション：「原子力発電は廃止すべきか」「コロナが緩和する前に日本への旅行を観光客に解放すべきか」「ＡＩ技術のプライバシーへの影響と個人情報を守るための対策」「円安の影響」「日本留学を選んだ留学生にとって日本語学習は必須か」

また、授業の最初に、毎回 3 人ずつ、「今週の気になるニュース」として、一週間のニュースの中から一つ選び、PPT 一枚にまとめて発表してもらった。

中間試験は自分の研究について 3 分でまとめて発表する「Three Minute Thesis」、期末試験は各自選んだ社会問題についての発表、その後の質疑応答を行った。

2.　その他

新型コロナウイルス感染拡大を受け、オンライン授業を Zoom で実施した。

課題として、NHK ニュースを朗読する音声録音を課した。動画を見て、アナウンサーの発音を真似て練習し、朗読音声を録音。自らの発音を客観的に聞き訂正できる活動だと好評だった。

3.　まとめ・今後の課題

オンライン授業中心の学生生活で孤独を感じている学生が多かったため、活動によりお互いを知り、友人が増やせるよう雰囲気作りも心がけた。毎回の「気になるニュース」では、クラスメイトの興味関心を知ることができるいい機会になり、質疑応答も活発だった。

授業後学生からは、アカデミックな発表だけでなく、対偶表現など一般的な会話や表現も学びたいとの意見が出た。

上級2　文章

2022年度S1S2

レベル	:	上級　レベル 2
スキル	:	文章
開講期間	:	2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26
時間	:	10:25 - 12:10 月曜日
場所	:	online
学習目標	:	自分が関心ある分野の論文を3本以上読み、まとまった内容の論理的文章をアカデミックな文章記述の基本的な形式に則って書けるようになる。
対象	:	上級 1 文章コースの修了者、JLPT N1レベル以上、またはCEFR C1相当
テキスト	:	『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）
評価	:	教室活動10%　参加度10%　中間試験20%　期末試験（最終成果物）30%　課題30 % ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。
その他	:	1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-950-1、学部FEN-JL4r42L1 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 7. Zoom ID: 8. 【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。
担当	:	猪狩　美保 IGARI Miho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	月	授業ガイダンス、自己紹介、論文の構成
2	4/ 18	月	剽窃について、コンセプト・マップの作成
3	4/ 25	月	論文のテーマ報告
4	5/ 2	月	序論の書き方の確認、自分なりの問題提起文を考える
5	5/ 9	月	参考文献について報告する、問題提起文を書く
6	5/ 16	月	アウトラインを考える、序論を書く
7	5/ 23	月	中間報告会（序論を検討する→修正）、本論を書く
8	5/ 30	月	【休講】補講期間のため
9	6/ 6	月	本論を書く
10	6/ 13	月	本論を検討する→修正
11	6/ 20	月	結びを書く
12	6/ 27	月	結びを検討する→修正
13	7/ 4	月	全体を書き直す
14	7/ 11	月	論文を完成させる
15	7/ 18	月	祝日

16	7/ 25	月	論文の発表と質疑応答

上級２　文章

報告者：猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、上級１文章コースの修了者、日本語を 900 時間以上勉強した人を対象に、一つのトピックについて先行研究を踏まえた上で、ある程度まとまった長さの論文を作成することを目的としている。『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）をメインテキストとし、授業内では論文の構成や表現を確認・練習を行い、併せて各自のトピックについて論文作成・推敲を行った。中間発表会、最終発表会を取り入れ、学生同士の意見交換を行うことで、より客観的な視点から論文作成を行えるよう進めた。各学生は最終課題として一つの論文を完成させ提出した。

【授業の内容】

毎回の授業ではテキストに沿って、論文の構成や論文に必要な表現を幅広く学習し、練習問題やタスクを行った。これにより既習の表現だけでなく、類似表現の様々なバリエーションや自分が意図した内容に合った的確な表現を使いこなせることを目指した。

最終的に論文としてまとめていくためのステップとして随時課題を出し、各学生が授業内外でスムーズに論文作成が進められるようにした。具体的にはトピックの選定、論文作成のためのコンセプトマップの作成、アウトライン、序論、本論、結論の各章などを課題とし、フィードバックを行った。各自の課題に加え、クラスでも中間発表会や互いに共有する機会を適宜取り入れ、意見交換を行った。また、最終日には論文の発表会を実施し、発表および質疑応答を実施した。

2. その他

昨年度に引き続きオンライン授業を実施した。課題の提出やフィードバックは、Google Classroom を活用することで論文の推敲や添削を効率的かつきめ細かく進めることができた。

3. まとめ・今後の課題

自分が関心を持ったテーマについて先行研究を調べ、読み込み、最終的には一つの論文に日本語でまとめる、という時間・労力が必要なコースであるため、専門の研究で多忙な工学系の留学生には負担ではないかという懸念も持っていたが、実際には受講学生の日本語能力の向上に対する動機は非常に高く、授業や課題にも熱心に取り組んでいた。今後も工学系の留学生が日本語学習を意欲的に進めていけるようコース内容を充実させていきたい。

上級　日本組織事情

2022年度S1S2

レベル : 上級

スキル : その他

開講期間 : 2022/ 04/ 05 - 2022/ 07/ 26

時間 : 10:25 - 12:10 木曜日

場所 : online

学習目標 : 日本の組織で就職やインターンシップをするために必要な知識、スキル、ビジネスマナーなどを実践的に養う。

対象 : 日本語 中級3総合を修了した人、又はJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当。学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP

テキスト : 自主教材

評価 : 教室活動15%、課題45%、発表20%、期末試験20%

・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

その他 : 1.　単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可)　　UTASコード：大学院 3799-951-1.　学部FEN-JL4r50L1,　2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
Zoom新ID
【重要】登録したそれぞれのコースの第1回目の授業に出席して「オリエンテーション」と「レベルチェックテスト」を受けてください。

担当 : 古市 由美子 FURUICHI Yumiko, 佐野 理恵 SANO Rie
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 7	木	オリエンテーション・自己紹介
2	4/ 14	木	日本の就職事情
3	4/ 21	木	エントリシートの対策１（＊自己PR）
4	4/ 28	木	エントリシートの対策２（＊学生時代頑張ったこと）
5	5/ 5	木	祝日
6	5/ 12	木	エントリシートの対策３
7	5/ 19	木	業界研究発表１　中間試験
8	5/ 26	木	業界研究発表２　中間試験
9	6/ 2	木	休講
10	6/ 9	木	エントリシートの対策４（＊志望動機）
11	6/ 16	木	面接１
12	6/ 23	木	面接２
13	6/ 30	木	面接３
14	7/ 7	木	内定者・OB/OGの話を聞く
15	7/ 14	木	ビジネス場面における敬語
16	7/ 21	木	ビジネスメール・報告書書き方、＊期末試験

上級　日本組織事情

報告者：佐野理恵（文責）、古市由美子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、就職やインターンのために必要な知識やスキル、ビジネスマナーを養うことを目的に、S1S2 は講師 2 名体制で Zoom を用いたオンライン形式を 2 コース、A1A2 は講師 1 名で午前（2 限）に対面 A コース、午後（3 限）にオンライン B コースを開講した。A1A2 の B コースは本郷キャンパス外で学ぶ留学生を主対象としたが、本郷所属の学生でも目的と理由を確認した上で受講を許可するなど、日本での就業を志す留学生が研究と就職活動を両立しながら個々の状況に応じて対面／オンラインを選択できる体制をとった。

全コースで同じ内容の講義と課題、評価テストを実施した。教材や資料はオリジナルで作成しているが、留学生就職促進プログラム（CDIPs）のオンデマンド教材を各講座の予習や復習ツールとして紹介した。また、就職活動中の悩みや不安等の相談や特定企業を想定した面接指導等については授業外のキャリア相談で応じ、個別のフォローを行った。

【授業内容】

授業内容は、就職活動の流れから始まり、エントリーシート（ES）の書き方、業界／企業研究、面接練習、最後に敬語やビジネスマナー、メールの書き方などをテーマとした授業を実施した。ES では、自己分析を通じて、職業と自身の強みや専門性を結び付けたキャリアプランについて検討した。「自己 PR」「学生時代に力を入れたこと」をそれぞれ 400 字の課題とした。業界／企業研究では、学生の発表を中間試験とし、業界／企業研究に基づいた 400 字の「志望動機」を課題とした。面接対策では「個人面接」「集団面接」「グループディスカッション」の 3 種類の対策を目的に、ビデオ視聴やロールプレイング、ペアによるフィードバックなどを取り入れた実践練習を行った。応募者としての練習だけでなく、面接官として評価する視点も養った。

2. その他

日本組織事情コースの過去受講生より、各コース 3-4 名の内定者や OB・OG に依頼し、就職活動の進め方や内定までの苦労、企業決定の理由、就活生へのアドバイスなどを中心に話題提供してもらう講話会を実施した。A1A2 の対面 A コースでは、帰国中の内定者に参加してもらい、ハイブリッド形式で開催した。受講生から多くの質問があがっただけでなく、講話者の内定者や OB・OG からも自らの就職活動やキャリアを振り返る良い機会となったと好評であった。

3. まとめ・今後の課題

A1A2 対面コースでは、定員 25 名に対し 29 名の受講希望があった。2023 年度も同様の傾向が予想されるが、特にディスカッションやペア練習では日本語力のばらつき等への配慮や対応が必要になる。クラス規模や受講生の様子を見ながら運営面の工夫改善に努めたい。

冬季日本語特別集中科目1

2022年度A1A2

レベル : **初級Ｉ**

スキル : **総合**

開講期間 : 2023/ 02/ 06 - 2023/ 02/ 24

時間 : 08:30 - 10:15 **月曜日**
08:30 - 10:15 **水曜日**
08:30 - 10:15 **金曜日**

場所 : **工学部8号館　88M**

学習目標 : **初級前半**(L13-22)**の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N5相当の漢字を60字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。**

対象 : **日本語を**40**時間程度勉強した人、初級**1**の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人**

テキスト : **『大地I メインテキスト』『大地I 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）**

評価 : **学期末試験**30%**、語彙クイズ**10%**、漢字クイズ**10%**、文法クイズ**20% **、作文課題**10%**、聴解課題**10%**、教室活動**10%

・以下の条件を満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) **出席率**70%**以上**　2)**期末試験もしくは課題を受験**
・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・期末試験の追試は実施日から1**週間以内であれば受けることができる。**
その場合 、評価の80%**が成績に反映される。クイズの追試は行わない。**

その他 : 1. **単位あり（１単位）**UTAS **コード：大学院**3799-971**、学部**FEN-JL4ｔ01L1
2. **修了証は成績が**C**以上の**noncredit**の学生で希望者にのみ発行される。**
3. 30**分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。**3**回の遅刻または早退は**1**回の欠席とみなす。**
4. **授業内容と教室は変わる可能性がある。**
【注意】・このコースは、進度がとても速いため、履修には下記の条件をクリアしていることが求められます。
・毎回、予習と復習、宿題をすること。
・全日程、出席できること

担当 : **金 瑜眞（キム ユジン）** KIM Youjin, **猪狩　美保** IGARI Miho

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	2/ 6	月	Orientation, L13, Listening Assignment L13 distribution
2	2/ 8	水	L14,Vocab quiz L13 & L14,Kanji #51-60,Listening Assignment L13 due, Writing Assignment L14 distribution
3	2/ 10	金	L15,Vocab quiz L15, Dictionary form Quiz, Kanji quiz #51-60, Kanji #61-70, Writing Assignment L14 due
4	2/ 13	月	L16&L17, Vocab quiz L16&L17, Te form Quiz, Kanji quiz #61-70, Kanji #71-80, Listening Assignment L17 distribution
5	2/ 15	水	L17&L18, Vocab quiz L18, Kanji quiz #71-80, Kanji #81-90, Listening Assignment L17 due, Writing Assignment L18 distribution
6	2/ 17	金	L19&L20, Vocab quiz L19&L20, Nai form Quiz, Kanji quiz #81-90, Kanji #91-100, Writing Assignment L18 due
7	2/ 20	月	休講
8	2/ 22	水	L21&L22, Vocab quiz L21&L22, Plain form Quiz, Kanji quiz #91-100, Kanji #101-110, Listening Assignment L21 distribution
9	2/ 24	金	Final exam, Kanji quiz #101-110, Listening Assignment L21 due

冬季日本語特別集中科目 1

報告者：金　瑜眞、猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

当該コースは工学系研究科日本語教室初級 2 レベル相当の集中コースで、『大地 1』（スリーエーネットワーク）の L13～22 を 8 日間で扱った。具体的には 105 分 1 コマの授業を週に 3 回（月曜日、水曜日、金曜日）合計 8 コマ実施した。授業時間を最大限に活かすため、新出語彙の語彙クイズ、漢字クイズ、作文課題、聴解課題を自宅学習とし、1 コマ 1～2 課のペースで文型導入、運用練習、会話練習を中心に、授業を進めた。以下は授業外学習と授業内の活動内容である。

【授業外の学習（予習、復習）】

語彙クイズ（授業で扱う課の語彙を学習し、クイズを受ける）

漢字学習（漢字シートを使って毎日漢字を 10 ずつ自習し、クイズを受ける）

作文課題（授業中の学習項目をもとにした短いエッセーを書く）

聴解課題（授業中の学習項目をもとにした会話を聞き、聴解問題を解く）

【授業内の活動内容】大まかな授業の流れは、次の通りである。

文法クイズ（復習）、当該課文型導入、各文型をもとにした運用練習、会話練習

2. その他

コースを修了した学生のうち、希望する受講生には単位を付与した。当該コース修了学生には通常の日本語コースにおける次レベルのコース受講資格が与えられるため、課題やクイズを通して通常コースと授業内容を揃えるよう努めた。

3. まとめ

通常の学期では 28 コマをかけて学ぶ内容を 8 コマで修了するコースであったため、予復習を含め、学生の負荷はかなり高かったが、受講した 3 名と最後までよく努力する様子が見られた。3 名のうち、1 名が MIT からの留学生、残り 2 名が東京大学に在籍している留学生であったが、授業内外で助け合う姿が見られた。MIT の学生は、予習復習など、誠実に学習に挑み、無事コースを履修することができた。東京大学の学生 2 名は、インテンシブ 1 の修了者であり、単位や修了は認められないものの、本人たちの希望により、初級 2 内容の復習のために参加した。3 名とも修了時には、十分に次のレベルのクラス活動についていける実力が付き、次学期、初級 3 レベルのコースに登録していた。

ビジターセッション・日本事情 (13:30-14:30 Zoom)

2022年度S1S2

レベル : **全レベル**

スキル : **該当無し**

開講期間 : 2022/ 04/ 20 - 2022/ 07/ 06

時間 : 13:00 - 14:45 **水曜日**

場所 : online

学習目標 : **留学生と日本人のボランティアの方たちと共に留学生の出身地の文化、そして日本文化について様々な切り口から学ぶ。**

・好きなトピックについて日本語で話す
・日本語や日本文化について知識のある人に質問する
・少人数(２～３名）のグループで会話を続ける

対象 : **全レベルの学習者**

テキスト : **なし**

評価 : **単位なし**

その他 : **学期の途中からでも参加できます。来られない週があっても大丈夫です。**

Zoom address:

担当 : **金 瑜眞（キム ユジン）** KIM Youjin, **早坂 美和子** HAYASAKA Miwako

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 20	水	オリエンテーション 自由会話
2	4/ 27	水	自由会話
3	5/ 4	水	祝日
4	5/ 11	水	自由会話
5	5/ 18	水	休講
6	5/ 25	水	休講
7	6/ 1	水	休講
8	6/ 8	水	自由会話
9	6/ 15	水	自由会話
10	6/ 22	水	自由会話
11	6/ 29	水	自由会話
12	7/ 6	水	自由会話

ビジターセッション＆日本事情

報告者：金 瑜眞、早坂　美和子

１. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

2022 年度においては、2020 年度、2021 年度に続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、近距離で会話を行う対面での自由会話および文化体験を全て中止し、Zoom を使用したオンラインでの自由会話のセッションを実施した。形式は対面時と同様、当日本語教室のボランティアの方々と留学生で少人数のグループを作成し、Zoom のブレイクアウトルームを使い、各グループで自由な会話をしてもらった。10 名のボランティア（秋山賢一氏、北林三枝子氏、小林桜子氏、篠崎いずみ氏、田中勉氏、寺田美奈子氏、橋本冨美栄氏、松枝文恵氏、野城ゆうこ氏、山崎佳子氏）にご協力をいただいた。留学生は、ゼロ初級から上級レベルの学生まで、全レベルにわたる学生が参加した。

1-2. 授業の内容

各セッションにおいては、毎回異なるボランティアと留学生たちをグループにし、多様な日本語母語話者と交流及び練習が可能になるように調整した。ボランティアには、様々な話題について日本語で話し合ってもらい、学生への話題提供や日本語での発話を促すために日本の文化に関する写真や簡単な初級教材をご準備いただいたこともあった。ボランティアとの会話の練習を通して、初中級の学生には、授業で勉強した文型や語彙を使った日本語の口頭表現の運用力を高める機会を提供し、上級の学生には、年長者との会話を通して敬語、ビジネス日本語などの練習の機会を提供することができたと考えられる。

さらに、オンラインでの実施により、入国規制などで来日が難しい海外からの学生はもちろん、外出自粛で日本語母語話者との交流の機会が少なくなっている日本在住の留学生にも、日本語の会話の機会を提供することができた。

２. その他

2022 年も継続して新型コロナウイルスの影響が続いているため、夏休みにおいて、各 3 回の特別オンラインビジターセッションを実施した。学期中同様、感染拡大に配慮しながら、来校することなく、日本語母語話者との交流の機会が提供できたと考える。

３. まとめと今後の課題

今回もボランティアの方々には学生に丁寧に指導して頂いた。末筆ながらボランティアの方々のご尽力に心から感謝を申し上げたい。今後は、情勢を注視しながら、対面ビジターセッション再開に向けての準備やイベントの再開などを進めていきたい。

チュートリアルセッション

報告者:　猪狩　美保

１．概要

日本語教室では、通常の授業では対応できない学習者ごとのニーズに合わせ、教員が個別指導を実施することで、自律学習を支援している。概要は以下の通りである。

目的：　留学生の個別日本語学習支援

対象：　工学系研究科日本語教室の授業を現在受講中または過去に受講していた学生

指導内容：日本語学習全般に関する支援

- 日本語学習方法アドバイス
- 既習事項の確認
- 日本語能力試験対策指導
- レポート、研究計画書の添削
- 奨学金申請書類の添削　等

２．実績

2022 年度は、2022S2 学期および 2022A2 学期に開講した。実績は以下の通りである。

開講日時：2022S2（2022/6/8-2022/7/20）オンライン
2022A2（2022/11/30-2023/1/25）対面（希望があった場合はオンライン）
毎週水曜日　第 4 時限目（14:00-14:45／14:55-15:40）

時間：　1 回 45 分

利用件数：2022S2：13 件／2022A2：14 件

指導内容：2022S2／2022A2

日本語の学習方法相談・既習事項の復習	1 件／5 件
入試・就職のための日本語の面接練習	3 件／2 件
日本語の会話練習	1 件／4 件
奨学金申請書類のサポート	2 件／1 件
日本語能力試験対策	2 件／1 件
インターンシップ応募書類の添削	3 件／1 件
研究計画書の添削	1 件／0 件

３．まとめ・今後の課題

通常の授業ではなかなかケアできない日本語の学習方法相談や、既習事項の復習について、個別に対応できるという点で、教員・学生双方から見て意義があると感じられた。また、会話や面接練習の希望も多く、その過程の中で日本語や日本に関する質問等もあり、様々な気づきが得られた。限られた枠・時間ではあるが、できる限り学生の希望に応えられるよう、今後も継続してきめ細かな支援を続けていきたい。

2.5　受講者と修了者

本章では、2022 年度に実施した S1S2、A1A2 学期の受講者と修了者について報告する。なお、2022 年度は、S1S2 においてはコロナ禍の影響により、2020S1S2 からのオンライン授業を継続したが、A1A2 から対面授業を再開したことを冒頭で記しておく。

図 2 は、2011 年度から 2022 年度[1]までの年度別延べ数および実数の受講者数の推移であるが、2014 年度から 2016 年度にかけて受講者数が右肩上がりとなった背景には、1）カリキュラムの改善と日本語科目の単位化の浸透が挙げられる。また、2017 年度から 2019 年度の受講者は 1,130 名前後で数値は横ばいであり、ピーク時より 150 名ほど少なくなっている。

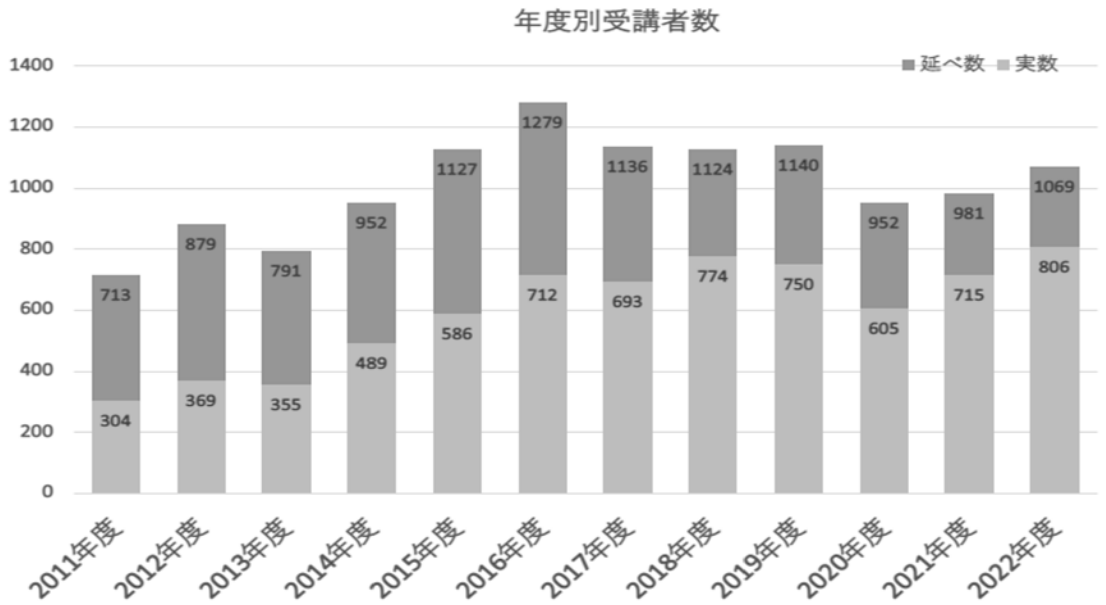


図 2　年度別受講者数推移

これは2017年度から各コースに他研究科からの登録に対して定員制を設けたこと、また、同年、当教室の登録・管理システムである STAR（Student Tools for Access and Review）を都市工学日本語教室及びシステム創成系日本語教室と共有し、受講者のバランスを図った結果と考えられる。一方で、実数の割合は、コロナウイルス蔓延の影響を強く受けた 2020 年度に延べ数で前年比 188 名減、実数で 145 名減少した以外は、コロナ禍であった 2021 年度および 2022 年度（A1A2 より対面授業再開）においても再び増加に転じ、2021 年度には受講者総数における実数の割合は約 73%となり、2011 年度に統計を取り始めて以来、最高

[1] 2020 年度より、日本語教室の所属部局名は、工学系研究科 国際工学教育推進機構 日本語教育部門から工学系研究科 国際工学教育推進機構 国際教育部門となり、日本語教室の HP 上の名称も 2022 年 1 月に更新された。

値となった。さらに、2022 年度においては、この実数の割合が 75%まで上昇した。これは、2020 年度に上級 2 レベルが新設され、それまでの 6 レベル 30 コースから 7 レベル 33 コース[2]に選択肢が拡大されたことで、学習者が選択できるコースが広がったことも一因と思われる。

2.5.1　S1S2受講者

2022年度S1S2では、コロナウイルス感染拡大に伴う措置により前年度から引き続き不開講となった「多文化理解プロジェクト」を除く7レベル32コースを開講した。

1)　工学系研究科日本語教室受講者

表 2 は、研究科別の各レベルの受講者の延べ数と実数である。

表2　2022S1S2 研究科別・レベル別受講者数　（　）内は単位申請者数

研究科＼レベル	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
①　工学系研究科	44	37	60	57	35	39	12	284 (58)	213(49)
②　情報理工学系	16	8	12	15	5	11	7	74(26)	66(26)
③　新領域研究科	8	2	6	16	3	6	4	45(20)	29(17)
④　全学交換留学生	0	0	0	0	0	3	0	3(3)	3(3)
⑤　他研究科	8	12	1	18	13	22	6	80(27)	54(23)
合計①～⑤	76(25)	59(18)	79(11)	106(27)	56(23)	81(20)	29 (10)	486(134)	365(118)

2021S1S2と比べると、実数で合計37名増加したが、全受講者（実数365名）のうち、工学系研究科の受講者（213名）が占める割合は約58%で、昨年度の62%から4ポイント減少した。一方、2021S1S2において、政府の厳しい水際対策の影響を受け、2019S1S2(41名)、2020S1S2(14名)、2021S1S2（0名）となっていたUSTEP生が3名受講できたことは明るいニュースであった。

身分別の延べ数（図 3）は、例年通り、全体（486 名）に占める修士の割合が 59%と際立って高く、2022 年度は、博士と合わせ、本学の大学院に籍を置く受講者の割合が 83%となり、昨年度の 85%からは 2 ポイント下がったものの、2019 年度の 52%と比べると 31 ポイント増となった。USTEP 生は 2021S1S2 は 0 名であったが、今年度は 3 名受講できた。しかし、図 3 のすべての身分別受講者数は、依然としてコロナ以前の

[2] 工学系日本語教室には、「多文化理解プロジェクト」というコースもあり、全 33 コースとなるが、2020 年度はコロナウイルス感染拡大に伴う措置により、2022S1S2 まで多化理解プロジェクト」は不開講となった。そのため、本章 2.5.2 までは「7 レベル 32 コース」として報告を行う。

数値には戻っていない。

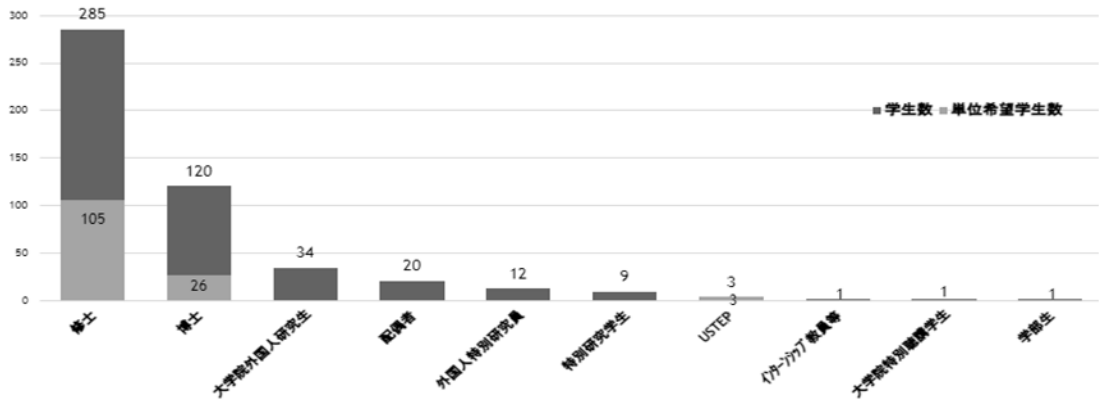


図 3　身分別受講者延べ数　　USTEP：全学交換留学生

専攻別の延べ数（図 4）を見ると、昨年度 2 番目に受講者が多かった電気系工学が 2 名増の 46 名となり、受講者数が最も多くなった。昨年度受講者が最も多かった機械工学は 13 名減の 40 名で、受講者数で 2 番目に多い専攻となった。S1S2 において受講者が伸びたのは、昨年度 4 位、今年度 3 位の建築学で、前年比 10 名増の 40 名となった。その他、昨年度 3 位の社会基盤学も 7 名減ではあったが、受講者 28 名で 4 位となった。

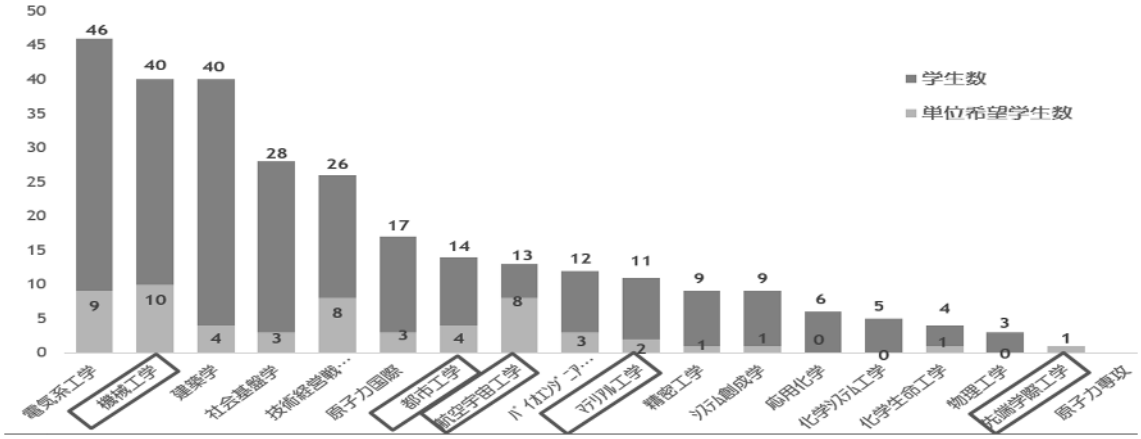


図 4　専攻別受講者数

* 枠囲み：日本語科目が卒業修了要件となる専攻科

国籍別受講者数（表 3）の延べ数では、合計 42 カ国のうち、中国の割合が高いが、昨年の 62%から 7 ポイント減の 55%となった。中国に次いで受講者数が多かったのは昨年 4 位だった台湾で、延べ数 17 名から 26 名となった。次いで、インド（22 名→18 名）、アメリカ（19 名→17 名）、シンガポール（5 名→15 名）、カナダ（5 名→14 名）と続く。その他、アジアの中では、フィリピン（4 名→13 名）、タイ（4 名→8 名）、韓国（5

名→7 名)、ベトナム（5 名→7 名）からの留学生が一定数おり、シンガポールとフィリピンからの留学生が、それぞれ 10 名程度増えた。アジア以外では、アメリカからの受講生は今年度も一定数受講しているほか、カナダからの留学生が増えた。ヨーロッパにおいては、フランス（8 名→11 名）が最も多く、ドイツ（11 名→4 名）は減少した。

表3　国籍別・レベル別受講者

	レベル 国籍	初級 1 延べ数	初級 2 延べ数	中級 1 延べ数	中級 2 延べ数	中級 3 延べ数	上級 1 延べ数	上級 2 延べ数	合計 延べ数	実数
1	中国	38	28	39	50	35	56	23	269	212
2	台湾	1	5	1	1	3	10	5	26	15
3	インド	9	5	0	4	0	0	0	18	17
4	アメリカ	3	0	4	6	4	0	0	17	10
5	シンガポール	1	4	0	5	2	3	0	15	10
6	カナダ	0	2	5	4	3	0	0	14	7
7 位～42 位 計		24	15	30	36	9	12	1	127	94
合計		76	59	79	106	56	81	29	486	365

2）専攻日本語教室受講者

表 4 は工学系内の専攻日本語教室の S1S2 の受講者である。

前述のように、工学系日本語教室は 2017 年度 S1S2 以降、都市工学日本語教室及びシステム創成系日本語教室と STAR（Student Tools for Access and Review）システムを共有して日本語コースの登録を行うことで、日本語コースレベルの統一および受講者数のバランスの改善を図っており[3]、2022S1S2 登録者数もほぼ昨年度と同じ数値となった。

表 4　S1S2 専攻日本語教室受講者数(実数)

レベル 専攻	初級 I	初級 II	中級 I	中級 III	上級	計
社会基盤学	6	15				21
都市工学	都市工 3 工学系 1 他 2	都市工 8 工学系 3 他 3	都市工 3 工学系 1 他 4			都市工 14 工学系 5 他 9
システム 創成系			ｼｽ創 4 工学系 7 他 6	ｼｽ創 1 工学系 3 他 1		ｼｽ創 5 工学系 10 他 7
IME			IME 4 工学系 1・他 0		IME 3 工学系 0・ 他 0	IME 7 工学系 1 他 0

[3] 例として、都市工学日本語教室では、他研究科の学生が 5 名から 9 名に増え、システム創成系日本語教室においては、工学系の学生の登録が昨年度の 4 名から 10 名に増えたことが挙げられる。

2.5.2　S1S2 修了者

次に2022年度S1S2修了者について報告する。

1）工学系研究科日本語教室修了者

工学系日本語教室全体の修了者は延べ 338 名、実数 259 名、単位取得者は、延べ 119 名、実数 102 名であった。実数で見ると受講者実数 365 名に対する修了者実数 259 名の割合は 71%で、昨年度に比べ修了率はやや下がったものの、引き続き 7 割以上の学生がコース修了に至っている。

表 5　2022S1S2 研究科別・レベル別修了者　（　）内は単位取得者

研究科＼レベル	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
⑥　工学系研究科	26	29	40	44	23	28	4	194(49)	149(40)
⑦　情報理工学系	9	5	11	11	4	8	5	53(22)	49(22)
⑧　新領域研究科	5	1	6	14	2	6	2	36(20)	22(16)
⑨　全学交換留学生	0	0	0	0	0	3	0	3(3)	3(3)
⑩　他研究科	7	8	0	13	12	11	1	52(25)	36(21)
合計①～⑤	47	43	57	82	41	56	12	338(119)	259(102)

2）専攻日本語教室修了者

専攻日本語教室の修了者数は、表 6 のとおりである。社会基盤学専攻は初級Ⅰと初級Ⅱが修了すると、修了要件の単位として 2 単位が付与されることもあり、昨年度 17 名、今年度も 20 名が登録し、全員が単位を取得している。都市工学専攻とシステム創成系専攻日本語教室においても、1 コマ 2 単位が付与されるが、単位取得率は必ずしも高くない。（都市工専攻：33%、システム創成系専攻 33%）しかし、工学系、他専攻を合わせると、都市工学においては 2022S1S2 でも都市工学 4 名、工学系 2 名、他専攻 3 名を合わせた修了者 23 名中 9 名（39%）が単位を取得した。システム創成系日本語教室においては、専攻 3 名、工学系 8 名、他研究科 7 名を合わせた修了者 18 名中 3 名（17%）が単位を取得した。

表 6　専攻日本語教室修了者数（実数）　（　）内は単位取得者

専攻＼レベル	初級 I	初級 II	中級 I	中級 III	上級	計
社会基盤学	6(6)	14(14)				20(20)
都市工学	都市工 2(0) 工学系 1(0) 他 1(0)	都市工 7(4) 工学系 2(1) 他 2(1)	都市工 3 (0) 工学系 2(1) 他 3(2)			都市工 12(4) 工学系 5(2) 他 6(3)
システム創成系			ｼｽ創 2(0) 工学系 5(0) 他 6(0)	ｼｽ創 1(1) 工学系 3(1) 他 1(1)		ｼｽ創 3(1) 工学系 8(1) 他 7(1)
IME			IME 4 工学系工 1・他 0		IME 3 工学系 0 他 0	IME 7 工学系 1 他 0

2.5.3　A1A2受講者

次に、2022年度A1A2の受講者について報告する。なお、本章の冒頭で述べた通り、2022A1A2においては、「上級日本組織事情」の2セッション中の1セッションを除き、2年半ぶりに対面授業を再開した。

1）工学系研究科日本語教室受講者

A1A2 は 7 レベル、33 コース[4]中、受講者は延べ数 583 名、実数 441 名であった（表 7）。昨年度の A1A2 と比較すると、延べ数で 67 名増加、実数で 54 名増加した。工学系日本語教室の受講者数が全受講者に占める割合は、延べ数で 55%、実数で 57%であったが、昨年度比では延べ数で 13%、実数で 10%減となった。昨年に比べて受講者（実数）が増えたのは、情報理工学系（51 名→77 名）、他研究科（46 名→63 名）、全学交換留学生（USETP 生　5 名→31 名）であった。

なお、当教室におけるレベル別の受講者は、2019 年度より中級レベルの学習者が増え、2021A1A2 年度は、延べ数で初級 1～2 の受講者が 145 名（28%）、中級 1 ～3 の受講者が 250 名（48%）であったが、2022A1A2 では、初級 1～2 の受講者の割合も伸び、55 名増の 200 名（34%）と 6 ポイント上がった。中級 1～3 は 265 名で前年比 15 名増、受講者全体に占める割合はやや下がったものの、45%と依然として高い。初級の受講者の割合が増えたのは、政府の水際対策の緩和により、初級学習者の割合が多い USTEP 生および大学院の交換留学生が増えたことも一因だと考えられる。

[4] コロナ禍の影響を受け、2020S1S2 学期より不開講となっていた「多文化理解プロジェクト」が 2 年半ぶりに開講されたことで 7 レベル 33 コースとなった。

表 7　A1A2 研究科別・レベル別受講者数　　（　）単位申請者

研究科＼レベル	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ数合計	実数合計
①　工学系研究科	75	46	61	49	41	38	12	322(89)	252(77)
②　情報理工学系	25	12	23	9	15	10	4	98(53)	77(45)
③　新領域研究科	3	3	2	2	6	2	5	23(11)	18(8)
④　全学交換留学生	12	3	9	5	3	16	7	55(44)	31(23)
⑤　他研究科	9	12	12	23	5	20	4	85(34)	63(24)
合計①～⑤	124	76	107	88	70	86	32	583(231)	441(177)

身分別（図5）では、2022年度A1A２も昨年同様、圧倒的に修士（290名）が多く、次いで博士（88名）であったが、博士は昨年度の151名に比べ63名減少した。これに関しては次項で述べる専攻別受講者数において多くの専攻において受講者が減少したことに関連している。2022A1A2において修士、博士に次いで多かったのは、全学交換留学生（USTEP生 5名→55名)、大学院特別聴講生（4名→55名)、大学院外国人研究生（38名→27名)、特別研究学生（13名→27名）であった。外国人特別研究員は（14名）は昨年度と同数だったが、配偶者（10名→12名)、インターンシップ教員（5名→9名)、学部生（2名→6名)は、それぞれ微増した。

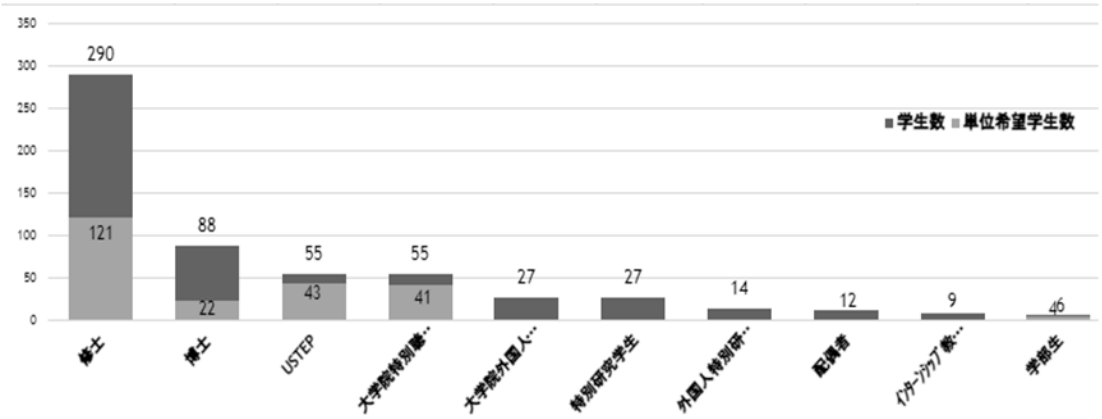


図5　身分別受講者数

専攻別学生数は、図 6 が示すように、18 専攻中 17 の専攻からの受講があった。最も受講生が多かったのは昨年度同様、機械工学（69 名→55 名）で、次いで電気系工学（37 名→49 名)、建築学（40 名→48 名）となっている。昨年度に比べて受講者が減ったのは社会基盤学（36 名→19 名)、バイオエンジニアリング（31 名→16 名)、原子力

国際（28 名→14 名）、マテリアル工学（22 名→11 名）などであった。その一方、技術経営戦略は 13 名から 23 名に増えた。

なお、単位に関しては、日本語科目の単位が修了要件として認められている機械工学、マテリアル工学、航空宇宙工学、都市工学、先端学際工学の 5 専攻のうち、機械工学においては 38%の学生が希望しているが、その他の専攻に関しては、単位希望者数は必ずしも多くはなく、修了要件が単位取得希望に直結しているわけではないことが見てとれる（図 6 参照）。

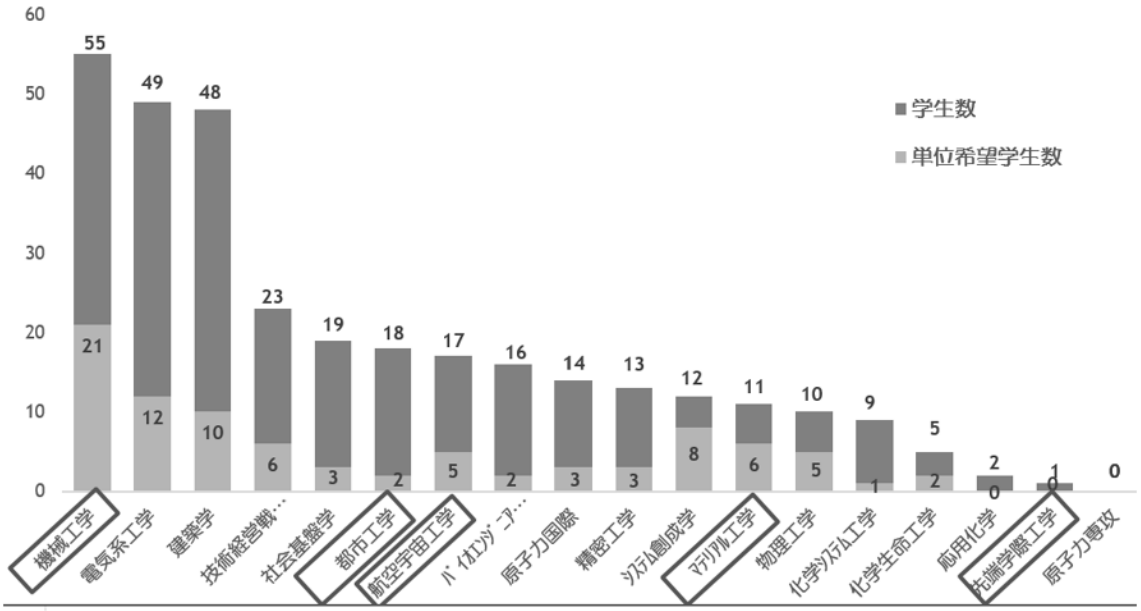


図 6　専攻別受講者数　　* 枠囲み: 日本語科目が卒業修了要件となる専攻科

次に受講者の国籍（表 8）について述べる。

表 8　国籍別・レベル別受講者

	レベル 国籍	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	合計 延べ数	実数
		延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数		
1	中国	33	35	58	47	39	59	21	292	225
2	台湾	1	2	8	5	9	5	5	35	20
3	フランス	15	1	7	2	3	0	0	28	22
4	ドイツ	11	5	6	1	0	1	0	24	20
5	アメリカ合衆国	1	3	2	7	0	1	0	14	8
6	インド	7	4	0	0	3	1	0	15	13
6	オーストラリア	4	0	6	0	4	1	0	15	9
6	香港	0	0	1	5	0	5	4	15	4
9 位～52 位計		52	26	19	21	12	13	2	145	120
合計		124	76	107	88	70	86	32	583	441

合計 52 カ国（昨年度 46 カ国）のうち、受講者が最も多いのは例年通り、中国であった。ただ、昨年度は全受講者に対する割合が約 60%であったのに対し、2022A1A2 は 50%となり、中国以外の受講者が増えたことがわかる。中国以外の国別の受講者を見ると、昨年度は 2 位インド、3 位台湾、4 位アメリカ、5 位タイ、6 位シンガポールと、アメリカ以外はアジアの国が上位を占めていたが、2022A1A2 では、3 位フランス、4 位ドイツ、5 位アメリカ、6 位オーストラリア（インド、香港が同率 6 位）と、上位 6 位までに欧米とオセアニアの国が 4 つ入ったが、これは、大学院における交換留学生が増えたことと関連しており、多様な国籍の学生が共に学ぶ形が戻りつつあると言える。

2）専攻日本語教室受講者

S1S2 の説明でも述べたが、2017 年度より都市工学、システム創成系日本語教室は、工学系日本語教室のオンライン登録システム「STAR」（Student Tools for Access and Review）を共有して使用しており、それによって、専攻日本語教室における工学系の受講者が増加したが、コロナ禍においては受講者の伸びはあまり見られなかった。しかし、2022A1A2 では、都市工学日本語教室（27 名→54 名）、システム創成系本語教室（21 名→27 名）と受講者数が増加した。内訳を見ると、専攻の学生の他、工学系および他専攻の学生の増加が目立っている。これは、対面での授業が受けられない学生がオンライン授業を継続した都市工学日本語教室やハイブリッド授業をおこなったシステム創成系日本語教室を受講した結果とも考えられる。また、唯一夜間の授業を提供している IME の受講者も昨年の 6 名から 13 名に増えており、それぞれの日本語教室が特色あるコースを提供したと言えよう。

表 9　A1A2 専攻日本語教室受講者数（実数）　（）内は単位希望者

専攻	初級 I	初級 II	中級	上級	合計
社会基盤学	10(9)	19(18)	—	—	29(27)
都市工学	都市工 10 工学系 5･他 3	都市工 3 工学系 3･他 2	都市工 6 工学系 6･他 2	—	19(15) 14(4)
	10(8) 5(0) 3(2)	3(2) 3(1) 2(1)	6(5) 6(3) 2(0)		7(3)
システム創成系※	※ｼｽ創 9 工学系 3・他 0	ｼｽ創 1 工学系 4・他 1	ｼｽ創 3 工学系 5･他 1	—	※8(5) 10(1)
	9(4) 3(1)	1(0) 4(0) 1(0)	3(2) 5(0) 1(0)		2(0)
IME	—	—	IME 5 工学系 1・他 1	IME 7 工学系 0・他 0	*12 1 1

※システム創成系の初級は複数コースの修了者有り。合計は実人数。

* IME 日本語教室は単位制なし

2.5.4　A1A2 修了者

次に 2022 年度 A1A2 の修了者について報告する。

1）工学系研究科日本語教室修了者

工学系日本語教室全体の修了者は、表10にあるように、延べ401名、実数306名、単位取得者は延べ207名、実数163名であった。実数で見ると受講者実数（441名）に対する修了者実数306名の割合は69%で、統計を取り出してから最高値であった2021A1A2（オンライン授業）[5]の80%から11ポイント減ったが、コロナ前の2019年A1A2の65%からは4ポイント増え、対面授業としては以前と変わらず約7割の修了率を保っている。

単位取得者数は延べ数で84名、実数で71名であったが、単位取得率は延べ数（31%→40%）、実数（33%→43%）共に昨年度より高くなった。他専攻の単位取得者数は表10に見られるように、情報理工学系が37名（44%→66%）、新領域研究科が15名（62%→60%）、他研究科が24名（62%→55%）、全学交換留学生（5名 100%→ 22名 92%）であり、USTEP生の他、情報理工学系で単位取得率が挙がっていることがわかる。

表10　研究科別・レベル別修了者　　（ ）は単位取得学生数

レベル／研究科	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級 1	上級 2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科	44	26	50	30	26	30	6	212(84)	167(71)
②情報理工学系	16	9	16	6	13	6	2	68(40)	56(37)
③新領域研究科	2	3	3	2	6	2	2	20(12)	15(9)
④全学交換留生	7	2	9	5	3	13	4	43(38)	24(22)
⑤他研究科	6	8	8	17	4	13	2	58(33)	44(24)
合計①～⑤	75	48	86	60	52	64	16	401(207)	306(163)

2）専攻日本語教室

表 11 は専攻日本語教室の修了者数（実数）である。

[5] オンライン授業が軌道に乗った 2021A1A2 で修了者数が 80%に達した理由としては、通学に時間がかからない、多少体調が悪い場合でもオンラインであれば受講できる、などが挙げられる。(2021 年度年報 2.6 章「日本語教室のコース評価」参照)

表 11　A1A2 専攻日本語教室修了者（実数）　（　）内は単位取得者

専攻	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	上級	合計
社会基盤学	19(19)	7(7)	—	—	26(26)
都市工学	都市工 10(8) 工学系 5(0)・他 3(2)	都市工 3(3) 工学系 2(1)・他 2(1)	都市工 5(5) 工学系 4(3)･他 1(0)	—	35(23)
	18(10)	7(5)	10(8)		
システム創成系	ｼｽ創 8(4) 工学系 3(1)・他 0	ｼｽ創 1(0) 工学系 3(0)･他 1(0)	ｼｽ創 3(2) 工学系 4(0)･他 1(0)	—	※18(6)
	11(5)	5(0)	8(2)		
IME※2		—	IME 3　工学系 1 他 0	IME 9 工学系 1 他 0	*14

※システム創成系の初級は複数コースの修了者有り。合計は実人数

* IME：個人指導は利用者数の延べ人数。修了者数は対象外

社会基盤学専攻は初級Ⅰと初級Ⅱが修了すると、修了要件の単位として 2 単位が付与されることもあり、2020A1A2、2021A1A2 でも受講者全員が単位を取得している。都市工学専攻とシステム創成系専攻日本語教室は 1 コマ 2 単位が付与されるが、システム創成系における単位取得率は 29%と低い。反対に都市工学では 66%の学生が単位を取得し、昨年度の 70%に近い取得率となっている。

いうまでもなく、日本語学習者の中には単位を必要としない学生もおり、単位取得が学習上の目的でない場合も多い。2 年半ぶりに対面授業が再開された 2022A1A2 を機に、より一層、個々の学習者に寄り添い、学びを支援する体制を整えていきたい。

2.6　日本語教室のコース評価

日本語教室では、2013 年度冬学期よりオンラインコース評価を学期末に実施している。2022 年度 A1A2 学期は、下記の通り実施した。

2.6.1. 2022 年度 A1A2 学期オンラインコース評価概要

実施期間　：2023 年 1 月 4 日～2023 年 1 月 31 日

対象者　　：日本語教室在籍の研究生、修士、博士、研究員、交換留学生、配偶者

回答者　　：計 255 名（初級 97 名・中級[1]119 名・上級 39 名）

実施言語　：英語

質問項目[2]　：

１．回答者身分

２．コースの目標は明確だった

３．授業のスピードは適切だった

４．講義内容は分かりやすかった

５．授業の課題の量はどうだったか

６．担当教員は熱意を持って授業を行っていた

７．当該コースの授業を受けて学習意欲が高まった

８．当該コースの内容は自分にとって将来、役に立つと思う

９．当該授業科目の予習復習に毎週どのぐらい時間を使ったか

１０．当該コースに出てできるようになったこと

１１．当該コースについての自由記述（受講者数、テスト、クイズ、課題など印象に残ったこと）

１２．2022A1A2 学期の授業形態は、対面授業、オンライン授業、または対面とオンライン授業のミックスのどちらがいいと思うか

１３．対面授業になった場合、授業に参加できるか

１４．質問１３で「参加できない」と答えた人は、その理由

１５．質問１３で「現時点ではまだわからない」と答えた人は、その理由

１６．現在、講義を受講しているまたは研究を行っているメインのキャンパスはどこか

１７．質問１６で「その他」と答えた場合、その理由

１８．オンライン授業の形式はどれがいいと思うか

１９．履修登録の手続きは分かりやすかった

---

[1] 「多文化理解プロジェクト」は中級 3～上級 1 を対象としているが、受講者において中級 3 レベルの学生が多かったことから、コース評価においては、中級としてカウントした。

[2] 23～27 番の質問については、2022A1A2 において日本語教室の Zoom office の使用率が非常に低かったことから、今回は分析対象から除外する。

２０．質問１９の理由
２１．プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた
２２．質問２１のプレイスメントテストに関するコメント
２３．日本語教室（JLCSE）の Zoom office を利用したか
２４．質問２３で「利用した」と答えた場合、どんなことに利用したか
２５．質問２４で「その他」と答えた場合の具体的な内容
２６．質問２３で「利用しなかった」と答えた場合、どうして利用しなかったか
２７．質問２６で「その他」と答えた場合の具体的な内容
２８．日本語教室に期待していること
３０．質問２８で「その他」と答えた場合の具体的な内容

回答方法　：上述の質問 1、5、9、12、13、16、18、23、24、26、28 は、各々に選択肢を設け、2～4、6～8、19、21 は、質問文に続き、「1.まったく思わない、2.あまり思わない、3.そう思う、4.強くそう思う」の 4 件法で回答を求めた。また、10、11、14、15、17、20、22、25、27、29 は自由記述形式で回答を求めた。

2.6.2. 結果の概要

以下では、(1)授業内容について、(2)来学期の授業形態等について (3)履修登録について、(4)その他 4 点について、受講生全体の傾向と初級・中級・上級のレベル別の傾向に着目した結果の概略を報告する。

(1) 授業内容について

授業内容に関連する質問 2～9 について述べる。まず、これらのうち 4 件法（「1.まったく思わない、2.あまり思わない、3.そう思う、4.強くそう思う」）で回答を求めた 2～4、6～8 の 6 つの質問項目の結果を述べる。質問 2～4、6～8 は、質問 2「コースの目標は明確だった」や質問 3「授業のスピードは適切だった」のような肯定的な内容に対し回答を求めているため、点数が「強くそう思う」の 4 点に近いほど、受講生は授業内容に満足していると解釈できる。初級・中級・上級のレベル別に 6 つの質問（質問 2～4、6～8）における回答の平均値を算出し、表 1 に、質問 2～4、質問 6～8 における平均比と標準偏差を示した。表 1 に示したように、初級・中級・上級のすべてのレベルにおいて 3.42～3.81 点の結果が示された（表 1)。この結果から、本教室の受講生は、レベルによらず、概ね授業内容や形式に満足していると考えられる。また、質問 6 の「担当教員は熱意を持って授業を行っていた」については、全レベルで平均値が 3.6 以上と高い数値が得られており、本教室の教員が熱心に授業を行っていると受講生から高い評価が得られていることが示唆された。

表 1　レベル別の授業内容に関する項目の平均値と標準偏差

質問 / レベル	質問 2 コースの目標は明確だった	質問 3 授業のスピードは適切だった	質問 4 講義内容は分かりやすかった	質問 6 担当教員は熱意を持って授業を行っていた	質問 7 当該コースの授業を受けて学習意欲が高まった	質問 8 当該コースの内容は自分にとって将来役に立つと思う	授業総合満足度 (質問 2～4, 6～8 の平均)
初級	3.65 (0.64)	3.44 (0.64)	3.58 (0.59)	3.81 (0.46)	3.42 (0.61)	3.60 (0.55)	3.58
中級	3.56 (0.59)	3.45 (0.55)	3.49 (0.58)	3.66 (0.52)	3.42 (0.57)	3.52 (0.55)	3.52
上級	3.56 (0.63)	3.59 (0.63)	3.59 (0.63)	3.67 (0.47)	3.54 (0.59)	3.62 (0.49)	3.59
初級、中級、上級の平均	3.59 (0.04)	3.49 (0.07)	3.55 (0.05)	3.71 (0.07)	3.46 (0.06)	3.58 (0.04)	3.57

次に、各々選択肢を設けた質問項目について、質問項目別に結果を述べる。質問 5「授業の課題の量はどうだったか」について、図 1 にその結果を百分率（%）で示す。図 1 から、初・中・上級のレベルによらず、「適切である」という回答が最も多く、いずれのレベルにおいても 80%以上であった。多忙な工学系の学生に過度な負担を与えない程度の課題の量でありながら、学習を十分にサポートできる適切な量になっていると考えられる。

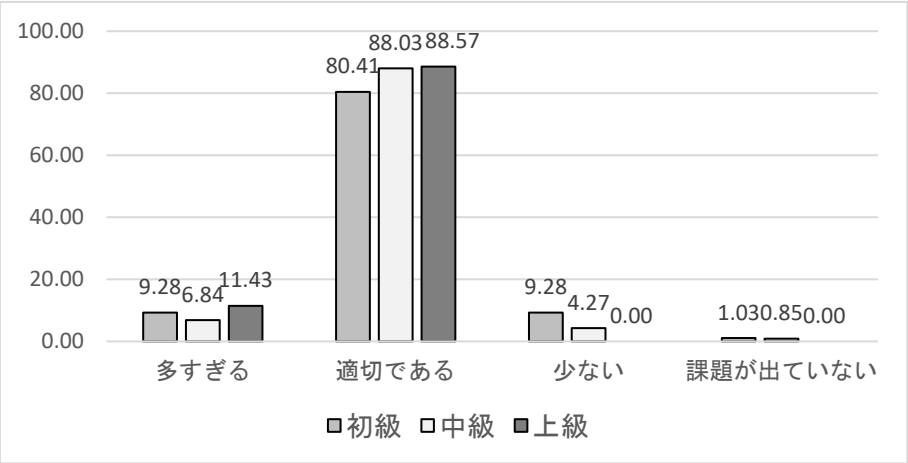


図 1　質問 5「授業の課題の量はどうだったか」に対する回答（%）

質問 9「授業の予習・復習に毎週どの程度の時間を使ったか」について、図 2 にその結果を百分率（%）で示す。図 2 を見ると、初・中・上級のレベルによらず、「1～2 時間」という回答が最も多く（初級：34.0%、中級：50.4%、上級：48.7%）、受講生にとって、過度な負担にならない程度の予習・復習時間になっていると考えられる。一方、初級の受講生の場合、「2～3 時間」という回答も 29.9%であり、中級（16.8%）と上級（15.4%）の受講生より長い時間を予習・復習に使っていた。これは、初級レベルにおいて、ひらがな、カタカナ、漢字、

語彙、文法クイズ類が多く含まれていることから、受講生が中級、上級より長い学習時間を自分で確保する必要があるため、比較的長い学習時間を使っていると回答したものであると考えられる。

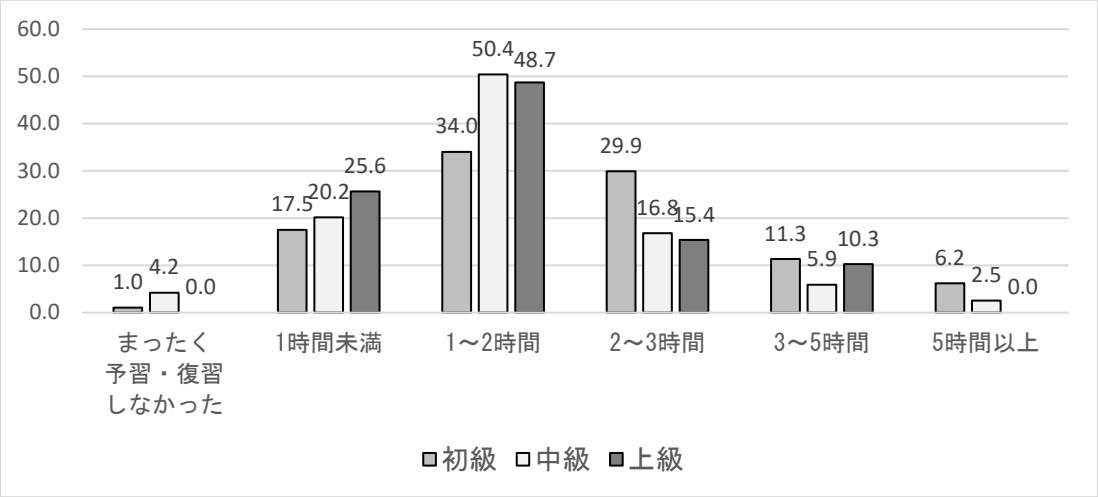


図 2　質問 9「当該授業科目の予習復習に毎週どのぐらい時間を使ったか」に対する回答（%）

(2) 来学期の授業形態等について

本節では、授業に関連する質問 12、13、16 について述べる。まず、希望する授業形態について聞いた質問 12「2023S1S2 学期の授業形態は、対面授業、オンライン授業、または対面とオンライン授業のミックスのどちらがいいと思うか」について、図 3 にその結果を百分率（%）で示す。レベル別に回答を集計した結果、初級、中級、上級ともに「対面授業」という回答が最も多く、初級 79.4%、中級 68.1%、上級 89.7%であった。新型コロナウイルスによる影響がまだ残るものの、長い自粛期間を経て、学生も「対面授業」の継続を望んでいるものと考えられる。「対面授業」の次に多かったのは、「対面授業とオンライン授業のミックス」（初級 17.5%、中級 26.9%、上級 10.3%）であったが、受講生には、対面授業で直接、教員やクラスメートと一緒に学びたいというニーズとオンライン授業で自宅や研究室からも受講したいという両方のニーズがあると考えられる。

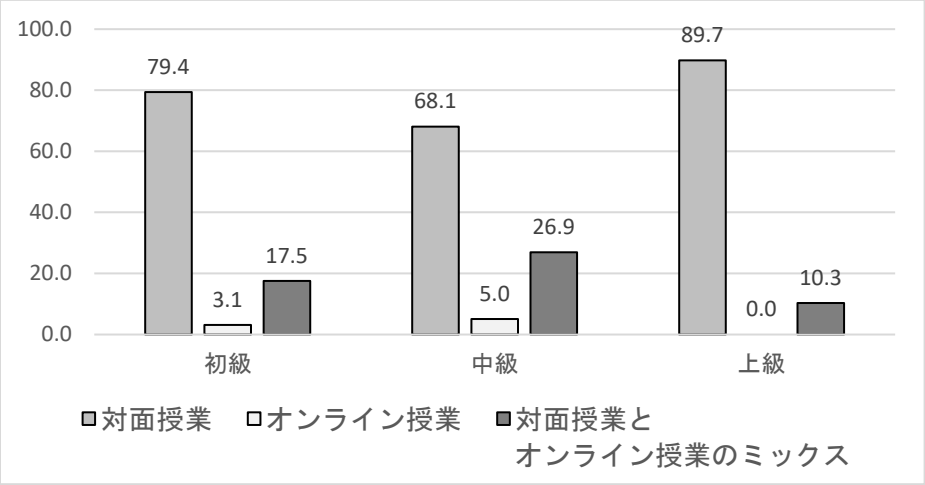


図 3　質問 12「2023S1S2 学期の授業形態は、対面授業、オンライン授業、または対面とオンライン授業のミックスのどちらがいいと思うか」に対する回答（%）

次に、授業の参加可否について聞いた質問 13「対面授業になった場合、授業に参加できるか」について、図 4 にその結果を百分率（%）で示す。レベル別に回答を集計した結果、初級、中級、上級ともに「参加できる」という回答が最も多く、初級 82.5%、中級 77.3%、上級 92.3%であった。次に「現時点ではまだわからない」という回答が多かったが、調査時期が 1 月であり、来学期の日程が明確に決定していない学生もいたためだと考えられる。

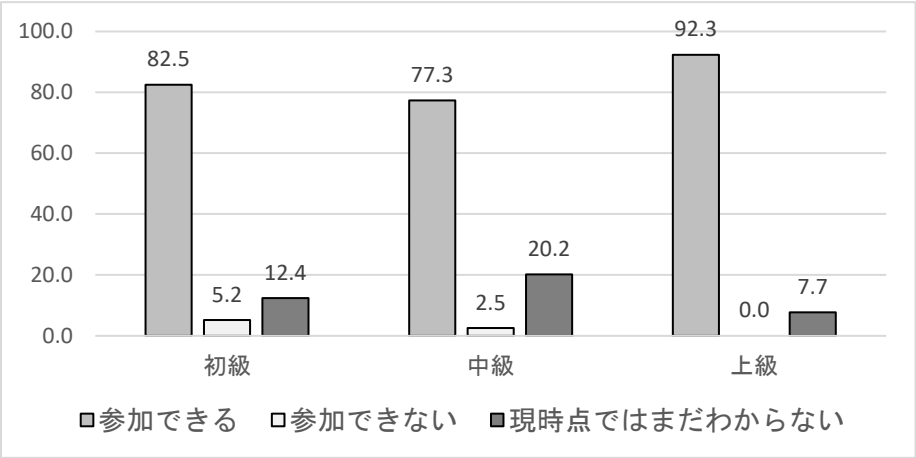


図 4　質問 13「対面授業になった場合、授業に参加できるか」に対する回答（%）

現在の受講場所について聞いた質問 16「現在、講義を受講しているまたは研究を行っているメインのキャンパスはどこか」について、図 5 にその結果を示す。図 5 からわかるように受講生のほとんどは本郷キャンパスをメインキャンパスとしており、次に一部駒場キャンパスの学生が参加していることがわかる。したがって、今後対面授業を実施するとしても、

本郷キャンパスの学生が多数であることから、参加に大きな問題はないと考えられる。

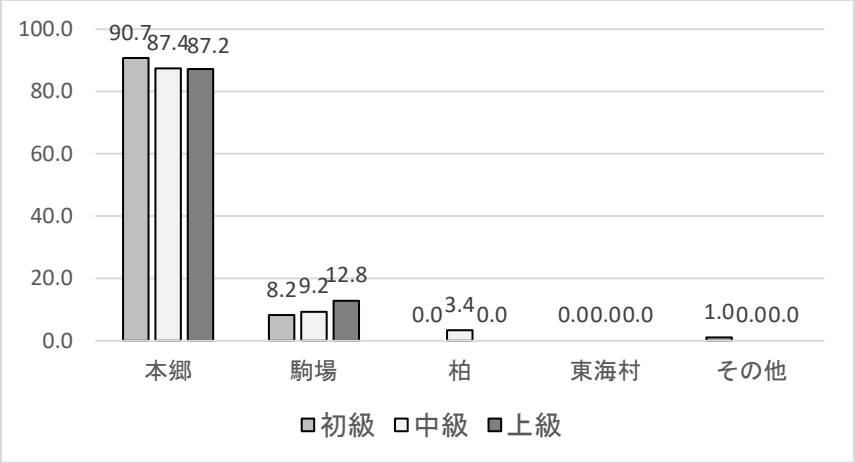


図 5　質問 16「現在、講義を受講しているまたは研究を行っている
メインのキャンパスはどこか」に対する回答（%）

最後に、質問 18「オンライン授業の形式はどれがいいと思うか」について、図 6 にその結果を示す。2023S1S2 は対面授業を予定しているが、オンライン授業のニーズを把握しておくため、以下に回答結果を述べる。図 6 を見ると、「Zoom を用いたリアルタイム型授業」（初級 56.7%、中級 62.2%、上級 56.4%）を望む学生がいずれのレベルでも最も多く、次に「オンデマンド型授業とリアルタイム授業のミックス」（初級 32.0%、中級 31.1%、上級 25.6%）という回答が多かった。受講生からはリアルタイムで教員や他の学生とのインタラクションを通して学びたいというニーズが最も高く、加えて好きな時間に自律的に学習できるオンデマンド型授業を併用したオンライン授業の形式を望んでいることが示唆された。

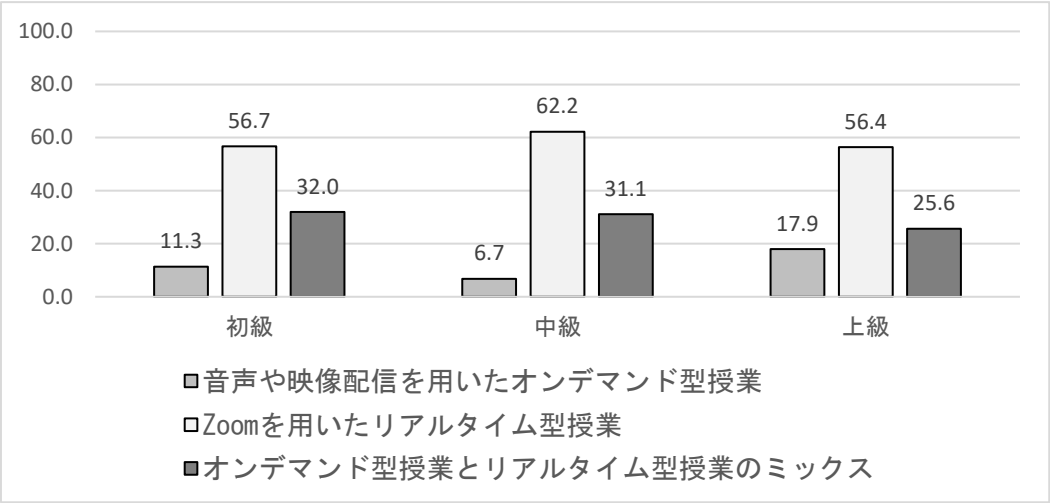


図 6　質問 18「オンライン授業の形式はどれがいいと思うか」に対する回答（%）

(3) 履修登録について

日本語教室で日本語学習をするためには、全員が必ず STAR システムに登録をしたうえで、プレイスメントテストを受験し、履修登録を行うことが必要である（2 章 3 節参照）。履修登録についての質問項目は質問 19～22 であり、本節では、これらのうち 4 件法で回答を求めた質問 19 と質問 21 の回答結果について述べる。まず、質問 20「履修の手続きは分かりやすかった」について、得られた 255 例の回答を百分率で示す（図 7）。図 7 に示すように、「そう思う」という回答が 62%、「強くそう思う」という回答が 33%であった。したがって、全体の 95%の受講生が現在の履修登録の形式が分かりやすいと評価していることがわかる。

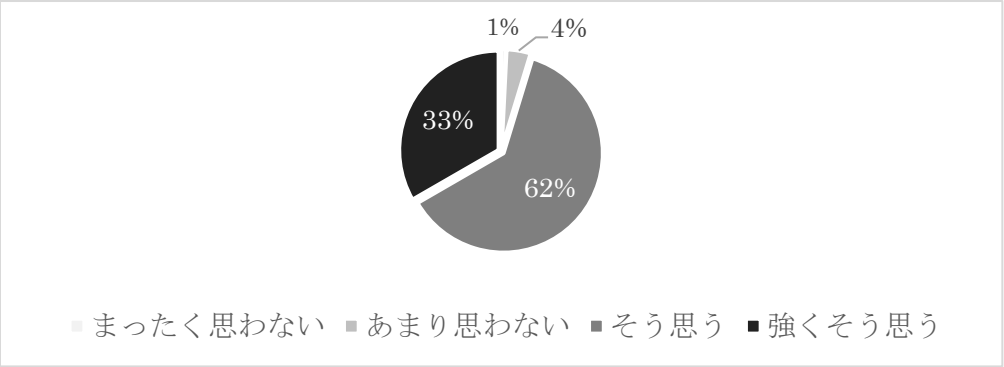


図 7　質問 19「履修登録の手続きは分かりやすかった」に対する回答（%）

質問 21「プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた」について、得られた 203 例の回答を百分率で示す（図 8）。図 8 に示すように、「そう思う」という回答が 64%、「強くそう思う」という回答が 31%であった。したがって、全体の 95%の受講生が履修登録の手続きにおいて、プレイスメントテストの手続きによるコース選択は、概ね円滑にできていると評価していることが示された。

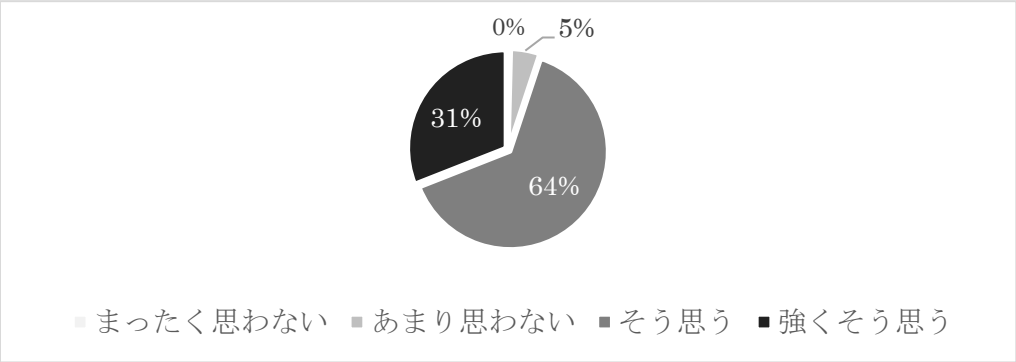


図 8　質問 21「適切なレベルのコースを履修することができた」に対する回答（%）

(4) その他

最後に、日本語教室に期待していることに関する質問項目についてその結果を述べる。質問 28 では、「日本語教室に期待していること」について、「日本語学習」「日本文化体験」「日本人学生との交流」「留学生との交流」「大学生活･就職などの日本語支援」「その他」のうちから、該当する項目をすべて選択可として回答を求めた。レベル別の回答の合計は、初級で 274 例、中級で 350 例、上級で 114 例であった。本節では、レベル別の日本語教室への期待を分析するため、以下得られた結果をレベル別に図 9 に示す。

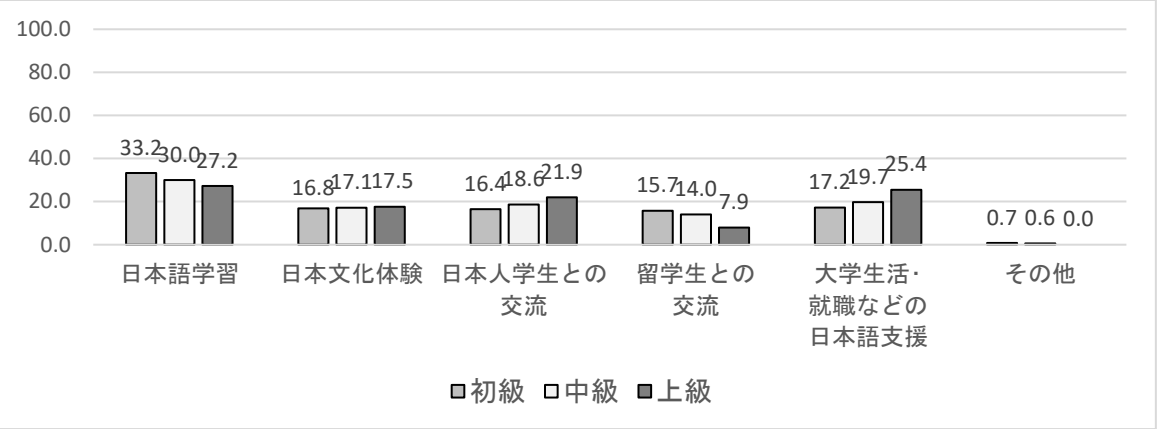


図 9　質問 28「日本語教室に期待していること」に対する回答（%）

図 9 に示すように、全レベルにおいて「日本語学習」の回答数が最多であった（初級：33.2%、中級：30.0%、上級：27.2%）。したがって、受講生は日本語レベルにかかわらず、日本語教室に対して「日本語学習」の機会や良質な授業の提供を最も期待していると考えられる。一方、その他の項目については、レベルにより期待する内容が異なることが示された。以下、レベル別に回答結果とその理由を探る。

まず、初級レベルにおいて最も回答数が多いのは「日本語学習」（33.2%）で、次いで「大学生活･就職などの日本語支援」（17.2%）、「日本文化体験」（16.8%）、「日本人学生との交流」（16.4%）「留学生との交流」（15.7%）がそれに続く。初級レベルを受講する学生には、学習を開始してから間もない留学生が多いことから、自身の日本語学習とそれに対する支援の必要性を強く感じている場合があることが考えられる。それに加え、初級の学生でも「大学生活･就職などの日本語支援」を求める声も一定数いることが示されたことから、就職活動を支援する「日本組織事情」をまだ受講できるレベルに至っていない初級レベル学生のための就職支援として、継続してラーニングアドバイザーセッション（4 章 3 節参照）等を活用したサポート体制の構築が必要であると考えられる。さらに、「日本文化体験」や「日本人学生との交流」「留学生との交流」についても期待しているという回答が得られたことから、日本語教室がこれまでに提供しているビジターセッションや International Lounge への参加を促すことで、こうしたニーズに答えることができると考えられる。

次に、中級コースでも最も多かった回答は「日本語学習」（30.3%）で、次いで「大学生活・就職などの日本語支援」（19.7%）、「日本人学生との交流」（18.6%）「日本文化体験」（17.1%）」、「留学生との交流」（14.0%）の順となっている。中級レベルでも、日本語学習の次に「大学生活・就職などの日本語支援」を期待するという回答が多く得られたことから、アカデミックな場面やビジネス場面で応用できる日本語学習を希望していると考えられる。こうした学生に対しては、日本語教室で提供している中級以上の技能別クラスの中で、アカデミックな教材を取り上げている「聴解」「文章」クラスや、上級に進級後、日本での就職活動を希望する学生に向けた「日本組織事情」クラスへの受講を促すことで、そのニーズに応えることができると考えられる。さらに、中級レベルでも、「日本人学生との交流」や「日本文化体験」「留学生との交流」に対するニーズも確認された。

上級コースにおいても、「日本語学習」（27.2%）が最も多く、次いで「大学生活・就職などの日本語支援」（25.4%）「日本人学生との交流」（21.9%）「日本文化体験」（17.4%）「留学生との交流」（7.9%）の順に回答が多かった。上級学習者は、特に「大学生活・就職などの日本語支援」と「日本人学生との交流」に関する回答が初級・中級よりも多かったことから、日本語能力が向上するにつれ、就職や日本語母語話者との交流というより高い目標を持ち、学習に取り組んでいることがうかがえる。

以上のことから、全レベルに共通する日本語学習のニーズに応える一方で、レベル別の期待に沿ったコース内容を検討していくことも必要である。さらに、これまで日本語教室が行ってきたアカデミックな場面やビジネス場面での日本語学習の支援や日本人学生・他の留学生との交流活動、日本文化体験を継続・拡充させていくことで、より受講生の期待に応えた学習の機会や交流の場を提供する重要性が再確認された。

2.6.3. まとめ

以上のコース評価における分析結果から、留学生は全レベルにおいて、概ね日本語教室の授業に満足し、日本語学習が彼らの日常生活および研究生活に貢献していることが分かった。また、授業に対する期待については、全レベルにおいて、語学中心の学習から交流や文化体験・就職支援など、日本語教室に期待する内容が多岐にわたることが示唆された。

新型コロナウイルスによる影響が少しずつ減少し、対面授業を再開できるようになり、また、学生の対面授業に対する高いニーズを確認することができた一方、従来のオンライン授業による利便性や学習における効率的なツールとしての機能を同時に活かす方向で、コースの改善を図っていく必要があると考えられる。今後は、受講生のニーズをより詳細に把握するために、学期ごとの変更事項を反映したオンラインコース評価を継続して実施するとともに、その結果を分析・考察することで、コースの改善に役立てたいと考える。

2.7　言語使用実態調査

日本語教室では、留学生の研究室等における言語使用の実態を把握し、日本語がどのような状況で必要とされているのかを把握するために、毎年、オンラインによる質問紙調査を実施している。2022 年度 A1A2 学期に行った調査の概要は以下の通りである。

2.7.1 2022 年度 A1A2 言語使用実態調査概要

実施期間　　：2022 年 12 月～2023 年 1 月
対象者　　：日本語教室在籍の修士、博士、研究生、研究員、交換留学生、配偶者
回答者　　：計 150 名
実施言語　　：日本語／英語
主な質問項目：１．母語
２．日本滞在予定期間
３．修了後の進路
４．日本語学習歴
５．日本語を学習する理由
６．研究室での使用言語
７．指導教員から求められる日本語能力
８．学生自身が目指す日本語能力
９．日常生活で日本語ができなくて困ること

2.7.2 結果の概要

（1）母語

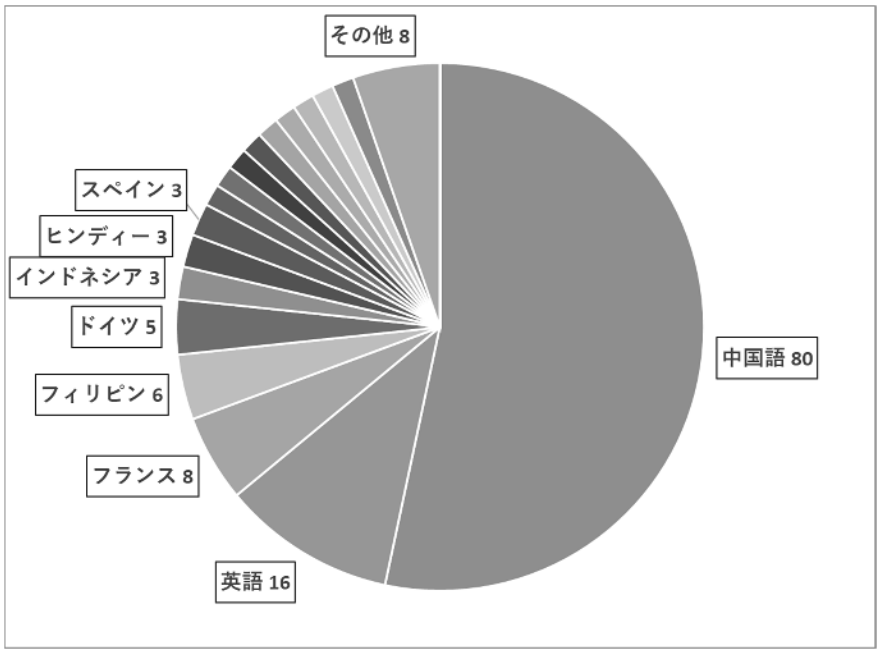


図１　回答者の母語別の割合

回答者の母語について尋ねた結果を図 1 に示す。図 1 から分かる通り、中国語母語話者が 80 名（53%）と最も多い結果となっている。ここ数年、中国語母語話者は常に半数近くを占めている状況が続いているが、今年度も同様の傾向となった。その他の母語では、英語が 2 番目に多いほか、フランス語、フィリピン（タガログ）語、ドイツ語が続き、その他スペイン、イタリアなどのヨーロッパ言語、インドネシア、ヒンディー語などのアジア言語など、計 25 か国語と多岐に渡っている。

（2）日本滞在予定期間

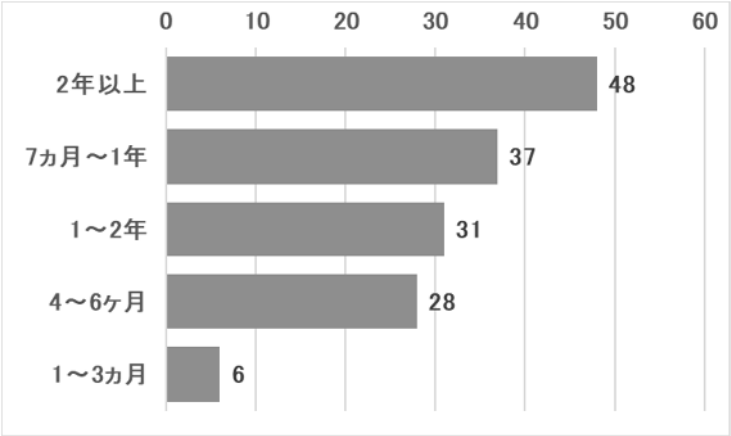


図 2　日本滞在予定期間

日本での滞在予定期間についての回答のグラフを図 2 に示す。期間は 2 年以上が最も多く 48 名（32%）、7 か月～1 年が 37 名（24%）、1～2 年が 31 名（20%）となっており、年単位で滞在する予定の学生が多いことが分かる。大学院で学位を取得することを目指す学生はここに含まれていると考えられる。また、4～6 か月の学生も 31 名（18%）となっており、交換留学などで限られた期間留学する学生も多く含まれている。

（3）修了後の進路

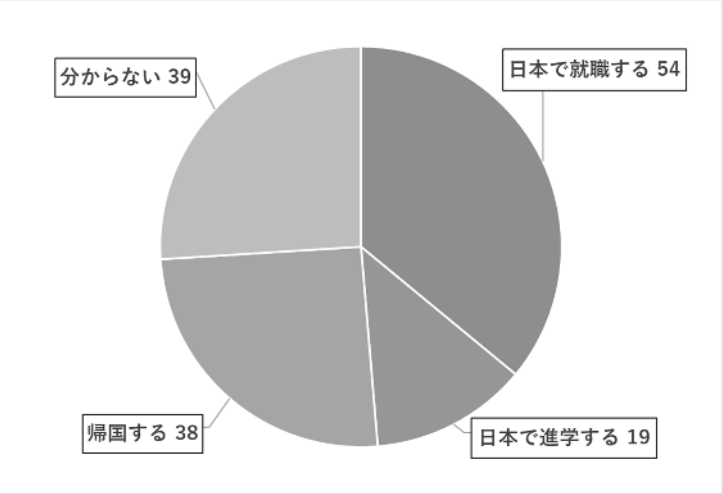


図 3　修了後の進路

図 3 は修了後の進路について尋ねた結果である。回答は、「日本で就職する」が 54 名（36%）と最も多く、次いで「帰国する」が 38 名（25%）、「日本で進学する」が 19 名（12%）であった。一方、まだ「分からない」という回答も 39 名（26%）と多かった。「日本で就職する」「進学する」と答えた学生を合わせると 49%となり、およそ半数の学生が日本に長期滞在するつもりであることが分かる。特に、「日本で

就職する」と回答する学生数は2019年度以降増加しているが、今後の調査においても「就職する」学生が増えるのではないかと考えられる。

東京大学工学系研究科は、全体の方針として「キャンパスの国際化推進と海外からの研究者・留学生の環境整備」を掲げているが、このような試みは引き続き重点的に取り組むことが必要だと思われる。現在、日本語教室では就職支援を目的とした科目を設置しており、今後も学習者のキャリア支援を進めていくことが望ましいと言えよう。

（4）日本語学習歴

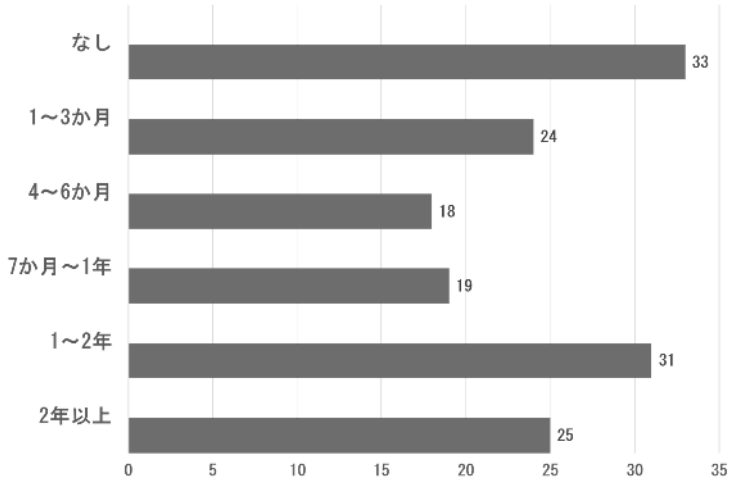


図４　日本語学習歴

母国での日本語学習歴についての回答を図４に示す。

学習歴については１年以上という回答が約４割を占めている（「１～2年」31名（20%）、「２年以上」25名（16%））。これに「１～３か月」「４～６か月」「７か月～１年」を含めると全体の８割程度が、期間は異なるものの、何らかの形で日本語を学習してから来日している学生が多いと言える。一方、学習歴が「なし」と回答した学生も33名（22%）と多い。今後は、ゼロ初級の学生を対象とした教育整備を進めると共に、様々な学習形態および学習経験を持つ学習者に対し、きめ細かな対応が可能な日本語コースの展開が必要となっていくだろう。

（5）日本語を学習する理由

今回新たな質問項目として「日本語を学習する理由」（複数回答）について尋ねた。その結果を図5に示す。

回答数が最も多かったのが「日常生活に必要なため」（125名）、2番目に多かったのが「日本のサブカルチャー（アニメ、ゲームなど）に興味があるため」（95名）と「友達を作るため」（93名）であった。続いて「日本の伝統文化（茶道、華道、書道など）に興味があるため」（76名）、「日本で就職するため」（72名）が多く、「研究に必要なため」も55名という回答数であった。

留学生活において、日常生活の様々な場面で日々必要となる日本語スキルについて、需要が非常に高いことが分かる。この点については後述する「日本語ができなくて困ること」に関する自由記述においても、同様の回答が数多くあることから、学生が日本語を習得する必

要性を高く感じていると考えられる。また、日本語を学習する動機付けとして、日本のアニメやゲームなどのサブカルチャーだけではなく、日本の伝統的な文化についても高い関心を持っていることがうかがえる。

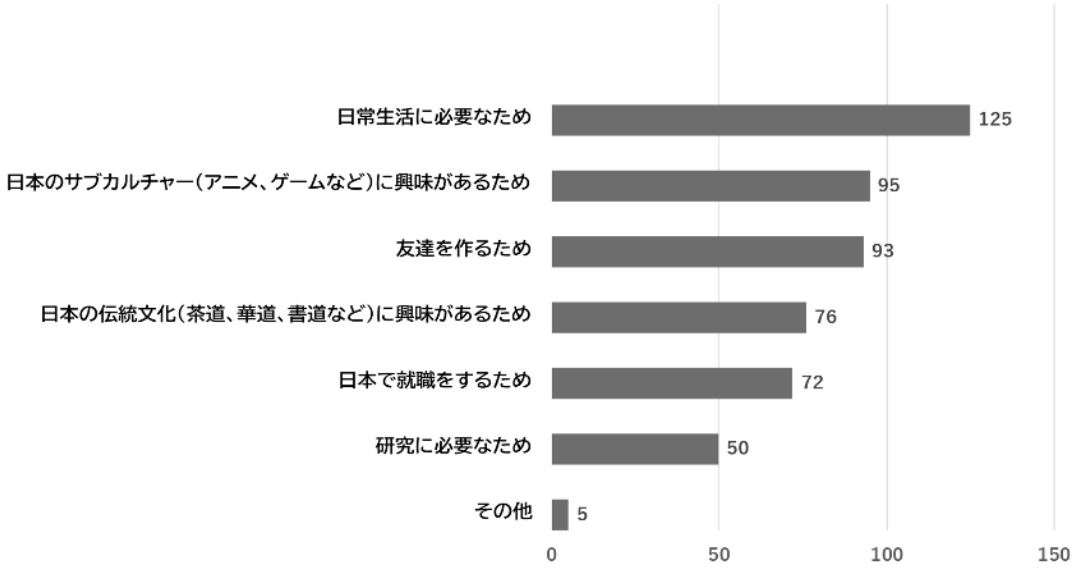


図 5　日本語を学習する理由（複数回答）

（6）研究室での使用言語

【使用言語と内容および話す相手の関係】

研究室内でのコミュニケーションにおける使用言語について調査を行った。研究室での使用言語のうち、内容を「研究に関する会話」と「雑談」の二通り、話す相手を「指導教員」、「日本人学生」、「留学生同士」の三通りに分け、計 6 パターンの会話場面において、日本語および英語の使用状況を比較した。

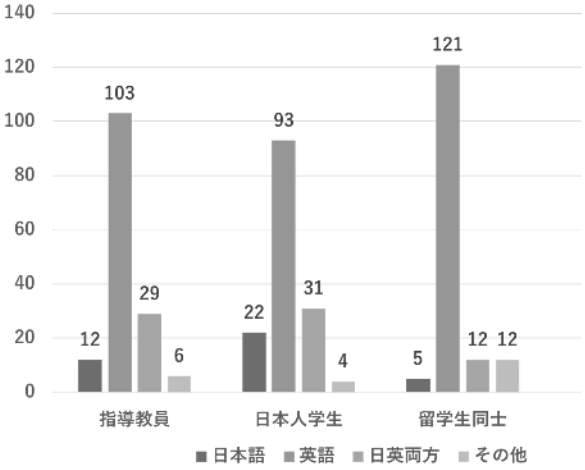


図 6　研究に関する会話

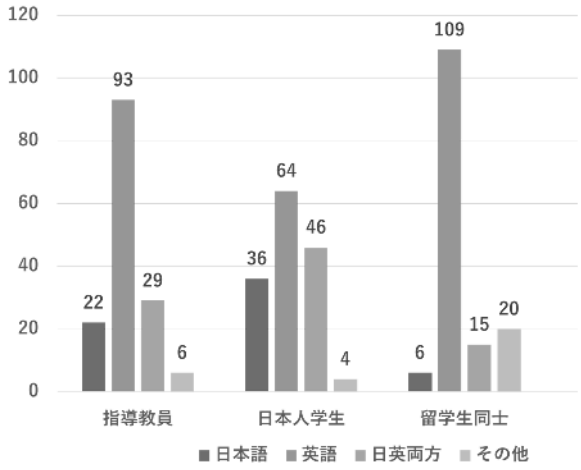


図 7　雑談

図 6 に示すように、「研究」に関する会話では「英語」の使用率が総じて高い結果となり、話す相手に関わらず同様の結果が見られた（「指導教員」103 名（68%）、「日本人学生」93 名（62%）、「留学生同士」121 名（80%））。研究に関してコミュニケーションを取る際には、主に英語を使用する場面が非常に多いことが分かる。

一方、図 7 から分かるように、「雑談」においては、特に相手が「日本人学生」の場合、「日本語」の使用率が上がり、36 名（24%）という結果であった。相手が「指導教員」の場合においても、図 6 の「研究に関する会話」と比較すると 22 名（14%）と上昇し、雑談をする場面では日本語を交えて会話する場面が増加していることが分かった。一方で「留学生同士」では雑談における日本語の使用率は上がらず、6 名（4 %）にとどまった。

以上のことから、留学生の言語使用は、雑談時には日本語の割合が高くなる傾向があり、特に日本人学生が相手の場合には、際立って多くなることが分かった。研究室において日本人学生とスムーズにコミュニケーションができれば、研究生活や留学生活を円滑に進めていくことが可能となる。日本語による円滑で適切な運用を支えるような日本語教育が必要であると考えられる。

【研究に必要な言語使用の状況】

研究発表、打ち合わせ（ラボ・ミーティング）、研究に関する資料の 3 パターンについて、言語使用状況を調査した（図 8）。

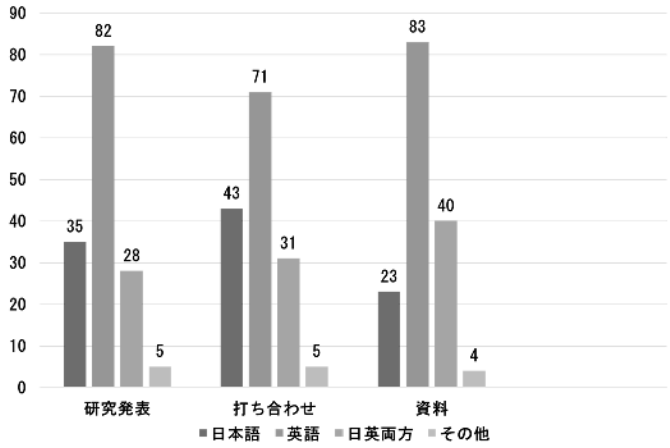


図 8　研究に必要な言語使用の状況

上記 3 パターンのどの場面においても「英語」が多く使用されているということが分かった。詳しく見てみると、「打ち合わせ」「研究発表」においては日本語の使用率がやや高く、それぞれ 43 名（28%）、35 名（23%）となった一方、研究に関する「資料」においては 23 名（15%）と低い結果となった。以上のことから、研究に従事する上で、英語の使用率が非常に高いということが言えるが、その一方で、研究発表や打ち合わせなどの話し言葉の使用場面においては日本語が必要となっていることが分かる。

研究に必要な言語使用の状況は、研究室ごとに大きく異なり、英語が優勢な研究室もあれば、日本語が優勢な研究室もある。そのため、調査結果は、調査実施時における学生の所属研究室の割合に左右されると推測される。来年度以降も調査を重ね、データを蓄積していく必要がある。

（7）求められる日本語能力・目指す日本語能力

指導教員から求められる日本語能力と、学習者が目指す日本語能力について、図 9 と図 10 に示す。

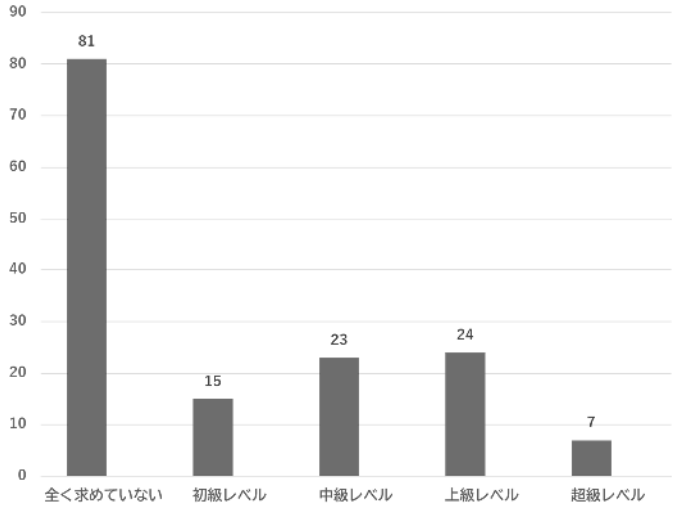


図 9　指導教員から求められる日本語

まず、求められる日本語能力について述べる。図 9 のグラフからも分かるように、指導教員から求められる日本語能力は初級から上級までさまざまである。「まったく求めていない」という回答の割合が 81 名（54%）と半数近くを占めているが、次に多いのは「上級レベル」（23 名、16%）、「中級レベル」（23 名、15%）であった。すなわち、(6)で述べた結果から明らかなように、研究を遂行する上では英語が必須であるものの、雑談や打ち合わせをはじめコミュニケーション上日本語が必要な場面が多くあり、研究室によっては高い日本語能力を身に付ける必要があるようだ。

次に、学習者が目指す日本語能力について図 10 に示す。

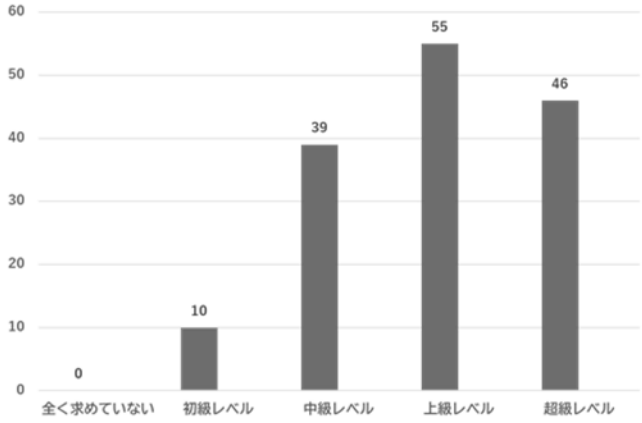


図 10　学習者が目指す日本語

「あなたはどの程度の日本語能力を目指していますか」という質問に対する答えを見ると、上級レベルが 55 名（36%）、超級レベルが 46 名（30%）となり、全体の 8 割近くの学生が上級レベル以上の日本語能力を目指していることが明らかになった。

また、中級レベルという回答も 39 名（26%）と多い。

この二つのグラフの結果をまとめると、研究生活においては日本語がそれほど求められていない状況であったとしても、日本に留学している学習者はより高度なレベルの日本語を身につけたいと望んでいることが分かる。

さらに「具体的にどんな日本語を身につけたいか」という質問において、自由記述による

回答を見ると、「実際の場面で十分に対応可能な日本語力を習得したい」という学生たちの高い学習動機を知ることができる。具体的には、日常生活で自由に日本語を使いこなせるスキルに加え、「どんな場面でも対応できる日本語能力を身につけたい」、「自分を十分に表現し、周りの仲間や教授の話を理解できるようになりたい」など、より高度な日本語能力を求めている。

また、研究室内での場面に関連して、「研究室での日常生活や学術的な議論など、日本語を理解し、その議論に参加したい」、「研究室のメンバーともっと気軽におしゃべりできるようになりたい」「研究や発表などに困らない流暢な日本語能力が望ましい」、さらには就職を見据えて「ビジネスシーンで流暢な日本語を話せるようになりたい」等の記述があった。

このように学生たちが日本語学習への高い意欲や到達目標を持っていることが分かる。日本語教室においては、今後も引き続き初級レベルから中級・上級レベルでの多様で充実したコース内容を展開し、より多くの学習機会を提供していく必要があると考えられる。

(8) 大学および大学以外の日常生活で日本語ができなくて困ること

「日常生活において日本語ができなくて困ること」についての質問に対しては、非常に多くの自由回答が得られた。この記述からどのような場面で困難を感じているかが見えてくる。

8-1. 大学内での場面

事務手続きを行うオフィスでのやり取りや学内のお知らせが主に日本語で行われ、英語を使用しても詳細な情報が得にくいことや、研究を行う場面で、研究室での使用言語が主に日本語であるため、日本人学生とコミュニケーションを取ることが難しいと感じているようである。また、専門的な分野での適切な日本語が分からないことや、実験器具やソフト等を使用する場面でも困難を感じていることが分かった。

8-2. 大学以外の場面

こちらも非常に数多くの回答があり、困難を感じている場面は多岐に渡っている。特に銀行や行政手続き、日常的な買い物やレストランでの注文時に難しさを感じるという回答が多かった。日々、様々な場面において日本語によるコミュニケーションを取っていく中で、日本人の友人や翻訳を駆使しつつ、問題解決を図っている様子も見られる。また、日本で就職活動をする、日本人の友達を作る、地方へ旅行する、美容院などの場面を挙げる回答も多く見られた。

このような回答結果から、学生は日常生活においてより円滑なコミュニケーションを望んでいることが分かる。これらのニーズを踏まえ、日本での生活を送るうえで日本語による困難な場面ができる限り少なくなっていくような支援が必要であると考える。

(9) まとめ

今年度の言語使用実態調査からは、以下の傾向が見られた。

1．学生の母語は中国語の比率が最も高いが、計 25 か国語と多岐に渡っている。
2．日本での滞在予定期間は 2 年以上が最も多く、その他も年単位で滞在予定の学生が多い。
3．学生の約半数が日本での進学や就職を目指している。
4．日本語を学習する理由として日常生活に必要なためとの回答が最も多い。他にも日本文化への関心や友達作りのためなどの回答も多くなっている。
5．8 割程度の学生は来日前に日本語を学習しており、その半数は 1 年以上の既習歴がある。
6．研究室での言語環境は、英語が優勢であるものの、雑談や打ち合わせ時には日本語の使用割合が高くなる。
7．指導教員から求められる日本語能力に比べ、学習者の目指す日本語能力のレベルは非常に高く、日本語学習の動機や到達目標への意識、日本語の習得意欲が高い。

上記の結果に基づいて、今後も引き続き、学習者の来日前の学習スタイルの把握をしたうえで、学生のニーズに合った多様な日本語コースを提供する必要がある。また、学生が日常生活で困難を感じている場面を極力減らし、その先のキャリア設計が明確に描けるようなコース展開、授業内容等を検討していくことが求められている。

第３章　日本文化事情・文化体験

3.1　S1S2 日本文化体験

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止のため、実施予定であったイベントは全て中止となった。

(1) 生け花ワークショップ（5 月）
(2) 相撲部屋との交流（6 月）
(3) 浴衣ワークショップ（6 月）
(4) 茶道体験（7 月）
(5) 七夕短冊飾り（7 月）

3.2　A1A2 日本文化体験

日本語科目が対面授業になったことに伴い、2 年半ぶりに下記の文化体験イベントを実施した。

新型コロナ感染防止のために少人数での開催だったが、あっという間に募集定員に達し、文化体験の人気の高さを窺うことが出来た。

(1)着物体験（11 月 30 日）

以前から留学生に人気のあった着物体験を、シニアボランティアの方々のご協力を得て、女子学生８名、男子学生８名で実施した。着物は初めてという学生がほとんどで、着付けが終わると嬉しそうに他の学生達と写真を撮りあっていた。日本でも最近は着物を着る機会が減っているが、留学生たちは着物に対して大変関心が高く、今後も日本の民族衣装ともいえる着物を通して日本文化に興味を持って欲しいと願っている。

(2)書道ワークシップ（12 月 7 日）

東京大学書道研究会の石原由貴さんのご指導のもと、書道ワークショップを開催した。

書道に必要とされる「とめ」、「はね」、「はらい」など基本技法 8 種類が全て含まれるという『永』の文字の練習から始まり、最後は好きな漢字または自分の名前を当てはめた漢字を思い思いに書いて最後は記念撮影をした。

やや緊張しながら神妙な面持ちの書道初体験の学生や、久しぶりに筆を持ったという中国や台湾の学生も、皆さん熱心に書道の世界を楽しんでいた。

漢字に興味をもつ留学生が増えている中、気軽に楽しめる書道をもっと多くの留学生たちに楽しんで欲しいと思う。

なお、今後は新型コロナの感染状況を鑑みながら、以前に実施していた各種イベントも開催出来ればと考えている。

第 4 章　国際交流支援

国際交流支援は、当日本語教室(JLCSE[1])の大きな目標の一つである。東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構国際教育部門に属する当教室は、グローバル化が加速する国際社会で活躍できる人材の育成にも重きを置き、総合的な教育・文化・国際交流活動の場を提供したいと考えている。その一環として、教室内外で留学生と日本人学生の対話を促す国際交流プログラムを提案し実践しているが、2022S1S2 は、コロナ禍の影響が残り、「学生授業ボランティア」活動および留学生、日本人学生双方を対象とした多言語交流会（International Lounge、旧 ICYou (International Cafe for You)も引き続きオンラインで開催した[2]。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかかった 2022A1A2 は、必要な感染対策を行った上で対面での実施を再開した。

4.1　学生授業ボランティア

「学生授業ボランティア」は、2012 年度冬学期から始まり、今年度で 10 年目を迎えた。この活動においては、日本語教室の全コースのうち、教員から希望があったクラスに日本人学生がボランティアとして参加し、教員と協働して、留学生の日本語学習を支援している。しかし、日本人学生の国際化教育への貢献という観点から、学生授業ボランティアである日本人学生、日本語を学び、日本という自国の文化とは異なる文化の中で生活する留学生双方にとって、広い意味での異文化理解の場、キャンパス内国際交流の場の一つであってほしいと考えている。

4.1.1 募集方法

学生ボランティアの募集方法は二つある。一つ目は学内の体験活動推進チームの「体験活動プログラム」を通じての募集[3]である。これは、4 月に募集を開始し、書類審査を経た学生が A1A2 からボランティア活動に参加するものである。もう一つの方法は、日本語教室からの募集に直接応募するというもので、学生は学内のポスター掲示、ウェブサイト、ポータルサイト等を見て活動に応募する。このボランティア活動は S1S2、A1A2 のいずれか、または通年での参加が可能である[4]。

---

[1] Japanese Language Class School of Engineering The University of Tokyo.

[2] 2020S1S2 は一時活動を停止し、2020A1A2 から 2022S1S2 までオンラインで開催を続けた。留学生、日本人学生のほか、教職員も対象としているが、現在までのところ参加者は少ない。

[3] 体験プログラムの日本語教室ボランティアは、2012 年のプログラム開始以来、平均して、年 10 名前後の参加者を受け入れてきたが、2018 年度は 7 名、2019 年度は 8 名と減少傾向にあり、2020 年度はコロナ禍の影響を受け、体験プラグラムは中止となった。

[4] 2012 年度から 2016 年度 S1S2 までは、ボランティアの学生には、学期を通して参加してもらっていたが、2017 年度 A1A2 より、教員の求めに応じて学期中に 1 回、または数回の授業ボランティアも募集するようになった。

日本語教室に直接応募する場合は、書類審査はないが、授業ボランティア参加に先立ち、説明会への参加を依頼している。この説明会は、各学期数回開いており、2022年度 S1S2 は 4 名、A1A2 は 12 名の参加があった。A1A2 おいては、先に述べた体験活動プログラムからの参加者 9 名に加えて、一般からも 3 名の参加があった。この説明会の趣旨は、研究活動などで忙しい工学系日本語学習者を支える当日本語教室の特徴、目標などを理解してもらうことである。また、留学生だけでなく、ボランティア参加学生にとっても有益な学びの場であってほしいということを伝えている。

4.1.2 活動内容

学生は前述の説明会や授業参加前のコース担当教員とのメールでの打ち合わせを通して参加するコースで求められる役割を理解する。授業では、コース担当教員の協力者として、教室活動に加わり、会話練習、ペアワーク、ディスカッションなどに参加し、必要に応じて、ファシリテーターの役割も担う。単発での参加の場合は、口頭発表準備のサポート、本番での発表に対するフィードバック、グループディスカッションへの参加が中心となる。また、2022A1A2 の対面授業再開後は、授業後に日本語教室のオフィスに立ち寄り、その日の所感を報告書に記載している。

4.1.3 参加学生数の推移

以下に示す図 1 は、2013 年度 S1S2 から 2022 年 A1A2 までのボランティア参加者数の推移を示したものである。例年 S1S2 に比べて A1A2 が多いのは、前述の体験活動プログラムの応募者が加わるためであるが、2020 年度はコロナによるパンデミックのため、体験活動プログラムは中止となった。2021 年度はやや回復の兆しが見え、2021A1A2 は参加者が 29 名と最も多かった 2014S1S2 の約半数に当たる 14 名の参加があった。しかし、2022 年度は長引くオンライン授業により交流活動への意欲が減じたためか、参加者数の落ち込みが顕著に見られ、コロナ禍が始まった 2020 年度 S1S2 とほぼ同数の 4 名に留まった。

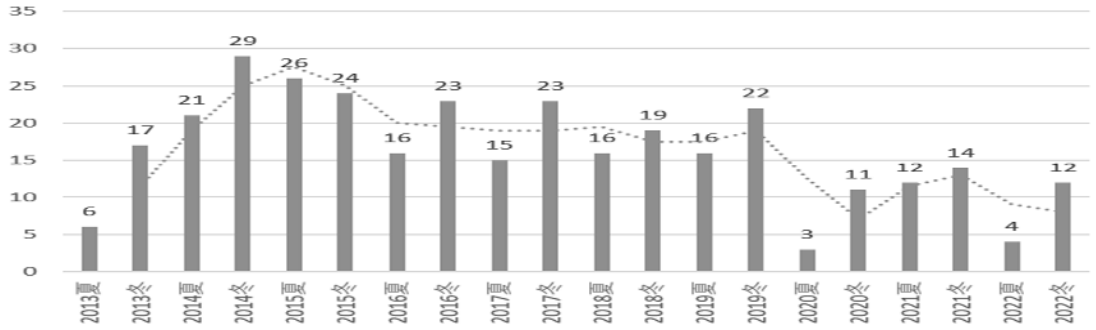


図 1　ボランティア学生数の推移　（単位:人）

4.1.4 ボランティア学生のプロフィール

オンライン授業が始まってから 2 年後となった 2022 年度 S1S2 の授業ボランティア参加者 4 名の内訳は学部生 4 名(3 年 2 名、4 年 2 名)であった。

2022A1A2 は「体験学習」からの参加が再び可能となり、9 名の参加があったほか、一般からの参加者も 3 名が参加し、計 12 名の学生ボランティアを得た。

以下の図 2 は、ボランティア参加学生の所属と参加者数を示したものである。昨年度の A1A2 の参加者は大学院生 0 名、学部生 14 名という構成であったが、2022A1A2 においては大学院生 4 名、学部生 8 名であった。内訳は、先に述べた「体験学習プログラム」の院生が 3 名（情報学環 1 名、公共政策 1 名、理学系研究科 1 名）、学部生 6 名（教養学部 4 名、農学部 1 名、工学部 1 名)、一般からの応募が大学院生 1 名（人文社会系）学部生 2 名(工学部 1 名、教養学部 1 名)であった。(図 2 参照)。

なお、2022A1A2 における参加コースの内訳は、初級コースへの参加が 0 名、中級会話コースへの参加が 5 名（中級 1 が 1 名、中級 2 が 2 名、中級 3 が 2 名、上級 1 が 1 名、中級総合コースへの参加が 5 名（中級 1 が 4 名、中級 2 が 1 名）、中級 1 専門読解コースへの参加が 1 名、中級 1 文章コースへの参加が 2 名、上級 1 会話コースが 1 名、上級 2 総合コースへの参加が 1 名であった[5]。

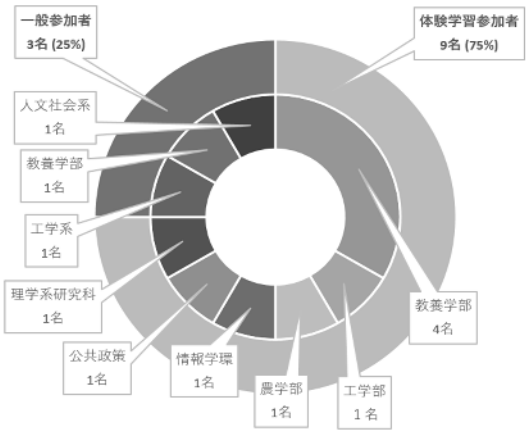


図 2　2022A1A2 ボランティア学生の所属

4.1.5　授業ボランティア参加報告書

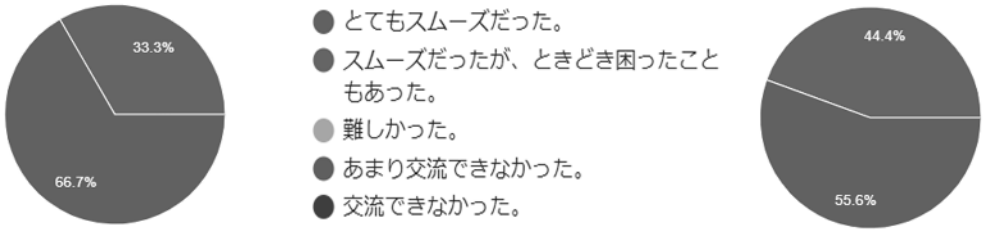
ボランティア活動に参加してくれた学生には、2022 年度も引き続き授業参加後に自由な所感を報告書に記入してもらっており、2022S1S2 は 4 名から、A1A2 は 12 名から報告書の提出があった。

[5] S 学期、A 学期合算

報告書には、これまでと同様、大きく分けて、(1)留学生との言語および文化面での交流、(2)ボランティア活動を通じての発見・学び、(3)留学生との授業内、授業外での交流についての所感などが記載されている。

4.1.6　授業ボランティア参加者アンケート結果

S1S2 および A1A2 終了後にアンケートを行い、S1S2 は 4 名中 3 名、A1A2 は 12 名中 9 名から回答を得た。質問項目は所属、学年、参加コースのほか、計 10 問で、選択式と記述式を合わせたものである。以下、いくつか回答を紹介する。質問は各グラフの下に記す。グラフは向かって左が 2022S1S2、右が 2022A1A2 のアンケート結果である。



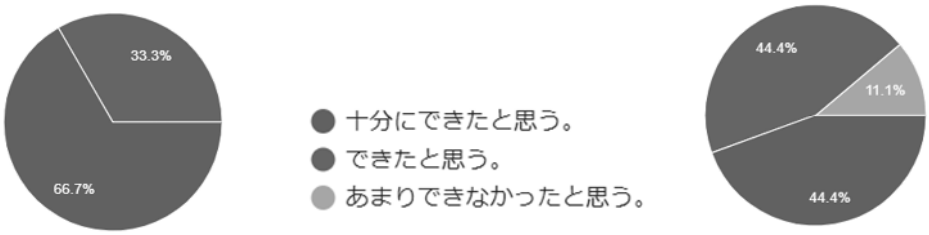
2022S1S2　　2022A1A2

図 3　質問 4）留学生との交流はスムーズでしたか

図 3 を見ると、回答は S1S2、A1A2 とも「とてもスムーズだった」と「スムーズだったが、ときどき困ったこともあった」の二つに分かれた。両学期を通して留学生との交流はとてもスムーズだったとの回答が最も多く、S1S2 では 66.7%、A1A2 では 55.6%であった。次に「スムーズだったがときどき困ったこともあった」という回答があり、S1S2 で 33.3%、A1A2 で 44.4%であったことから、全体的にスムーズな交流が行われたことが窺える。なお、スムーズだったが困ったこともあった理由（自由回答）としては、学生ボランティア 4 名から以下の回答が寄せられた。

・留学生同士で会話が弾んでおり、自分が口を挟む必要がない時があった。
・留学生の方が言おうとしていることを読み取るのが難しいときがあった。
・たまに自分が伝えた日本語が留学生に伝わっているか曖昧になることがありました。
・たまに、文法的にあやしくて、留学生が何を言いたいのか聞き取れないことがありましたが、分かりそうな単語で聞き返せばだいたい大丈夫でした。

なお、「クラス外で留学生との交流はありましたか」という問いに関しては、S1S2 で 1 名、A1A2 で 4 名が「あった」と回答した。内訳は「LINE や Chat でのやりとり」4 名、ランチ 2 名、東京観光 1 名、書道教室 1 名であった（複数回答あり）。



2022S1S2　　2022A1A2

図 4　質問 6）今回の活動で、留学生へのサポートや国際交流ができたと思いますか

アンケート回答にも見られるように、授業ボランティア活動参加者は全体として大変熱心に授業に参加してくれたと思う。さらに、対面授業が再開された 2022A1A2 学期においては教室外での交流も 2 例ではあるが見られ、交流の幅が広がったことが見て取れる。

また、2022A1A2 の体験学習プログラムの枠組みで参加した学生は、別途プログラム終了後のアンケートにも回答している。その中に「このプログラムへの参加体験が自分自身の今後（勉学、生活、進路など）に与える影響と今後に積極的に活かしていきたいと思うこと」を記入する欄があり、6 名の学生のコメントの中に留学への意欲の高まりや将来の海外進出の希望、英語学習に対する積極的な姿勢が見られ、以下のように、授業ボランティア活動への参加により、学生たちの国際的な視野が広がったことが感じられる。

・留学生との交流プログラムや他のボランティアの機会が有れば参加したい
・日本語をこんなに努力して学習しようとしている人を目の前にして、自分もいろいろな国の人たちと会話できるようになりたいと思い、語学スキルを向上させたいという思いが一層強くなった
・(英語力をつけ)グローバルな対話ができる人材になりたいと思った
・英語を話すことへの躊躇や恐怖心、ハードルを、少し下げることができた
・英語学習へのモチベーションが上がった
・海外留学に挑戦したい
・海外に出ようと思うようになった

4.2　多言語交流会 International Lounge

2019 年度から International Lounge[6]の名で呼ばれている多言語交流会は、2012 年度より、留学生と日本人学生および教職員との学内での国際交流、多文化理解を目

[6] 2018 年度までは International Cafe for You[6]として日本語教室が実施してきたが、2019 年度からは金曜日に実施されてきた国際化教育センター主催の国際交流活動（International Friday Lounge，IFL)と一本化し、名称も International Lounge に改めた。

的とした多言語交流会を開催している。

2022 年度は、先に述べた学生ボランティア活動同様、S1S2 においてはオンラインで、コロナウイルス感染学内警戒レベルが A になった A1A2 からは対面で実施した。

趣旨：リラックスした自由な雰囲気の中で、留学生・日本人学生がお互いの持つ言語的・文化的・社会的リソースを用いながら対等な立場で交流し、背景の異なる他者との相互理解のためのコミュニケーション経験を積む多言語交流の場を提供する。それによって、留学生と日本人学生が、各々の日常生活と学業生活の充実につながるネットワークやコミュニティ（仲間づくり）を生み出せるようになることを目指す。

名称　　：International Lounge（IL）

主催　　：工学系研究科国際工学教育推進機構

運営　　：国際教育部門(グローバル教育および工学系日本語教室 JLCSE)

開催日時：週1回金曜日　12:10～13:10

2022S1S2：2022年4月22日～2022年7月8日　（全11回）

2022A1A2：2022年10月7日～2023年1月20日（全11回）

開催場所：工学部11号館　2階ラウンジ（テラス含む）

International Lounge の運営は、国際教育部門に属するグローバル教育と日本語教室それぞれから教員 1 名、事務職員 1 名が担当として参加し、計 4 名で行っている。実施に際しては、留学生と日本人からなる Language Assistant(LA)[7]5 名を加えた 9 名で行っており、2022 年度は、LA として留学生 3 名、日本人学生 2 名を採用したが、5 名中 2 名は前年度またはそれ以前からの LA 継続の学生であった。なお、LA は、さまざまな国籍を背景とする参加者間の会話を繋ぐファシリテーターとしての役割も担っている。

IL の運営は、オンライン（Zoom）で開催した 2022 年度 S1S2 は、2020A1A2 より引き続きグルーバル教育と分担して行った。

周知方法としては、キャンパス内でのポスター掲示のほか、日本語教室のHPやILのFacebookを使用したが、オンライン開催のS1S2の参加者は、平均して11名であった。

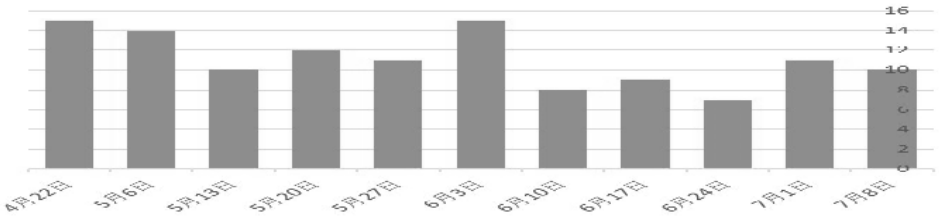


図 5　2022A1A2　IL 参加者数

[7] IL の準備・設営等を担当する LA は、2017 年度より賃金報酬有で参加してもらっている。

オンライン開催時に教員が各ブレイクアウトルームを回った際、グループによっては会話が弾んでいない場合も見受けられたため、運営スタッフで話し合い、11回中、3回目から9回目までは、オンラインでの会話トピックに困った場合のヒントとして、グローバル教育、日本語教室が交互に以下のようなトピックを用意し、各回のオンラインでのIL開始時に参加者に伝えた。

5/13	グローバル教育	あなたは犬派ですか、それとも猫派ですか。
5/20	日本語教室	【週末の過ごし方】　あなたはインドア派ですか。それともアウトドア派ですか。
5/27	グローバル教育	あなたは朝型ですか、それとも夜型ですか。
6/3	日本語教室	よく聞く音楽のジャンルはなんですか。楽器が弾けますか。 ストレス解消にお勧めの音楽はなんですか。
6/10	グローバル教育	あなたは何料理が好きですか。
6/17	日本語教室	6 月は梅雨（つゆ）の季節（きせつ）です。雨の日の過(す)ごし方(かた)を教(おし)えてください。
6/24	グローバル教育	夏と冬、どちらが好きですか？そして、それはどうしてですか？

表１　2022S1S2　IL　トピックリスト

トピック提示後、6月3日には、初回と同様15名の参加があったが、その後参加者は減少したことから、アイスブレーキングトピックの提示もある程度までのフォローにしかならなかったと思われる。なお、2022S1S2の最終日のアンケートは行わなかったが、参加者からは、対面を望む声が聞かれた。対面交流を再開したA1A2は、初回はクラス単位での参加もあり、全体で46名の参加があったが、学期を通しての平均参加者数は22名であり、オンライン開催のS1S2より平均して11名増えたものの、コロナ禍以前の参加者数には及ばなかった。特にA2学期は留学生の参加が減った。これは対面授業の学期末に学業が忙しくなったことの他、ILではまだ飲食が禁じられていたため、ランチタイムの参加が難しかったこと、イベントなどの数も少なかったことなどが理由として考えられる。以下は、2022年度A1A2における参加者数の推移である。

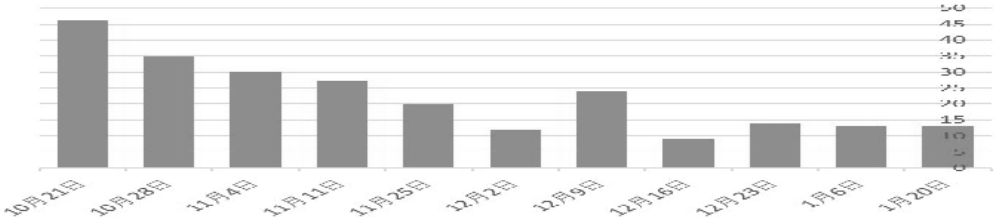


図６　2022A1A2　IL 参加者数

・参加者：登録者合計 101 名 平均参加者 22 名/回
・留学生比率：全体平均では留学生、日本人学生比率はほぼ半々
・学年：学部生 36%、修士 42%、博士７%、その他職員や研究生 15%
（内工学系学生 40%）

上記のように、留学生と日本人の比率は全体では、ほぼ半々であったが、日本人学生は毎回新規参加の学生がいたのに対し、留学生の参加は頭打ちであった。これについては運営スタッフ間で話し合い、以下のような原因があるのではないかと考えた。１）留学生が日本語を話す機会が少ない、２）ランチタイムに昼食が食べられない、３）最初の数回で友達ができ、その後は IL 以外の場でランチタイムに食事をしながらの交流ができるため、IL への参加意欲がなくなる、４）国への一時帰国などが可能になり、年末年始は、国内旅行や一時帰国をした留学生が多かったのではないか。

なお、IL ではこれまで Google form を使ってアンケートを実施していたが、2022 年度は対面授業が再開した A1A2 に初の試みとして Facebook を通じてアンケートを行い、6 名から以下の回答を得た[8]。

タイムスタンプ	How did you learn about International Lounge? Check all that apply. (International Lounge をどうやって知りましたか。当てはまる全てにチェックして下さい)	What was your motivation to take part in International Lounge? Check all that apply. (IL参加の目的は何でしたか。当てはまる全てにチェックして下さい)	Which language do you want use at Internationa Lounge? (ILではどの言語で話したいですか)	How many times did you participate in International Lounge during A-semester 2022? (秋学期は何度ILに参加しましたか)	Do you have any events or programs for International Lounge to oraganize in the coming semester? Any comments are welcomed! (ILでやって欲しいこと、コメント等はありますか)	If there are any events or games in your country that we may be able to recreate in International Lounge, please share with us! (ILで出来そうな自国のイベントやゲームがあれば、是非共有してください！)
2023/02/27 13:14:06	Poster (ポスターを見て)	Make friends (友達を増やしたい)	English (英語)	1	特になし	
2023/03/06 13:39:51	Poster (ポスターを見て), メール	Chat using English (英語で話したい), Chat using Japanese (日本語で話したい), Make friends (友達を増やしたい), Learn about other cultures (異文化を知りたい)	日英両方	8		
2023/03/06 13:58:09	Poster (ポスターを見て),	Chat using English (英語で話したい), Make friends (友達を増やしたい), Learn about other cultures (異文化を知りたい)	English (英語)	7	季節行事 クリスマス やイベント	カルタ 百人一首
2023/03/06 14:46:43	Facebook (Facebookから)	Make friends (友達を増やしたい)	English (英語)	3		Prepare some board games(ex. ITO) that can let participants know the culture difference.
2023/03/06 15:22:47	Poster (ポスターを見て)	Chat using English (英語で話したい), Make friends (友達を増やしたい), Learn about other cultures (異文化を知りたい)	English (英語)	11	Excursions!	Trivial
2023/03/06 23:12:20	Staffs (先生やスタッフから)	Chat using English (英語で話したい), Make friends (友達を増やしたい), Learn about other cultures (異文化を知りたい)	English (英語)	8	It was really interesting to have chances to communicate with international students.	にらめっこ

図７ Facebook アンケートの回答 2022A1A2

[8] 多くの参加者からの回答を得るためには、最終回に呼びかけて Forms から回答する方式に戻すことも検討できればと思う。

回答数は少ないものの、回答内容から、開催周知方法としては、ポスターの掲示が有効であること、参加目的は、１）友達を増やしたい(5 名)、英語で話したい(4 名)、異文化を知りたい(4 名)であることがわかる。また、IL において、どの言語で話したいかという問いには 5 名が英語、1 名が日英両語と答えている。主催する側の教職員間でもたびたび話題に上がったことだが、対面授業再開後初の IL は、どちらかというと留学生より日本人学生にとって英語を使える場としての価値があると捉えられていたようである。日本語を話したい留学生のために日本語ブース的な机も用意したが実施は難しかった。引き続き対面実施が予定されている来年度は、こうした点に配慮し、さらにアンケートにおいて希望が多かったゲーム的な活動などもより多く取り入れていきたい。

また、LA の一人が最終回に留学生の一人から得たコメントを共有してくれた。それによると、参加しても話す機会が少ないことがあり、残念だったとのことであった。来年度は、日本人学生、留学生双方にとって魅力ある企画を増やしていきたい。具体的には、小さなイベントを定期的に行うことで対話や活動の楽しさを感じてもらい、また、LA(Language assistant)にも積極的に日英両語を使って活動してもらうことでキャンパス内交流の裾野を広げていきたいと考えている。対面での交流が再開された利点を生かし、LA との意見交換をより活発に行い、学生視点でのアイデアなどもより積極的に取り入れていければと思う。

4.3　日本語ラーニングアドバイスセッション

2023年2月～3月、オンキャンパスジョブ（On Campus Job）の予算の支援を受け、日本語ラーニングアドバイスセッションを実施した。日本語ラーニングアドバイスセッションとは、留学生の研究活動や奨学金応募等に必要なアカデミックスキル、アカデミックジャパニーズ、就職活動、日本語の会話練習、大学生活に関する実用的なアドバイスについて、工学系研究科の日本人大学院生に日本語ラーニングアドバイザーとして、サポートしてもらう場を提供することである。今回は、トライアルとして1名の日本語ラーニングアドバイザーを雇用した。アドバイザーとなる日本人大学院生には、これまで得たアカデミックスキルを活用した活動を行う機会を提供するとともに、留学生との交流を通して、ピアラーニング的な観点から国際的な感覚を身につけられる機会になったと考えられる。

サポート内容は次の通りである。
・スピーキング：敬語、就職活動のための面接練習、日常会話の練習
・ライティング：奨学金の応募書類、レポート、履歴書、エントリシート（志望動機書、自己 PR）
・アカデミックスキル：授業ノートの取り方、参考文献・資料の探し方、大学生活に役立つ情報についての紹介

次に、実施結果を報告する。ラーニングアドバイスセッションの実施案内は、日本語教室の受講生を対象にメーリングリストを使用し行った。案内と同時に、すぐにすべての枠で申し込みがあり、全10件中8件がライティング、2件がスピーキングの予約であった。工学系の大学院生からの申し込みが多かったが、他に配偶者や他専攻からの申し込みがあった。最終的には、全10回中6回の実施となった。実施できなかった理由として、学生の無断欠席や病欠、ネットのトラブル、直前のキャンセルなどが挙げられる。6件の相談内容は主に就職に関連するものであったが、一部研究員の申請に関するものなどもあった。申込時はJLPTに関する相談もあったが、欠席のため実施できなかった場合もあった。実施期間が2月～3月ということもあり、就活関連の相談が多かったと思われるが、就活の経験がある日本人の先輩に一度書類や面接のアドバイスをもらいたいというニーズは大きいことが確認できたと言える。

2023年度も継続して、夏季、冬季の休み期間にラーニングアドバイスセッションを実施する予定であることから、今回の実施における運営上の反省点と学生の就職活動のサポートに関する高いニーズを踏まえ、今後の改善に役立てたい。

第 5 章　海外協定校とのネットワークの構築と連携

現在、東京大学大学院工学系研究科では研究者および留学生の交流を推進するため、世界各国の約 100 の大学と協定が締結されている。日本語教室では、海外協定校とネットワークを構築し、連携を深めてきている。2022 年度は、下記の通り、戦略的サバティカルにおける海外協定校訪問、体験活動プログラム、世界展開力強化事業、工学系サマープログラム日本語講義支援を通して、海外協定校の日本語教室と連携を深め、工学系研究科、東京大学の国際化教育に協力、支援をしている。

1.　戦略的サバティカルにおける海外協定校訪問:（2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 20 日）
戦略的サバティカルの活動の一環として、インド工科大学カンプール校（IITK）を中心に、タイ、ベトナム、インド、シンガポール、サウジアラビア、台湾、アメリカの協定校の日本語教室を訪問した。
2.　体験活動プログラム：（2022 年 9 月 5 日～9 月 11 日）
日本人学生の国際総合力育成、海外協定校日本語教室の留学生の日本文化体験を目的とした交流プログラムを企画・実践
3.　米国世界展開強化事業
「日米の COIL 型教育を活用した先端ワールド・グローバル工学人材養成プログラム」における国際化教育の企画
4.　工学系サマープログラム日本語・日本文化講義支援

以下、戦略的サバティカル、体験活動プログラムならびに米国世界展開強化事業に関し、詳細を記す[1]。

5.1　戦略的サバティカルにおける海外協定校訪問

工学系研究科日本語教室は、海外協定校日本語教室とネットワークを構築し、連携を深めてきた。戦略的サバティカルの期間中、海外協定校日本語教育教室を訪問し、【協定校における教員・留学生の留学に関するニーズ調査研究】を行い、ポストコロナにおける優秀な工学系の留学生のリクルートに繋げていくことを目指した。

戦略的サバティカルは、Dean’s Forum のメンバー校であるスウェーデン王立工科大学、Michael Handford 教授が在籍するカーディフ大学、インド工科大学カンプール校を基点に行った。この 3 つの協定校に滞在し、近国の協定校を含め、日本語教育に携わる教員に日本語教育の状況、留学、交流に関するニーズ調査を行った。この調査を踏まえて、ポストコロナにおける日本語教育について検討し、より魅力のある日本語教室のカリキュラム作成の一

[1] 戦略的サバティカルおよび体験活動プログラムについては古市が、米国世界展開強化事業については牛山が実施した。

助とする。2022 年度は、以下のとおり、7 か国 23 大学と 2 つの国際交流基金を訪問し、聞き取り調査を行った。

表 1　訪問国と訪問大学

	国名	大学名	訪問時期
1	タイ	アジア工科大学（AIT）	10 月
2	タイ	タマサート大学	10 月
3	タイ	チュラロンコン大学	10 月
4	ベトナム	日越大学	10 月
5	ベトナム	国際交流基金ハノイ　日本文化センター	10 月
6	インド	インド工科大学カンプール校（IITK）	11－1 月
7	インド	インド工科大学カマドラス校（IITM）	12 月
8	インド	インド工科大学ハイデラバード校（IITH）	1 月
9	インド	＊英語外国語大学（EFLU）	1 月
10	インド	プネ大学	1 月
11	インド	PIMPRI CHINCHWAD COLLEGE OF ENGINEERING（PCCOE ）	1 月
12	インド	ジャワハルラール・ネルー大学	1 月
13	インド	国際交流基金ニューデリー日本文化センター	1 月
14	シンガポール	シンガポール国立大学	12 月
15	シンガポール	南洋理工大学（NTU）	12 月
16	サウジアラビア	キングサウド大学（KSU）	2 月
17	サウジアラビア	キング・アブドゥルアズィーズ大学（KAU）	2 月
18	サウジアラビア	プリンセスヌーラ大学（PNU）	2 月
19	台湾	国立台湾大学	3 月
20	台湾	東海大学	3 月
21	台湾	高尾科技大学	3 月
22	アメリカ	ニューヨーク市立大学ハンター校	3 月
23	アメリカ	＊MIT	3 月
24	イギリス	カーディフ大学	3 月

＊オンラインで聞き取り調査を行った。

以下、インドを中心に国別に調査結果を簡潔に報告する。

インドでは、日本語学科が開講されている総合大学と語学教育の一環として開講されている工科大学を訪問した。日本語受講者はいずれも微増から増加傾向にある。工科大学では、N5～N4 レベルの日本語教育が実施されている。留学については、日本語科目の受講者であ

っても、欧米への留学希望者が増加し、日本への留学希望者は減少傾向にある。母語話者・非母語話者のいずれも教員不足が深刻な課題であり、日本語コースを開講できない大学が複数ある。総合大学のジャワハルラール・ネルー大学、英語外国語大学では、N2～N1 レベルの日本語教育が行われており、日本留学の希望者が多いが経済的な問題のため留学は困難である。また、IITK 非母語話者教員の依頼により、インドで日本語教育のすそ野を広げるために、National Programme on Technology Enhanced Learning のオンライン教材「ビジネス日本語」をバイリンガル（日・英）で作成した。

シンガポールでは、日本語教育は拡大傾向にあるが、日本留学や日系企業の就職の関心は低い。優秀な学生は欧米系の大学、大学院に進むことが多い。サウジアラビアはキングサウド大学が中心となって日本語教育を行っている。その他のサウジアラビアの大学では、学生主体である日本語クラブでボランティアが日本語教育を行っている。台湾では、日本語受講者が減少傾向にあり、日本への留学および就職への関心も低くなってきている。アメリカでは、日本語学習者は増加傾向にあるが、留学は欧州への希望者が多い。近年、若手の日本語教員が不足してきている。

5.2　スウェーデン体験活動プログラム

体験活動プログラムとは、東京大学の学部学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れるプログラムで 2012 年度より実施されている。新しい考え方や生活様式を学び、「知のプロフェッショナル」 に必要な基礎力である、自ら新しいアイディアや発想力を生み出す力を身に付けることが目指されている。（体験活動プログラム PR 用パンフレット：https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html#10）

日本語教室では、今年度海外協定校であるスウェーデン王立工科大学（KTH）で体験活動プログラムを実施した。2021 年度はオンラインによる交流だったが、2022 年度は KTH での対面交流が実現できた。「スウェーデン王立工科大学での国際交流体験活動-日本語授業サポートと企業訪問」を 2022 年 9 月 5 日～9 月 11 日に実施した（表 2 参照）。この体験活動は、KTH を軸とし、スウェーデンの社会の現状を学び、多様な価値観に触れ、グローバル意識を育てる機会を提供することが目的である。具体的には以下を実施した。

1) 国際交流

・KTH の日本語授業サポートやランゲージカフェのサポートによって、学生同士の交流を深め、国際交流における日本語教育の意義やあり方などについて考える機会を提供した。

2) 大学講義を受講

・KTH でスウェーデンの学生と共に講義に参加、留学の意義について考え、自己研鑽の楽しさを体験する。今年度は工学者のための英語、機械工学、自動車工学の授業を受講した。

3) 企業訪問

・スウェーデンのスタートアップ企業である Fur hat 社を訪問し、そこでの働き方、合理的・効率的な職業意識に触れた。

4) ノーベル博物館見学

・ノーベル博物館、City Hall の見学を通して、自然科学と文化についての知識を深め、ノーベル賞の意義や受賞者の創造的な活動について学んだ。

46 名の応募者の中から選考によって、女子 4 名と男子 4 名の計 8 名が選ばれた。体験活動前に、事前オリエンテーションを 3 回実施した。第 1 回はスウェーデン及び KTH の情報共有、第 2 回はコロナにおける対処、スケジュールの共有、第 3 回は体験活動における注意事項、確認事項、質疑応答などを行った。体験活動プログラムは、下記のとおりである（表 2 参照）。

表 2　スウェーデン体験活動のスケジュール

日程	活動内容
9 月 5 日（月）	1.　キャンパスツアー 1
9 月 6 日（火）	1.　ランゲージカフェに参加 2.　キャンパスツアー2 3.　講義 1 を受講（Technical English） 4.　講義 2 を受講（Technical English）
9 月 7 日（水）	1.　講義を受講（Mechanical engineering） 2.　講義を受講（Vehicle engineering） 3.　Welcome party
9 月 8 日（木）	1.　会社訪問（Fur hat） 2.　KTH innovation ツアーに参加 3.　日本語初級前半 class のボランティアを実施 4.　日本語初級後半 class のボランティアを実施
9 月 9 日（金）	1.　Skogskyrkograde、市庁舎見学 2.　KTH/UT 学生交流会
9 月 10 日（土）	1. Noble 博物館他見学
9 月 11 日（日）	帰国

戦略的パートナー校である KTH への訪問は、短期間の体験活動ではあったが、学生が国際的な学術環境の中で KTH の学生と共に講義に参加することによって、自己研鑽の楽しさにつながり、長期留学への第一歩となったのではないだろうか。また、日本語授業のサポートや日本語 Language Café に参加することによって、KTH の学生がどのように日本語を学んでいるかを知るだけでなく、彼らへの質問に答える中で、日本語・日本文化を振り返る機会になった。

実施後のアンケート結果[1]は下記のとおりである（表 3 参照）。体験活動では、困難を伴

ったと感じる学生は少なく、充実した体験、将来に役立つ体験だと捉えている。自己の長所、短所を改めて理解できたかについてはややそう思うが 5 名だった。

表 3　スウェーデン体験活動実施後のアンケート結果

	とても そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう思わない	全く そう思わない
プログラムに新規性がある	7 人				
充実した体験	7 人				
困難を伴った				6 人	1 人
長所・短所を理解	3 人	4 人			
将来に役立つ	7 人				

また、自由記述として、このプログラムに参加して、面白かった、手ごたえがあった、新たに学んだ等、良かった点などについて、下記のコメントがあった。

・海外における「日本語教育」の現状を知ること、また、高等教育の支援体制がどのようなものになっているのかといった点において学びがあった。

・一つ目は人とのつながりができたことである。日本人グループはもちろん、初対面だった KTH の学生たちともプログラムを通して親睦を深めることができ、今後も交流を企画している。二つ目は、海外のスタートアップ企業を見学できたことである。そもそも学生にとって企業訪問というのはハードルが高いものであり、海外となるとなおさらだ。

・スウェーデンという国で次世代を育て、若者にどんどん起業させ、小さなマーケットしか持たずとも経済を回していくというやり方に大変感銘を受けた。

・日本語授業や Language café などでの日本語学習者との交流は、自分にとっては特に刺激的でした。

・スウェーデンは母語がスウェーデン語であるにもかかわらず、KTH の学生や地下鉄の駅員、ホテルの受付の方など出会うすべての方と英語で会話をすることができ、国としての英語力の高さに驚くとともに、海外の方とコミュニケーションが取れるというのはとても楽しいことに気づきました。

・日本との共通点・相違点を通して、自国を相対化するとともに、それぞれの魅力を感じることが出来たのがとても面白かった。

・同じくらいの年の KTH の学生が起業して、学業と両立させながら会社を運営している姿を見て、 自分の将来の可能性が広がりました。

[1] 1 名が体調不良のため、実際に体験活動に参加できたのは 7 名であった。

5.3　米国世界展開強化事業

「日米の COIL 型教育を活用した先端ワールド･グローバル工学人材養成プログラム」は、東京大学が 2018 年度に文部科学省から 5 か年計画で援助を受けたもので、2019 年度からカリフォルニア工科大学の平井律子講師の協力を得て交流活動が始まったが、コロナウイルス感染拡大を受け、2019 年度は東大からの渡米のみが行われ、2020 年度、2021 年度は、すべての活動がオンラインで行われた。しかし、5 か年計画の最終年度である 2022 年度は、初めて日米双方向の対面での交流を含む COIL 型交流活動が 2023 年 2 月 14 日から 3 月 26 日までの日程で実現した。

本プログラムでは、Collaborative Online International Learning（以下 COIL）を活用した PBL（project/problem based learning）型の交流活動を日米双方の学生に提供することで、個々の学生の国際化教育に資することを目指した。2022 年度の参加者の内訳は以下の通りである。

参加学生：22 名

・東大 10 名（工学系 8 名、教養学部 2 名）

修士 1 名：1 年 電気工学 1 名

学部生 9 名：3 年生 7 名

電気工学[1] 2 名、機械工学 1 名、物理工学 1 名、精密工学 1 名

都市工学・都市環境工学 1 名、教養学部統合自然科学 1 名

:4 年生 2 名

機械工学 1 名、教養学部イギリス科 1 名

・Caltech 12 名（工学系 12 名）中級[2]クラス 11 名、上級クラス 1 名

博士 1 名　　:1 年生(G3[3]) 物理工学 1 名

学部生 11 名 :2 年生 物理工学 1 名

:3 年生 コンピューターサイエンス 3 名

:4 年生 コンピューターサイエンス 3 名、数学 2 名

電気工学 1 名、機械工学 1 名

なお、本プログラムは 2022 年度 A1A2(冬季集中)から工学系共通科目、「国際連携(特別)実習 VI」の名称で単位化[4]されることとなった。

---

[1] システムエレクトロニクス B 専攻

[2]「中級」「上級」は、Caltech の日本語クラスの学習レベルを指す。

[3] Physics では、修士、博士を区別せず Graduate という名称になり、G3 は博士課程 1 年に相当。

[4] 本プログラムは 2021 年度に単位化を目指し、その準備段階として 2019 年度、2020 年度にパイロット授業の枠組みで行われていたが、2021 年度はその移行期として、一部は工学系共通科目として、一部は当教室の 2021A セメスターの枠内で 1 単位の取得が認められた。

１）事前オリエンテーション、渡米準備

以下の①-③に関し、9/7-9/23 の間に Caltech 側担当教員とメールおよび Zoom で複数回のスタートアップミーティングを行った。

① プログラム概要と目標、プロジェクト参加人数の確認

② 2 月(渡米)、3 月(受入) に際しての宿泊先などの選定

③ ワクチン接種条件などの確認

なお、9 月の時点では、コロナの感染拡大状況によっては、完全オンラインでのプログラム実施可能性も残っていたため、実施案は 2 案用意した。その後、10 月 3 日に行われた学内向けオンライン説明会「国際連携(特別)演習・実習」に参加し、プロジェクトについて紹介した。10 月 12 日および 17 日には、Zoom でオリエンテーションを行い、最終的に渡米予定となった学生 10 名と 12 月 8 日に渡米準備ミーティングとガイダンスをオンラインで実施した。その後、渡米に際しての付帯海学、OSSMA への加入、米国短期滞在のためのビザ(ESTA)の取得、渡米に伴う誓約書の提出、専攻事務への旅行届他、必要な作業を学生に伝え、渡米に備えた。

２）渡米前対面オリエンテーション

2023 年 2 月 3 日に本郷キャンパス工学部 8 号館において渡米前対面ミーティングを実施し、プログラムの趣旨、目標、渡航に際しての注意事項などを再確認した。この事前オリエンテーションでは、自己紹介を通して、参加者同士が知り合う機会を設けると共に、COIL とは何か、協働学習とは何か、異文化コミュニケーションとはどのようなものかなど、異文化理解のための基本的な認識を共有した。

３）渡米中の活動

2023 年 2 月 14 日から 2 月 19 日まで、工学系 8 名、人文系 2 名、計 10 名の学生と共に渡米し[5]、今後ますますグローバル化される国際社会におけるコミュニケーション能力、問題解決能力、異文化理解能力の伸長を目指し、Caltech の学生 12 名と共に以下の協働学習ならびに交流活動を行った。

[5] ESTA（査証）は各自で取得したが、ESTA に記載されたパスポート番号と実際の番号が一致しない学生が 1 名おり、当日搭乗が叶わず、一日遅れで合流した。今後の教訓としたい。

表１　渡米中のスケジュール

日・曜日	活動内容
2 月 14 日（火）	・宿泊先到着、小休止後 Caltech へ　キャンパス訪問 ・学生寮 Avery House の見学 ・学生寮の食堂での夕食（ウエルカムディナー）
2 月 15 日（水）	・朝のミーティング ・Caltech キャンパスツアー ・東大-Caltech 対面アイスブレーキング ・Caltech 側担当教員の授業に参加。プロジェクトワークのテーマについての話し合い、チーム作り、活動目標の確認、東大側帰国後の COIL 型活動・交流のための準備 ・Caltech 物理工学の Laboratory の見学 日本から Caltech に留学中の日本人学生 2 名および Caltech の研究生 4 名の説明および質疑応答 ・Caltech 生 3 名の案内でグリフィス天文台見学
2 月 16 日（木）	・朝のミーティング ・Caltech 生 2 名とノートン・サイモン美術館を見学 ・Caltech マテリアル工学 Joseph Falson 助教授による日米バイリンガル特別セミナーに Caltech 生と共に参加（東大・Caltech それぞれの特徴と海外留学の意義など）および質疑応答 ・Caltech 電気系工学専攻の学生によるレーシングカー設計、組み立て工房の見学
2 月 17 日（金）	・朝のミーティング ・Caltech 生 7 名、平井講師と共に JPL /ジェット推進研究所（Jet Propulsion Laboratory California Institute of Technology)の見学（専任職員 2 名によるガイド付き） ・学生間交流活動
2 月 18 日（土）	・アメリカ文化発見フィールドワーク[6] サンタモニカへ
2 月 19 日（日）	・7:15 宿泊先から LAX 空港へ出発

[6] フィールドワークとしての 1 日は、Caltech 平井講師からも推薦があったサンタモニカを訪れた。行きは地下鉄とバス、帰りは地下鉄とタクシーを使った。学生から希望があったロサンゼルスも数時間であったが、安全な場所をグループで訪れた。学生にとって「アメリカ」の自然や生活文化の一端を実感する体験となったようである。

(1)活動内容とプロジェクトワークのテーマ

東大と Caltech の学生が複数名でチームを組み(全 7 チーム)、PBL 型の協働学習を行った。発表準備作業および最終発表は対面で、中間発表は Zoom を使用して行い、各グループの協働作業は、さまざまなインターネットツールを用いて行われた。具体的な活動としては、それぞれの国の文化理解に役立つテーマを参加者が選び、インターネット上の資料、自分自身の体験などをもとに、日米の文化の共通点と相違点について学び合うという趣旨で行われた。使用言語は外国語としての英語・日本語、母語としての英語・日本語(バイリンガル形式)である。

本プログラムのシラバスに示された 3 つのキーワードは、COIL 及び PBL 活動の理念を背景にした「コミュニケーション能力(Communication Skill)」、「言語能力(Language Competence)、異文化理解能力(Cross Cultural Competence)であるが、国際的な視野を広げ、将来の留学に繋がる経験の場となることも目指して活動を行った。

協働学習に必要な資料は、Google Classroom を用いて双方の学生に配信された。なお、学生が選んだテーマは以下のとおりである。

・Comparison of Towns and Building /町と建築物の比較
・Difference in holidays /祝日の違い
・Education system /日米の教育制度
・Social media/ソーシャルメディア
How does social media affect/impact young people? /
ソーシャルメディアは若者にどのような影響を与えるか
・Social media / ソーシャルメディア
Words in Online Communication / オンラインコミュニケーションの中の言葉
・Social media / ソーシャルメディア
Social Network / ソーシャルネットワークについて
・Comparison climatic and Wildlife / 気候変動と野生動物

2 月 20 日の帰国後は、オンラインツールを用い、プロジェクトチームごとに協働学習[7]を行い、教員は Google Classroom から配信した活動シートで各チームの活動の進捗状況を確認し、フィードバックならびにコメントを学生に送った。中間報告は、日本時間 3 月 9 日の 9 時よりオンラインで行われた。発表後は日米の担当教員によるフィードバックが Zoom ならびに Google Classroom 上のシートから送られた。また、以下に述べる Caltech の学生が来日するまでの期間は、Caltech の学期末試験期間の 1 週間を除き、学生たちはオンラインツールを用いてチームごとに連絡を取り合い、プロジェクトワークを進めた。

[7] カルテックの期末試験期間は、東大生が活動を進め、試験終了後に協働作業を開始した。

２）Caltech メンバーの来日中の活動

2 月の東大からの渡米に続き、3 月 21 日から 3 月 26 日の日程で、Caltech より平井律子講師と学生 12 名が来日し、以下の活動を行った。

表 2　Caltech 生 来日中のスケジュール

日・曜日	活動内容
3 月 21 日（火）	23:00 過ぎに宿泊先に到着
3 月 22 日[8]（水）	・東大 8 号館 88M ウエルカムドリンク ・学食でランチ ・プロジェクトワークの最終発表のための協働学習 ・本郷キャンパス総合図書館見学 ・物理工学の Laboratory（2 箇所）見学 ・電気工学専攻の学生による学生 Formula team のスタジオ見学（希望者のみ）
3 月 23 日（木）	・最終発表に向けての協働学習 ・学食でランチ ・プロジェクト成果発表（１） ・ピアフィードバックおよび教員からのフィードバック
3 月 24 日（金）	・プロジェクト成果発表（２） ・ピアフィードバックおよび教員からのフィードバック
3 月 25 日（土）	・フィールドワーク（川越バスツアー） ・工芸館にて紙漉き体験
3 月 26 日（日）	・学生、教員交流フィールドワーク ・羽田から LAX 空港へ

最終発表は 2 日間にわたって行われ、6 つの学生チームが、それぞれのプロジェクトテーマに沿って協働学習の成果を発表した。東大生は学習言語である英語を、Caltech の学生も日本語と英語を使って発表を行った。なお、2 日目の発表には、東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構国際教育部門の教職員計 6 名も発表の一部に聴衆として参加した。このことは、学生にとっては大きな励みとなったことと思われる。また、フィールドワークや自由時間における対面での交流活動も東大、Caltech 双方の学生にとって国境を越えた友情をはぐくむ機会になったことが、後述するアンケートに寄せられたコメントやメッセージから窺える。

[8] 22 日のプロジェクトワーク終了後に来年度に向けて、Caltech－東大の教員間ミーティングを行った。

４）活動成果

①学生作成ドキュメント

・企画書(Proposal)：各チームで作成後、Google Classroom に提出

FB:教員からのコメント・中間発表に向けての助言

・中間報告書(Mid-term Progress Report)：チームで作成後 Google Classroom に提出

学生の Self-Evaluation

FB:教員からのコメント・アドバイス

・最終発表(Final Presentation)PPT/スライドをもとにした各チーム 20 分の発表および質疑応答

FB:チームごとにルーブリックを使って評価

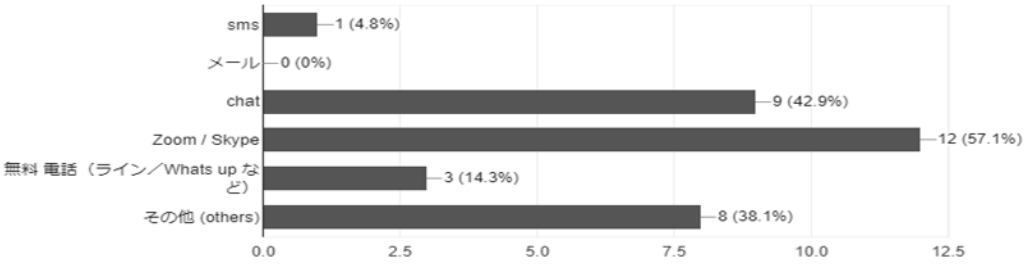
FB:教員 2 名からのコメント(口頭および筆記)

・最終レポート(東大側学生)

②プログラム実施後のアンケートに見る学生からの評価

2021 年度に続き、2022 年度も本プログラム終了後に無記名でのアンケートを実施し、東大、Caltech 合わせて 22 名中 21 名から回答を得た。内訳は東大側が参加者全員の 10 名、Caltech 側が 12 名中 11 名であった。

アンケートは、選択式・記述式合わせて全 14 問からなるが、問 1 の授業期間(2 月 14 日から 3 月 24 日)は適当であったかという問いには、全員が適当であったと答えていた。また、授業外でのチーム活動時間に関しては、4 時間から 9 時間という回答であった。活動の手段に関しては、グラフ 1 のような回答が得られ、時差のある学習環境下において、学生が複数のコミュニケーションツールを使って COIL 型の協働作業を進めていたことが見て取れる。なお、その他の内訳は、Discord 5 名、Instagram 2 名、Messenger 1 名であった。



グラフ 1：協働学習・コミュニケーションのための手段

選択式の質問には、4 件法の評価スケール[9]を用いた。以下その概要を示す。(複数回答可)

・本プログラムへの参加目的は何か、という問いに対しては、東大側は海外・Caltech の学生との交流（10 名中 7 名)が最も多く、次いで、異文化理解（5 名)、英語力の向上(3 名)、

9 質問への回答として「全然思わない・あまり思わない・そう思う・とてもそう思う」または「全然満足していない・あまり満足していない・満足している・とても満足している」からなるスケールを用いた。

ネットワークづくり（3名）と続いた。Caltech側はクラスのプロジェクトとして参加（11中5名)、日本語を使う・学ぶ（4名)、異文化理解（4名)、友達を作りたい（1名）という回答であった。

・「このプログラムを通して、英語の能力が伸びたと思うか」という問いに関する東大の学生10名の回答は、「とてもそう思う」6名、「そう思う」3名、「あまり思わない」1名で、ほぼ全員がプログラム参加により英語力が伸びたと感じていることがわかった。また、「このプログラムを通して、日本語の能力が伸びたと思うか」という問いに関するCaltechの学生11名からの回答も「とてもそう思う」8名、「そう思う」3名となっており、本プログラムへの参加がそれぞれの学習言語でのコミュニケーション能力の向上に役立ったという結果が出た。

・「この授業で日本文化・アメリカ文化への理解が深まったか」という問いには、東大側 8名、Caltech側6名が「そう思う」、「とてもそう思う」と回答し、約67%の学生が自国の文化に対する理解も深まったとしている。「訪問先の文化に対する理解が深まったか」については、21名全員が「とてもそう思う」(16名)、「そう思う」(5名)と回答している。

・「この授業でコミュニケーション力が伸びたか」という問いに対しては、東大側1名(あまりそう思わない)を除き、20名が「とてもそう思う」(15名)、「そう思う」(5名)との回答であった。

・「この授業に満足しているか」については、21名全員が「とてもそう思う」(東大側8名、Caltech側7名)、「そう思う」(東大側2名、Caltech側4名)という回答であった。

・「この授業に参加して残念だったことはなにか」については、東大5名、Caltech 2名が対面での交流期間が短かったことを挙げ、またCaltechの学生からは「もっと日本語を話す機会がほしかった」、「トピックの幅を広げたかった、対面前の交流がもっとあればよかった」、「チームメートとのコンタクトが難しいときがあった」という声が各1名から寄せられた。貴重なコメントとして今後に生かしたい。

・「この授業に参加してよかったことは何か」という問いに対しては、「言語や文化を通しての学びがあった」、「異文化理解が深まった」という声が聞かれたが(6名)、それ以上に「対面での交流の場がもてたこと」という回答がほぼ全員(21名中20名)から寄せられた。以下にそのいくつかを挙げる。

「お互いが各大学を訪問できたこと」、「授業時間、授業外の時間も含めてCaltechの学生たちと深く関われたこと」、「かけがえのない友達や仲間ができたこと」「一生に一度しかできないような経験ができたこと」(以上東大側コメント)、「新しい友達を作り、日本の文化[理解]が深まった」、“I think the best thing was getting to make friends with UT students. If this project didn’t exist, it would be very hard for me to find a connect to get to know UT students.”, “The best thing during the project was getting to spend time with the Todai students learning about Japanese culture and getting to know them better” (以上Caltech側コメント)。

最後に、アンケートの自由記述欄に書かれたコメントのひとつを紹介する。5か年プロジェクトが掲げた目標でもある、海外に飛び立つきっかけづくり、留学への意欲喚起などについて触れている一文である。

「(前略)海外進出に興味はあっても消極的な学生の多くは、その精神的な障壁の高さを理由のひとつに持っているのではないかと考えている。現地学生とのネットワークを作れることはもちろん、その絆がかなり固いのは海外経験のできるプログラムの中でも、本プログラムの最大の強みで、東大生が世界へ羽ばたく可能性を広げる重要なものであったと認識している。(中略)学びや繋がりを 2 か月間の交流にとどめないことが、今後の東大生のさらなる飛躍につながるのではないかと思う。(後略)

コロナ禍の波を越え、5か年計画プロジェクトの最終年度に渡米・来日が可能となり、対面での交流を含む COIL 型国際交流、国際協働活動がさまざまな支援を受けて実現した[10]。

アメリカおよび日本で交流を深めた学生たちは、異文化理解を深め、海外に出ていく勇気や国際交流の意義を感じ取ってくれたようである。また、今回の渡米および来日に際しての対面を含む COIL 型交流活動は、教員にとっても得難い経験となった。来年度は文部科学省からの支援のない中での再スタートとなり、さまざまな困難もあると思うが、世界との架橋になりうる日米双方の学生がそれぞれの将来に向けて飛躍の糸口がつかめるよう、サステナビリティを念頭に、持続可能な国際交流プログラム作りを目指したい。

5.4　工学系サマープログラム 日本語日本文化講義支援

工学系サマープログラムは、2022 年度もコロナ禍のため通常の実施はできなかったが、サマープログラムの学生5名をオンラインで実施した「ビジターセッション」(2章2.4) に招待する形で実施した。

---

[10] 多大なご協力をいただいた Caltech の平井律子講師、古市由美子日本語教室長、本学国際推進課の小山弘美氏に心より謝意を表したい。

第 6 章　研究活動・教材作成

工学系研究科日本語教室では、当教室の活動および日本語教育分野における研究の成果を広く周知し、今後の発展のために議論することを目指している。本章では、まず、当教室で行っている教育活動に関する研究について述べる。次に、オンライン教材である Massive Open Online Course（MOOC）の作成と公開、その後の利用状況について述べる。

6.1　日本語教室関連の研究活動と成果

2019 年に行われた第 4 回 JADEUS シンポジウムで発表した研究論文である。トルコ世界展開強化事業の一環として進めてきたレジリエンス工学におけるコーパス研究である。

古市・テキメン（2023）「レジリエンス工学のコーパス構築と語彙分析」『JAPONDĪLĪ ĪNCELEMELERĪ』Vpp131-144

【要旨】本研究は、レジリエンス工学を専門とする留学生と外国人研究者の研究生活を支えるため、書き言葉コーパスを構築・分析し、それに基づいた専門工学日本語教育リソースを作成するためのものである。テキストマイニングを用いて分析し、名詞、形容詞、動詞の高頻度 100 語の使用実態を明らかにし、レジリエンス工学のキーワードを示した。また、高頻度名詞、動詞の係り受けの語彙をマッピングすることによって視覚化し、効率的なレジリエンス工学語彙の学習方法を提案した。

6.2　日本語教育関連の教材作成

東京大学の研究内容に基づく科学技術に関する文章を読み、基礎的な専門読解語彙や重要な表現を習得しながら、読解力の向上を目指すものである。また、読解学習にとどまらず、テキスト動画やインタビュー動画、文型・表現動画を利用し、「聴く」「書く」「話す」といった連繋した力を養うことができる。

教材は、日本語教育の専門教員が作成したテキストや動画に加え、理系の専門教員にインタビューした動画を含む。これらの教材を内容重視アプローチ(content-based learning)を利用することで、効率的に学ぶことができる。また、内容重視アプローチは学習者のモチベーションを上げ、中級のレベルではあるが、アカデミックな語彙を含むより高いレベルの語学力を身に付けることができる。この MOOC は猪狩美穂講師、内田あゆみ講師、片岡さゆり講師、米谷章子講師、ハワード文江講師、宮瀬真理講師、古市由美子が作成した Small Private Online Course (SPOC)の一部を使用している。また、文型・表現動画は牛山和子特任准教授にアドバイスをいただいた。ここに感謝の意を表する。

2022 年 4 月公開　古市由美子「Let's Read! Learning Japanese through Science & Technology-1」

2022 年 6 月公開　古市由美子「Let's Read! Learning Japanese through Science & Technology-2」

2023 年 3 月末現在、part 1 の総登録者数は 7,997 人で、part2 の総登録者数は 829 人で多くの受講生に利用していただいている。また、下記のような受講生から声が届いた。

・I really like how the vocabulary is recycled around the common theme of Science and Technology. The topics were interesting. I like the specialist interviews. I have no comments for how to improve the course. I hope that a continuation of this course for JPLT N2 learners will be available.

・The professor is so gentle, and the other professors of different topics bring me a lot of interest into science. Hope to study in Tokyo University one day!

第７章　今後の課題

2022 年度 A1A2 の開講日 10 月 3 日は、当日本語教室にとって、新たなスタートの日となった。コロナ禍の波を越え、2 年半ぶりに対面授業を再開したからである。オンライン授業実施時も教室が目指したものは、留学生・研究員の研究生活と日常生活の支援であり、以下の5項目であったが、対面授業再開後の考察をもとに、よりよい留学生支援に向けて、今後の課題と展望を 5 項目それぞれについて考えたい。

1.日本語教育、 2.日本文化事情教育の提供、3.留学生と日本人学生の国際交流支援、
4.日本人学生の国際化教育の推進、5.実践研究・教材開発

7.1　日本語教育および日本文化事情教育

１）授業形態およびカリキュラムの検討

先に述べたように、今年度は、2022S1S2 においては引き続きオンライン授業を実施したが、コロナウイルス感染に歯止めがかかった 2022A1A2 は全コース[1]で対面授業を実施し、対面ならではのクラス内活動のほか、イベントを通しての交流（第 3 章、本章 7.1. 4）も行うことができた。学期末に行われたコース評価アンケート（第 2 章 2.6）でも対面授業や文化イベントの再開が待たれていたことが窺える。今後も対面での授業を基本に、オンライン授業を通して蓄積されたノウハウや教材を生かし、対面授業とオンライン授業の双方の良さを融合し、より質の高い日本語教育、より効率的なカリキュラム作りを考えていきたい。

２）PLT とコンサルテーションに関する検討

日本語能力試験問題をもとに、当教室が 2010 年に開発した PLT（Placement Test）は、コース登録に際し、学習者に適切なレベルを提示する役割を担っており、コース決定の妥当性については、今年度 2022A1A2 の「コース評価」アンケートにおいても学生から一定の評価を受けている。(2.6 章参照) なお、当教室では、学生がより適切なレベルを選択できるよう、学期開始前および学期開始後 3 週目までの期間、必要に応じてコンサルテーションを実施している。コンサルテーションでは、PLT だけでは判断が難しい「文字を実際に書くことができるか」、「話す力はどの程度あるか」などを確認し、学生が効果的に学習を進めていけるよう助言を行い、レベルを確定している。

３）講義室の確保

当教室が授業のために使用できる教室は、現在 9 つある。内訳は、日本語教室が保有する 88M 講義室、優先的に予約をすることができる 88L 講義室、123 講義室、他の講義や会議の

[1]「上級日本組織事情」は、日本における就職支援というコース目標に鑑み、本郷キャンパスでの受講が難しい学生のために 2 セクション中 1 セクションをオンラインで開講した。

ない場合に借りることができる 324B、324C 教室、第一会議室(132)、第二会議室(130)[2]、702[3]、722 である。しかし、入試準備が始まる時期は、S1S2、A1A2 とも、第一会議室(132)、第二会議室(130)のほか、当教室が優先的に使用できる 88M 講義室、88L 講義室も使うことができない。対面授業が再開された 2022A1A2 の入試時には 8 号館 222 会議室、84 講義室、85 講義室などを一時的に借用し授業を行ったが、来年度は受講者の増加も予測され、一定の広さを持つ教室が不足する可能性もあるため、今後日本語教室が優先的に使用できる教室の確保が急務となる。

４）日本文化事情・文化体験への取り組み拡大への検討

2022A1A2 より、2 年半ぶりに対面での文化体験活動（「着物体験」および「書道ワークショップ」）が再開され（第 3 章参照)、予想を上回る反響があった。来年度も対面での実施を継続するとともに、これとは別にオンラインでも実施できる活動はないかについても考えたい。

7.2　留学生と日本人学生の国際交流支援、日本人学生の国際化教育の促進

「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」に基づき、2022S1S2 でもサマープログラムなどの実施はできなかったが、2022A1A2 より、IL（International Lounge)、スウェーデン王立大学体験活動、カリフォルニア工科大との COIL 型プログラムは、対面での交流が可能となった（4 章 4.2、5 章 5.2、5.3 参照)。2 年半にわたるオンライン交流は、さまざまなインターネットツールを駆使することにより、時差や場所を越えた国際交流、国際連携プロジェクトなどを行うことができた。しかし、対面での交流活動は、オンラインでは得られない発見や気づき、またより深い国際交流の場であることがプログラム実施後のアンケートなどからも確認できた。また、工学系研究科日本語教室が海外協定校日本語教室とのネットワークを通して連携を深めてきた交換留学や、さくらサイエンスプログラムなどで短期来日する学生への特別授業などの実施も 2022A1A2 より可能となった。今後も交換留学を促進するため、海外協定校日本語教室および協定校の教員との連携を深め、より多くの留学生が来日できる体制作りを進めたい。

7.3　実践研究および教材開発

6 章 6.2 で述べたように、当教室では 2021 年度に大規模公開オンライン講座（MOOC）として読解教材を開発し、2022 年度より配信を開始した。アクセス数などからもこの講座が海外の学生にも広く利用されていることがわかる。予算と人材を確保し、今後も工学系に特化した教材を中心に、教室独自の教材開発を目指したい。

---

[2] 第 2 会議室(130)は、教室としてはやや手狭なため、追試の時などに使用し、学期を通しての使用はしなかった。

[3] 702 は年間を通して予約をすることが難しくなったため、入試期間、国際交流特別授業などの際に借用している。午前中、空きがある場合のみ使用できる。

2022年度S1S2工学系研究科日本語教室概要

対象：工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者，工学部学部生，全学交換留学生

授業開講期間： 2022年4月5日～2022年7月26日

登録期間： ホームページ http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ 登録はSTARから 3月7日～4月19日まで（入門コースのみ 6月14日まで ）

連絡先： 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室
古市由美子 Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ： nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話：03-5841-8826 FAX：03-5800-2436

単位：1コマ2単位 （「入門」は1コマ1単位） 初級Ⅰ（4コース：20コマ）、初級Ⅱ（3コース：12コマ）、中級1（5コース：9コマ）、中級2（6コース：10コマ）、中級3（5コース：6コマ）、上級1（6コース：8コマ）、上級2（3コース：3コマ） 計32コース、69コマ

コース	対象	時 間	担当	教 材
入門 ＊1コマ1単位 （6月7日～）	はじめて日本語を勉強する人 短期滞在者	火 13:00-16:40 木 13:00-14:45	金・山口	『Basic Japanese for Students はかせ1』（スリーエーネットワーク）
インテンシブ 初級Ⅰ	はじめて日本語を勉強する人	月・水 8:30-12:10 金 10:25-12:10	鈴木 金 中村	『大地Ⅰ メインテキスト』（スリーエーネットワーク），『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク），『にほんごチャレンジN4-5〔かんじ〕』（アスク）
初級1A 初級1B	はじめて日本語を勉強する人	月・金 8:30-10:15 水 10:25-12:10	A：金・鈴木・宮瀬 B：猪狩・大西・金	『大地Ⅰ メインテキスト(L1-12)』（スリーエーネットワーク），『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
初級2A 初級2B 初級2C	初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人、またはCEFR A1.1相当	月 10:25-12:10 水 8:30-10:15	A： 金・藤井 B： 東平・中村 C：：牛山・猪狩	『大地Ⅰ メインテキスト(L13-22)』（スリーエーネットワーク），『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
インテンシブ初級 Ⅱ	初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当	火・木 8:30-12:10	猪狩 内田	『大地II メインテキスト』『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）『 にほんごチャレンジ N4-5［かんじ］』（アスク出版）
初級3A 初級3B	初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当	火 8:30-10:15 金 10:25-12:10	A： 片岡・ハワード B： 東平・猪狩	『大地II メインテキスト(L23-32)』『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
初級4A 初級4B	初級3の修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A2.1相当	火 10:25-12:10 金 8:30-10:15	A： 金・ハワード B： 東平・猪狩	『大地II メインテキスト(L33-42)』『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
中級1 総合A 中級1 総合B	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4相当、CEFR A2.2相当	火 8:30-10:15 木 10:25-12:10	A： 牛山・中村 B： 内田・牛山	『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』（スリーエーネットワーク）
中級1 聴解	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4相当、CEFR A2.2相当	木 8:30－10:15	ハワード	『5分でできるにほんご音の聞きわけトレーニング』（スリーエーネットワーク）、『＜テーマ別＞ 中級までに学ぶ日本語 初中級ブリッジ教材』（研究社）
中級1 会話A 中級1 会話B	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4相当、CEFR A2.2相当	火 10:25-12:10	A：佐藤 B：内田	『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』（スリーエーネットワーク）
中級1 専門読解	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4相当、CEFR A2.2 相当	金 8:30－10:15	古市	自主教材

中級1　文章	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4相当、CEFR A2.2相当	火 13:00−14:45	佐藤	「おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文」（凡人社）
中級2　総合A 中級2　総合B	中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	水 8:30−10:15 金 10:25−12:10	A：牛山・宮瀬 B：大西・片岡	『中級を学ぼう　日本語の文型と表現56 中級前期　第2版』（スリーエーネットワーク） ※テキストは緑色の表紙
中級2　聴解	中級I聴解コースの修了者、またはJLPTN3相当、CEFR B1相当	木 8:30－10:15	大西	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中級】 』（スリーエーネットワーク）
中級2　会話A 中級2　会話B	中級I会話コースの修了者、またはJLPTN3相当、CEFR B1相当	月 8:30－10:15	A：佐藤 B：東平	『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』　（凡人社）
中級2　読解	中級1読解コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	金 8:30－10:15	片岡	『留学生のための読解トレーニング（読む力がアップする15のポイント）』（凡人社）
中級2　文章	中級１文章コースの修了者、またはJLPT　N3相当、CEFR B1相当	木 10:25−12:10	ハワード	『改訂版・大学・大学院留学生の日本語②作文編』 アカデミック・ジャパニーズ研究会　編著　（アルク）
中級2　専門語彙・漢字	中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	水 10:25−12:10	中村	自主教材
中級3　総合	中級2総合コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	月 10:25−12:10 水 8:30−10:15	佐藤・鈴木	『中級を学ぼう 日本語文型と表現82 中級中期』（スリーエーネットワーク） ＊テキストは水色の表紙
中級3　聴解	中級2聴解コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 10:25−12:10	藤井	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中上級】』（スリーエーネットワーク）
中級3　会話A 中級3　会話B	中級2会話コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	水 10:25−12:10	A：片岡 B：牛山	自主教材
中級3　専門読解	中級2読解コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	水 10:25−12:10	猪狩	自主教材
中級3　文章	中級2文章コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 8:30−10:15	宮瀬	『改訂版・大学・大学院留学生の日本語②作文編』 アカデミック・ジャパニーズ研究会　編著　（アルク）

上級 日本組織事情A	日本語 中級3総合を修了した人、又はJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当。学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP	木 10:25−12:10	古市 佐野	自主教材
上級 日本組織事情B	日本語 中級3総合を修了した人、又はJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当。学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP	木 13:00−14:45	古市 佐野	自主教材
上級1　総合	中級3総合コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	金 10:25−12:10	金	『30の物語　中上級　人物で学ぶ日本語』くろしお出版
上級1　聴解	中級3聴解コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	水 8:30－10:15	片岡	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 【上級】』(スリーエーネットワーク)
上級1　会話A 上級1　会話B	中級3会話コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 10:25−12:10	A: 鈴木 B: 山口	『日本語超級話者へのかけはし　きちんと伝える技術と表現』(スリーエーネットワーク)
上級1　読解	中級3読解コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 8:30－10:15	山口	『改訂版　大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編　アルク
上級1　文章	中級３文章コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 8:30−10:15	藤井	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』(アルク)
上級2　総合	上級１総合コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当	水 10:25−12:10	藤井	自主教材
上級2　会話	上級 1会話コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当	木 10:25−12:10	宮瀬	自主教材
上級2　文章	上級 1 文章コースの修了者、JLPT N1レベル以上、またはCEFR C1相当	月 10:25−12:10	猪狩	『大学生と留学生のための論文ワークブック』(くろしお出版)

Cultural Exchanges and Events

ビジターセッション・ 日本事情 (4月20日～)	全レベル対象 (オンライン)	水 13:30−14:30	金 早坂	
International Lounge (4月22日～)	全レベル対象 (オンライン)	金 12:10−13:10	牛山 山畑	
チュートリアル (6/8～)	全レベル対象 (オンライン)	水 14:00−15:30	猪狩	

*授業内容は変更の可能性あり

2022年度S1S2工学系研究科日本語教室時間割

対象：工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者，工学部学部生，全学交換留学生

授業開講期間： 2022年4月5日～2022年7月26日

登録期間： ホームページ http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ 登録はSTARから 3月7日～4月19日まで（入門コースのみ 6月14日まで ）

連絡先： 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室
古市由美子 Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話：03-5841-8826 FAX：03-5800-2436

単位：1コマ2単位 （「入門」は1コマ1単位） 初級Ⅰ（4コース：20コマ）、初級Ⅱ（3コース：12コマ） 中級1（5コース：9コマ）、中級2（6コース：10コマ） 中級3（5コース：7コマ）、上級1（6コース：8コマ）、上級2（3コース：3コマ） 計32コース、69コマ

	8:30 – 10:15	10:25 – 12:10	13:00 – 14:45	14:55 – 16:40
月	インテンシブ初級Ⅰ 鈴木			
	初級1A 金 初級1B 猪狩	初級2A 金 初級2B 東平 初級2C 牛山		
	中級2 会話A 佐藤 中級2 会話B 東平	中級3 総合 佐藤		
		上級2 文章 猪狩		
火	インテンシブ初級Ⅱ 猪狩		入門 [6/7-] 金	
	初級3A 片岡 初級3B 東平	初級4A 金 初級4B 東平		
	中級1 総合A 牛山 中級1 総合B 内田	中級1 会話A 佐藤 中級1 会話B 内田	中級1 文章 佐藤	
水	インテンシブ初級Ⅰ 金		ﾋﾞｼﾞﾀｰｾｯｼｮﾝ&日本事情 （オンライン 13:30-14:30） 金・早坂 [4/20-]	
	初級2A 藤井 初級2B 中村 初級2C 猪狩	初級1A 鈴木 初級1B 大西		
	中級2 総合A 牛山 中級2 総合B 大西	中級2 専門語彙漢字 中村		チュートリアル （オンライン 14:00-15:30） 猪狩 [6/8-]
	中級3 総合 鈴木	中級3 会話A 片岡 中級3 会話B 牛山		
		中級3 専門読解 猪狩		
	上級1 聴解 片岡	上級2 総合 藤井		
木	インテンシブ初級Ⅱ 内田		入門 [6/9-] 山口	
	中級1 聴解 ハワード	中級1 総合A 中村 中級1 総合B 牛山		
	中級2 聴解 大西	中級2 文章 ハワード		
	中級3 文章 宮瀬	中級3 聴解 藤井		
	上級1 読解 山口	上級 日本組織事情A 古市/佐野	上級 日本組織事情B 古市/佐野	
	上級1 文章 藤井	上級1 会話A 鈴木 上級1 会話B 山口		
		上級2 会話 宮瀬		
金	初級1A 宮瀬 初級1B 金	インテンシブ初級Ⅰ 中村	International Lounge （オンライン 12:10-13:10） 牛山・山畑 [4/22-]	
	初級4A ハワード 初級4B 猪狩	初級3A ハワード 初級3B 猪狩		
	中級1 専門読解 古市			
	中級2 読解 片岡	中級2 総合A 宮瀬 中級2 総合B 片岡		
		上級1 総合 金		

2022年度A1A2工学系研究科日本語教室概要

対象：工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者
工学部学部生，全学交換留学生

授業開講期間： 2022年10月3日～2023年1月30日

履修登録：HP http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ 登録期間：9月5日～10月8日 修正期間：10月9日～10月14日（入門コース12月6日まで ）

連絡先： 113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室
古市由美子 ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話：03-5841-8826 FAX：03-5800-2436

単位：1コマ2単位 （「入門」は1コマ1単位） 初級Ⅰ（4コース：21コマ）、初級Ⅱ（3コース：12コマ） 中級1（5コース：9コマ）
中級2（6コース：10コマ）中級3（6コース：7コマ）、上級1（6コース：7コマ）、上級2（3コース：3コマ） 計33コース、69コマ

コース	対象	時間	担当	教室	教 材
入門 ＊1コマ1単位 （11月29日～）	はじめて日本語を勉強する人 短期滞在者	火 13:00-16:40 木 13:00-14:45	金・中村	88L	『Basic Japanese for Students はかせ1』（スリーエーネットワーク）
インテンシブ 初級Ⅰ	はじめて日本語を勉強する人	月・水 8:30-12:10 金 13:00-14:45	鈴木 金 ハワード	月・水：123 金：88L	『大地Ⅰ メインテキスト』（スリーエーネットワーク），『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク），『にほんごチャレンジN4-5〔かんじ〕』（アスク）
初級1A 初級1B 初級1C	はじめて日本語を勉強する人	月・金 8:30-10:15 水 10:25-12:10	A：金・鈴木・宮瀬 B：猪狩・大西・金 C：牛山・宮瀬・大西	A：88L B：88M C：（月） （金）：722 （水）：702	『大地Ⅰ メインテキスト(L1-12)』（スリーエーネットワーク），『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
初級2A 初級2B	初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人、またはCEFR A1.1相当	月 10:25-12:10 水 8:30-10:15	A：金・藤井 B：東平・中村	A：（月）88L （水）324C B：324B	『大地Ⅰ メインテキスト(L13-22)』（スリーエーネットワーク），『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
インテンシブ初級 Ⅱ	初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当	火・木 8:30-12:10	猪狩 内田	123	『大地II メインテキスト』『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク） 『 にほんごチャレンジ N4-5［かんじ］』（アスク出版）
初級3A 初級3B	初級2またはインテンシブ初級Ⅰの修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A1.2 相当	火 8:30-10:15 金 10:25-12:10	A：片岡・ハワード B：東平・猪狩	A：324B B：324C	『大地II メインテキスト(L23-32)』『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
初級4A 初級4B	初級3の修了者、またはJLPT N5相当、CEFR A2.1相当	火 10:25-12:10 金 8:30-10:15	A：金・ハワード B：東平・猪狩	A：324B B：324C	『大地II メインテキスト(L33-42)』『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
中級1 総合A 中級1 総合B	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	火 8:30-10:15 木 10:25-12:10	A：宮瀬・中村 B：内田・牛山	A：88M B：132	『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』（スリーエーネットワーク）
中級1 聴解	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	木 8:30－10:15	ハワード	324C	『5分でできるにほんご音の聞きわけトレーニング』(スリーエーネットワーク)、『＜テーマ別＞ 中級までに学ぶ日本語 初中級ブリッジ教材』（研究社）
中級1 会話A 中級1 会話B	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	火 10:25-12:10	A：佐藤 B：内田	A：88M B：132	『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』（スリーエーネットワーク）
中級1 専門読解	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2 相当	水 10:25-12:10	猪狩	722	自主教材

中級1　文章	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、または、JLPT N4 相当、CEFR A2.2相当	火 13:00−14:45	佐藤	88M	「おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文」（凡人社）
中級2　総合A 中級2　総合B	中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	水 8:30−10:15 金 10:25−12:10	A：牛山・宮瀬 B：大西・片岡	A：702/88L B：88M/132	『中級を学ぼう　日本語の文型と表現56　中級前期　第2版』（スリーエーネットワーク） ※テキストは緑色の表紙
中級2　聴解	中級I聴解コースの修了者、またはJLPTN3相当、CEFR B1相当	木 8:30－10:15	大西	88M	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中級】 』（スリーエーネットワーク）
中級2　会話A 中級2　会話B	中級I会話コースの修了者、またはJLPTN3相当、CEFR B1相当	月 8:30－10:15	A：佐藤 B：東平	A：132 B：324B	『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』　（凡人社）
中級2　読解	中級1読解コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	金 8:30－10:15	片岡	132	『留学生のための読解トレーニング（読む力がアップする15のポイント）』（凡人社）
中級2　文章	中級1文章コースの修了者、または JLPT　N3 相当、CEFR B1 相当	木 10:25−12:10	ハワード	324C	『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）
中級2　専門語彙・漢字	中級1総合コースの修了者、またはJLPT N3相当、CEFR B1相当	水 10:25−12:10	中村	324B	自主教材
中級3　総合	中級2総合コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	月 10:25−12:10 水 8:30−10:15	佐藤・鈴木	132/88L	『中級を学ぼう 日本語文型と表現82 中級中期』（スリーエーネットワーク） ＊テキストは水色の表紙
中級3　聴解	中級2聴解コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 10:25−12:10	藤井	722	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中上級】』（スリーエーネットワーク）
中級3　会話	中級2会話コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	水 10:25−12:10	片岡	132	自主教材
中級3　専門読解	中級2読解コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	月 10:25−12:10	猪狩	88M	自主教材
中級3　文章	中級2文章コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	木 8:30−10:15	宮瀬	88L	『改訂版・大学・大学院留学生の日本語②作文編』 アカデミック・ジャパニーズ研究会　編著 （アルク）
中級3・上級1 多文化理解プロジェクト	中級2総合または中級3総合コースの修了者、またはJLPT N2相当、CEFR B2相当	水 13:30−14:30	牛山	88M	自主教材

上級 日本組織事情A	日本語 中級3総合を修了した人、又はJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当。学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP	火 10:25−12:10	佐野	88L	自主教材
上級 日本組織事情B （オンラインコース）	日本語 中級3総合を修了した人、又はJLPT N1相当、CEFR B2+ 相当。学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP	火 13:00−14:45	佐野	オンライン	自主教材
上級1　総合	中級3総合コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	金 10:25−12:10	金	88M	『30の物語　中上級　人物で学ぶ日本語』くろしお出版
上級1　聴解	中級3聴解コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	水 8:30－10:15	片岡	132	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 【上級】』（スリーエーネットワーク）
上級1　会話	中級3会話コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 10:25−12:10	鈴木	702	『日本語超級話者へのかけはし　きちんと伝える技術と表現』（スリーエーネットワーク）
上級1　読解	中級3読解コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 8:30－10:15	山口	324B	『改訂版　大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編　アルク
上級1　文章	中級3文章コースの修了者、またはJLPT N1相当、CEFR B2+相当	木 8:30−10:15	藤井	722	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アルク）
上級2　総合	上級1総合コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当	水 10:25−12:10	藤井	324C	自主教材
上級2　会話	上級 1会話コースの修了者、またはJLPT N1レベル以上、CEFR C1相当	木 10:25−12:10	宮瀬	88L	自主教材
上級2　文章	上級 1 文章コースの修了者、JLPT N1レベル以上、またはCEFR C1相当	水 8:30−10:15	猪狩	722	『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）

Cultural Exchanges and Events

ビジターセッション・ 日本事情（10月19日～）	全レベル対象 （オンライン）	水 13:30−14:30	金 早坂		
International Lounge （10月21日～）	全レベル対象	金 12:10−13:10	牛山 山畑		
チュートリアル （11/30～）	全レベル対象	水 14:00−15:40	猪狩	130	

*授業内容は変更の可能性あり

2022年度A1A2工学系研究科日本語教室時間割

対象:工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者，工学部学部生，全学交換留学生

授業開講期間:　2022年10月3日～2023年1月30日

履修登録:HP　http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/　登録期間:9月5日～10月8日　修正期間:10月9日～10月14日　（入門コース12月6日まで ）

連絡先:　113-8656東京都文京区本郷7-3-1　東京大学大学院工学系研究科日本語教室　8号館1階128B号室
古市由美子　Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　電話:03-5841-8826　FAX:03-5800-2436

単位: 1コマ2単位　（「入門」は1コマ1単位）　初級Ⅰ（4コース:21コマ）、初級Ⅱ（3コース:12コマ）中級1（5コース:9コマ）
中級2（6コース:10コマ）中級3（6コース:7コマ）、上級1（6コース:7コマ）、上級2（3コース:3コマ）　計33コース、69コマ

	8:30 – 10:15	10:25 – 12:10	13:00 – 14:45	14:55 – 16:40
月	インテンシブ初級Ⅰ 鈴木　123			
	初級1A　金　88L 初級1B　猪狩　88M 初級1C　牛山　722	初級2A　金　88L 初級2B　東平 324B		
	中級2 会話A 佐藤 132 中級2 会話B 東平 324B	中級3　総合 佐藤 132		
		中級3　専門読解 猪狩 88M		
火	インテンシブ初級Ⅱ 猪狩 123		入門 [11/29-] 金　88L	
	初級3A　片岡　324B 初級3B　東平　324C	初級4A　金　324B 初級4B　東平 324C		
	中級1 総合A　宮瀬　88M 中級1 総合B　内田　132	中級1　会話A　佐藤　88M 中級1　会話B　内田　132	中級1　文章 佐藤　88M	
		上級　日本組織事情A 佐野 88L	上級　日本組織事情B （ｵﾝﾗｲﾝｺｰｽ）　佐野	
水	インテンシブ初級Ⅰ 金　123		ﾋﾞｼﾞﾀｰｾｯｼｮﾝ&日本事情 （オンライン 13:30-14:30） 金・早坂 [10/19-]	チュートリアル [11/30-] （14:00-15:40） 猪狩 130
	初級2A　藤井 324C 初級2B　中村 324B	初級1A　鈴木　88L 初級1B　大西　88M 初級1C　宮瀬　702		
		中級1　専門読解 猪狩 722		
	中級2　総合A　牛山 702 中級2　総合B　大西　88M	中級2 専門語彙漢字 中村 324B		
	中級3　総合 鈴木　88L	中級3　会話 片岡 132	中級3・上級1・上級2 多文化理解プロジェクト 牛山　88M	
	上級1　聴解 片岡 132			
	上級2　文章 猪狩　722	上級2　総合 藤井 324C		
木	インテンシブ初級Ⅱ 内田 123		入門 [12/1-] 中村　88L	
	中級1　聴解 ハワード 324C	中級1　総合A　中村　88M 中級1　総合B　牛山　132		
	中級2　聴解 大西　88M	中級2　文章 ハワード　324C		
	中級3　文章 宮瀬　88L	中級3　聴解 藤井　722		
	上級1　読解 山口　324B	上級1　会話 鈴木　702		
	上級1　文章 藤井　722	上級2　会話 宮瀬　88L		
金	初級1A　宮瀬 88L 初級1B　金　88M 初級1C　大西　722		インテンシブ初級Ⅰ ハワード　88L	
	初級4A　ハワード 324B 初級4B　猪狩　324C	初級3A　ハワード 324B 初級3B　猪狩　324C	International Lounge （12:10-13:10　） 牛山・山畑 [10/21-]	
	中級2　読解 片岡　132	中級2　総合A　宮瀬　88L 中級2　総合B　片岡　132		
		上級1　総合 金 88M		

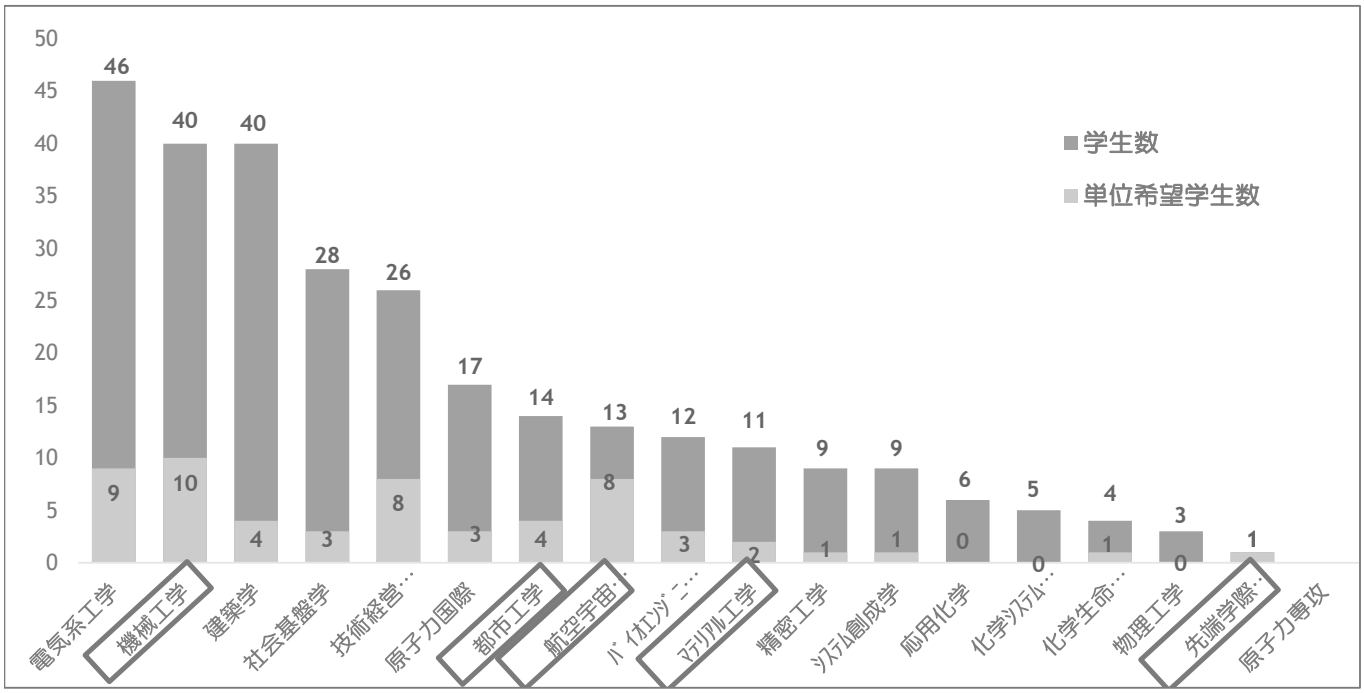
1．2022年度S1S2 工学系研究科日本語教室受講者数

1）研究科別ーレベル別

＊()は単位希望学生数

研究科＼レベル		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科		44	37	60	57	35	39	12	**284(58)**	**213(49)**
②情報理工学系		16	8	12	15	5	11	7	**74(26)**	**66(26)**
③新領域創成科学研究科		8	2	6	16	3	6	4	**45(20)**	**29(17)**
④他研究科	公共政策 大学院	3	6	1	2	1	6	4	24(10)	17(9)
	理学系研究科		3		5	4	3		15(4)	10(3)
	経済学研究科				2	5	5	1	12(1)	5(1)
	情報学環・学際情報学府	2	1		3	1	2		9(3)	6(3)
	農学生命科学研究科				1	2	1	1	5(3)	4(2)
	医学系研究科	3	1				1		5(1)	5(1)
	総合文化研究科		1				3		4(2)	4(2)
	生産技術研究所				3				3(0)	1(0)
	薬学系研究科				2				2(2)	1(1)
	教育学研究科						1		1(1)	1(1)
	④計	8	12	1	18	13	22	6	**80(27)**	**54(23)**
⑤USTEP							3		**3(3)**	**3(3)**
合計①～⑤		**76(25)**	**59(18)**	**79(11)**	**106(27)**	**56(23)**	**81(20)**	**29(10)**	**486(134)**	**365(118)**

2）専攻別



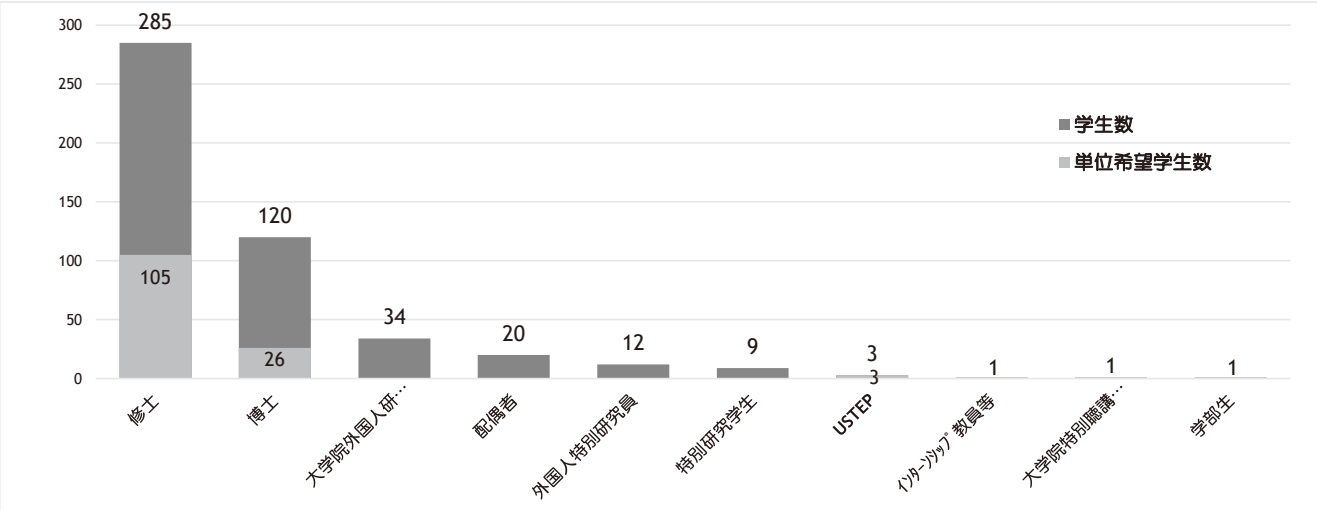
：単位が修了要件として認められている専攻

3）国籍ーレベル別

	国籍＼レベル	初級１	初級２	中級１	中級２	中級３	上級１	上級２	延べ合計	実数合計
1	中国	38	28	39	50	35	56	23	269	212
2	インド	9	5		4				18	17
3	台湾	1	5	1	1	3	10	5	26	15
4	アメリカ合衆国	3		4	6	4			17	10
5	シンガポール	1	4		5	2	3		15	10
6	インドネシア	2	3	4	1	1			11	9
7	カナダ		2	5	4	3			14	7
8	フィリピン	3	1	5	4				13	7
9	タイ	2	2	1	2	1			8	7
10	韓国	1			1	2	2	1	7	7
11	フランス		1	6	4				11	5
12	ベトナム	2		2	2	1			7	5
13	ドイツ				1	2	1		4	4
14	バングラデシュ	2	1		1				4	4
15	コロンビア		1	2	3				6	3
16	ペルー		1	1			1		3	3
17	オーストラリア				2	1	1		4	2
18	トルコ		1	1	2				4	2
19	メキシコ	1		3					4	2
20	モンゴル				3		1		4	2
21	イラン		1				2		3	2
22	マレーシア	1		2					3	2
23	ブラジル				2	1			3	2
24	エジプト	2							2	2
25	チリ	1	1						2	2
26	パキスタン	2							2	2
27	サウジアラビア		1	1					2	2
28	英国			1	1				2	2
29	日本						2		2	2
30	香港						2		2	2
31	＊その他	5	1	1	7				14	12
合計		76	59	79	106	56	81	29	486	365

＊その他（実数1名）：ｲｽﾗｴﾙ・ｲﾀﾘｱ・ｴﾁｵﾋﾟｱ・ｶﾞﾝﾋﾞｱ・ｷﾞﾘｼｬ・ｼﾞｮｰｼﾞｱ・ｽｲｽ・ﾄｰｺﾞ・ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ・ﾊﾟｰﾚｰﾝ・ﾗﾄﾋﾞｱ・南ｱﾌﾘｶ

4）身分別



2.　4専攻日本語教室受講者数（実数）

社基		初級1A	初級2A	初級2B	合計
	社会基盤学	6	8	7	21
	単位コース選択者	6	8	6	20
都市工		初級Ⅰ都市総合A	初級Ⅱ都市総合A	中級Ⅰ都市会話A	合計
	都市工学日本語教室（学生内訳）	都市工:3/その他工学系:1/他研究科:2	都市工:8/その他工学系:3/他研究科:3	都市工:3/その他工学系:1/他研究科:4	都市工:14/その他工学系:5/他研究科:9
	単位コース選択者	都市工:1/その他工学系:0/他研究科:2	都市工:4/その他工学系:1/他研究科:1	都市工:0/その他工学系:0/他研究科:3	都市工:5/その他工学系:1/他研究科:6
シス創		中級Ⅰ創成系総合	中級Ⅰ創成系読解	中級Ⅲ創成系総合	合計
	ｼｽﾃﾑ創成日本語教室（学生内訳）	ｼｽﾃﾑ創成系:3/その他工学系:6/他研究科:3	ｼｽﾃﾑ創成系:1/その他工学系:1/他研究科:3	ｼｽﾃﾑ創成系:1/その他工学系:3/他研究科:1	ｼｽﾃﾑ創成系:5/その他工学系:10/他研究科:7
	単位コース選択者	ｼｽﾃﾑ創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:1/その他工学系:1/他研究科:1	ｼｽﾃﾑ創成系:1/その他工学系:1/他研究科:1
IME		中級	上級	合計	
	IME日本語教室	IME:4/その他工学系:1/他研究科:0	IME:3/その他工学系:0/他研究科:0	IME:7/その他工学系:1/他研究科:0	

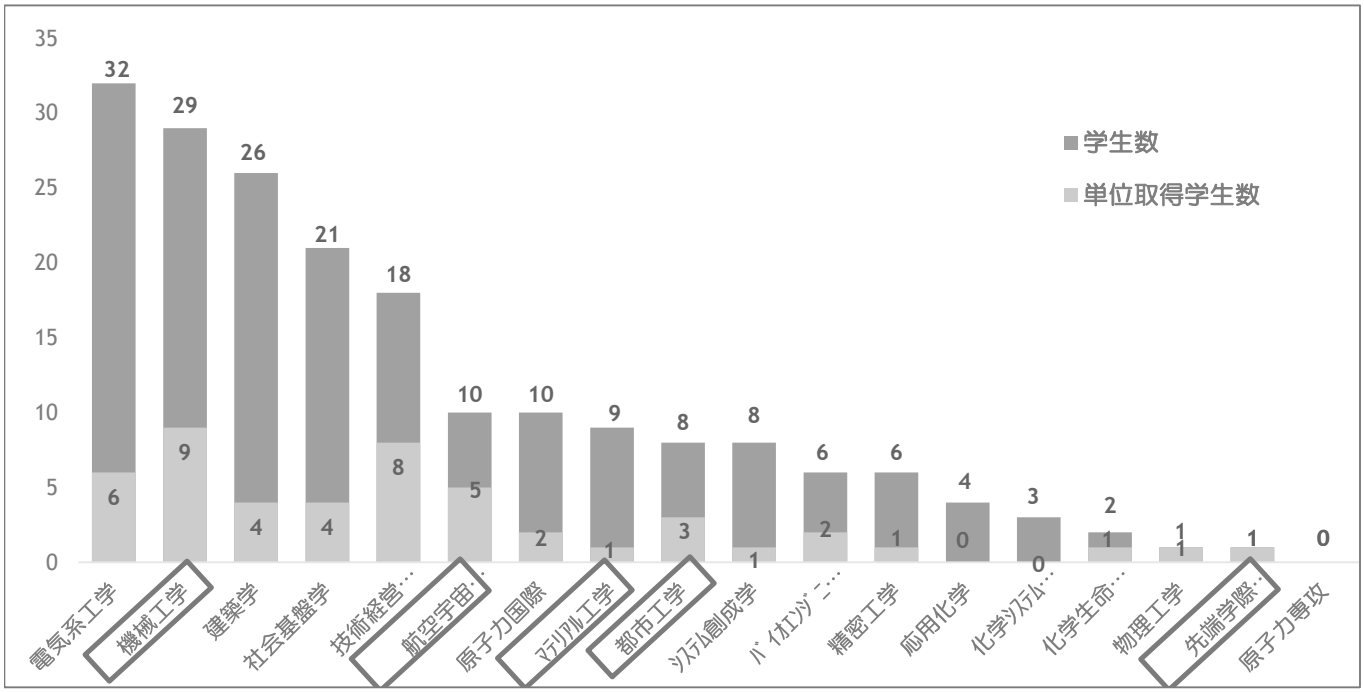
1．2022年度S1S2 工学系研究科日本語教室修了者数

1）研究科別ーレベル別

＊（）は単位取得学生数

研究科＼レベル		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科		26	29	40	44	23	28	4	194(49)	149(40)
②情報理工学系		9	5	11	11	4	8	5	53(22)	49(22)
③新領域創成科学研究科		5	1	6	14	2	6	2	36(20)	22(16)
④他研究科	理学系研究科	1	2		4	5	1		13(4)	8(3)
	公共政策 大学院	2	4		2	1	2		11(10)	10(9)
	情報学環・学際情報学府	2	1		3	1	2		9(3)	6(3)
	経済学研究科				2	4	2		8(0)	3(0)
	農学生命科学研究科					1	1	1	3(3)	2(2)
	総合文化研究科		1				2		3(2)	3(2)
	医学系研究科	2							2(0)	2(0)
	薬学系研究科				2				2(2)	1(1)
	教育学研究科						1		1(1)	1(1)
	④計	7	8		13	12	11	1	52(25)	36(21)
⑤USTEP							3		3(3)	3(3)
合計①～⑤		47(19)	43(17)	57(5)	82(27)	41(13)	56(28)	12(10)	338(119)	259(102)

2）専攻別



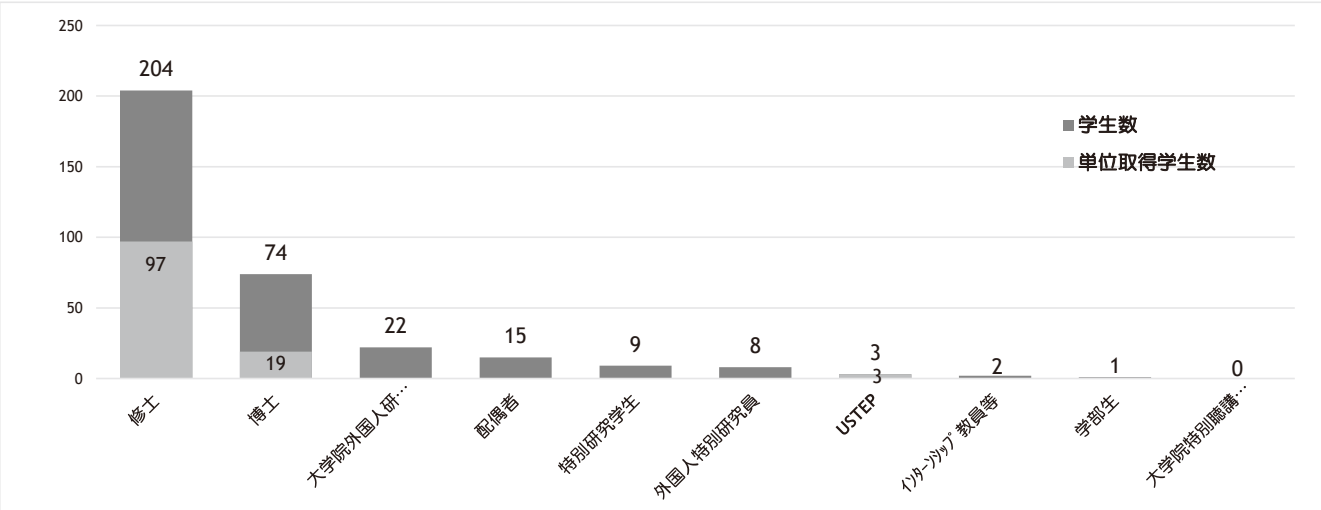
：単位が修了要件として認められている専攻

3）国籍ーレベル別

	国籍＼レベル	初級１	初級２	中級１	中級２	中級３	上級１	上級２	延べ合計	実数合計
1	中国	23	19	26	40	23	39	11	181	148
2	アメリカ合衆国	2		4	6	3			15	9
3	台湾	1	3	1	1	2	6		14	9
4	インドネシア	2	2	4	1	1			10	8
5	インド	4	3		1				8	8
6	カナダ		2	5	4	3			14	7
7	シンガポール	1	2		5	2	2		12	7
8	フィリピン	2	1	5	3				11	6
9	韓国	1				1	2	1	5	5
10	ベトナム	2		2	2	1			7	5
11	タイ		2		2	1			5	4
12	ドイツ	1			1	2			4	4
13	コロンビア		1	2	3				6	3
14	フランス		1	3	1				5	3
15	バングラデシュ	2	1						3	3
16	イラン		1				2		3	2
17	マレーシア	1		2					3	2
18	ブラジル				2	1			3	2
19	ペルー		1				1		2	2
20	メキシコ	1		1					2	2
21	香港						2		2	2
22	＊その他	4	4	2	10	1	2		23	18
合計		47	43	57	82	41	56	12	338	259

＊その他（実数1名）：ｲｽﾗｴﾙ・ｲﾀﾘｱ・ｴｼﾞﾌﾟﾄ・ｵｰｽﾄﾗﾘｱ・ｷﾞﾘｼｬ・ｻｳｼﾞｱﾗﾋﾞｱ・ｼﾞｮｰｼﾞｱ・ｽｲｽ・ﾁﾘ・ﾄｰｺﾞ・ﾄﾙｺ・ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ
ﾊﾞｰﾚｰﾝ・ﾊﾟｷｽﾀﾝ・ﾓﾝｺﾞﾙ・ﾗﾄﾋﾞｱ・英国・日本

4）身分別



2.　4専攻日本語教室修了者数（実数）

		初級1A	初級2A	初級2B	合計
社基	社会基盤学	6	8	6	20
	単位コース選択者	6	8	6	20
		初級Ⅰ都市総合A	初級Ⅱ都市総合A	中級Ⅰ都市会話A	合計
都市工	都市工学日本語教室（学生内訳）	都市工:2/その他工学系:1/他研究科:1	都市工:7/その他工学系:2/他研究科:2	都市工:3/その他工学系:2/他研究科:3	都市工:12/その他工学系:5/他研究科:6
	単位コース選択者	都市工:0/その他工学系:0/他研究科:0	都市工:4/その他工学系:1/他研究科:1	都市工:0/その他工学系:1/他研究科:2	都市工:4/その他工学系:2/他研究科:3
		中級Ⅰ創成系総合	中級Ⅰ創成系読解	中級Ⅲ創成系総合	合計
シス創	ｼｽﾃﾑ創成日本語教室（学生内訳）	ｼｽﾃﾑ創成系:1/その他工学系:4/他研究科:3	ｼｽﾃﾑ創成系:1/その他工学系:1/他研究科:3	ｼｽﾃﾑ創成系:1/その他工学系:3/他研究科:1	ｼｽﾃﾑ創成系:3/その他工学系:8/他研究科:7
	単位コース選択者	ｼｽﾃﾑ創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:1/その他工学系:1/他研究科:1	ｼｽﾃﾑ創成系:1/その他工学系:1/他研究科:1
		中級	上級	合計	
IME	IME日本語教室	IME:4/その他工学系:1/他研究科:0	IME:3/その他工学系:0/他研究科:0	IME:7/その他工学系:1/他研究科:0	

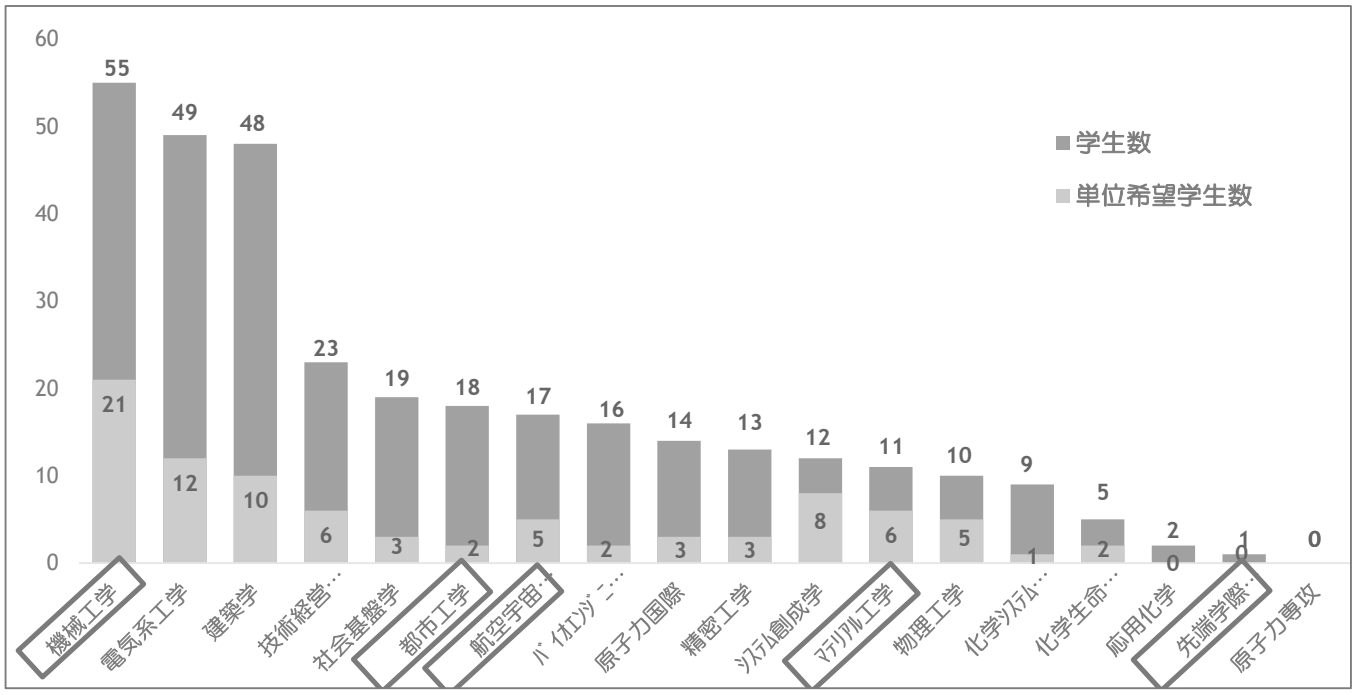
1．2022年度A1A2 工学系研究科日本語教室受講者数

1）研究科別ーレベル別

＊（）は単位希望学生数

研究科＼レベル		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科		75	46	61	49	41	38	12	**322(89)**	**252(77)**
②情報理工学系		25	12	23	9	15	10	4	**98(53)**	**77(45)**
③新領域創成科学研究科		3	3	2	2	6	2	5	**23(11)**	**18(8)**
④他研究科	公共政策 大学院	5	7	5	9	2	5	1	34(22)	24(15)
	理学系研究科	4	3	2	4	1			14(5)	12(4)
	経済学研究科			1	3	2	6	1	13(3)	8(2)
	情報学環・学際情報学府			1	5		3	1	10(2)	6(1)
	総合文化研究科		1	1	1		2		5(2)	5(2)
	農学生命科学研究科						3		3(0)	3(0)
	教育学研究科						1	1	2(0)	2(0)
	医学系研究科		1						1(0)	1(0)
	生産技術研究所				1				1(0)	1(0)
	地震研究所			2					2(0)	1(0)
	④計	9	12	12	23	5	20	4	**85(34)**	**63(24)**
⑤USTEP		12	3	9	5	3	16	7	**55(44)**	**31(23)**
合計①～⑤		**124**	**76**	**107**	**88**	**70**	**86**	**32**	**583(231)**	**441(177)**

2）専攻別



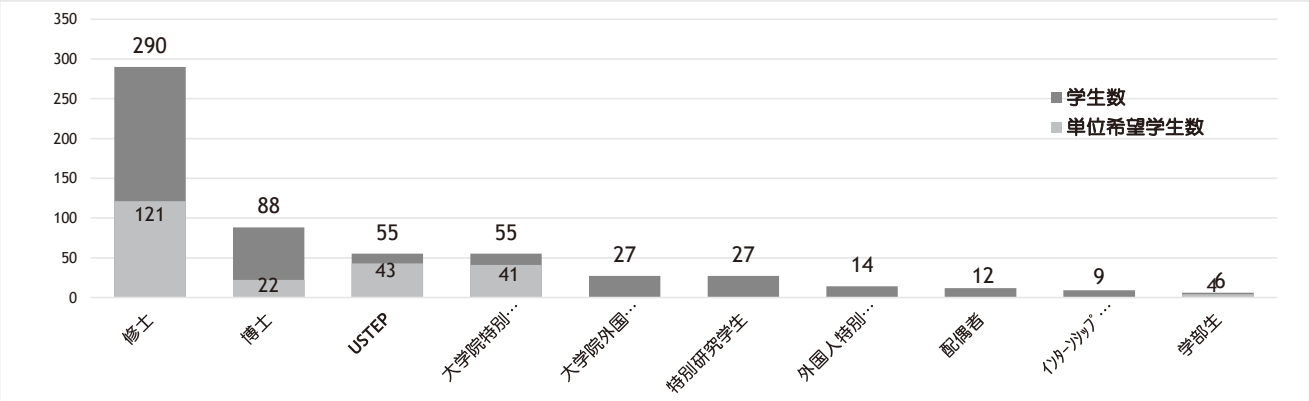
：単位が修了要件として認められている専攻

3）国籍ーレベル別

	国籍＼レベル	初級１	初級２	中級１	中級２	中級３	上級１	上級２	延べ合計	実数合計
1	中国	33	35	58	47	39	59	21	292	225
2	フランス	15	1	7	2	3			28	22
3	台湾	1	2	8	5	9	5	5	35	20
4	ドイツ	11	5	6	1		1		24	20
5	アメリカ合衆国	5	4		11	3			23	14
6	インド	7	4			3	1		15	13
7	オーストラリア	4		6		4	1		15	9
8	韓国	4		1	1	1	2		9	9
9	イタリア	7	1						8	8
10	マレーシア	1	2		1		2		6	6
11	ノルウェー	4	1	1					6	6
12	スウェーデン	3					5		8	5
13	トルコ	2	1		4	1			8	5
14	インドネシア	1	2	1			1		5	5
15	香港			1	5		5	4	15	4
16	ブラジル	1	1		1		1		4	4
17	チリ	2	1	1					4	4
18	フィリピン		3			1			4	4
19	オーストリア	4							4	4
20	ウクライナ	1	1		6				8	3
21	シンガポール			5	1		1		7	3
22	ベトナム		2			3			5	3
23	イラン		1	3				1	5	3
24	スイス	1	1	2					4	3
25	タイ	2			1	1			4	3
26	英国	1	2						3	3
27	コロンビア		1	2					3	3
28	日本						2		2	2
29	ポーランド	2							2	2
30	パキスタン	1	1						2	2
31	デンマーク	2							2	2
32	ミャンマー				1	1			2	2
33	＊その他	9	4	5	1	1		1	21	20
合計		124	76	107	88	70	86	32	583	441

＊その他（実数1名）：ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ、ｲｽﾗｴﾙ、ｴｼﾞﾌﾟﾄ、ｵﾗﾝﾀﾞ、ｻﾞﾝﾋﾞｱ、ｼﾞｮｰｼﾞｱ、ｽﾍﾟｲﾝ、ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ、ﾈﾊﾟｰﾙ、ﾊﾞｰﾚｰﾝ、ﾊﾞﾙﾊﾞﾄﾞｽ
ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ、ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ、ﾍﾟﾙｰ、ﾏｶｵ、ﾓﾝｺﾞﾙ、ﾗﾄﾋﾞｱ、ﾘﾄｱﾆｱ、ﾛｼｱ、南ｱﾌﾘｶ

4）身分別



2.　4専攻日本語教室受講者数（実数）

		初級1A	初級1B	初級2	合計
社基	社会基盤学	10	12	7	29
	単位取得者	9	12	6	27

		初級Ⅰ都市総合B	初級Ⅱ都市総合B	中級Ⅰ都市会話B	合計
都市工	都市工学日本語教室（学生内訳）	都市工:10/その他工学系:5/他研究科:3	都市工:3/その他工学系:3/他研究科:2	都市工:6/その他工学系:6/他研究科:2	都市工:19/その他工学系:14/他研究科:7
	単位取得者	都市工:8/その他工学系:0/他研究科:2	都市工:2/その他工学系:1/他研究科:1	都市工:5/その他工学系:3/他研究科:0	都市工:15/その他工学系:4/他研究科:3

		初級Ⅰ-1	初級Ⅰ-2	初級Ⅱ	中級Ⅱ創成系総合
システム創成系	システム創成日本語教室（学生内訳）	ｼｽﾃﾑ創成系:5/その他工学系:1/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:4/その他工学系:2/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:1/その他工学系:4/他研究科:1	ｼｽﾃﾑ創成系:3/その他工学系:5他研究科:1
	単位取得者	ｼｽﾃﾑ創成系:3/その他工学系:0/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:1/その他工学系:1/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:2/その他工学系:0/他研究科:0

＊初級は複数コース受講者有り。
合計は実人数。

合計
ｼｽﾃﾑ創成系:8/その他工学系:10/他研究科:2
ｼｽﾃﾑ創成系:5/その他工学系:1/他研究科:0

		中級	上級	合計
IME	IME日本語教室（学生内訳）	IME:5/その他工学系:1/他研究科:1	IME:7/その他工学系:0/他研究科:0	IME:12/その他工学系:1/他研究科:1

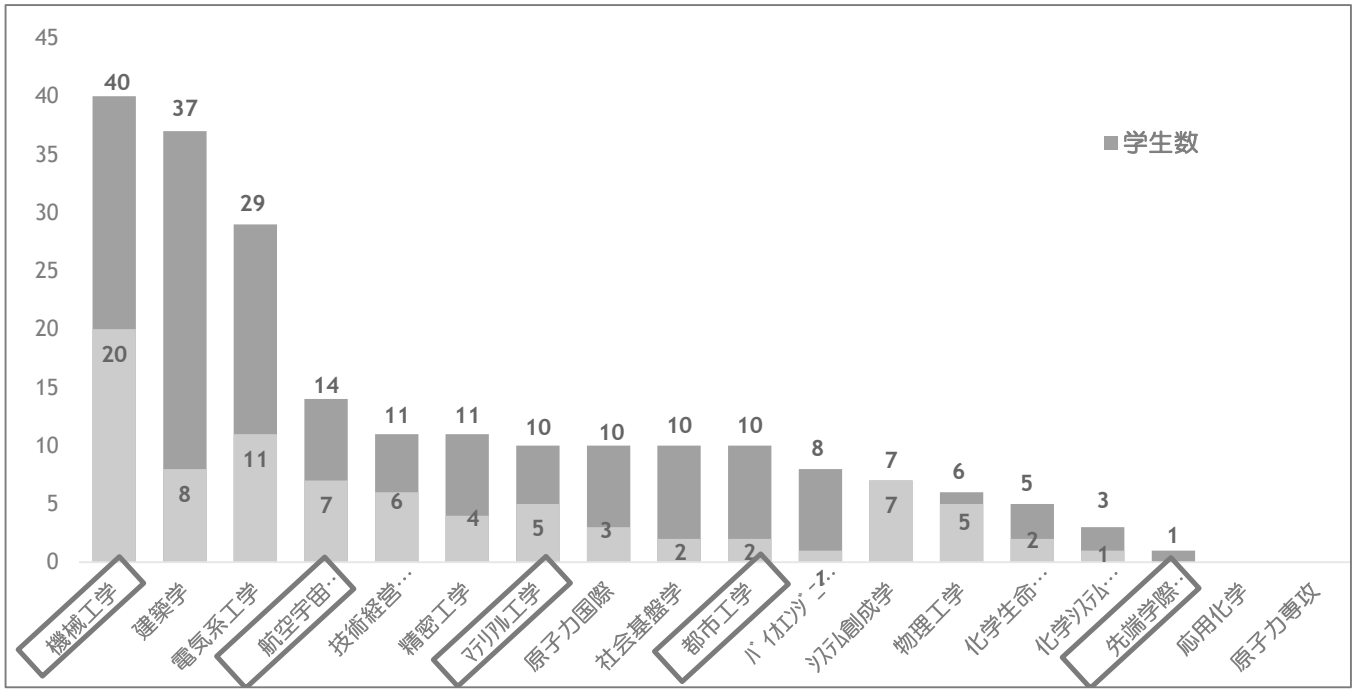
1．2022年度A1A2 工学系研究科日本語教室修了者数

1）研究科別ーレベル別

＊（）は単位取得学生数

研究科＼レベル		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級1	上級2	延べ合計	実数合計
①工学系研究科		44	26	50	30	26	30	6	212(84)	167(71)
②情報理工学系		16	9	16	6	13	6	2	68(40)	56(37)
③新領域創成科学研究科		2	3	3	2	6	2	2	20(12)	15(9)
④他研究科	公共政策 大学院	4	5	5	8	2	5	1	30(22)	21(15)
	理学系研究科	2	2		3	1			8(5)	8(5)
	経済学研究科				2	1	3		6(2)	4(1)
	情報学環・学際情報学府				3		2		5(2)	3(1)
	総合文化研究科		1	1	1		1		4(2)	4(2)
	教育学研究科						1	1	2(0)	2(0)
	地震研究所			2					2(0)	1(0)
	農学生命科学研究科						1		1(0)	1(0)
	④計	6	8	8	17	4	13	2	58(33)	44(24)
⑤USTEP		7	2	9	5	3	13	4	43(38)	24(22)
合計①～⑤		75	48	86	60	52	64	16	401(207)	306(163)

2）専攻別



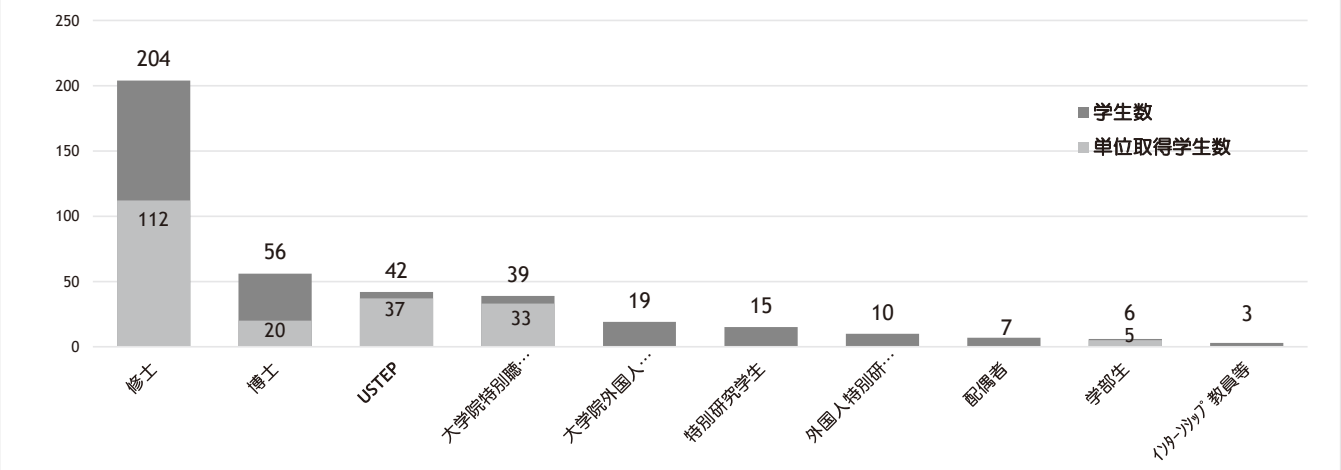
：単位が修了要件として認められている専攻

3）国籍ーレベル別

	国籍＼レベル	初級１	初級２	中級１	中級２	中級３	上級１	上級２	延べ合計	実数合計
1	中国	21	23	49	29	27	42	11	202	162
2	フランス	10	2	7		3			22	16
3	台湾	1	1	8	2	8	5	1	26	15
4	ドイツ	4	4	2	1				11	11
5	アメリカ合衆国	3	2		10	3			18	10
6	韓国	3		1		1	2		7	7
7	インド	3	2			2			7	6
8	オーストラリア	2		6		3			11	6
9	マレーシア	1	1				2		4	4
10	ノルウェー	3	1						4	4
11	スウェーデン	2					5		7	4
12	チリ	2	1	1					4	4
13	フィリピン		3			1			4	4
14	オーストリア	4							4	4
15	ブラジル	1	1		1				3	4
16	シンガポール			4	1		1		6	3
17	トルコ	1	1		3				5	3
18	タイ	2			1	1			4	3
19	英国	1	2						3	3
20	コロンビア		1	2					3	3
21	香港				5		5	3	13	3
22	ウクライナ		1		5				6	2
23	インドネシア	1		1					2	2
24	イタリア	2							2	2
25	スイス	1	1						2	2
26	日本						2		2	2
27	デンマーク	2							2	2
28	＊その他	5	1	5	2	3		1	17	15
合計		75	48	86	60	52	64	16	401	306

＊その他（実数1名）：ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ、ｲｽﾗｴﾙ、ｲﾗﾝ、ｼﾞｮｰｼﾞｱ、ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ、ﾈﾊﾟｰﾙ、ﾊﾞｰﾚｰﾝ、ﾊﾞﾙﾊﾞﾄﾞｽ、ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ、ﾍﾞﾄﾅﾑ、ﾍﾟﾙｰ、ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ、ﾐｬﾝﾏｰ、ﾗﾄﾋﾞｱ、ﾘﾄｱﾆｱ

4）身分別



2.　4専攻日本語教室修了者数（実数）

		初級1A	初級1B	初級2	合計
社基	社会基盤学	9	10	7	26
	単位取得者	9	10	7	26

		初級Ⅰ都市総合B	初級Ⅱ都市総合B	中級Ⅰ都市会話B	合計
都市工	都市工学日本語教室（学生内訳）	都市工:10/その他工学系:5/他研究科:3	都市工:3/その他工学系:2/他研究科:2	都市工:5/その他工学系:4/他研究科:1	都市工:18/その他工学系:11/他研究科:6
	単位取得者	都市工:8/その他工学系:0/他研究科:2	都市工:3/その他工学系:1/他研究科:1	都市工:5/その他工学系:3/他研究科:0	都市工:16/その他工学系:4/他研究科:3

		初級Ⅰ-1	初級Ⅰ-2	初級Ⅱ	中級Ⅱ創成系総合
システム創成系	システム創成日本語教室（学生内訳）	ｼｽﾃﾑ創成系:4/その他工学系:1/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:4/その他工学系:2/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:1/その他工学系:3/他研究科:1	ｼｽﾃﾑ創成系:3/その他工学系:4他研究科:1
	単位取得者	ｼｽﾃﾑ創成系:3/その他工学系:0/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:1/その他工学系:1/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:0/その他工学系:0/他研究科:0	ｼｽﾃﾑ創成系:2/その他工学系:0/他研究科:0

＊初級は複数コース修了者有り。
合計は実人数。

合計
ｼｽﾃﾑ創成系:7/その他工学系:9/他研究科:2
ｼｽﾃﾑ創成系:5/その他工学系:1/他研究科:0

		中級	上級	合計
IME	IME日本語教室（学生内訳）	IME:3/その他工学系:1/他研究科:0	IME:6/その他工学系:0/他研究科:0	IME:9/その他工学系:1/他研究科:0

Can Do Statements（読む・書く） 東京大学工学系研究科日本語教室 20200131

＜記入日＞ ____年____月____日

下の項目について適切なものを選んで、0、1、2を記入してください。（0：できない 1：少しできる 2：よくできる）

			聞く				話す
初	1		相手の名前・専攻・研究室が聞いてわかる		1		あいさつができる
1	2		物の値段が聞いてわかる		2		名前・出身地・専攻・研究室名を言うことができる
	3		日常生活や大学で使う物の名前が聞いてわかる		3		今日の予定や昨日したことを言うことができる
	4		ゼミやミーティングの日程や時間が聞いてわかる		4		自己紹介をした後の質問に答えられる
初	5		物や建物の場所が聞いてわかる		5		物や建物の場所を聞くことができる
2	6		電車の行き先や乗り換えが聞いてわかる		6		日常生活・家族について話すことができる
	7		友達に誘われた時、聞いてわかる		7		友だちを誘ったり、誘われた時の返事ができる
初	8		時間や場所を問い合わせた時、答えが聞いてわかる		8		大学の窓口で質問ができる
3	9		大学の窓口で必要な説明が聞いてわかる		9		遅刻・欠席・早退の理由を話すことができる
	10		駅や空港のアナウンスで必要なことが聞いてわかる		10		自分の部屋や研究室、町の描写ができる
初	11		身近な話題に関する意見が聞いてわかる		11		身の回りの変化について話すことができる
4	12		身近な人からの電話の用件が聞いてわかる		12		自分の仕事・専門・趣味について説明できる
	13		日常的な話題において出された提案が聞いてわかる		13		研究室の環境、好き嫌いなどについてプレゼンテーションができる
中	14		緊急放送・地震訓練放送などが聞いてわかる		14		図や表の説明ができる
1	15		天気予報が聞いてわかる		15		自己紹介の場面で敬語が使える
	16		電話の録音メッセージが聞いてわかる		16		授業で先生に質問ができる
	17		研究室・クラブ活動での指示・説明が聞いてわかる		17		実験方法や研究方法を順序だてて話すことができる
	18		大学の教職員の事務的な説明が聞いてわかる		18		友達や教員にアドバイスを求めることができる
中	19		専門的なプレゼンテーションの要点がわかる		19		研究室の人や友達と雑談ができる
2	20		研究室のミーティングの内容が聞いてわかる		20		ミーティングなどの日程に関して自分の希望を述べ調整できる
	21		アニメ・ドラマ・映画のストーリーがわかる		21		研究計画などを論理的に話すことができる
	22		専門の授業全体の流れが聞いてわかる		22		大学の教職員に質問したり、説明することができる
中	23		研究に関する指導教員のコメントが聞いてわかる		23		ゼミで発表することができる
3	24		テレビのニュースやドキュメンタリーがわかる		24		ニュースの要旨を話すことができる
	25		ゼミの発表が聞いてわかる		25		講義の途中や後で、教員に敬語を用いて質問ができる
	26		ゼミの発表後の質疑応答の内容がわかる		26		初対面の人と雑談することができる
上	27		就職などの面接で質問されたことがわかる		27		就職などの面接で質問に適切に答えることができる
1	28		歓迎会など公式の場でのスピーチがわかる		28		歓迎会など公式の場でスピーチができる
	29		自分の専門分野の学会発表や講演が理解できる		29		自分の専門分野の学会でのディスカッションで意見が言える
	30		自分の専門分野での話題での議論を聞いて理解できる		30		会議や打ち合わせで意見をまとめたり進行役を務めたりできる
上	31		抽象的で複雑な内容を聞いて要点がわかる		31		母語話者同士の活発な会話に積極的に参加できる
2	32		くだけた表現から改まった表現まで幅広くスタイルが変化する話を聞いて問題なく理解できる		32		学会で口頭発表と質疑応答が適切にできる
	33		専門外の分野の学会発表や講演を聞いて問題なく理解できる		33		フォーマルな会議やシンポジウム等で意見をとりまとめたり進行役を適切に務めたりできる
	34		専門外の分野の話題での活発な議論を聞いて問題なく理解できる		34		自分の専門外の話題の議論で流暢かつ正確に意見を言うことができる

Can Do Statements （話す・聞く） 東京大学工学系研究科日本語教室 20200131

＜記入日＞ ____年____月____日

下の項目について適切なものを選んで、0、1、2を記入してください。（0：できない 1：少しできる 2：よくできる）

		読 む			書 く
1		ひらがなを読むことができる	1		ひらがなを書くことができる
2		日本語で書かれた自分の名前がわかる	2		自分の名前をカタカナで書くことができる
3		ひらがなとカタカナのメニューがわかる	3		今日のスケジュールを書くことができる
4		日本語で書かれた自宅と大学の住所がわかる	4		自分の大学名・研究室名・専門を漢字で書くことができる
5		日本語で書かれた自分の大学名・研究室名・専門がわかる	5		自宅と大学の住所を漢字で書くことができる
6		スケジュール変更のお知らせがわかる	6		自分の国や自分の紹介を書くことができる
7		駅や食堂の券売機の表示画面がわかる	7		簡単なメッセージのメモを書くことができる
8		研究室・実験室の注意書きがわかる	8		趣味や得意なことについて書くことができる
9		駅・銀行・大学の案内表示がわかる	9		自分のことについて、SNSなどに書きこむことができる
10		カード・はがきが読んでわかる	10		カード・はがきなどを書くことができる
11		広告・チラシがわかる	11		日本語で日記を書くことができる
12		友達からのテキストメッセージが読んでわかる	12		友達にテキストメッセージを書くことができる
13		自分の専門分野の論文・専門書の題名・履修科目名がわかる	13		打ち合わせで、メモを書きとることができる
14		易しい科学技術／専門の文章がわかる	14		履歴書を書くことができる
15		事務からの書類が読んでわかる	15		事務的な書類に必要なことを記入することができる
16		身近な人からの電子メールが読んでわかる	16		お礼の手紙を手書きで書くことができる
17		公共料金のお知らせ、不在配達通知がわかる	17		奨学金の申請書類に記入することができる
18		漫画のストーリーがわかる	18		身近な人に電子メールを書くことができる
19		板書が見てわかる	19		講義を聞いて、ノートをとることができる
20		ゼミの発表資料（PPTスライド・レジュメ）がわかる	20		ゼミの発表資料（PPスライド・レジュメ）を書くことができる
21		論文の要旨が読んでわかる	21		推薦状の依頼書を書くことができる
22		大学内の掲示板が見てわかる	22		論文の要旨を書くことができる
23		専門に関する資料の内容がわかる	23		研究計画書を書くことができる
24		ニュースレター・メールマガジンが読める	24		授業のレポートを書くことができる
25		映画やテレビなどの字幕が見てわかる	25		プレゼンの発表原稿を書くことができる
26		研究会や会議の報告書が読める	26		状況に応じた許可願いや謝罪文を書くことができる
27		パソコンや携帯電話の説明書（マニュアル）がわかる	27		就職のための自己PRや志望動機などを書くことができる
28		WEBサイトや会社案内の情報がわかる	28		研究会や会議の報告書を書くことができる
29		論文・専門書が読んで概ねわかる	29		抽象的な内容についてある程度まとまった長さの意見文が書ける
30		一般的な内容の新聞・雑誌・書籍が読んで理解できる	30		フォーマットにしたがって、さまざまな用途の通信文（メール等）が書ける
31		専門外の記事や論文の概要を理解できる	31		関心のある作品や文献の批評文が書ける
32		専門書を含む幅広い書籍や論文を読み、その背景や意見を問題なく読み取ることができる	32		場面や受け手、内容に合わせて適切な文体を使い、フォーマルからインフォーマルまで幅広い通信文（メール等）が書ける
33		様々な通信文・通知文を読み、問題なく理解できる	33		研究の助成金等の申請書を書くことができる
34		複雑な内容の契約書、就業規則などを正確に読み取ることができる	34		学術論文や長い論説文が書ける

2022 言語背景調査　Language Background Questionnaire

1. 専攻：
2. 身分：□研究生　□修士　□博士　□研究員　□交換留学生　□USTEP　□学部生　□配偶者　□その他：
3. 身分で「その他」と答えた方は詳しく答えてください。
4. 母語
5. 現在の留学が終わった後の予定　　日本で就職する/日本で進学する/帰国する/分からない
6. 日本にどのくらい滞在する予定ですか。
   □１～３ヶ月　□４～６ヶ月　□７ヶ月～１年　□１～２年　□２年以上
7. 日本語学習歴(自国)
   □なし　□１～３ヶ月　□４～６ヶ月　□７ヶ月～１年　□１～２年　□２年以上
8. 日本語学習歴(日本)
   □なし　□１～３ヶ月　□４～６ヶ月　□７ヶ月～１年　□１～２年　□２年以上
9. どうして日本語を勉強していますか。
   日常生活に必要なため/研究に必要なため/日本で就職をするため/友達をつくるため/日本の伝統文化（茶道、華道、書道など）に興味があるため/日本のサブカルチャー（アニメ、ゲームなど）に興味があるため/その他
10. その他と答えた方は、詳しく答えてください。
11. 現在取っている科目のレベル
    □初級Ⅰ（入門・初級１・初級２・ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ初級Ⅰ）□初級Ⅱ（初級３・初級４・ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ初級Ⅱ）□中級１　□中級２　□中級３　□上級１　□上級２
12. 研究室で指導教員と研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
    □日本語　□英語　□日英両方　□その他
13. 研究室で日本人学生と研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
    □日本語　□英語　□日英両方　□その他
14. 研究室で留学生同士で研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
    □日本語　□英語　□日英両方　□その他
15. 研究室で指導教官との雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
    □日本語　□英語　□日英両方　□その他
16. 研究室で日本人との雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
    □日本語　□英語　□日英両方　□その他
17. 研究室で留学生同士の雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
    □日本語　□英語　□日英両方　□その他
18. 研究室での研究発表には、主に何語が使われていますか。
    □日本語　□英語　□日英両方　□その他
19. 研究室での打ち合わせには、主に何語が使われていますか。
    □日本語　□英語　□日英両方　□その他
20. 研究に関する資料は、主に何語が使われていますか。
    □日本語　□英語　□日英両方　□その他
21. 指導教員は、あなたにどの程度の日本語能力を求めていますか。
    □全く求めていない　□初級レベル　□中級レベル　□上級レベル　□超上級レベル
22. あなたはどの程度の日本語能力を目指していますか。
    □全く目指していない　□初級レベル　□中級レベル　□上級レベル　□超上級レベル
23. 具体的に、どんな日本語能力を身につけたいですか。
24. 大学のあらゆる場面において、日本語ができなくて困ることがありますか。
    □ない　□あまりない　□ある　□よくある

25. どんな場面があるか、具体的に書いてください。

26. 大学以外の日常生活で、日本語ができなくて困ることがありますが、どんな場面か具体的に書いてください。

□ない　□あまりない　□ある　□よくある

27. どんな場面か具体的に書いてください。

2022 年 S1S2 学期　　Japanese Language Class Questionnaire
コース評価

このアンケートは、日本語プログラム/コースの評価のためのものです。回答結果は、日本語教室の報告書に掲載します。回答の内容によって成績は変わりません。また個人が特定される情報は公開しません。御協力をお願いいたします。

1. 身分 ：

	まったく思わない	あまり思わない	そう思う	強くそう思う
2. コースおよび授業内容について、質問 2〜8 に答えて下さい。 コースの目標は明確だった。	1	2	3	4
3. 授業のスピードは適切だった。	1	2	3	4
4. 授業内容は分かりやすかった。	1	2	3	4

	多すぎる	適切である	少ない	課題が出ていない
5. 授業の課題の量はどうですか。	1	2	3	4

	まったく思わない	あまり思わない	そう思う	強くそう思う
6. 担当教員は熱意を持って授業を行っていた。	1	2	3	4
7. このコースの授業を受けて学習意欲が高まった	1	2	3	4
8. このコースは自分にとって将来役に立つと思う。	1	2	3	4

9. あなたは、この授業科目の予習・復習に
毎週どれくらい時間を使いましたか。

まったく予習・復習しなかった	1 時間未満	1〜2 時間	2〜3 時間	3〜5 時間	5 時間以上
1	2	3	4	5	6

10. このコースに出て、どんなことができるようになりましたか。

11. このコースについて自由にコメントして下さい。（教室、受講者数、テスト、宿題、試験、印象に残ったことなど）

12. オンライン授業に満足していますか。

まったく満足していない/あまり満足していない/そこそこ満足している/　非常に満足している

13. No.12 で「あまり満足していない」や「まったく満足しない」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

14. 2022A1A2 学期の授業形態は対面授業、オンライン授業、または対面とオンライン授業のミックスのどちらがいいと思いますか。

対面授業/オンライン授業/対面授業とオンライン授業のミックス

15. 対面授業になった場合、授業に参加できますか。

参加できる/参加できない/現時点ではまだわからない

16・No.15 で「参加できない」と答え人は、具体的な理由を書いてください。

17. No.15 で「現時点ではまだわからない」と答え人は、具体的な理由を書いてください。

18. 現在、講義を受講しているまたは研究を行っているメインのキャンパスはどこですか。

本郷/駒場/柏/東海村/その他

19. No.18 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

20. オンライン授業の形式はどれがいいと思いますか。

音声や映像配信を用いたオンデマンド型授業/Zoom を用いたリアルタイム型授業/オンデマンド型授業とリアルタイム型授業のミックス

21. オンライン授業で困っていることは何ですか。該当する項目をすべて選んでください。

先生に質問しにくい/集中力が続かない/授業支援ツールの使い方がわからない/通信に問題がある/授業教材がわかりにくい/発言が少ない/孤独感を感じる/その他

22. No.21 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

23. 日オンライン授業のいい点は何ですか。該当する項目をすべて選んでください。

先生に質問しやすい/自分のペースで学習ができる/教室より集中できる/学校に行かず時間を有効に使える/教材がわかりやすい/ITの知識やスキルが高まる/その他

24. No.23 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

25. 履修登録の手続きとプレイスメントテストについて、次の項目に答えて下さい。
履修登録の手続きは分かりやすかった。

まったく思わない	あまり思わない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4

26. No.25 で 1 または 2 を選んだ人は、どうしてそう思うか理由を教えてください。

27. プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた。

まったく思わない	あまり思わない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4

28. プレイスメントテストに関するコメントがあったら書いてください。(テストの説明、時間など)

29. 日本語教室（JLCSE）の Zoom Office を利用しましたか？　　利用した/利用しなかった

30. No.29 で「利用した」と答え人は、どんなことに 利用しましたか。
コースの登録/試験のフィードバック/日本語の質問/その他

31. No.30 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

32. No.29 で「利用しなかった」と答え人は、どうして利用しませんでしたか。

時間があわなかった/質問がなかった/Zoom office を 知らなかった/その他

33. No.32 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

34. 日本語教室に期待していることはなんですか。該当する項目をすべて選んでください。

日本語学習/日本文化体験/日本人学生との交流/留学生との交流/大学生活・就職などのための日本語支援/その他

35. No.34 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

工学系日本語教室
学生授業ボランティア
募集中！

工学系研究科日本語教室では、留学生の
日本語学習を支援してくださる
学生授業ボランティアを
募集しています。
工学系研究科日本語教室には、初級から
上級までさまざまな日本語コースがあり
留学生が日本語を学んでいます。
皆さまのご参加をお待ちしています。

主 催：国際工学教育推進機構
　　国際教育部門　日本語教室
活動期間：2022年10月11日　～　2023年1月30日
活動場所：工学部８号館　各教室
活動頻度：週1コマ(105分)～
募集人数：20名程度
活動内容：入門～上級の日本語クラスに参加して、
グループワークや 会話・ディスカッションのサポートをします.

工学系研究科国際工学教育推進機構
国際教育部門　日本語教室

https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ja/activities/volunteer/

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp
☎　03-5841-8826

オンライン
学生授業ボランティア
募集中!

工学系研究科日本語教室では、留学生の日本語学習を支援してくださる学生授業ボランティアを募集しています。工学系研究科日本語教室には、初級から上級までさまざまな日本語コースがあり留学生が日本語を学んでいます。

主　　催：国際工学教育推進機構 国際教育部門 日本語教室
活動期間：2022年4月13日　～　7月26日
活動場所：オンライン（Zoomを使用）
活動頻度：週1コマ(105分)～
募集人数：15名程度
活動内容：入門～上級のオンライン日本語クラスに参加して、グループワークや会話・ディスカッションのサポートをします。詳しくは右下のQRコードからJLCSEのホームページをご覧ください。

皆様の参加をお待ちしています。

https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ja/activities/volunteer/

学生授業ボランティアお問い合わせ先
工学系研究科日本語教室 工学部8号館128B教室
✉ nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　☎ 03-5841-8826

INSTITUTE FOR INNOVATION IN INTERNATIONAL ENGINEERING EDUCATION (IIIEE) Presents
INTERNATIONAL LOUNGE
インターナショナルラウンジ
Every Friday (10/21 - 1/20)
12:10-13:10
2ND FLOOR T-LOUNGE ENGINEERING BLDG 11
Join us on Facebook!
SCAN ME
Want to make international friends?
Want to enjoy a multilingual atmosphere?
Want to learn about other cultures?
Come Join Us!
インターナショナルな友達が欲しい?
多言語交流を楽しみたい?
多文化を学びたい?
さあ今すぐILへ!!
東京大学
東京大学大学院
工学系研究科
SCHOOL OF ENGINEERING
THE UNIVERSITY OF TOKYO

INSTITUTE FOR INNOVATION IN INTERNATIONAL ENGINEERING EDUCATION (IIIEE)
PRESENTS
INTERNATIONAL LOUNGE
インターナショナルラウンジ
Every Friday
12:10-13:10
April 22–July 8
zoom
(Use your @g.ecc.u-tokyo.ac.jp email address to access)
Join us if you
• Want to make international friends
• Want to enjoy a multilingual atmosphere
• Want to learn about other cultures
多言語交流して友達を作りませんか?
*Starting online but hoping to go face to face at one point!
工学系研究科国際工学教育推進機構
ilatutokyo@gmail.com
東京大学
SCHOOL OF ENGINEERING

着物を着てみましょう！
Let's wear Kimono!

Have you ever worn kimono, traditional Japanese clothing?
We are going to have a kimono wearing session.
Accepting 16 students (male&female) on a first-come, first-served basis.
Please register through STAR system at JLCSE homepage.

Date : Nov. 30th (Wed)
1st session :13:00-13:30 : 4 students(female)
2nd session :13:30-14:00 : 4 students(female)
3rd session :14:00-14:30 : 8 students (male)

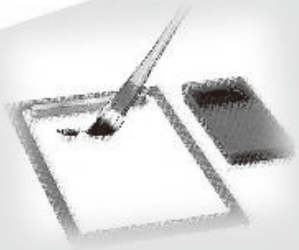
Place : Engineer Bldg#8, 1F, Room132

We had KIMONO session on Nov.30

calligraphy workshop

書道に挑戦してみませんか？

We are going to have the calligraphy workshop.
Accepting 10 students on a first-come, first-served basis.
Please register through STAR system
at JLCSE homepage.



Date：Dec. 7th (Wed)
13:20 - 14:30
Place：Room88L 2F,
Engineer Bldg#8,

書道ワークショップ

on Dec. 7th

執筆・編集者

教授　古市　由美子
特任准教授　牛山　和子
特任助教　猪狩　美保
　　金　瑜眞
事務補佐員　早坂　美和子
　　山畑　めぐみ

執筆者

非常勤講師　内田　あゆみ
　　大西　由美
　　片岡　さゆり
　　佐藤　瑞恵
　　鈴木　恵理
　　中村　亜美
　　ハワード　文江
　　東平　福美
　　藤井　明子
　　宮瀬　真理
　　山口　真紀
　　佐野　理恵

東京大学大学院工学系研究科日本語教室　報告書　2022 年度

発　行　日：2023 年 3 月 31 日
編集兼発行者：東京大学大学院工学系研究科　国際工学教育推進機構
　　国際教育部門
発 行 責 任 者：古市由美子

113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院工学系研究科日本語教室
E-mail：nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp
電話：03-5841-8826　FAX：03-5800-2436
http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/